仙台市文化財調査報告書第253集

八木山緑町遺跡ほか

発掘調査報告書

2001年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第253集

八木山緑町遺跡ほか

発掘調査報告書

２００１年３月

仙台市教育委員会

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しましては、日頃から多大なるご協力を賜り、まことに感謝にたえません。仙台市内には、現在約800ヶ所の遺跡が確認されておりますが、そのような埋蔵文化財は土地との関連で保存されてきたものであるため、各種開発事業によって絶えず破壊・消滅の恐れにさらされております。当教育委員会としましては開発側との協議を通して、ご理解とご協力を得て、貴重な文化財を保存し、後世に伝えることに努めているところであります。

仙台市は平成元年に政令指定都市となり、東北地方の中枢都市として飛躍的な発展を遂げており、ますます責務が増したとともに、21世紀へ向けての文化財行政指針の作成や体制整備も求められてきております。

さて、この報告書には複数遺跡の調査成果を収録しております。

市街地の南西部に位置する八木山丘陵は早くから宅地開発が行われたため、現在周知されている遺跡はとりわけ少なく、平成７年度と11年度に実施した八木山緑町遺跡の調査成果は、丘陵上の遺跡の実態を知る上で貴重な資料となりました。あわせて平成13年度に発掘調査を実施した洞ノ口遺跡、南小泉遺跡、大原一里塚、山田条里遺跡、富沢遺跡の調査成果も収録しております。

これらの成果が地域の歴史の解明と文化財保護思想の高揚のためお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書刊行まで多くの方々のご指導、ご協力をいただきましたことに対しまして、心より感謝申し上げます。今後とも文化財保護行政についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年３月

仙台市教育委員会
教育長　小　松　弥　生

例　　言

1．本書は、民間開発事業および市関連事業等に関わり、平成７・11年度に調査した八木山緑町遺跡（第１次・第２次調査）をはじめ、平成11・12年度に調査した洞ノ口遺跡（第３次・第６次調査）、平成12年度に調査した南小泉遺跡（第33次・第34次調査）、大原一里塚、山田条里遺跡（第６次調査）、富沢遺跡（第117次調査）の発掘調査の内容を収録したものであり、これは既に公表している諸資料の内容に優先するものである。

2．各遺跡の整理・報告書作成作業は下記のとおり仙台市文化財課職員が分担し、全体の編集作業は佐藤が担当した。

八木山緑町遺跡……工藤信一郎
洞ノ口遺跡（第３次調査）……主浜光朗・村上秀樹
洞ノ口遺跡（第６次調査）……平間亮輔
南小泉遺跡……渡部弘美
大原一里塚・富沢遺跡……吉岡恭平
山田条里遺跡……佐藤　淳

3．調査および整理作業に関わる参加者、指導・協力者のほか、分析関係者については遺跡ごと調査要項欄などに記している。

4．本書に掲載した調査および報告書作成に関する諸記録、出土遺物などの資料は仙台市教育委員会文化財課が保管している。

凡　　例

1．土層注記に記載している土色は「新版標準土色帖」（小山・竹原：1997）に基づいている。

2．本書中の方位については、国土座標系によるものの他、磁北基準のもの、任意方向のものがある。

3．全体図・遺構図

（1）発見した遺構は種別ごとに以下の略号を用いている。

SI：竪穴住居跡・竪穴遺構　　SK：土　坑　　SD：溝　跡　　SB：掘立柱建物跡
SX：性格不明遺構　　P（ピット）：柱穴・小穴

（2）個別の遺構平面・断面図の縮尺は1/60、遺物出土状況図は1/30を基本としているが、全体図ほかについては遺跡ごとに異なっている。また図中のアミ点などによる表記内容も統一していない。

4．遺物図

（1）遺物図の縮尺は1/3を基本としているが、石器・木製品についてはこれ以外のものもある。

目　　次

序　　文
例　　言
凡　　例

Ⅰ　八木山緑町遺跡
調査要項……1
遺跡の位置と環境……1
調査に至る経緯と調査区設定……3
［1］第1次調査
1．発見遺構と出土遺物……7
2．まとめ……57
［2］第2次調査
1．発見遺構と出土遺物……58
2．まとめ……64
Ⅱ　洞ノ口遺跡
［1］第3次調査
1．調査要項……93
2．遺跡の位置と環境……93
3．調査の方法と経過……94
4．基本層序……94
5．発見遺構と出土遺物……97
6．まとめ……111
7．プラント・オパール分析……122
［2］第6次調査
1．調査要項……127
2．遺跡の概要……127
3．基本層序……128
4．調査の方法……131
5．発見遺構と出土遺物……131
6．まとめ……131
Ⅲ　南小泉遺跡
［1］第33次調査
1．調査要項……139
2．遺跡の位置と環境……139
3．調査の方法と経過……139
4．基本層序……139

5．発見遺構と出土遺物 ……141
6．まとめ ……144
［2］第34次調査
1．調査要項 ……147
2．遺跡の位置と環境 ……147
3．調査の方法と経過 ……147
4．発見遺構と出土遺物 ……147
5．まとめ ……148
Ⅳ　大原一里塚
1．調査要項 ……151
2．遺跡の位置と環境 ……151
3．調査の方法と経過 ……151
4．基本層序 ……152
5．調査成果 ……153
6．まとめ ……153
Ⅴ　山田条里遺跡　第6次調査
1．調査要項 ……155
2．遺跡の位置と環境 ……155
3．調査に至る経緯と調査方法 ……156
4．基本層序 ……157
5．発見遺構と出土遺物 ……158
6．まとめ ……161
7．プラント・オパール分析 ……164
Ⅵ　富沢遺跡　第117次調査
1．調査要項 ……169
2．遺跡の位置と環境 ……169
3．調査の方法と経過 ……169
4．基本層序 ……170
5．調査成果 ……170
6．まとめ ……171
7．プラント・オパール分析 ……173

報告書抄録

Ⅰ　八木山緑町遺跡（第１・２次調査）

調査要項

遺　跡　名　八木山緑町遺跡（宮城県遺跡番号01317）
調 査 地 点　仙台市太白区八木山緑町21－３
調査対象面積　約5,400㎡
調 査 主 体　仙台市教育委員会
調 査 担 当　仙台市教育委員会文化財課
調 査 協 力　木村　毅

『第１次調査』
調 査 原 因　宅地造成
調 査 面 積　約700㎡
調 査 期 間　平成７年８月28日～10月31日
調 査 担 当　工藤信一郎　三塚　靖　主浜光朗（整理）

『第２次調査』
調 査 原 因　共同住宅建設
調 査 面 積　約150㎡
調 査 期 間　平成11年11月２日～11月９日
調 査 担 当　篠原信彦　吉岡恭平
調 査 協 力　ナイス日栄㈱

遺跡の位置と環境

当遺跡はＪＲ仙台駅から南西へ3.2㎞の標高80数ｍの丘陵上、太白区八木山緑町に位置する（第２図）。調査以前の表採資料では、縄文・古代の遺跡と認識されていた。

北西から南東に伸びてくるこの丘陵（通称・八木山丘陵）は、当遺跡付近から約1.4㎞南東に行ったところで段丘崖になっており、その東側は広瀬川を越えて太平洋岸に至るまで、自然堤防・後背湿地・浜堤など沖積平野となっている。南側は郡山低地、笊川、大野田地区の自然堤防地帯を経て名取川に至る。

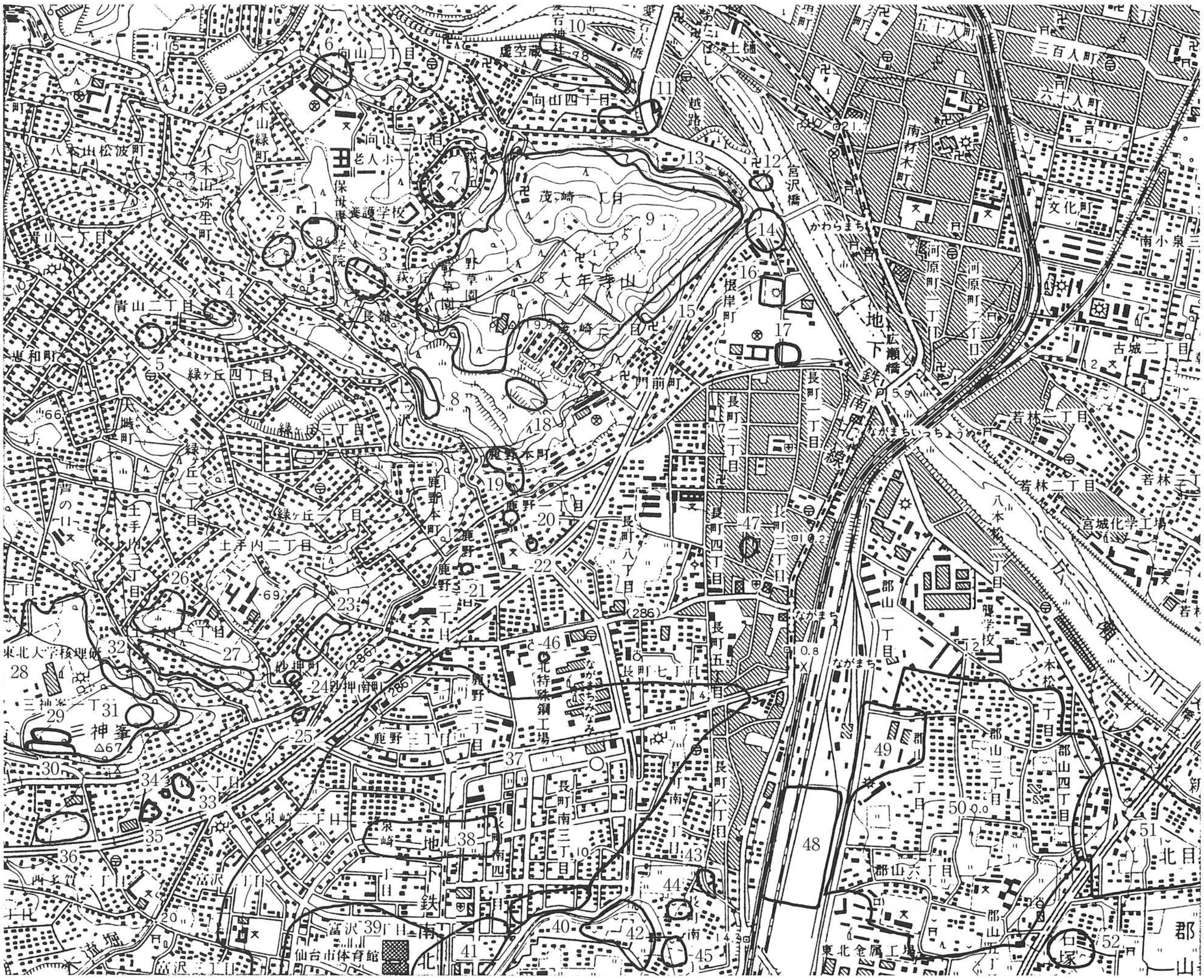
周辺の遺跡を概観すれば次のようである（第１図）。

当遺跡から丘陵尾根部を南東側に辿れば、約200ｍで萩ヶ丘Ｂ遺跡（縄文）、約500ｍの位置から丘陵端（通称・大年寺山）まで茂ヶ崎城跡（中世）が位置している。南斜面側には二ツ沢遺跡（縄文）、二ツ沢横穴墓群（古墳・古代）、茂ヶ崎横穴墓群（古墳・古代）が点在し、北面には大年寺山横穴墓群（古墳・古代）が所在している。

また尾根に平行するように北側に沢が入っているが、それを越えたところには青山二丁目Ｂ遺跡（旧石器・縄文）、青山二丁目遺跡（古代）がある。

これらのうち本調査を実施している遺跡は茂ヶ崎横穴墓群、大年寺山横穴墓群だけであり、造営開始年代は大年寺山横穴墓群が６世紀末頃、茂ヶ崎横穴墓群が７世紀中・後半と考えられている。ここで名前をあげた横穴墓群だけでなく、この丘陵縁辺には横穴群が多数存在し、向山横穴墓群と総称されている。これらの横穴墓群の形成については、東側や南側の平野部分にある遺跡との関係を考慮せざるを得ない。

縄文時代の遺跡として、萩ヶ丘遺跡・萩ヶ丘Ｂ遺跡・二ツ沢遺跡・向山高校裏遺跡・青山二丁目Ｂ遺跡を挙げたが、ほとんどが宅地化されていることから、実態については不明である。今回の調査によって、丘陵部の縄文から



№.	遺跡名	種別	立地	年代	№.	遺跡名	種別	立地	年代
1	八木山緑町遺跡	包含地	丘陵	縄文・奈良・平安	27	土手内窯跡	窯跡	丘陵南斜面	奈良・平安
2	三ッ沢遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文	28	三神峯遺跡	集落部	丘陵	縄文（前・中期）・平安
3	萩ヶ丘Ｂ遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文	29	三神峯古墳群	円墳	丘陵	古墳
4	青山二丁目遺跡	包含地	丘陵斜面	奈良・平安	30	富沢窯跡（木戸口遺跡）	窯跡	丘陵南斜面	古墳・奈良・平安
5	青山二丁目Ｂ遺跡	包含地	丘陵斜面	旧石器・縄文	31	金山窯跡	窯跡	丘陵南斜面	古墳
6	向山高裏遺跡	包含地	丘陵北東斜面	縄文（中期）	32	土手内横穴墓群Ａ地点	横穴墓	丘陵斜面	古墳（後期）
7	萩ヶ丘遺跡	包含地	丘陵斜面	縄文・奈良・平安	33	裏町東遺跡	包含地	台地	平安
8	二ッ沢横穴墓群	横穴墓群	丘陵西斜面	古墳	34	裏町古墳	前方後円墳	台地	古墳（中期）
9	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵頂部及び斜面	南北朝～室町	35	原東遺跡	包含地	台地	古墳・奈良・平安
10	愛宕山横穴墓群Ａ地点	横穴墓群	丘陵北東斜面	古墳（末期）	36	原遺跡（西台遺跡）	包含地	台地	弥生・古墳・平安
11	愛宕山横穴墓群Ｂ・Ｃ地点	横穴墓群	丘陵南東斜面	古墳（末期）・奈良	37	富沢遺跡	水田跡	沖積平野	縄文～近世
12	宗禅寺横穴墓群	横穴墓群	段丘	古墳（後期）	38	泉崎浦遺跡	水田跡	沖積平野	縄文・古墳・平安・近世
13	大年寺山横穴墓群	横穴墓群	丘陵北斜面	古墳（後期）	39	山口遺跡	集落跡	自然堤防後背湿地	縄文～近世
14	根岸遺跡	集落？	丘陵斜面	縄文	40	袋東遺跡	包含地	自然堤防	古墳・平安
15	杉土手（鹿除土手）	土手	丘陵・段丘	近世	41	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安
16	兜塚古墳	帆立貝式前方後円墳	自然堤防	古墳（中期）	42	元袋遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	弥生・奈良・平安・中世・近世
17	小兜塚古墳	不明	自然堤防	古墳	43	長町六丁目遺跡	包含地	自然堤防	奈良・平安
18	茂ヶ崎横穴墓群	横穴墓群	丘陵斜面	古墳（末期）・奈良	44	長町南遺跡	包含地	自然堤防	奈良・平安
19	鹿野屋敷古墳	包含地	丘陵南斜面	古墳？・奈良・平安	45	新田遺跡	包含地	自然堤防	奈良・平安
20	鹿野一丁目遺跡	包含地	沖積平野	縄文・弥生？・奈良・平安	46	金岡八幡古墳	円墳	自然堤防	古墳後期
21	二塚古墳	前方後円墳	沖積平野	古墳	47	蛸薬師古碑群	坂碑２	自然堤防	中世
22	一塚古墳	円墳	沖積平野	古墳（後期）	48	長町駅東遺跡	集落跡	鉄道敷地	弥生古墳（末期）・奈良（初期）
23	砂押屋敷遺跡	包含地	台地	奈良・平安	49	西台畑遺跡	包含地・カメ棺墓	自然堤防	縄文・弥生（中期）・古墳
24	砂押古墳	円墳又は前方後円墳	台地	古墳（中期）	50	郡山遺跡	官衙跡	自然堤防	古墳（末期）～奈良（初期）
25	金洗沢古墳	円墳	台地	古墳	51	北目城跡	城館	自然堤防	室町・江戸
26	土手内遺跡	包含地	丘陵	縄文・奈良・平安	52	矢来遺跡	包含地	自然堤防	古墳・奈良・平安

第１図　八木山緑町遺跡と周辺の環境

弥生時代の実態の一部でもかいま見ることができた。青山二丁目Ｂ遺跡から表土採集された石器は仙台市博物館に寄贈されており、後期旧石器時代から縄文時代前期初頭とみられるもので、石刃・尖頭器・石鏃・掻器・石匙などの良好な石器も含まれている。

また仙台市内及びその周辺には多数の中世城館跡があるが、旧名取郡内にも多くの城館跡が残存している。茂ケ崎城跡もその一つで、未調査であるが平場・土塁・空堀等が残っているところもあり、立地上、北・東・南側が見通せる絶好の地である。標高100数ｍが平均的な高さだが、120ｍ位のところが最も高い。「仙台領古城書上」には名取郡北方33郷の旗頭の粟野大膳の居城とあり、規模については、東西86間・南北61間、本丸より二の丸への間に間数280間余の山続き平地があると記されている。今は廃絶しているが近世には大年寺が建立され、また瑞鳳殿などがある経ケ峰とは別に、伊達家の墓所も東端近くに置かれた。

調査に至る経過と調査区設定

この箇所の開発に係わる協議から発掘調査及び報告書刊行までの経緯は、全国的な社会問題となったバブル崩壊の事情もあり、大変複雑であった。

まず平成７年４月、当時の土地所有者から共同住宅建設の協議があり、同月内に発掘届の提出を受け、６月に確認調査を実施し、本調査が必要であるという結論を得た。

結局この共同住宅建設計画は取り下げられ、次に宅地造成の計画が浮上した。８月に再度発掘届を提出していただき、８月末から10月末まで宅地内道路を対象に緊急発掘調査として第１次調査を実施した（第３図）。11月後半になって、依頼者側から、これ以上の費用負担はできないとの意思表示があり、整理・報告書作成が滞ってしまった。

平成９年12月になって、ナイス日栄株式会社のほうで共同住宅建設に変更する開発案が出され、10年度いっぱいかかって、できるだけ調査面積を縮小するために７年度に調査した場所を活かした建築計画の立案と、そして７年度調査残務も引き継いでもらえるかの協議が何回も持たれた。勿論その他の問題もあり、開発部局や地元との協議にも大変な時間を要したのである。最終的には、７年度調査成果を100％引き継ぐ宅地造成部分と、調査対象遺跡外になる共同住宅建設部分に土地利用を分け、また７年度調査残務もナイス日栄側で受け継ぐことになった。ただし宅地造成部分と共同住宅を繋ぐ一部に、若干の要調査箇所がどうしても出ることになった。

上記の協議を踏まえ、平成11年11月、対象面積150㎡に絞り込んだ第２次の発掘調査を行ない、調査は完了した（第４図）。

その後平成12年５月になって、ナイス日栄は開発を断念、開発行為事前申請の取り下げをし、第３者に譲渡することになったが、７年度分と11年度分の整理・報告書刊行の負担はナイス日栄側の負担で行なうこととなり、事業完了した次第である。

調査区の設定にあたっては、調査の効率を考慮した上で、開発区域のうち調査対象となる計画道路幅の６ｍを基準として、６ｍメッシュで全体を区分けした。東西方向をアルファベットで表示し、一番西端をＡライン、東端をＪラインとした。また南北方向は算用数字で表示し、南端ラインを１ライン、一番北端のラインを10ラインとした。この南北の基準ラインは真北から37度東に偏している。

これらに囲まれている区画について、南西部分から北へＡ－１～Ａ－９、南西部分から東へＡ－１～Ｉ－１というような地区呼称とした。調査基準点設定後、国家座標値を計測するための測量を実施している。

基準点Ａ（Ｈ－２杭）　　Ｘ＝－195696.828　Ｙ＝3159.503

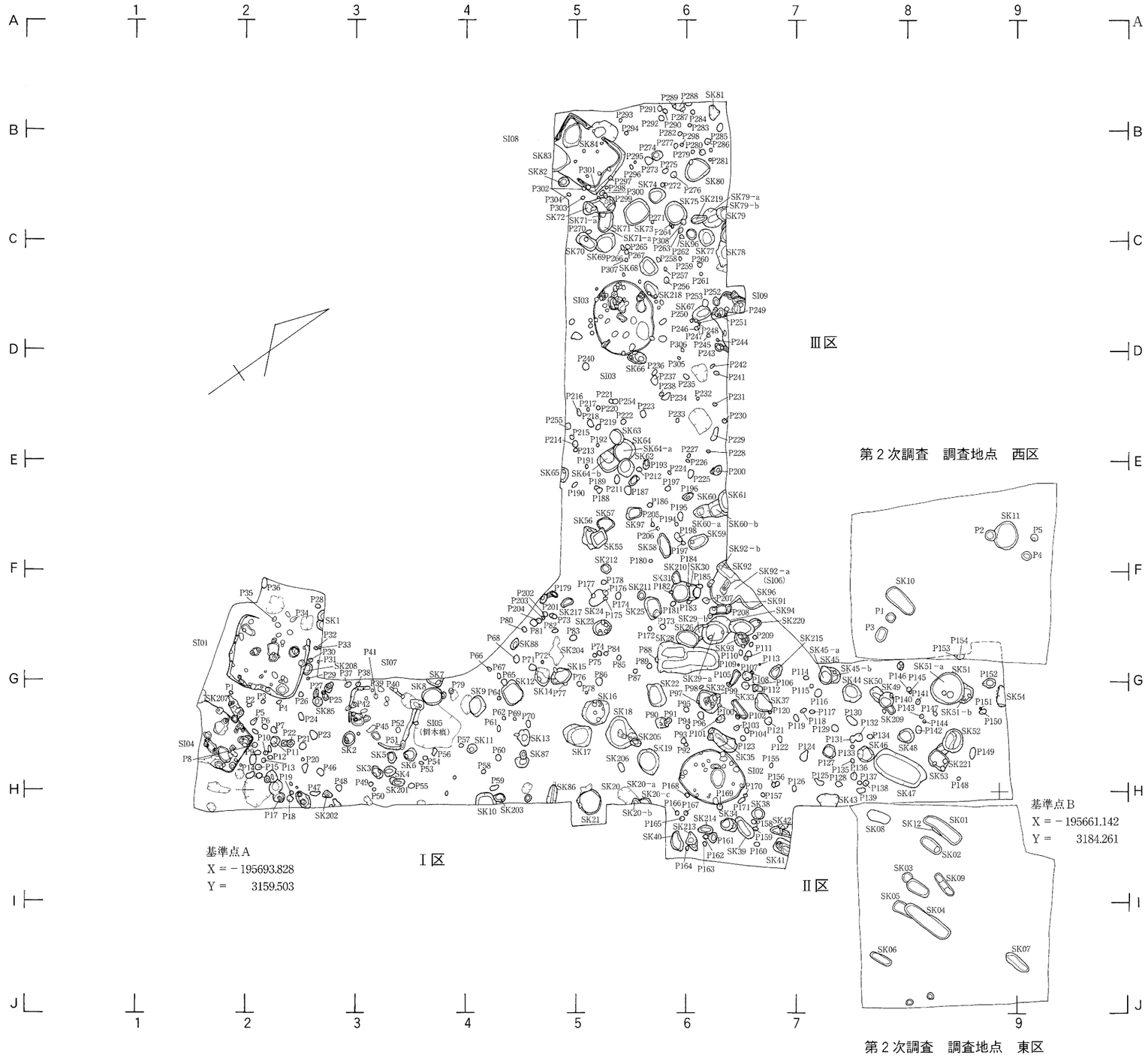
基準点Ｂ（Ｈ－９杭より南に１ｍ）　Ｘ＝－195661.142　Ｙ＝3184.261

平成11年度の２次調査にあたっては、１次調査時の調査基準杭がそのまま現地に残っていたことから同一基準での調査区設定をおこなった。

その結果、１次調査区はＡ～Ｅ－４～６、Ｆ～Ｈ－１～８に該当し、２次調査区はＥ・Ｆ－７～９及びＨ・Ｉ－７～９ということになる。

第２図　調査地点位置図（Ｓ＝1/5000）

第３図　調査区位置図（Ｓ＝1/1000）



第４図　遺構配置図（Ｓ＝1/250）

［１］第１次調査

１．発見遺構と出土遺物

平成７年度の発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡５軒、土坑約120基、ピット約300基のほか、弥生時代の竪穴住居跡２軒が検出された（第４図）。竪穴住居の平面形は、縄文時代の住居跡が方形を呈するのに対して、弥生時代の住居跡は円形を呈している。構造的にはいずれも地床炉をもち、柱穴は、弥生時代の住居は壁柱穴または屋外柱穴で、縄文時代の住居は２～４本の主柱穴をもち周溝が巡っている。土坑は円形または方形のものがほとんどで、円形の土坑には断面形が袋状・フラスコ状を呈しているものが多い。

平成11年度の第２次調査では、土坑12基とピットが若干発見された。これらの土坑のうち２基は、出土遺物などからみて弥生時代の土壙墓と考えられる。こうしたことからみて、７年度に発見されているものも含め、周辺の土坑についても土壙墓となる可能性が考えられる。

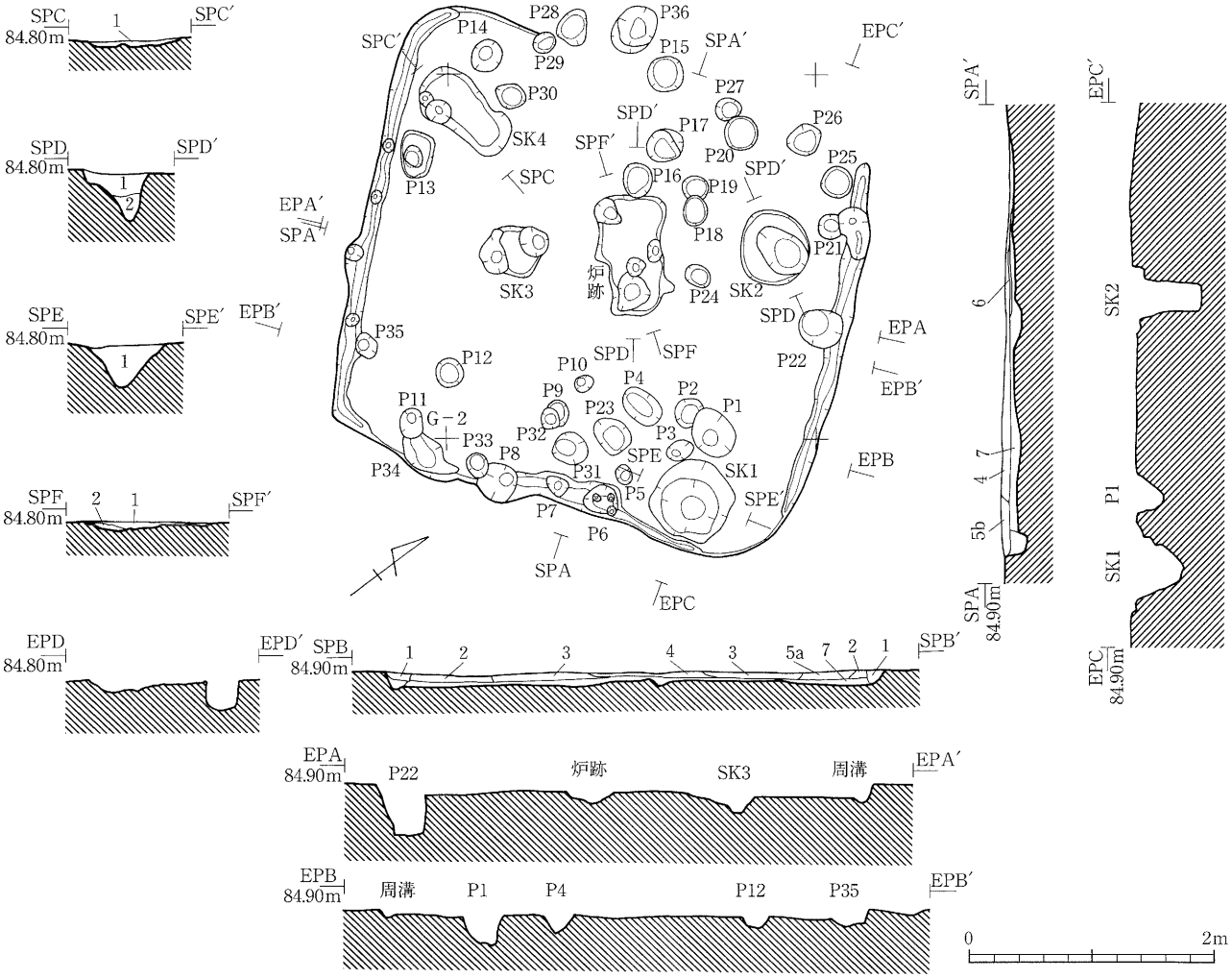
以下、各遺構と遺物の詳細について述べたい。

（１）竪穴住居跡

竪穴住居跡は７軒検出された。SI05（倒木痕）・SI06（土坑の重複）は欠番となっている。

SI01竪穴住居跡（第５・６図）

【位　置】　当初Ｇ－１、２区に一部が検出され、Ｆ－１、２区を拡張することにより全体を把握することができた。このようにＦ－２区を中心として位置している。



第５図　SI01竪穴住居跡

【平面形・規模】　ほぼ中央に地床炉を持つ方形の平面形を呈する。南北3.80m、東西4.06mを計るが、削平が激しく、北辺は西側の一部に認められるのみである。東辺での傾きは、真北からN－41°－Wとなっている。

【堆積土】　堆積土は大別で７層に分けられた。このうち２～５層が住居跡の堆積土で、１層は周溝の埋土、６層は炉の埋土の一部、７層は掘り方埋土である。

【壁　面】　検出面からの深さは、東壁で５～８cm、西壁で10cm前後、南壁で５～10cm、北壁で４cmを計る。

【床面施設】　北壁側を除いて周溝が巡っている。上幅15cm前後、床面からの深さは、最大で５cm程度を計る。

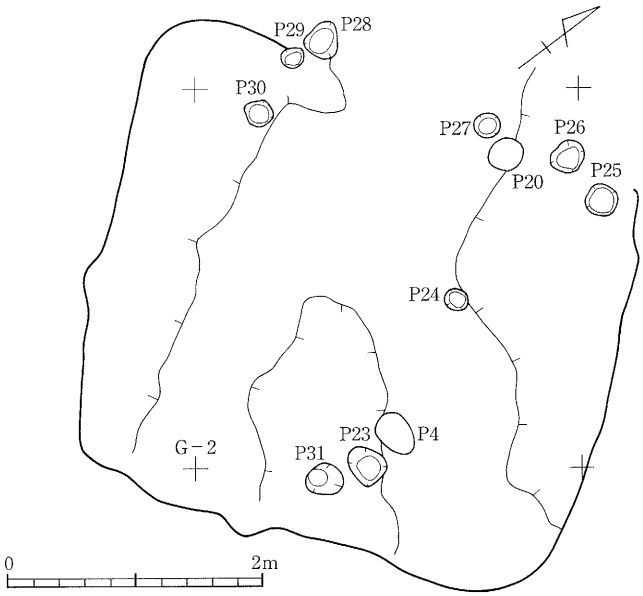
【炉　跡】　床面ほぼ中央に位置している地床炉で、不整方形を呈している。長軸で100cm、短軸で50cmを計り、炉の底面には凹凸が認められる。

【柱穴・ピット】　壁際や床面に多数検出されたが、このうち堆積状況等から人為的に掘り込まれた可能性の高いものとしてピット35基、土坑４基を記録した。床面掘り方底面からも、ピットを９基検出している（第６図）。床面から検出されたピットは、径20cm前後のものが多く、深さもほとんどが10～15cm程であるが、もっとも深いピット13では65cmを計る。これらのうち、位置、形状、深さなどから、SK１・２が主柱穴となり、ピット12・14を補助柱とする構造の可能性や、壁側に位置しているピットについては、壁柱穴となる可能性も考えられるが全体の構成は不明である。

【出土遺物】　堆積土中から縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器等が出土している（第７図）。このうち５の外面には炭化物が付着している。６は底面に文様らしき痕跡があるが不明である。10・11は円盤状土製品の欠損品である。12～15は不定形石器で、13には、両面から入れられた加工によって錐状の先端部が造り出されている。16は磨凹石で、使用痕跡としての磨面と凹部が両面にみとめられる。

層　位	土　色	土　性	備　考
１層	10YR3/1　黒褐色	シルト	周溝埋土
２層	10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック状に混入
３層	10YR2/3　黒褐色	シルト	10YR5/4ブロック状に若干混る。カーボン粒若干混入
４層	10YR3/2　黒褐色	シルト	焼土粒若干混入
５a層	10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR4/4褐色土混入
５b層	10YR2/3　黒褐色	シルト	10YR5/4若干混入（埋３層に近似）
６層	10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン　焼土粒混入
７層	10YR3/1　黒褐色	シルト	10YR5/6　斑状に混入

SI01埋土観察表



第６図　SI01掘り方底面検出遺構

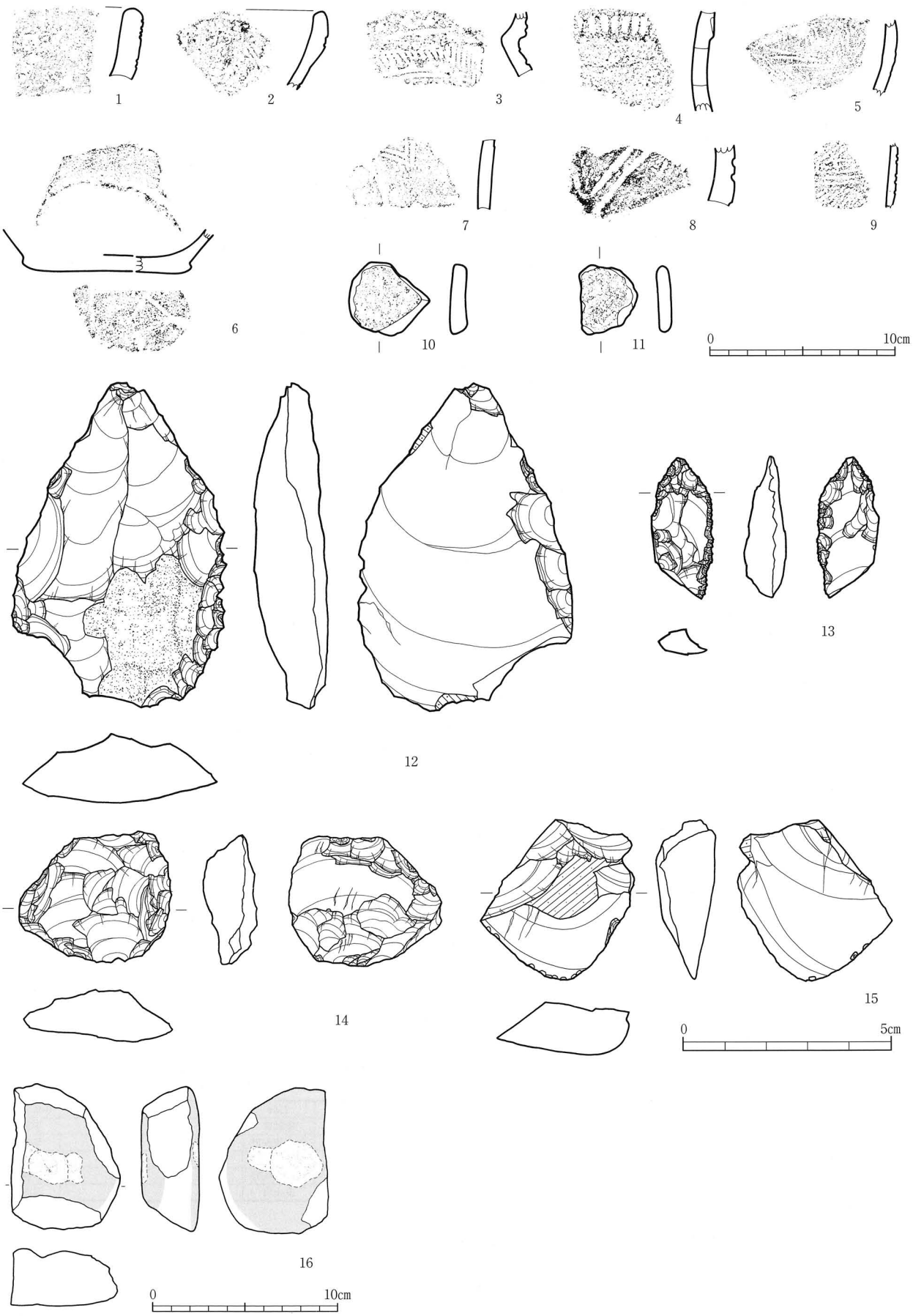
遺構名	形　状	規模（長×短cm）	深さ（cm）	埋土層位	土　色	土　性	備　考
Pit 1	楕円形	42×33	23.5		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 2	円形	26×22	16.5		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 3	楕円形	22×16	24.7		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 4	楕円形	35×24	24.8		10YR3/3　暗褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入　7.5YR3/4に近似・焼土混入
Pit 5	楕円形	15×13	6.1		10YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit 6	不整形	28×27	18.4		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
Pit 7	楕円形	18×15	10.9		10YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit 8	円形	33×32	14.1		10YR3/3　暗褐色	シルト	
Pit 9	円形	20×（　）	11.6		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
Pit10	円形	16×14	46.1		10YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit11	楕円形	25×18	13.4		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit12	円形	23×22	6.8		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入　10YR4/3混入
Pit13	不整形	37×28	65.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit14	円形	26×25	18.1		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
Pit15	円形	18×18	32.0		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit16	楕円形	28×23	22.5		10YR3/3　暗褐色	シルト	
Pit17	円形	32×27	10.7		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干：10YR4/3混入
Pit18	楕円形	23×20	5.2		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒：焼土粒混入
Pit19	円形	22×21	9.5		10YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit20	円形	28×27	2.8		10YR3/3　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
Pit21	円形	21×（　）	8.7		10YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit22	円形	46×42	32.7		10YR3/2　黒褐色	シルト	焼土粒・カーボン混入
Pit23	楕円形	32×26	16.7		10YR3/1　黒褐色	シルト	掘り方底面検出
Pit24	楕円形	22×17	12.5		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出、10YR4/6斑状に混入
Pit25	円形	26×25	7.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出、10YR4/6斑状に混入
Pit26	楕円形	26×25	9.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出
Pit27	円形	20×20	9.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出
Pit28	不整形	30×25	22.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出
Pit29	円形	20×16	13.8		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出
Pit30	楕円形	22×20	3.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	掘り方底面検出
Pit31	楕円形	28×26	35.5		10YR3/1　黒褐色	シルト	掘り方底面検出、10YR4/4ブロック状に混入
Pit32	楕円形	17×15	36.2				
Pit33	楕円形	20×16	16.9				
Pit34	不整形	(47)　×28	6.7				
Pit35	不整形	20×18	4.3				
Pit36	楕円形	40×32	21				
SK 1	円形	70×69	35.9	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒・焼土粒若干混入　10YR5/6　黄褐色粒子混入
SK 2	円形	60×56	55.5	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒・焼土粒若干混入
				2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒・焼土粒若干混入
SK 3	不整形	57×46	29.4	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK 4	長方形	83×33	13.1	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入　10YR4/4ブロック状に混入

SI01床面施設観察表

図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　考	写真図版No.
7－1	A－5	SI01	1・2層	縄文土器	口縁部	刺突		写真41
7－2	A－11	SI01	堀り方	縄文土器	口縁部	刺突　沈線	波状口縁	写真41
7－3	A－2	SI01	1・2層	縄文土器	口頸部	刺突　沈線　短沈線		写真41
7－4	A－7	SI01	埋層上	縄文土器	口頸部	隆線上に短沈線	外面、内面共に多量の砂粒含有のため小さな凹凸が多い	写真41
7－5	A－1	SI01	1・2層	縄文土器	体部	撚り糸（羽状）	土器の外面に炭化物が付着している	写真41
7－6	A－3	SI01	1・2層	縄文土器	底部	体部に羽状	定部に文様痕らしきものあり　不明	写真41
7－7	A－8	SI01	埋層	縄文土器	口頸部	沈線　結束　RL縄文		写真41
7－8	A－9	SI01	埋層	縄文土器	体部	沈線　縄文		写真41
7－9	A－10	SI01	埋層	縄文土器	体部	撚り糸（羽状）		写真41
7－10	A－4	SI01	1・2層	土製品	――		土製円盤	写真41
7－11	A－6	SI01		土製品	――		土製円盤	写真41

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　考	写真図版No.
7－12	A－4	SI01	埋層	不定形石器	88.0	57.0	18.9	81.1	流紋岩		写真46
7－13	A－1	SI01	埋1・2層	不定形石器	38.0	18.5	10.5	5.7	珪化凝灰岩		写真45
7－14	A－2	SI01	埋1・2層	不定形石器	35.0	41.0	14.1	16.6	デイサイト		写真45
7－15	A－3	SI01	埋層	不定形石器	43.0	40.5	14.2	19.1	珪化凝灰岩		写真45
7－16	B－1	SI01		凹石（磨）	79.0	59.0	31.5	180.0	安山岩		写真46

SI01出土遺物観察表



第７図　SI01出土遺物

SI02竪穴住居跡（第８図）

【位　置】　Ｇ－６区の南東部を中心として、南側のＧ－５及び東側のＨ－６区に位置している。

【平面形・規模】　平面形は東西軸が長い楕円形を呈し、中央よりやや東寄りに地床炉を持っている。東西3.60ｍ、南北2.85ｍを計る。

【堆積土】　堆積土は大別で６層に分けられた。

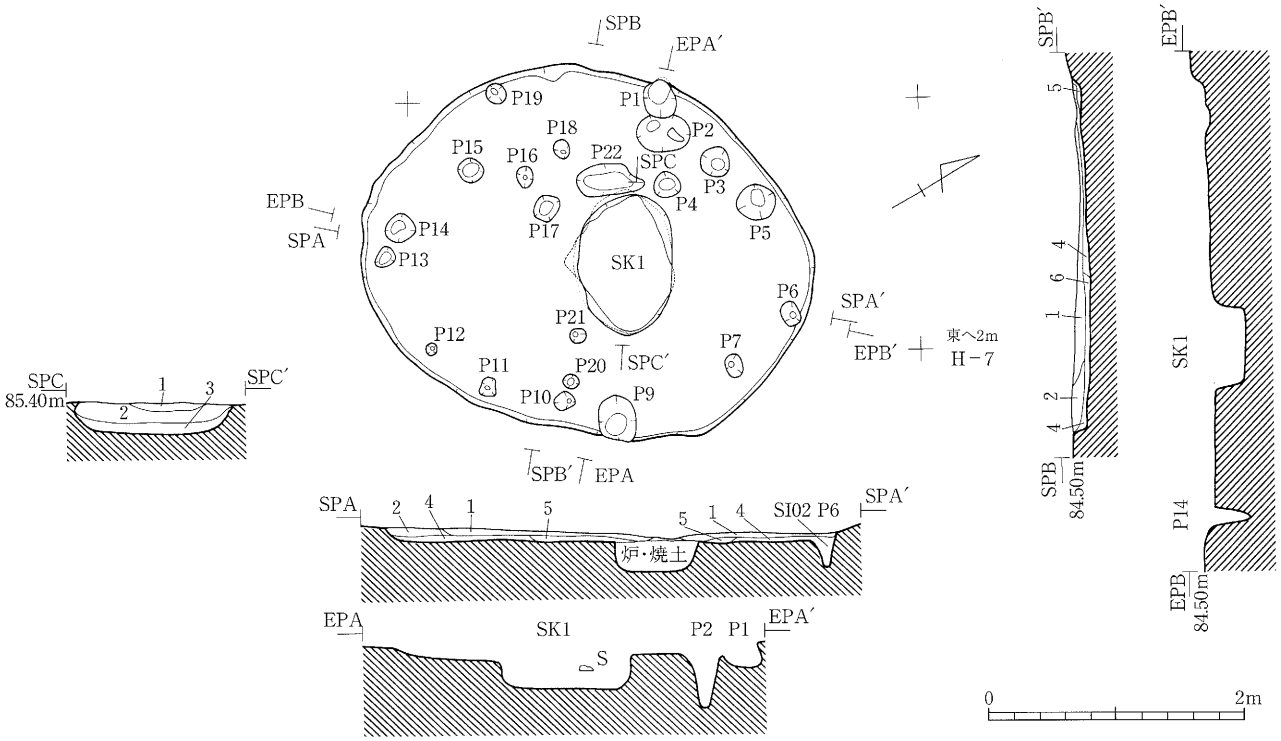
【壁　面】　検出面からの深さは、東壁で３～５cm、西壁で６～８cm、南壁で３～９cm、北壁で３～５cmを計る。

【床面施設】　周溝などの施設は検出されなかった。

【炉　跡】　床面の中央よりやや東に焼土が広がっており、焼け面も認められたことから地床炉と考えられる。焼土の下面から南北方向に長い楕円形を呈する土坑状のプランが検出された。長軸で110cm、短軸で75cmを計り、炉底面から26cmほど掘り込まれている。堆積土は３層に分けられ、埋１層には焼土が多く含まれているが下層には焼土粒や炭化物粒が少量含まれる程度である。底面はほぼ平坦で凹凸はみられない。

【土坑・ピット】　壁際や床面に多数検出されたが、このうち堆積状況等から人為的に掘り込まれた可能性の高いものとしてピット21基を記録した。検出されたピットは、径15cm前後の小さなものと径35cm前後のものに分けられる。深さについてはほとんどが10cm以下であるが、もっとも深いピット２では43.5cmを計る。壁側に位置しているピットについては、壁柱穴となる可能性も考えられるが全体の構成は不明である。

【出土遺物】　堆積土中から弥生土器が出土している（第９図）。いずれの土器片も撚り糸もしくは縄文によって羽状に施文されている。このうち15・16には炭化物が付着している。

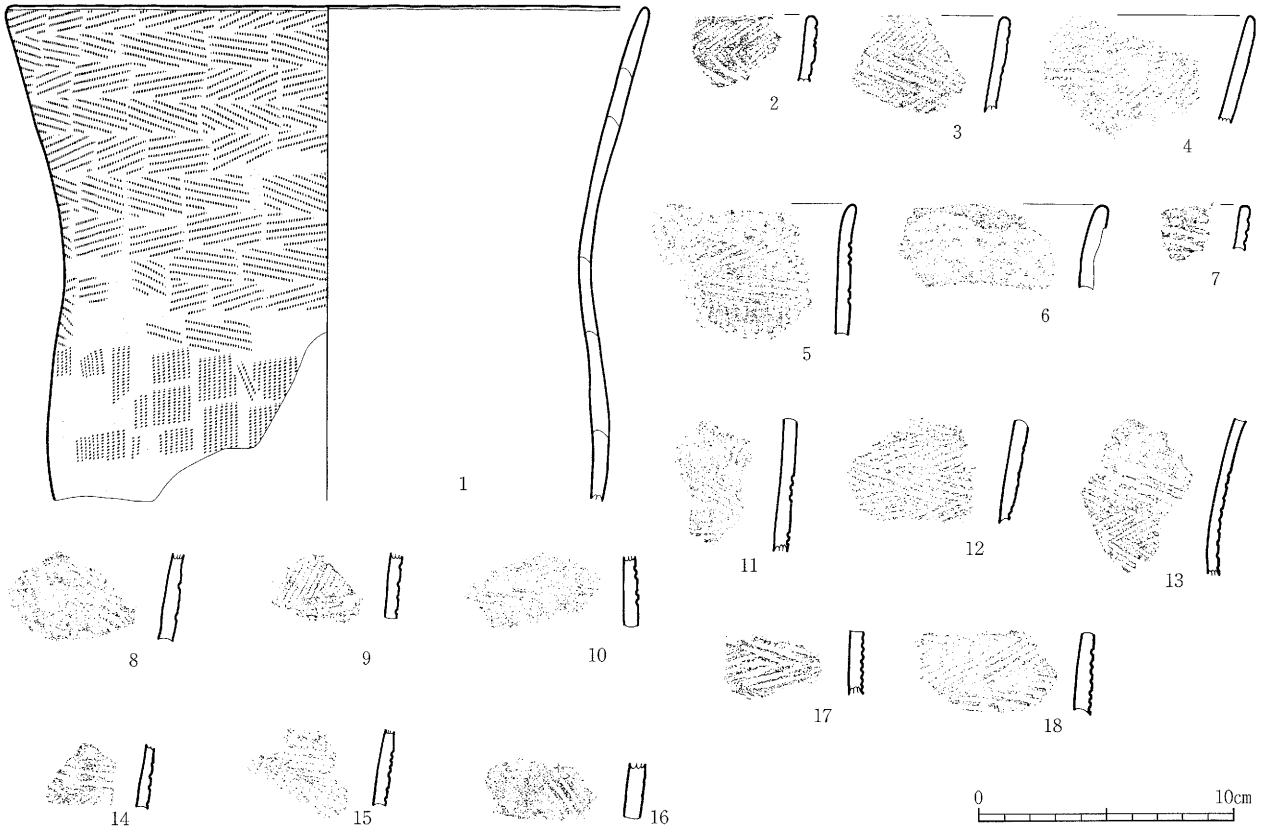


層　位	土　色	土　性	備　考
１層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒混入。10YR4/3ブロック状に混。南北ベルトの方が色調が明るい。
２層	10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入。
３層	10YR2/3　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロック状に混入。
４層	10YR3/4　暗褐色	シルト	10YR2/2ブロックを混入。カーボン粒少量混入。
５層	10YR3/3　暗褐色	シルト	カーボン粒少量混入。
６層	10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR3/3ブロックを混入。カーボン粒多量に混入。

第８図　SI02竪穴住居跡

遺構名	形　状	規模（長×短cm）	深さ（cm）	埋土層位	土　　色	土　性	備　　考
Pit 1	楕円形	30×26	18.9		10YR3/4　暗褐色	シルト	他のピットよりも明るい色調の埋土
Pit 2	楕円形	42×30	43.5		10YR3/2　黒褐色	シルト	中央部に石製品が露出
Pit 3	円形	23×22	7.6		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6の粒を少量含む
Pit 4	円形	20×20	5.0		10YR2/2　黒褐色	シルト	炭化物を多量に混入。10YR5/6の粒を少量含む。
Pit 5	円形	31×31	13.3		10YR3/2　黒褐色	シルト	中央部に10YR5/6のブロック有り　土器片露出　カーボン粒少量混入
Pit 6	楕円形	18×13	27.6		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6の粒少量混入
Pit 7	楕円	18×13	6.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR5/6のブロック混入
Pit 8							欠番
Pit 9	不整形	（　）×28	32.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	P169との切り合い（？）10YR5/6粒を少量混入
Pit10	円形	18×16	3.1		10YR3/3　暗褐色	シルト	10YR5/6ブロックを混入　カーボン粒少量混入
Pit11	不整形	14×12	26.9		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを少量混入　カーボン粒少量混入
Pit12	円形	8×8	4.4		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に混入
Pit13	楕円形	17×15	5.5		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを混入　カーボン粒少量混入
Pit14	円形	25×23	6.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒（大）を含む　10YR5/6を少量混入
Pit15	円形	21×19	3.7		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に混入、カーボン粒少量混入
Pit16	楕円形	17×12	19.0		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロック混入、カーボン粒多量に混入
Pit17	楕円形	21×19	7.3		10YR3/2　黒褐色	シルト	炭化部分が半分以上占める　赤色土少量　10YR5/6ブロック少量混入
Pit18	円形	15×13	8.8		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロック少量・カーボン粒少量混入
Pit19	円形	18×16	8.5		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に混入　カーボン粒少量混入
Pit20	円形	13×13	5.0		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR4/6のブロック混入
Pit21	円形	13×12	4.5		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR4/6のブロック混入
Pit22	不整形	53×24	8.2		10YR3/4　暗褐色	シルト	土器片多数　カーボン粒多数混入
SK 1	楕円形	111×73	26.9	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	2.5YR3/6の焼土を多量に含む　上層部に土器片を多数混在
				2層	10YR3/3　暗褐色	シルト	カーボン粒少量　土器片を少量含む　10YR5/6ブロックを少量含む
				3層	10YR3/4　暗褐色	シルト	カーボン粒少量含む土器片小数含　10YR5/6ブロック少量含む（底面）

SI02　床面施設観察表



第９図　SI02出土遺物

図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
9－1	A－113	SI02		弥生土器	口縁～体部	RL縄文　LR縄文		写真42
9－2	A－12	SI02	1・2層	弥生土器	口縁部	撚り糸（羽状）	断面に炭化粒が見られる	写真42
9－3	A－27	SI02		弥生土器	口縁部	撚り糸（羽状）		写真42
9－4	A－24	SI02		弥生土器	口縁部	撚り糸（羽状）	波状口縁	写真42
9－5	A－13	SI02	1・2層	弥生土器	口縁部	撚り糸（羽状）	波状口縁？	写真42
9－6	A－17	SI02	埋層上	弥生土器	口縁部	剥離面が表面の8/10　不明		写真42
9－7	A－26	SI02	埋層	弥生土器	口縁部	LR縄文　羽状？		写真42
9－8	A－25	SI02	埋層	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）？		写真42
9－9	A－26	SI02	埋層	弥生土器	体部	LR縄文　羽状？		写真42
9－10	A－16	SI02	埋層上	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）		写真42
9－11	A－14	SI02	埋層上	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）		写真42
9－12	A－18	SI02	埋層上	弥生土器	体部	羽状？		写真42
9－13	A－20	SI02	埋層	弥生土器	口頸部	羽状？　LR縄文		写真42
9－14	A－21	SI02	埋層	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）		写真42
9－15	A－19	SI02	埋層上	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）	土器外面への炭化物付着	写真42
9－16	A－22	SI02		弥生土器	体部	撚り糸（羽状）	内面に炭化物が付着している	写真42
9－17	A－23	SI02	埋層	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）		写真42
9－18	A－15	SI02	埋層上	弥生土器	体部	撚り糸（羽状）		写真42

SI02　出土遺物観察表

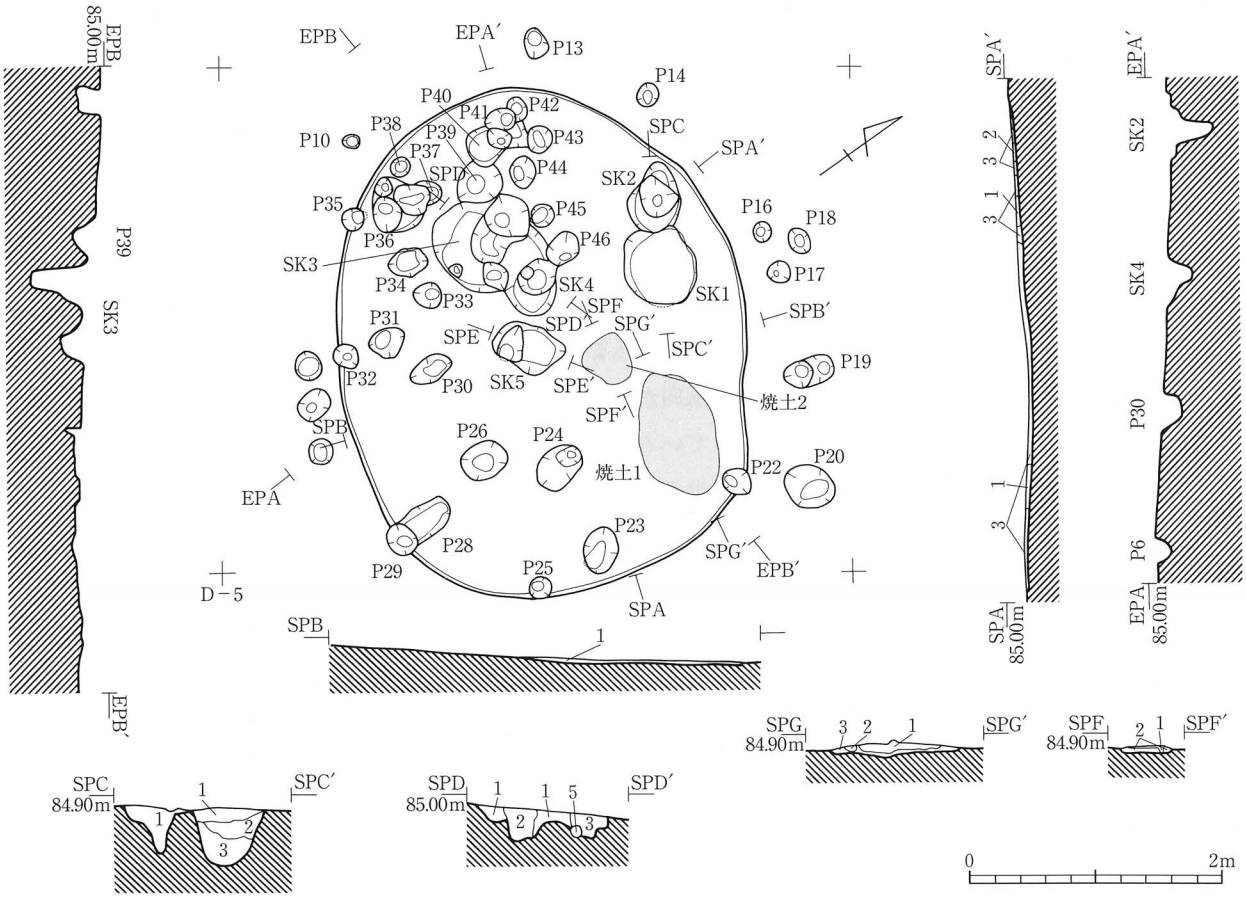
SI03竪穴住居跡（第10図）

【位　置】　C－5区に位置している。

【平面形・規模】　平面形は東西軸が長い楕円形を呈している。東西3.98m、南北3.24mを計る。

【堆積土】　堆積土はほとんど残っていないが２層に分けられた。

【壁　面】　削平が著しく検出面からの深さは、残りのよい部分でも２～３cm程度でしかない。



層　　位	土　　色	土　　性	備　　考
1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	焼土粒子混入
2層	10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	焼土粒子混入　カーボン粒混入

第10図　SI03竪穴住居跡

【床面施設】　周溝などの施設は検出されなかった。

【炉　跡】　床面東側に地床炉と考えられる焼土遺構２基が検出されている。

焼土遺構１は、東西軸104cm、南北軸70cmの楕円形のプランを呈している。床面から15cmほど掘り込まれており、中央部がさらに凹んでいる。堆積土は３層に分けられ、上面の焼土は５～10cm程堆積しており、固くしまっていた。焼土の下面は焼成により赤変し硬化していた。

焼土遺構２は、長軸で44cm、短軸で40cmのほぼ円形のプランである。床面から８cmほど掘り込まれており、底面は平坦である。堆積土は２層に分けられ、上面の焼土は２～３cm程と薄く堆積しており、焼土の下面は焼土遺構１の底面に比べて焼成による赤変、硬化の度合いは進んでいなかった。

【柱穴・ピット】　壁際や床面に多数検出されたが、このうち堆積状況等から人為的に掘り込まれた可能性の高いものとしてピット34基、土坑５基を記録した。全体的に土坑・ピットともに床面の西側部分に集中して検出されている。

土坑は、２基の焼土遺構と相対するようにSK３～５、北側にSK１・２が位置している。SK３・４は重複しており、SK１・２は接している。

SK１は、長軸58cm×短軸54cmのほぼ円形のプランを呈し、床面から45cm程掘り込まれている。堆積土は３層に分けられ、焼土粒や炭化物粒が入っている。底面はすり鉢状に凹んでいる。SK２は、長軸57cm×短軸40cmの不整円形のプランを呈し、床面から35cm程掘り込まれている。堆積土は単層で、焼土粒や炭化物粒が入っている。底面の一部がさらにピット状に掘り込まれている。

SK３は、推定で長軸100cm×短軸80cmのほぼ楕円形のプランを呈するものと思われる。床面から50cm程掘り込まれている。堆積土は３層に分けられ、焼土粒や炭化物粒が入っている。底面は凹凸が激しくピット状に凹んでいる。SK４はSK３に切られていることから、形状や規模ははっきりしないが、検出部分での推定で短軸42cmのほぼ楕円形のプランを呈するものと思われる。床面から20cm程掘り込まれている。堆積土は３層に分けられ、焼土粒や炭化物粒が入っている。底面の一部がさらにピット状に掘り込まれている。SK５は、長軸53cm×短軸33cmの不整形のプランを呈し、床面から40cm程掘り込まれている。堆積土は３層に分けられ、焼土粒や炭化物粒が少量入っている。底面の一部がさらにピット状に掘り込まれている。

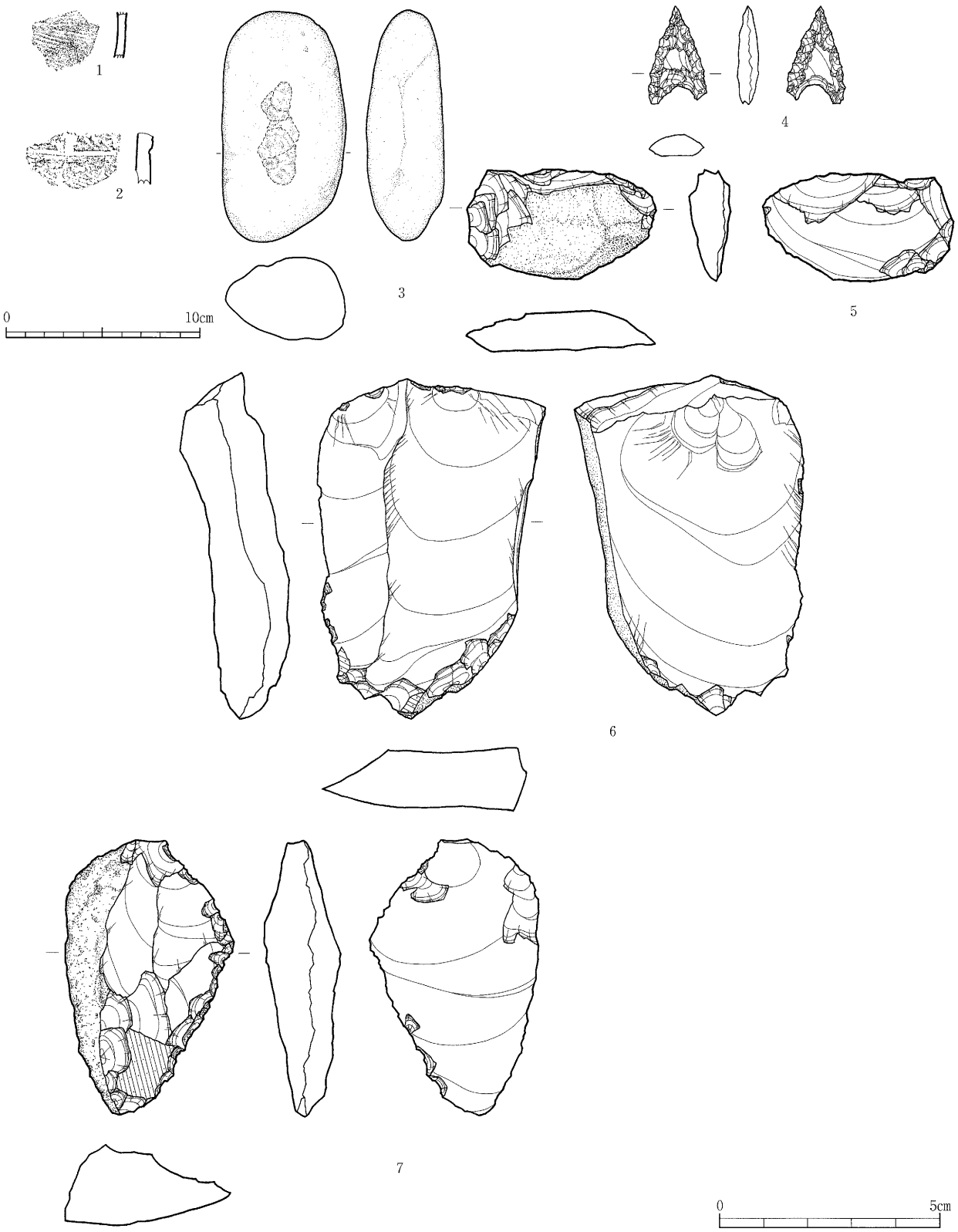
ピットは前述のとおり、住居跡内から23基、周囲から11基検出されている。北壁側では、壁にかかる位置のピットがみられず住居跡の周辺に沿って検出されているのに対して、南側から東側にかけては壁に沿うような位置のものが多く、逆に住居跡の周辺にピットは検出されていない。

壁面に沿うように検出されているピットは、径15～30cm前後の比較的小型ものが多く、深さもほとんどが15～25cm程である。位置、形状、深さなどから、これらのピットについては、壁柱穴となる可能性も考えられるが全体の構成は不明である。

【出土遺物】　堆積土中から縄文土器、剥片石器、礫石器等が出土している（第11図）。１は、SI02竪穴住居跡から出土している土器と同じく、撚り糸によって羽状に施文されている。３は凹石で、使用痕跡としての凹部が片面にみられる。４の石鏃は床面から出土しているもので、基部に抉りが入った無茎鏃である。５～７はいずれも剥片を素材とする不定形石器または二次加工のみられるものである。

遺構名	形　状	規模（長×短cm）	深さ（cm）	埋土層位	上　色	土　性	備　考
Pit 1							欠番
Pit 2							欠番
Pit 3							欠番
Pit 4							欠番
Pit 5							欠番
Pit 6	円形	20×20	11.7		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit 7	楕円形	28×22	25.5		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit 8	円形	23×22	17.3		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit 9							欠番
Pit10	円形	14×13	5.5		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit11							欠番
Pit12							欠番
Pit13	楕円形	24×18	16.8		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
Pit14	円形	19×18	16.4		7.5YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit15							欠番
Pit16	円形	16×15	9.1		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit17	円形	18×18	18.7		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit18	楕円形	24×17	15.7		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit19	楕円形	40×32	36.3		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit20	楕円形	42×36	50.2		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit21							欠番
Pit22	円形	26×20	16.5		10YR2/1　黒色	シルト	
Pit23	楕円形	38×27	15.5		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit24	楕円形	41×29	32.7		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit25	円形	18×17	14.1		10YR3/2　黒褐色	シルト	
Pit26	楕円形	37×29	28.3		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit27							欠番
Pit28	不整形	(35)　×27	10.5				
Pit29	円形	57×24	11.0		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR4/6斑状に混入　カーボン粒混入
Pit30	不整形	35×21	17.1		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit31	不整形	26×26	17.3		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit32	円形	19×19	11.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit33	円形	22×20	10.2		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit34	不整形	43×24	17.2		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit35	円形	17×17	10.2		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit36	不整形	58×45	36.9		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit37	不明	(　)×19	5.4		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit38	円形	17×15	4.7		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit39	円形	(　)×45	17.2		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit40	円形	(　)×30	8.7		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit41	楕円形	43×32	19.5		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit42	円形	(　)×17	12.3		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit43	円形	(　)×22	10.3		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit44	楕円形	25×21	8.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit45	円形	17×17	20.8		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit46	楕円形	28×22	29.8		10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK 1	円形	58×54	45.5	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒・焼土粒混入
				2層	7.5YR3/2　黒褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
				3層	10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン　カーボン粒混入
SK 2	不整円形	57×40	34.9	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	10YR4/4小ブロック状に若干混入　焼土粒子・カーボン粒子混入
SK 3	楕円形	(　)×82	51.2	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に含む
				2層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒少量含む
				3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒多量に含む
SK 4	不明	(　)×42	20.7	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に含む
				2層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒少量含む
				3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒多量に含む。石製品有
SK 5	不整形	53×33	40.5	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	石製品有り　カーボン粒混入
				2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR2/1ブロックを上層に多量に含む　カーボン粒少量含む
				3層	10YR3/3　暗褐色	シルト	10YR5/6ブロックを多量に含む

SI03　床面施設観察表



図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
11－1	A－28	SI03		弥生土器	体部	撚り糸（羽状）		写真43
11－2	A－29	SI03		縄文土器	口縁部	隆帯上に斜位、刻目、沈線LR、縄文		写真43

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
11－3	B－4	SI03		凹石	119.5	63.5	40.0	350.0	安山岩		写真47
11－4	A－5	SI03	床直	石鏃	25.0	14.5	4.5	1.5	珪化凝灰岩		写真47
11－5	A－8	SI03		不定形石器	28.0	48.0	9.6	15.8	凝灰質頁岩		写真47
11－6	A－6	SI03		剥片	84.0	55.0	17.2	99.5	珪化凝灰岩		写真47
11－7	A－7	SI03		不定形石器	72.0	45.0	19.4	42.8	珪化凝灰岩		写真47

第11図　SI03出土遺物

SI04竪穴住居跡（第12図）

【位　置】　Ｇ－１区が主体で、若干Ｇ－２区にかかっている。Ｇ－１区も南半部は市道沿いの杉などの樹木域となっていることからこれ以上の拡張は行なえず完掘することができなかった。

【平面形・規模】　平面形は東西に長い長方形を呈している。住居跡の南西部分は調査区域外になっている。床面南東部分に地床炉を持っている。東西3.50ｍ、南北2.85ｍを計る。東西辺で方向をみると、真北からＮ－20°－Ｗとなっている。

【堆積土】　堆積土はわずかに残っている程度であるが２層に分けられた。

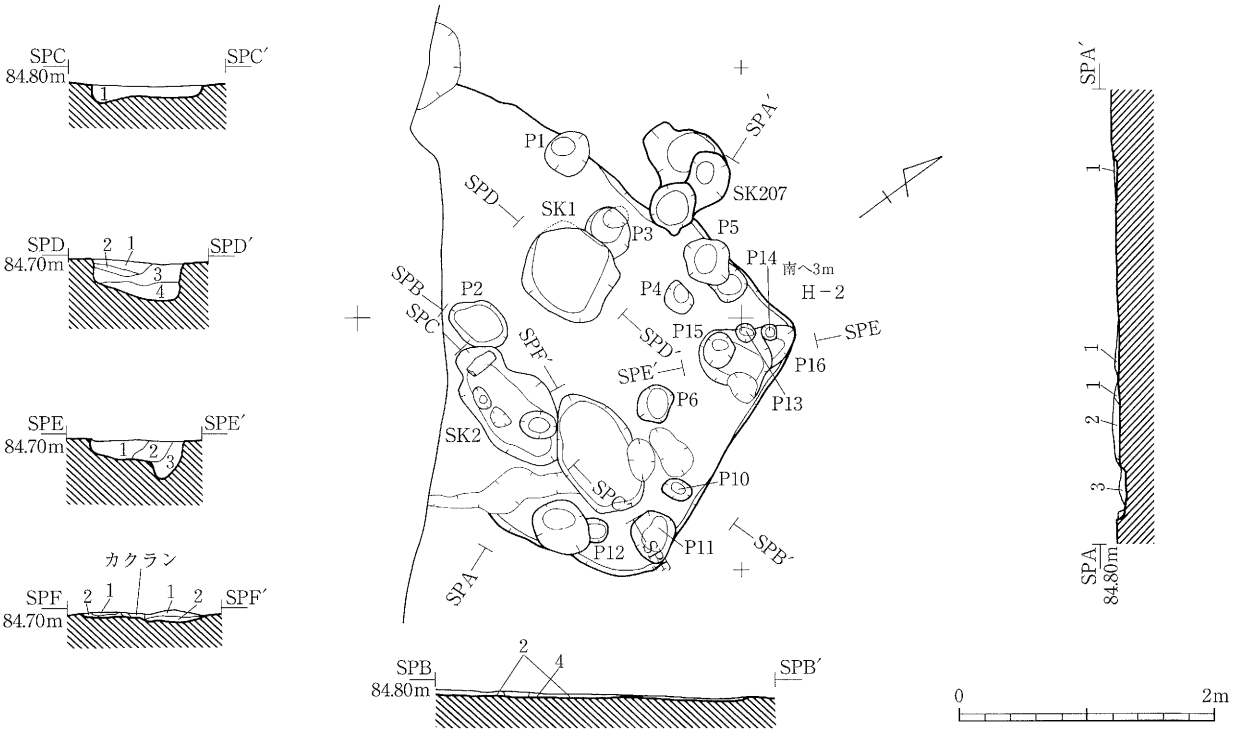
【壁　面】　削平が著しく検出面からの深さは、２cm程度でしかない。

【床面施設】　底面は木根などによる撹乱がいちじるしい状況で、周溝などの施設は検出されなかった。

【炉　跡】　床面南東部に位置している地床炉で、長軸で100cm、短軸で60cmを計り、平面形は楕円形を呈している。炉の底面には若干の凹凸が認められる。堆積土は２層に分けられ、上面の焼土は２～５cm程と薄く堆積しており、焼土の下面は焼成による赤変、硬化はあまり進んではいなかった。

【土坑・ピット】　床面中央部に土坑２基と壁側に沿うような位置からピット13基が検出されている。SK１は70cm×70cmでほぼ方形のプランを呈する。床面から30cm程掘り込まれている。堆積土は４層に分けられ、埋２層は焼土層である。底面が東側に向かって傾斜している。SK２は炉跡の西側に接しており、長軸110cm×短軸60cmで不整形プランを呈する。床面から10～15cm程掘り込まれている。堆積土は単層で、焼土・炭化物を若干含んでいる。底面にはピット状の細かな凹凸がみられる。土坑西壁にかかって石棒が出土している。

【出土遺物】（第13図）　１・２は、表裏両面ともに側辺に簡単な二次加工が施されている剥片石器で、１は石鏃、２は不定形石器の欠損品である。３は、安山岩を用いた石棒と考えられるもので、特に加工は施されていないが、面取りされており断面形は長方形を呈している。

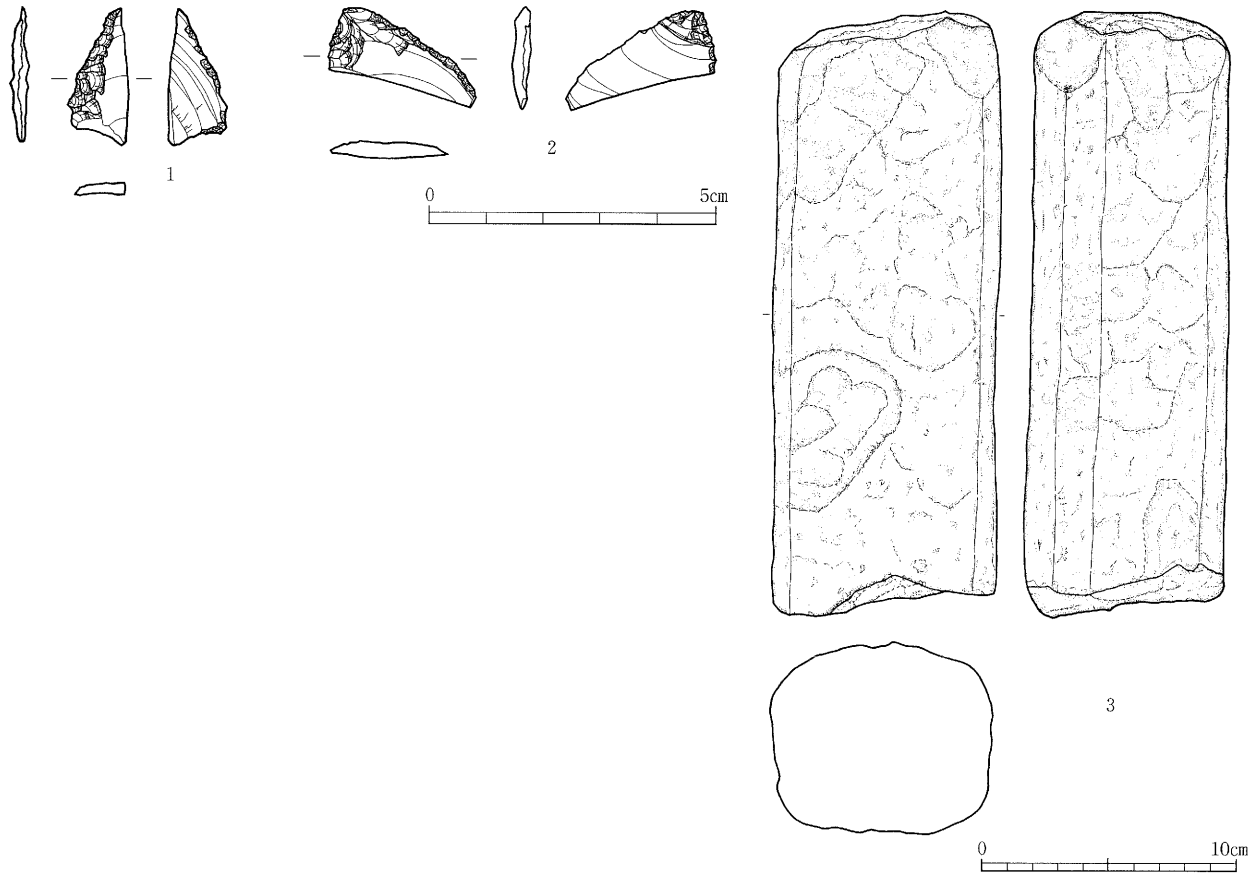


層　位	土　色	土　性	備　考
１層	7.5YR2/2　黒褐色	シルト	焼土混
２層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
３層			木根によるカクラン
４層	10YR3/4　暗褐色	シルト	

第12図　SI04竪穴住居跡

遺構名	形　状	規模（長×短cm）	深さ（cm）	埋土層位	土　色	土　性	備　考
Pit 1	円形	37×32	54.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 2	楕円形	47×35	10.4		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit 3	円形	（　）×37	39.5		10YR2/3　黒褐色	シルト	
Pit 4	不整形	（　）×22	59.2		10YR3/2　暗褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
Pit 5	不整形	40×35	68.7		10YR3/2　黒褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
Pit 6	楕円形	28×26	16.9		10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR5/6　若干混入
Pit 7							欠番
Pit 8							欠番
Pit 9							欠番
Pit10	楕円形	24×16	22.0		10YR3/4　黒褐色	シルト	
Pit11	楕円形	（　）×36	20.9		10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit12	円形	（　）×18	5.3		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit13	円形	16×15	6.2		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit14	円形	12×13	9.0		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit15	楕円形	28×34	27.5	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	10YR4/4ブロック状に混入　カーボン粒若干混入
				2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR4/4ブロック状に混入　カーボン粒・焼土粒混入
Pit16	不明	（　）×32	12.4		10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR4/4ブロック状に混入　カーボン粒若干混入
SK 1	方形	（　）×73	28.8	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
				2層	5 YR2/3　暗赤褐色	シルト	焼土層
				3層	10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
				4層	10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR3/4　斑状に混入
SK 2	不整形	113×45	14.6	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒若干混入

SI04　床面施設観察表



図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　考	写真図版No.
13－1	A－9	SI04		石鏃	27.0	11.5	2.3	0.8	珪化凝灰岩		写真48
13－2	A－59	SI04		不定形石器	24.0	27.0	3.0	1.4	珪質頁岩		写真48
13－3	B－6	SI04		石棒	240.0	88.0	81.0	2725.0	安山岩		写真48

第13図　SI04出土遺物

SI07竪穴住居跡（第14図）

【位　置】　Ｇ－３区を中心として、若干Ｇ－２区にかかっている。

【平面形・規模】　削平が著しく、床面や壁面もほとんど残っていない状況でありわずかに周溝の形状から方形のプランをもつ住居跡であることが推察された。規模は、周溝外側で東西3.50m、南北3.10mを計る。

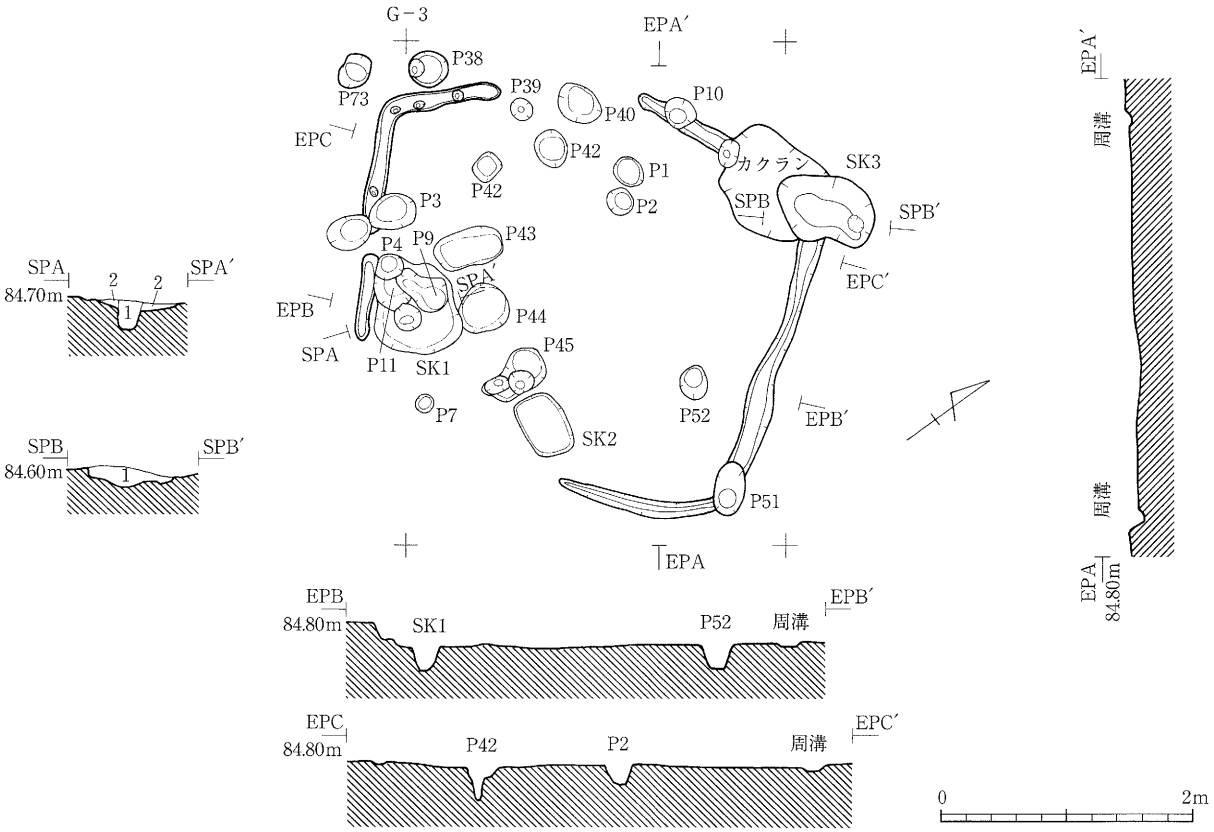
【堆積土】　周溝の堆積土がわずかに残っている程度で、住居跡の堆積状況は不明である。

【床面施設】　削平が著しく、床面もほとんど残っていない状況で、検出された周溝も削平により途切れている部分もある。周溝は上幅で15cmで、深さは削平されていることもあり１～３cm程でしかない。

【炉　跡】　炉跡は検出されなかった。

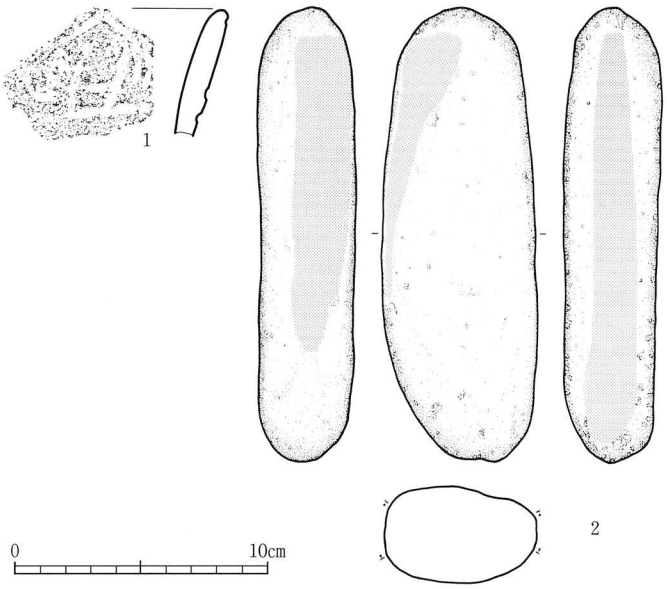
【土坑・ピット】　ピットは周溝に沿うような位置のものが多く、９基検出されている。径25cm前後の小型のものが多い。住居跡のプラン検出前に７基のピットを検出し調査しているが、これらのピットについても位置的にみて住居跡に伴う可能性が考えられる。

土坑は２基検出された。SK１は複数のピットに切られているが、不整形のプランを呈し、底面にも凹凸がみられる。SK２は削平により壁はほとんど残っていない。底面は平坦である。

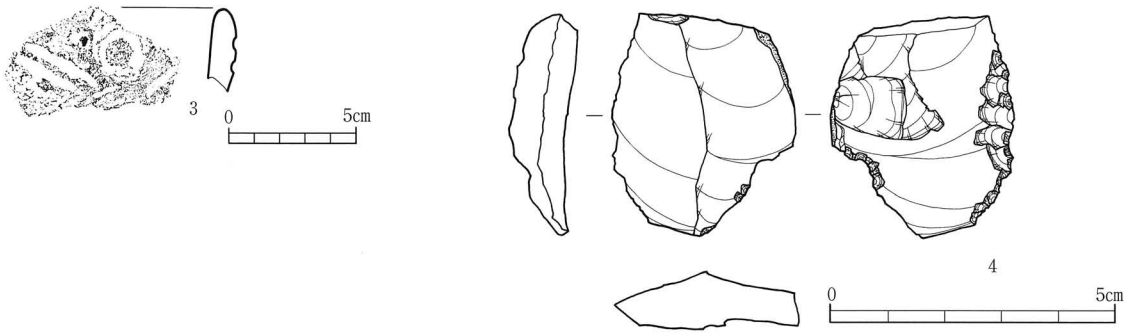


機構名	形　状	規模（長×短・cm）	深さ（m）	埋土層位	土　色	土　性	備　考
Pit 1	円形	26×22	3.6		10YR3/1　黒褐色	シルト	焼土　カーボン混入
Pit 2	円形	23×23	15.7		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 3	楕円形	38×28	27.4		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 4	円形	23×20	28.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒　焼土粒混入
Pit 5							欠番
Pit 6							欠番
Pit 7	円形	14×14	5.8		10YR3/1　黒褐色	シルト	
Pit 8							欠番
Pit 9	不整	46×30	31.4		10YR2/2　黒褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
Pit10	円形	27×24	48.6		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit11	不明	(44)　×32	14.5		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
SK 1	不整形	71×60	28.7	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	焼土粒・カーボン粒混入
				2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR5/6　混入
SK 2	方形	50×35	1.4		10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK 3	不整形	80×56	17		10YR2/2　黒褐色	シルト	焼土ブロック混入・10YR4/3混入

第14図　SI07竪穴住居跡



図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
15－１	A－31	SI07	埋層	縄文土器	口縁部	沈線		写真43
15－３	A－30	SI07	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、円形刺突、縄文	波状口縁	写真43



図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
15－２	B－７	SI07		磨石	181.0	62.0	39.0	630.0	安山岩		写真49
15－４	A－60	SI07		不定形石器	44.0	36.0	15.0	17.4	珪質頁岩		写真49

第15図　SI07出土遺物

【出土遺物】（第15図）　図示できるものは土器の細片と石器のみである。２は、扁平な石の両側辺に磨面をもつ磨石で、３・４は、当初SI05とした東側の倒木痕の影響を受けている遺物である。

SI08竪穴住居跡（第16図）

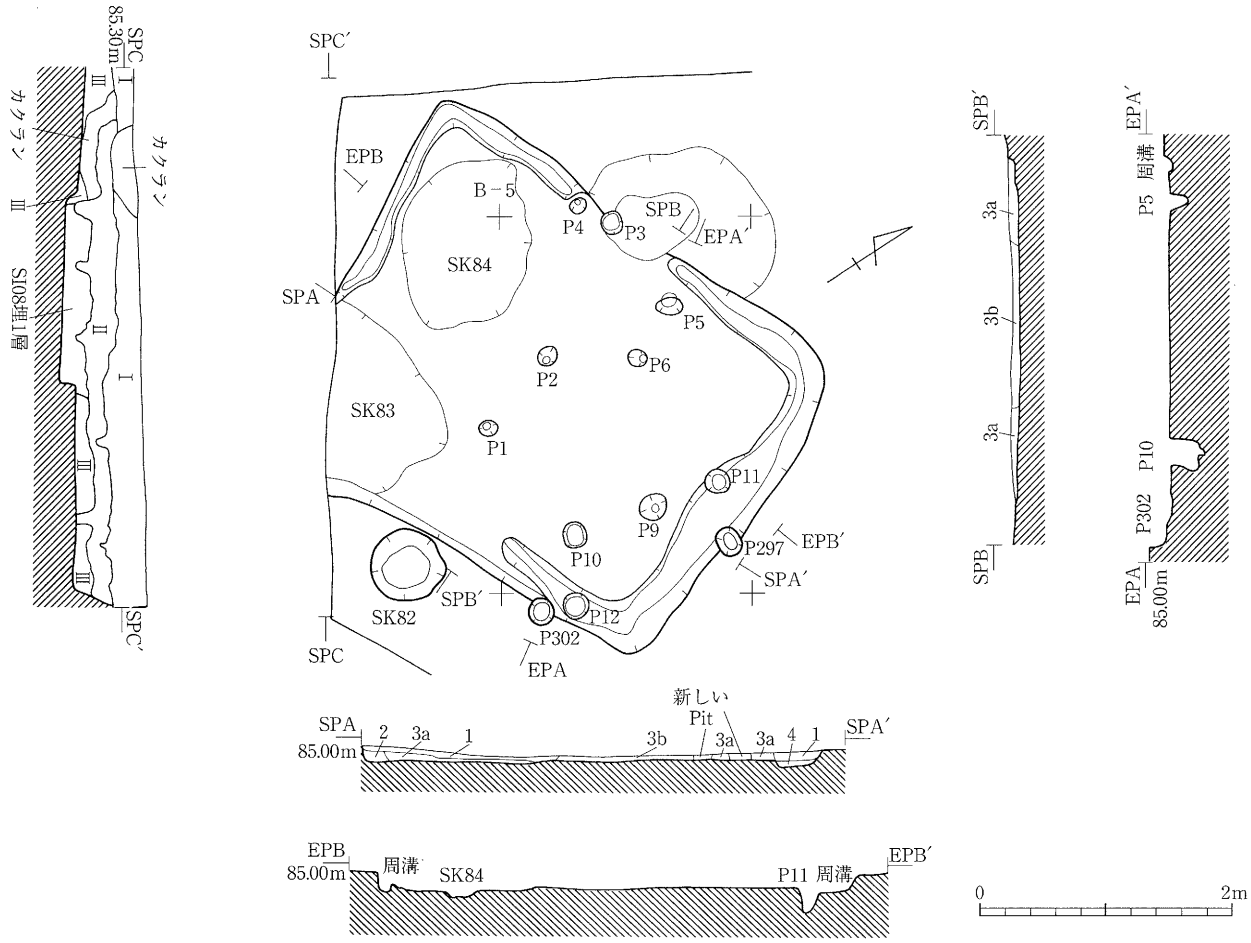
【位　置】　調査区西端Ｂ－５区を中心として、Ａ－４・５区、Ｂ－４区にまたがっている。SK83・84の２基の土坑に切られている。

【平面形・規模】　平面形は東西に長い長方形を呈している。住居跡の南西部分は調査区域外になっている。東西3.70m、南北3.00mを計る。南北辺で方向をみると、真北からＮ－18°－Ｗとなっている。

【堆積土】　５層に分けられたが、４層は周溝の堆積土である。

【壁　面】　検出面からの深さは、東壁で10cm前後、西壁で６～10cm、南壁で11～16cm、北壁で３～10cmを計る。

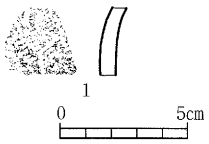
【床面施設】　小型のピットが検出された他に、土坑や炉跡などの施設は検出されていない。周溝は北・南辺の一部に途切れている部分もあるが床面をほぼ巡っている。周溝の規模は、東壁で幅30～50cm、深さ10～16cm、



層　位	土　　色	土　性	備　　考
1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入
2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	10YR4/4　褐色ブロック状に混入
3a層	10YR2/2　黒褐色	シルト	南北セクション北壁側は10YR3/2に近い色調入
3b層	10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR4/4　褐色混。中央部は下層にカーボン粒混入
4層	10YR2/3　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入

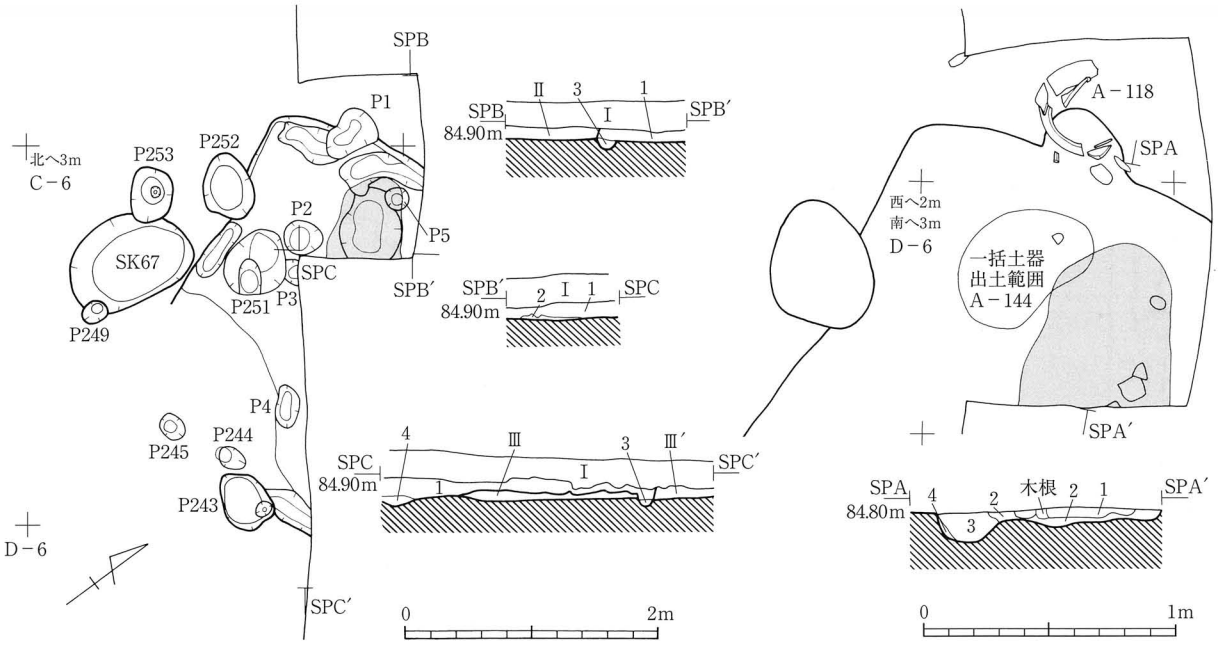
機構名	形　状	規模（長×短・cm）	深さ（m）	埋土層位	土　　色	土　性	備　　考
Pit 1	円形	13×14	29.7		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit 2	円形	15×14	30.5		10YR2/3　黒褐色	シルト	
Pit 3	円形	17×16	22.1		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒若干混入　10YR4/3混入
Pit 4	円形	13×13	39.0		10YR3/1　黒褐色	シルト	ボソボソでしまり無し
Pit 5	楕円形	22×15	13.7		10YR2/2　黒褐色	シルト	
Pit 6	円形	15×13	50.0		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 7							欠番
Pit 8							欠番
Pit 9	円形	21×21	34.0		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit10	円形	20×18	29.6		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit11	円形	19×18	22.2		10YR3/1　黒褐色		
Pit12	円形	20×20	2.4				

第16図　SI08竪穴住居跡



図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
17－1	A－32	SI08		縄文土器	体部	LR縄文		写真43

第17図　SI08出土遺物



層　位	土　色	土　性	備　考
1層	5 YR3/3　暗赤褐色	シルト	焼土ブロック混入　炉埋土
2層	7.5YR4/4　褐色	シルト	焼土混入　炉埋土
3層	10YR3/2　黒褐色	シルト	10YR4/4　ブロック状に混入　周溝埋土
4層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	10YR3/2　混入　周溝埋土

機構名	形　状	規模（長×短・cm）	深さ（m）	埋土層位	土　色	土　性	備　考
Pit 1	不整形	43×23	10.7		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒混入
Pit 2	円形	31×27	13.8		10YR3/2　黒褐色	シルト	カーボン粒子混入
Pit 3	不明		10.6		10YR2/2　黒褐色	シルト	カーボン粒子混入
Pit 4	楕円形	33×17	10.7		10YR3/1　黒褐色	シルト	カーボン粒子混入
Pit 5	円形	20×19	20.2		5 YR4/4　にぶい赤褐色	シルト	炉底面の色調

第18図　SI09竪穴住居跡

西壁で幅10～20cm、深さ６～14cm、南壁で幅20～30cm、深さ６～18cm、北壁で幅20～30cm、深さ８～12cmを計る。

【柱穴・ピット】　住居跡に伴うと考えられるピットは計12基検出されているが、いずれも小型のもので、位置、形状などからみて柱穴と考えられるものはない。これらのピットの大きさは、径13～22cm程度の円形のもので、深さも周溝底面で検出されたものを除くと13～40cmの範囲に入る。

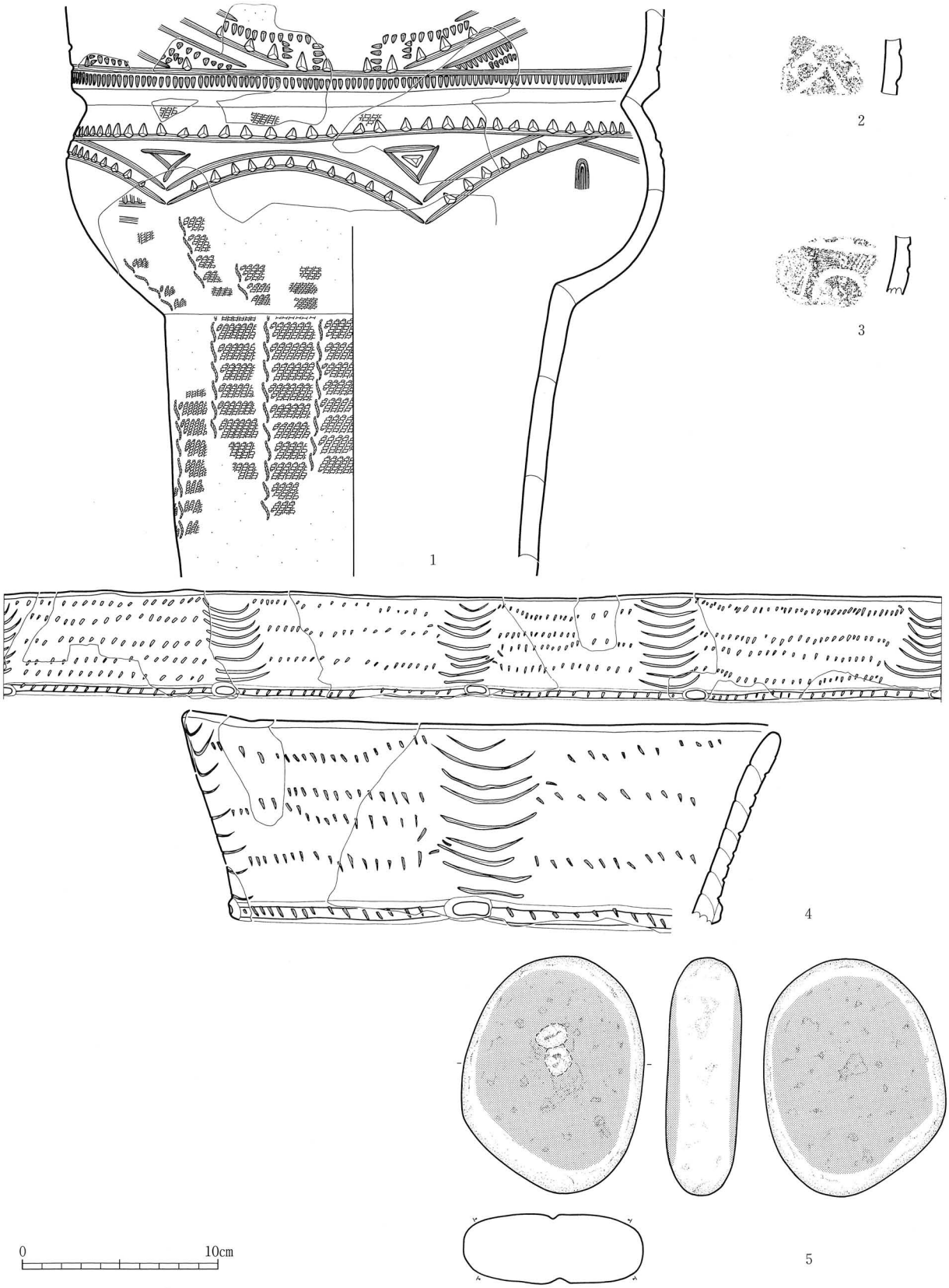
【出土遺物】（第17図）　図示できる資料は土器の体部の細片１点のみであった。

SI09竪穴住居跡（第18図）

【位　置】　Ｃ－６区に中心をおいて、一部Ｂ－６区にかかっている。調査区北壁にかかってまとまった遺物がみられたことから調査区を拡張したところ、炉跡と考えられる焼土遺構や周溝の一部などが検出されたことから住居跡としたが、残存状況も悪く、拡張の範囲も小さいこともあって住居跡の全体を把握することはできなかった。

【平面形・規模】　住居跡北西壁のコーナーの一部と南側で周溝の一部を検出しているだけであるが、方形のプランを呈すると思われる。規模については、推定で南北3.00m、東西は２m以上になると思われる。南北辺で方向をみると、真北からＮ－20°－Ｗとなっている。

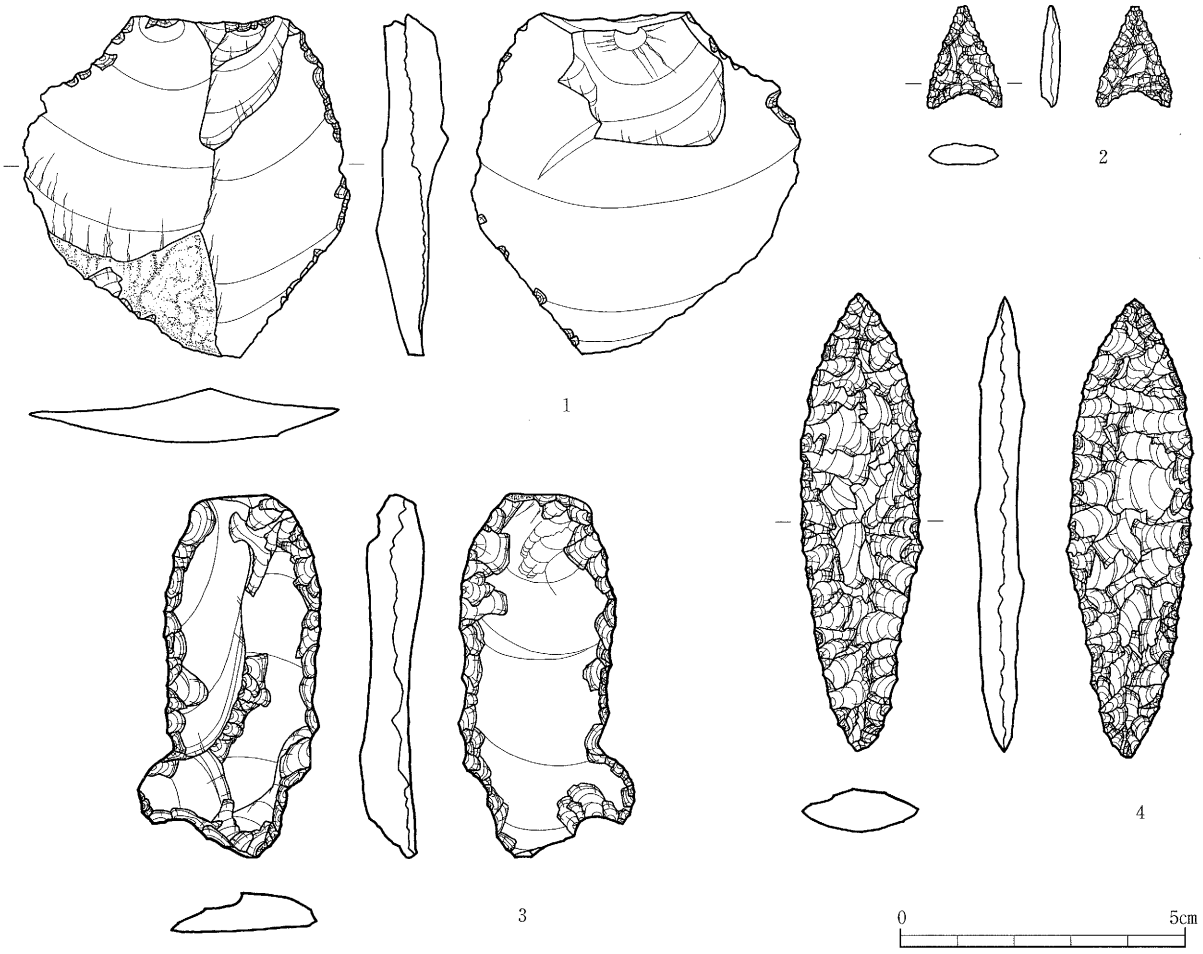
【堆積土】　調査区の壁面での観察で、堆積土は単層で、床面に焼土が拡がっていた。



図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
19－１	A－114	SI09		縄文土器	口縁～体部	沈線、縄文RL、結節（片結び－順）		写真44
19－２	A－35	SI09	埋層	縄文土器	体部	沈線、刺突		写真44
19－３	A－34	SI09	埋層	縄文土器	体部	沈線、LR縄文	外側に金雲母含有	写真44
19－４	A－118	SI09		縄文土器	口縁部	沈線、LR縄文		写真44

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
19－５	B－46	SI09	埋土上	磨石	123.0	94.0	38.5	590.0	安山岩		写真51

第19図　SI09出土遺物（１）



図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
20－１	A－11	SI09	３層	不定形石器	68.5	64.0	12.6	37.8	珪化凝灰岩		写真51
20－２	A－10	SI09	２・３層	石鏃	20.0	14.5	3.3	0.8	デイサイト		写真50
20－３	A－13	SI09		石匙	72.0	36.5	8.0	26.9	珪化凝灰岩		写真50
20－４	A－12	SI09		石槍	90.5	24.5	7.9	18.6	珪質頁岩		写真50

第20図　SI09出土遺物（２）

【壁　面】　削平により検出面からの深さは、西壁、北壁ともに３cm前後しかない。

【床面施設】　住居跡の推定範囲のうち南西部の床面は削平により残っていない。部分的に周溝の残存と思われる浅いくぼみ部が検出される。残存する周溝の規模は、西壁で幅20cm、深さ５cm、南壁で幅20～25cm、深さ４cm、北壁で幅10～25cm、深さ７～10cmを計る。

【炉　跡】　北壁側に地床炉と考えられる焼土遺構が検出されている。検出された焼土遺構は、東西軸50cm、南北軸70cm以上の楕円形のプランを呈すると思われる。床面から３cmほど掘り込まれている。堆積土は２層に分けられ、上面の焼土は５cm程堆積しており、焼土の下面の焼成による赤変、硬化はあまり進んではいなかった。

【柱穴・ピット】　ピットは５基検出されているが、削平の影響もあり全体の構成については不明である。

【出土遺物】（第19・20図）　炉跡の西に接する80×120cmの範囲と、住居北壁にかかる位置から、一括土器２個体分が出土している（第19図１・４）。第19図５は磨凹石で、両面に磨面と片面に凹部をもっている。第20図２は、基部が凹基となる無茎鏃、３は、石匙で打面を残しながら側縁に粗い二次加工を施して刃部を造り出している。両側辺から抉りを入れてつまみ状の凸部をもっている。４は柳葉形状の石槍で表裏全面に細かな二次加工が施されている。

（２）土　坑（第21～29図）

土坑は調査区のほぼ全域にわたって約120基が検出されている。平面の形状については、細かく細分していけば様々な形状のものがあると思われるが、大きく次の５種に大別している。

Ａ：円形を基調とするもの　　Ｂ：楕円形を基調とするもの

Ｃ：方形を基調とするもの　　Ｄ：長方形を基調とするもの

Ｅ：不整形となるもの

本来すべての土坑について記述すべきであるが、ここでは特徴的な土坑について取り上げることとし、個々の遺構については平面図及び観察表を参照されたい。

SK２～６（第21図）　Ｇ－２・３区、SI07の南側に位置している。５基の土坑ともに径70～80cmと小型のもので、平面形はほぼ円形を呈している。いずれの土坑も埋土中に焼土や炭化物が多く混入している。特にSK2・６については、埋土中に焼土が多量に混入している。

SK10（第21図）　Ｈ－４区に位置している。調査区南壁に全体の1/2程度かかっているが、平面形は楕円形を呈すると思われる。SK203を切っている。土坑プラン検出時に深鉢土器一個体（第31図１）と、埋土中から30cm大の周縁のある比較的大型の石皿が出土している（第38図１）。

SK16（第22図）　Ｇ－５区に位置している。平面形は円形を呈すると思われる。埋土は単層であるが、上層に焼土の混入がみられた。底面から径15～25cm大のピット７基が検出されている。

SK17（第22図）　Ｇ－５区に位置している。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は４層であるが、１・３層に焼土粒と炭化物粒の混入がみられた。遺構検出時、土坑上面西側からアメリカ式石鏃（第33図７）が出土している。埋３層の上面に近い底面から20cmのレベルで、口縁部と底部を欠く土器が横位の状態で出土している（第31図４）。この土器とほぼ同レベルで東壁に接する位置に40cm大の自然石が出土している。両極剥離のある楔形石器２点とその接合資料５点が集中出土している（第40・41図）。

SK18（第22図）　Ｇ－５区に位置し、SK205に切られている。平面形は円形を呈する。底面のほぼ中央に径40cm大のピットがあり、底面から30cm程掘り込まれている。両極剥離のある楔形石器が１点出土している（第40図Ａ－72）。

SK19（第22図）　Ｇ－５区に位置している。平面形は円形を呈し、埋土は２層に分かれる。周辺に位置するSK16～18・21とほぼ同規模の土坑である。両極剥離のある楔形石器が１点出土している（第40図Ａ－73）。

SK21（第22図）　Ｈ－５区に位置している。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は３層に分けられるが、埋土の観察からは自然堆積というよりは人為的なものである可能性が高い。SK17と同様、埋土中に焼土・炭化物粒が多く混入しているが、特に埋２層には大量の焼土・炭化物が入っている。埋２層の上面に近いレベルで、西壁に接するように扁平な自然石と、厚さ3.5cmで表面が平滑に研かれて長方形に加工されている石が「冂」形に組まれたような状態で出土している（第37図５／第39図１）。ほぼ同レベルで周縁をもつ石皿が３点出土している（第38図２・３／第39図２）。

SK24（第23図）　Ｆ－５区に位置している。平面形は楕円形を呈し、３基のピットに切られている。埋土中に焼土を多く混入している。検出の記録のみで掘り込みはおこなわなかった。

SK25（第23図）　Ｆ－５区に位置している。平面形は長方形を呈している。埋土は３層に分けられるが、埋土中に焼土・炭化物粒が多く混入しており、特に埋１層は炭の集積層となっている。壁面及び底面は焼成により赤変硬化していた。出土遺物がないことから時期的なものはわからないが、埋土の状況からはそれほど古い時期のものではないと思われる。

SK28（第23図）　Ｆ－５・６区に位置している。平面形は長方形を呈し、規模は340cm×150cm、深さ40cmを計る。当初は２基の土坑の重複と考えたが調査の結果同一のものと理解された。埋土は単層で、埋土の観察からは自

然堆積というよりは人為的なものである可能性が高い。底面には若干の凹凸がみられ、わずかに東へ傾斜している。とくに出土遺物はなかった。

SK47（第24図）　Ｇ－７区に位置している。平面形は長方形を呈し、規模は290cm×150cm、深さ20cmを計る。埋土は単層で、埋土の観察からは自然堆積というよりは人為的なものである可能性が高い。底面はほぼ平坦で凹凸はみられない。規模や形状、埋土の状況、出土遺物のない点などがSK28と似ていることから同様の遺構と考えられる。

SK54（第25図）　Ｇ－８区に位置し、調査区北壁に全体の1/2程度かかっている。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は４層であるが、１・２層に焼土粒と炭化物粒の混入がみられた。

SK69（第27図）　BC－５区に位置し、SK70に切られている。平面形は円形を呈し、断面形は袋状を呈している。埋土は３層であるが、１層に焼土粒と炭化物粒の混入がみられた。

SK70（第27図）　BC－５区に位置している。平面形は長方形を呈している。埋土は２層に分けられるが、埋土中に焼土・炭化物粒が多く混入しており、特に埋２層は炭の集積層となっている。壁面下部及び底面は焼成により赤変硬化していた。出土遺物がないことから時期的なものはわからないが、埋土の状況からSK25と同様の遺構と考えられる。

SK86（第28図）　Ｈ－４区に位置し、調査区東壁に全体の1/2以上かかっている。平面形は長楕円形を呈し、長軸100cm以上、短軸40cm、深さ60cmを計る。長軸方向での断面形は袋状を呈し、底面の幅は最大で10cm程度しかなく、水平ではない。埋土は４層に分けられる。周辺の遺構調査終了後、下層調査にあわせて断ち割りを行い底面を検出している。

【出土遺物】（第30～39図）　土坑から出土した遺物には、縄文土器・土製品（第30～32図）・剥片石器（第33～35図）・礫石器・石製品（第36～39図）などがある。第33図１～５は石鏃で、基部が凹基無茎鏃のもの、６は石錐、７はアメリカ式石鏃である。第35図４は磨製石斧の表面の欠落したものとおもわれる。第35図５は表面を平滑に研いた石製品で、平面形は長軸3.8cmのほぼ円形を呈している。ほぼ中央にあけられた穴は径８㎜を計り、両側から穿かれている。断面形は扁平で厚さ15.9㎜を計る。石材には珪化凝灰岩をもちいている。第36～39図は礫石器・石製品で、凹石３点、磨凹石５点、磨石５点、石製品１点、石皿４点、盤状の石１点を図示している。

（３）ピット

ピットは調査区のほぼ全域にわたって計308基が検出されている。これらの中には、いくつかのピット列を構成するものもあるが、明確に建物跡と認定できるものはなかった。

調査にあたっては、ピットの形状や埋土にいくつかの分類基準をもうけたうえで掘り込みを行い記録をとっている。詳細については、検出された位置（グリッド名称）、形状、大きさ、埋土について集計表にまとめてあるので参照されたい。

【形状分類】

細かく細分していけば様々な形状のものがあると思われるが、大きく次の４種に大別している。

Ａ：円形を基調とするもの　　Ｂ：楕円形を基調とするもの

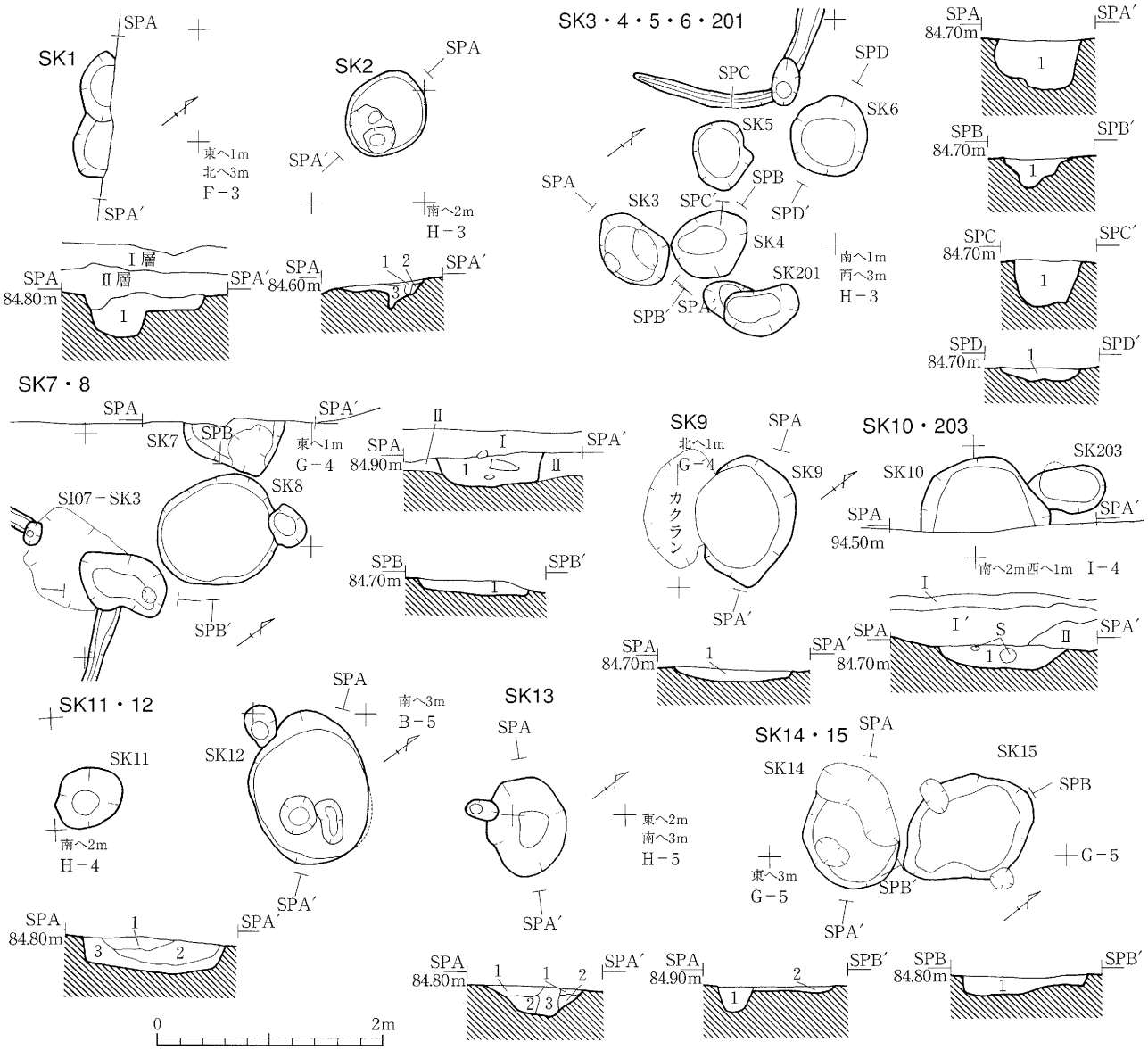
Ｃ：方形を基調とするもの　　Ｄ：不整形となるもの

【埋土分類】

形状と同様に、大きく次の６種に大別している。

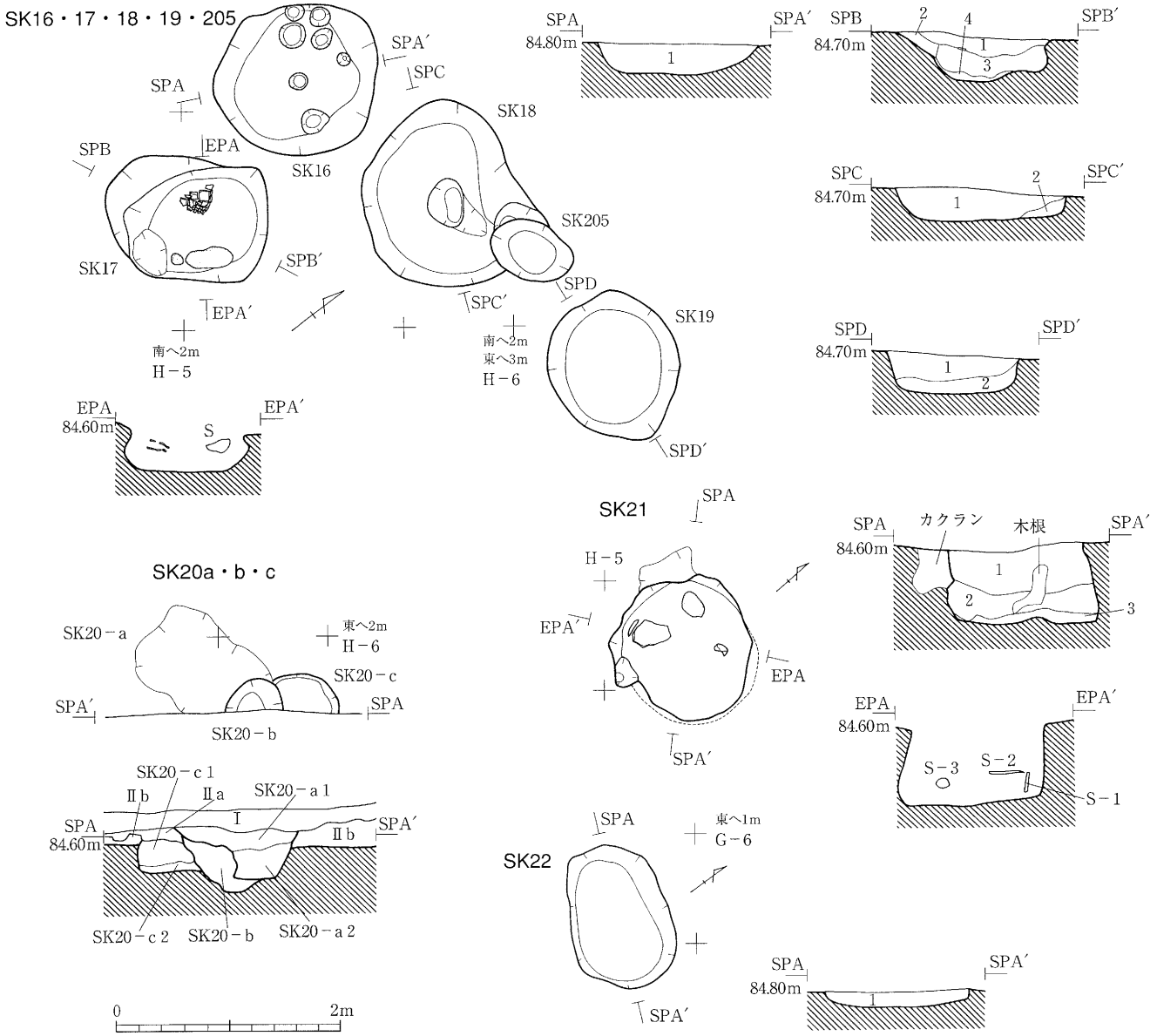
Ａ：10YR2/2黒褐色　　Ｂ：10YR3/2黒褐色　　Ｃ：10YR2/3黒褐色

Ｄ：10YR3/1黒褐色　　Ｅ：7.5YR2/2黒褐色　　Ｆ：10YR2/1黒褐色



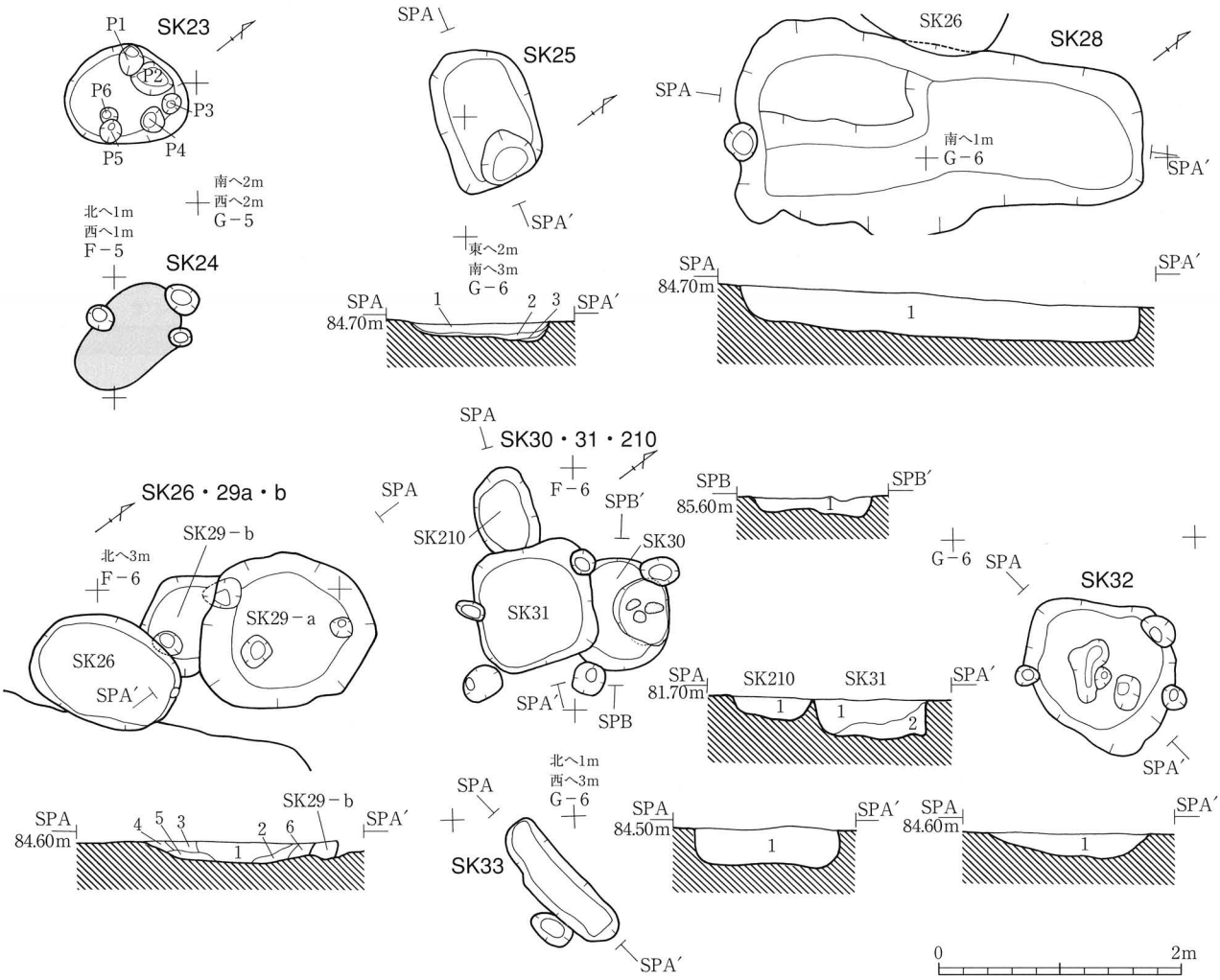
遺　構　名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土　　色	土　性	備　　考
SK1	F－2区	－	112×（　）	39.1	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK2	G－2区	A	80×72	42.3	1層	10YR3/1と10YR4/3のブロック層	シルト	
					2層	7.5YR4/3　褐色	シルト	
					3層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	
SK3	G－3区	E	76×56	46.6	1層	10YR2/2黒褐色＋10YR4/6ブロック層	シルト	
SK4	G－3区	A	66×58	25	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK5	G－3区	B	63×50	43.2	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK6	G－3区	A	72×68	12.4	1層	10YR3/4　暗褐色	シルト	
SK7	G－3区	－	90×（　）	11.5	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK8	G－3区	A	106×90	17.6	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK9	G－4区	－	118×（　）	17.2	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK10	H－4区	－	113×（　）	15.8	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK11	G－4区	B	61×53	17.3	1層	10YR3/4　暗褐色	シルト	
SK12	G－4区	B	136×101	39	1層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK13	G－4区	B	89×68	28	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					3層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK14	F－4区	－	96×（　）	9.1	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK15	F－4区	E	127×98	23.4	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK201	G－3区	E	84×40	46.9	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	

第21図　土坑（１）



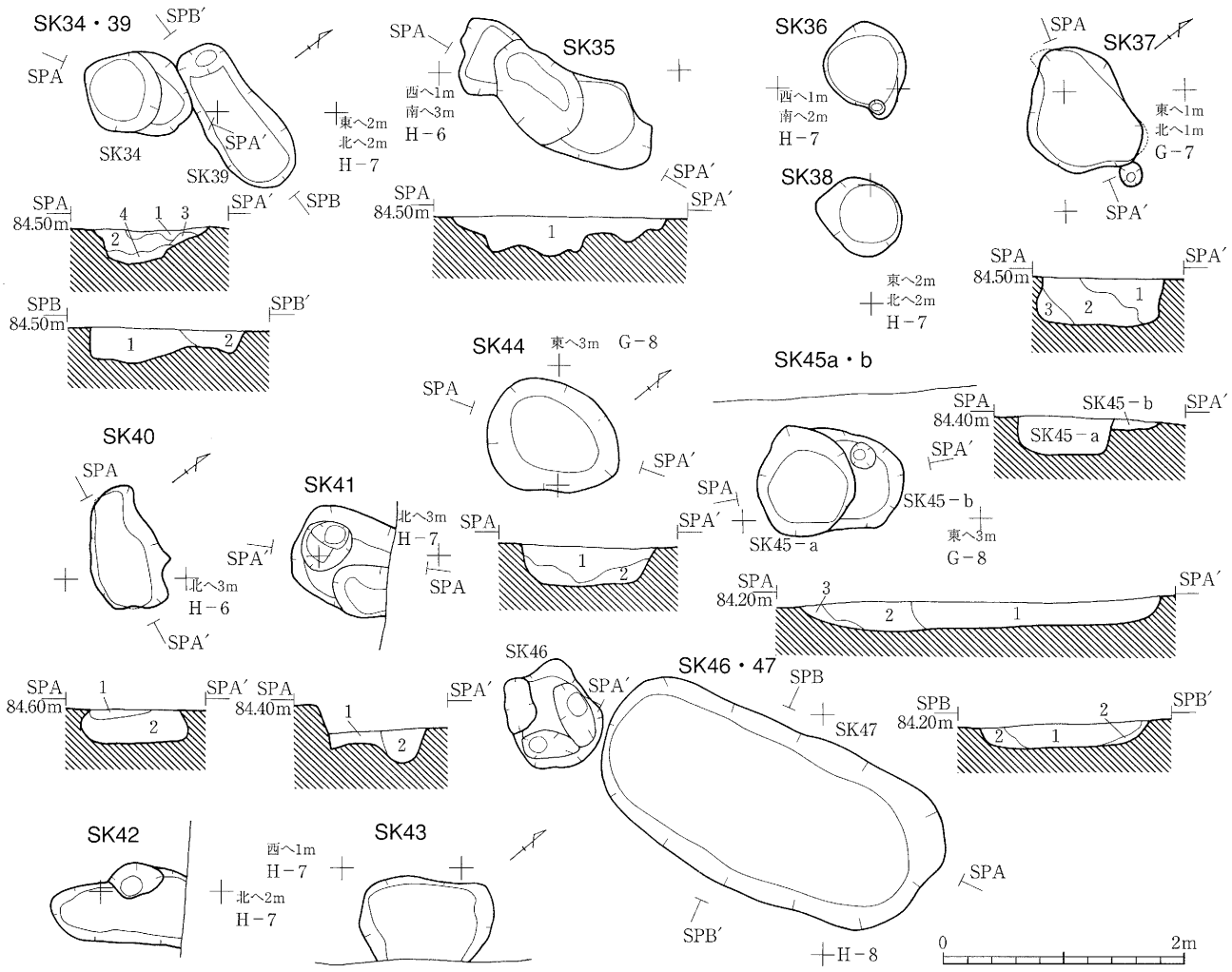
遺　構　名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土　　色	土　性	備　　考
SK16	G－5区	C	154×138	52.7	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK16、Pit.1～8						10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK17	G－5区	E	150×116	51.6	1層	7.5YR4/3　褐色	シルト	
					2層	10YR3/4　暗褐色	シルト	
					3層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					4層	10YR3/4と10YR5/4のブロック層	シルト	
SK18	G－5区	E	170×147	53.7	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR4/4と10YR2/3のブロック層	シルト	
SK19	G－5区	B	136×117	36.7	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK20－a	H－5区	－	84×（　）	32.9	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK20－b			50×（　）	32.7	1層	10YR2/3と10YR5/6のブロック	シルト	
SK20－c			68×（　）	26	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK21	H－5区	A	130×122	75.1	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/1、10YR5/4がブロック状に混	シルト	
					3層	10YR5/6と10YR3/1のブロック層	シルト	
SK22	G－5区	B	132×91	15.9	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	

第22図　土坑（２）



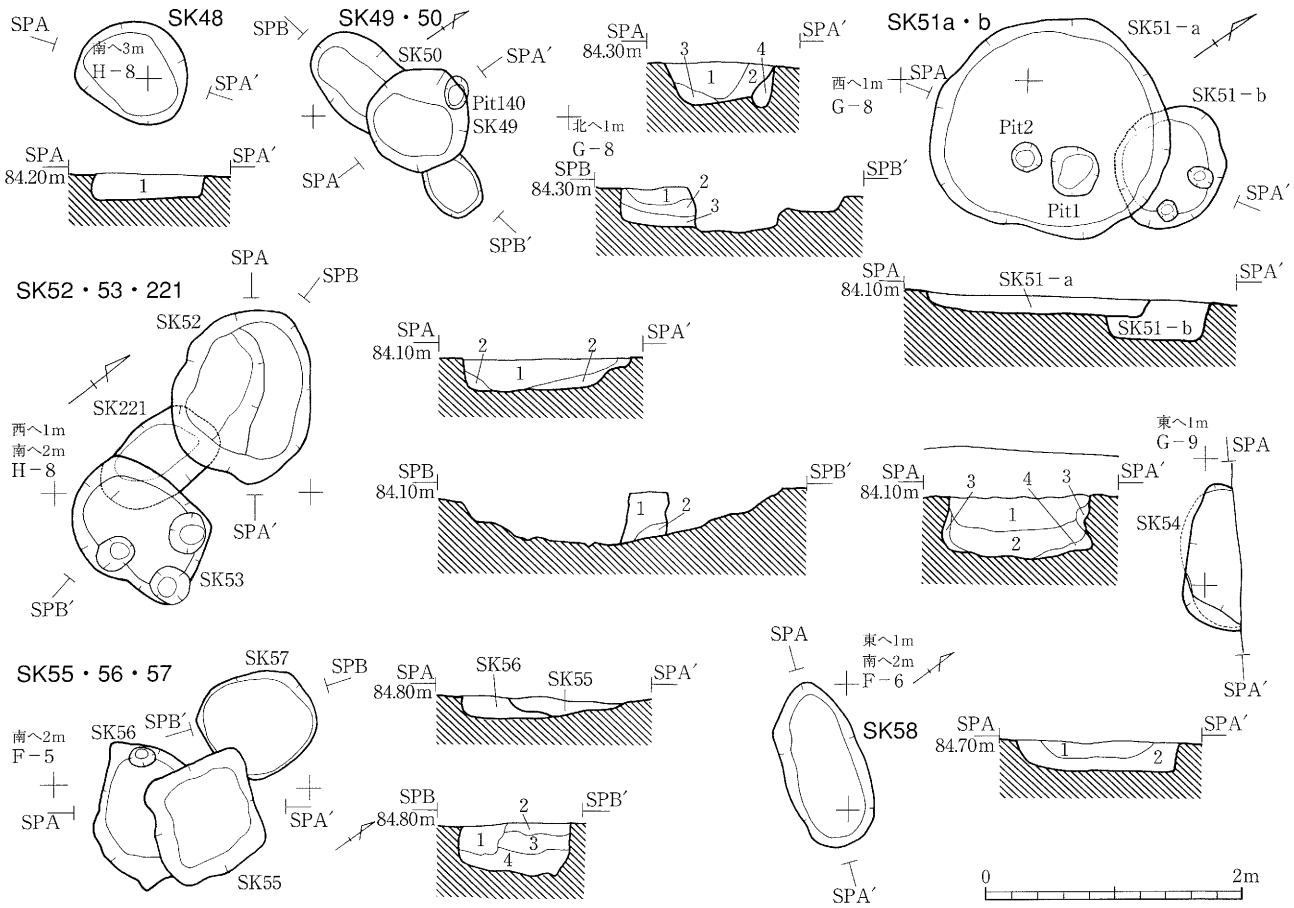
遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK23	F－5区	B	103×82	42.4	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK23・Pit1					1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK23・Pit2					1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK23・Pit3					1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK23・Pit4					1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK23・Pit5					1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK23・Pit6					1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK24	F－5区	B	102×64	3.9		焼土		
SK25	F－5区	D	116×80	21	1層	10YR2/2、10YR1.7/1		
					2層	10YR2/3、10YR7/1の木炭集積のブロックを多量に含む		
					3層	10YR3/3、10YR5/6黄褐色のブロックを多量に含む		
SK26	F－6区	B	124×87	10.1	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK28	F－5・6区	E	340×166	51.8	1層	10YR3/1、10YR4/4のブロック層	シルト	
SK29－a	F－6区	E	129×（　）	42.4	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					3層	7.5YR3/4　暗褐色	シルト	
					4層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					5層	7.5YR3/3　暗褐色	シルト	
					6層	10YR4/6　褐色	シルト	
SK29－b		E	82×82	37.8	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK30	F－5・6区		92×（　）	45.8	1層	10YR3/2　暗褐色	シルト	
SK31	F－5・6区	C	98×97	32.2	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK32	G－6区	E	144×118	40.8	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK33	G－6区	D	124×39	29.7	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK210	F－5・6区	B	49×（　）	19.7	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	

第23図　土坑（３）



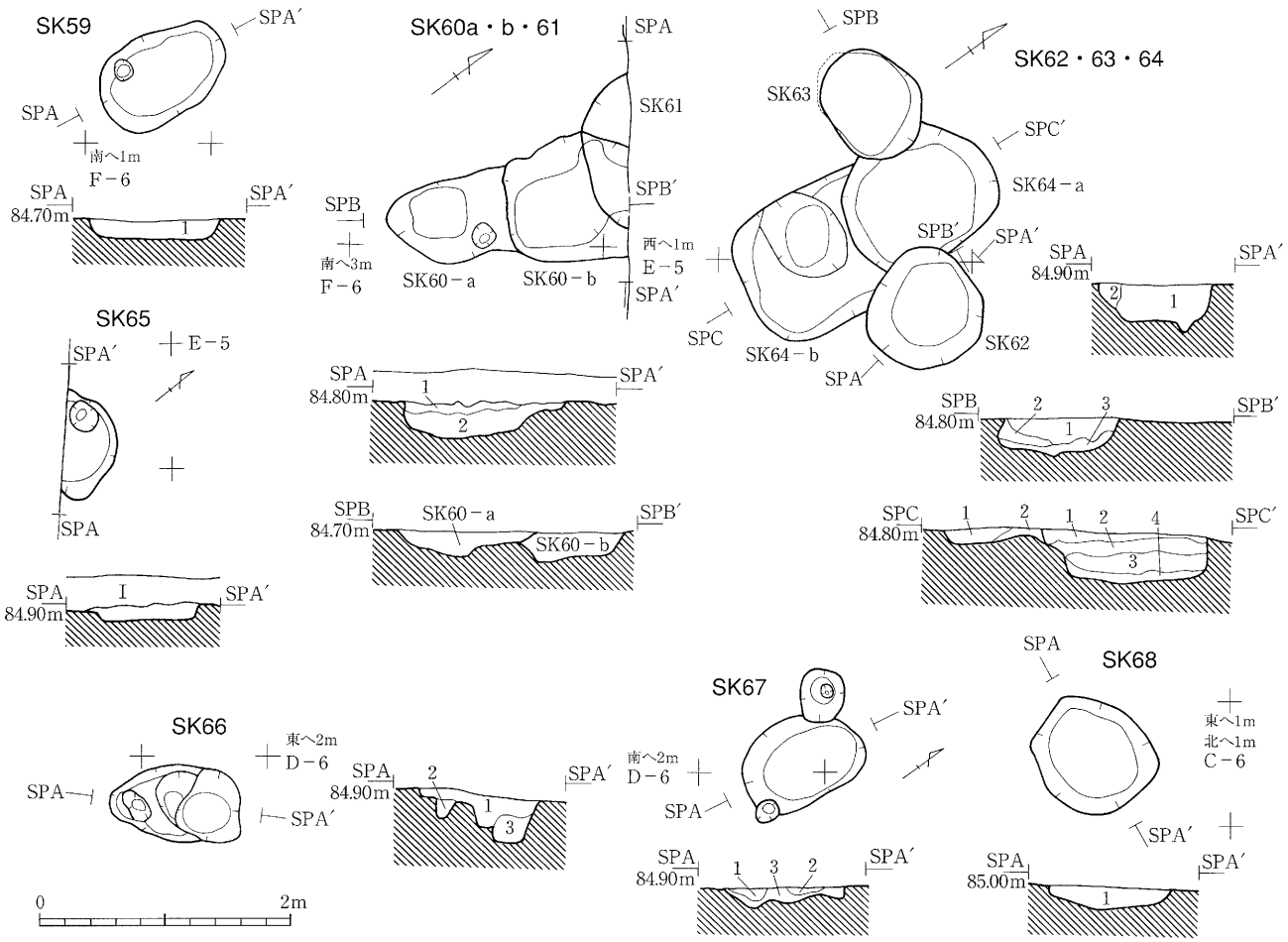
遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK34	H－6区	E	96×71	27	1層	10YR4/1　褐灰色	シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					3層	10YR3/2、10YR5/6　ブロック層	シルト	
					4層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK35	G－6区	E	170×50	45.3	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK36	G－7区	A	72×68	28.9	1層	10YR2/3　橙暗褐色	シルト	
SK37	G－6区	E	106×88	42.3	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　10YR5/6　ブロック層		
					3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK38	H－6区	A	70×58	28.9	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK39	H－6区	D	134×50	27.4	1層	10YR2/3　黒褐色	粘質シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK40	H－5区	E	106×52	30.5	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK41	H－6区	－	82×（　）	69.4	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR1/3・10YR3/2　ブロック層	シルト	
SK42	H－6区	－	66×（　）	24.2	1層	10YR2/3　橙暗褐色	シルト	
SK43	H－7区	－	110×（　）	15.2	1層	10YR2/3　橙暗褐色	シルト	
SK44	G－7区	A	116×86	36.1	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2・10YR5/6　ブロック層	シルト	
SK45－a	F－7区	A	92×82	32.3	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK45－b	F－7区	－	76×（　）	15.8	1層	10YR5/6・10YR3/1　ブロック		
SK46	G－7区	E	92×76	25.6				
SK47	G－7区	D	302×142	24.3	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					3層	10YR3/4　黒褐色	シルト	

第24図　土坑（４）



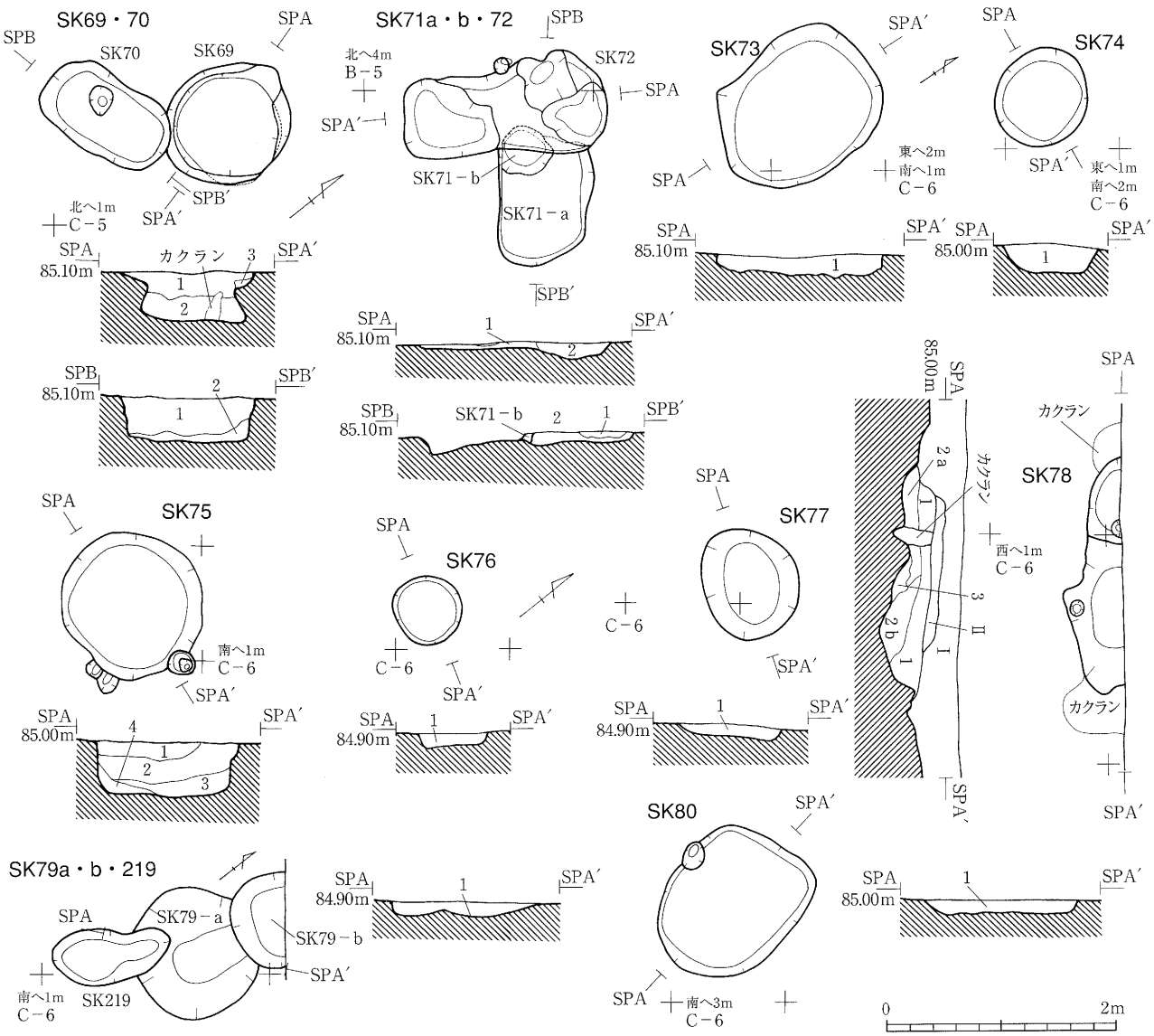
遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK48	G－７区	A	88×78	20.5	１層	10YR3/2　暗褐色	シルト	
SK49	G－７区	A	82×82	35.6	１層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					２層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					３層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					４層	10YR2/3　黒褐色	シルト	Pit140埋土
SK50	G－７区	－	59×（　）	31.8	１層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					２層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					３層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK51－a	G－８区	A	185×170	42.2	１層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK51－a・Pit1					１層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK51－a・Pit2					１層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK51－b		－	100×（　）	45.2	１層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK52	G－８区	A	136×110	48	１層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					２層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	
SK53	G－８区	C	112×80	43.4	１層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK54	G－８区	－	116×（　）	45.3	１層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					２層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					３層	10YR3/2・10YR4/6　ブロック層	シルト	
					４層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK55	E－５区	C	90×82	14.4	１層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK56	E－５区	－	116×（　）	23.3	１層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK56・Pit1					１層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK56・Pit2					１層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK56・Pit3					１層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK57	E－５区	A	94×84	37.5	１層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					２層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					３層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
					４層	10YR3/1・10YR4/6ブロック層		
SK58	E－５区	B	134×65	26	１層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
					２層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK221	G－８区	D	60×（　）	39.3	１層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					２層	10YR3/2　黒褐色	シルト	

第25図　土坑（５）



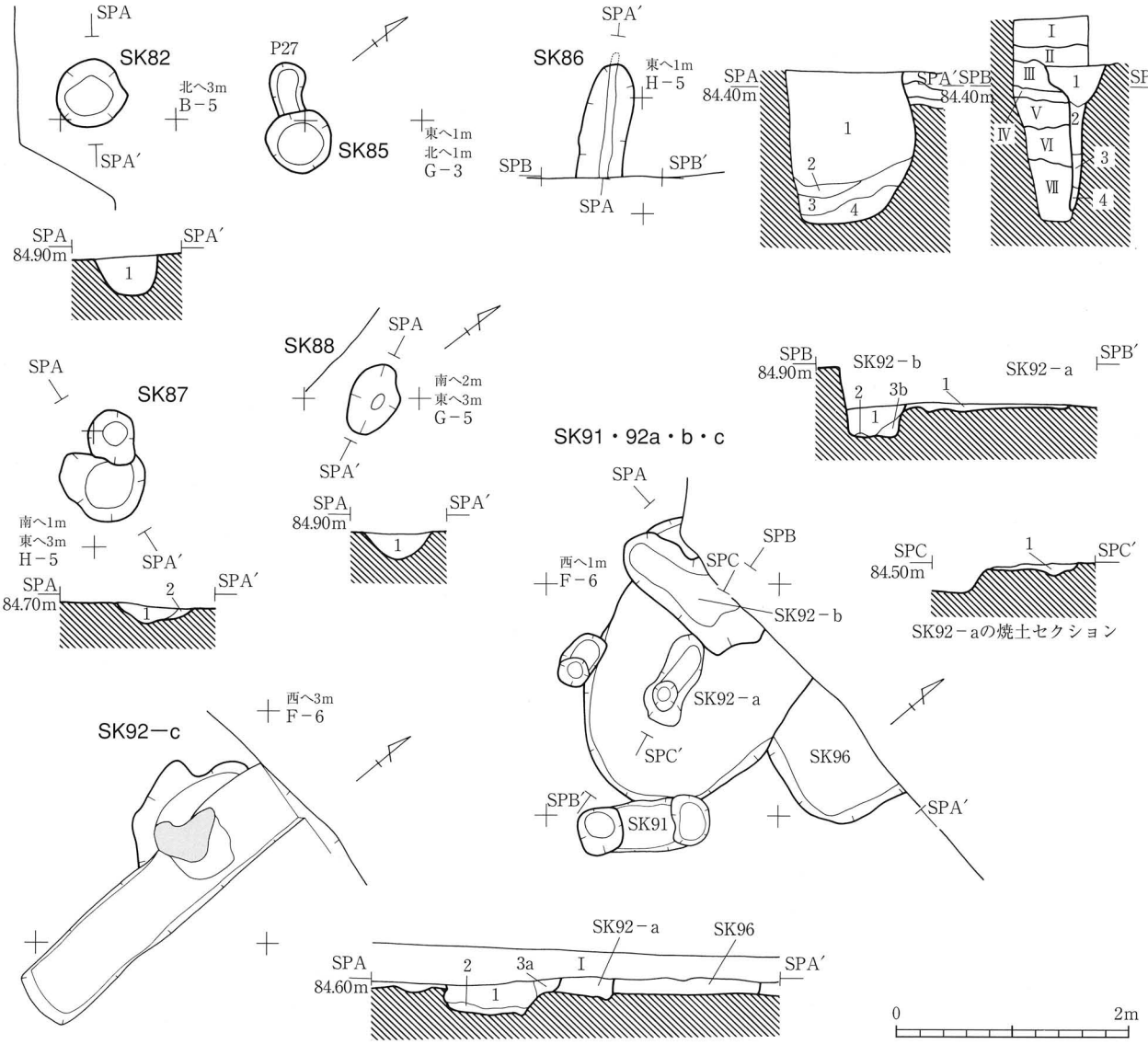
遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK59	E－6区	B	108×70	28.7	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK60－a	E－6区	－	74×（　）	33.5	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK60－b					1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK61	E－6区	－	124×（　）	20	1層	10YR2/1　黒色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK62	D・E－5区	A	98×92	31.9	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR4/4　褐色	シルト	
SK62・Pit1・2	D・E－5区					10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK63	D・E－5区	B	92×72	32.3	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
					3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK64－a	D・E－5区	C	122×（　）	41.1	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					3層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					4層	10YR3/4　暗褐色	シルト	
SK64－b	D・E－5区	－	112×（　）	30.1	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
					2層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK65	E－4区	－	84×（　）	24.5				
SK66	D－5区	E	104×62	43.5	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK67	C－6区	B	98×69	13.7	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					3層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK68	C－5区	A	100×90	21.3	1層	10YR2/1　黒色	シルト	

第26図　土坑（６）



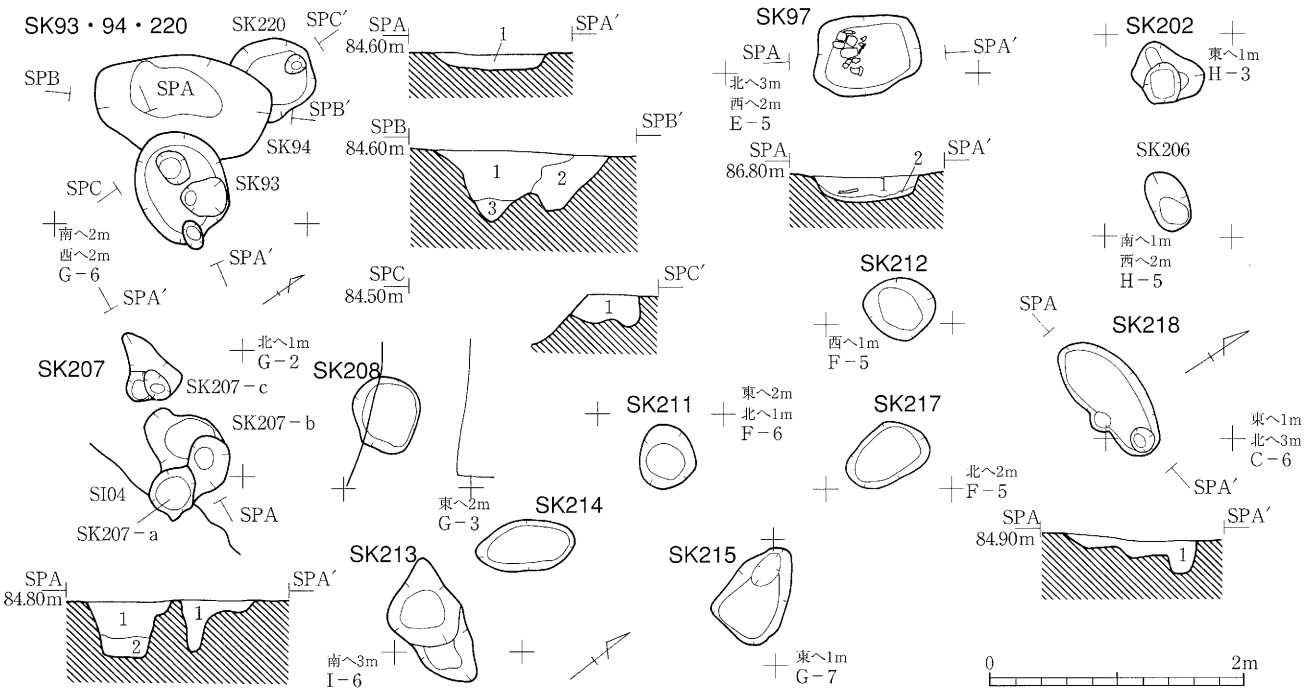
遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK69	B・C－5区	A	115×106	45.9	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/3 暗褐色	シルト	
					3層	10YR4/4 褐色	シルト	
SK70	B・C－5区	D	118×67	55.6	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
					2層	炭集積層		
SK71－a	B－5区	－	80×（ ）	29.6	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/1 黒褐色	シルト	
SK71－b	B－5区	－	43×（ ）	14.6	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
SK72	B－5区	D	176×66	25.1	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SK73	B－5区	B	151×124	17.6	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	
SK74	B－5区	A	86×82	23.8	1層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SK75	B－5区	A	128×122	52.1	1層	10YR3/1 黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/1 黒色	シルト	
					3層	10YR4/4 褐色	シルト	
					4層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
SK76	B－6区	A	60×57	18.9	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
SK77	B－6区	B	100×83	11.4	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
SK78	B・C－6区	－		36.4	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
					2a層	10YR2/2 黒褐色	シルト	
					2b層	10YR1/3 黒褐色	シルト	
					3層	10YR3/4 暗褐色	シルト	
SK79－a	B－6区	A	114×114	13	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
SK79－b	B－6区	－	83×（ ）	10.9	1層	10YR2/3 黒褐色	シルト	
SK80	B－6区	D	137×112	17.3	1層	10YR3/2 黒褐色	シルト	
SK219	B－6区	E	104×38	14	1層	10YR3/3 暗褐色	シルト	

第27図　土坑（７）



遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK82	B－4区	A	58×60	37.6	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK85	G－2区	A	54×54	11.1	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK86	H－4区	－	42×（　）	75.2	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR4/3　にぶい黄褐色	シルト	
					3層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					4層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK87	G－4区	E	96×70	16.9	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK88	F－4区	B	64×42	29.8	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK91	F－6区	D	112×44	26.9	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK92－a	F－6区		174×（　）	12	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	
SK92－a焼土	F－6区		80×30	11	1層	7.5YR3/2　黒褐色	シルト	
SK92－b	F－6区		130×（　）	24	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	7.5YR3/2　黒褐色	シルト	
					3a層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
					3b層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK96	F－6区		（　）×（　）	9.2	1層	10YR3/2　黒褐色	シルト	

第28図　土坑（８）



遺構名	位置（Ghd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土色	土性	備考
SK93	F－6区	B	90×72	52	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK93・Pit1～3						10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK94	F－6区	B	80×（　）	54	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
					2層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					3層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK97	E－5区	D	80×63	23.6	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/4　暗褐色	シルト	
SK202	H－2区	E	54×43	33.6	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK206	G－5区	B	50×30	23.3	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK207－a	G－1区	E	40×35	62	1層	10YR3/3　暗褐色	シルト	
SK207－b	G－1区	E	75×50	66.8	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
					2層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK207－c	G－1区	E	60×42	42.8	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK208	F－2区	A	58×53	18.1	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK211	F－5区	A	51×46	15.7	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK212	E－5区	A	52×48	16.5	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK213	H－6区	E	93×51	18.3	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	
SK214	H－6区	B	79×41	14.6	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK215	F－6区	E	77×50	16	1層	10YR3/1　黒褐色	シルト	
SK217	F－4区	B	67×43	8.4				
SK218	C－5区	B	107×47	33.3	1層	10YR2/2　黒褐色	シルト	
SK220	F－6区	－	60×（　）	27.8	1層	10YR2/3　黒褐色	シルト	

第29図　土坑（９）

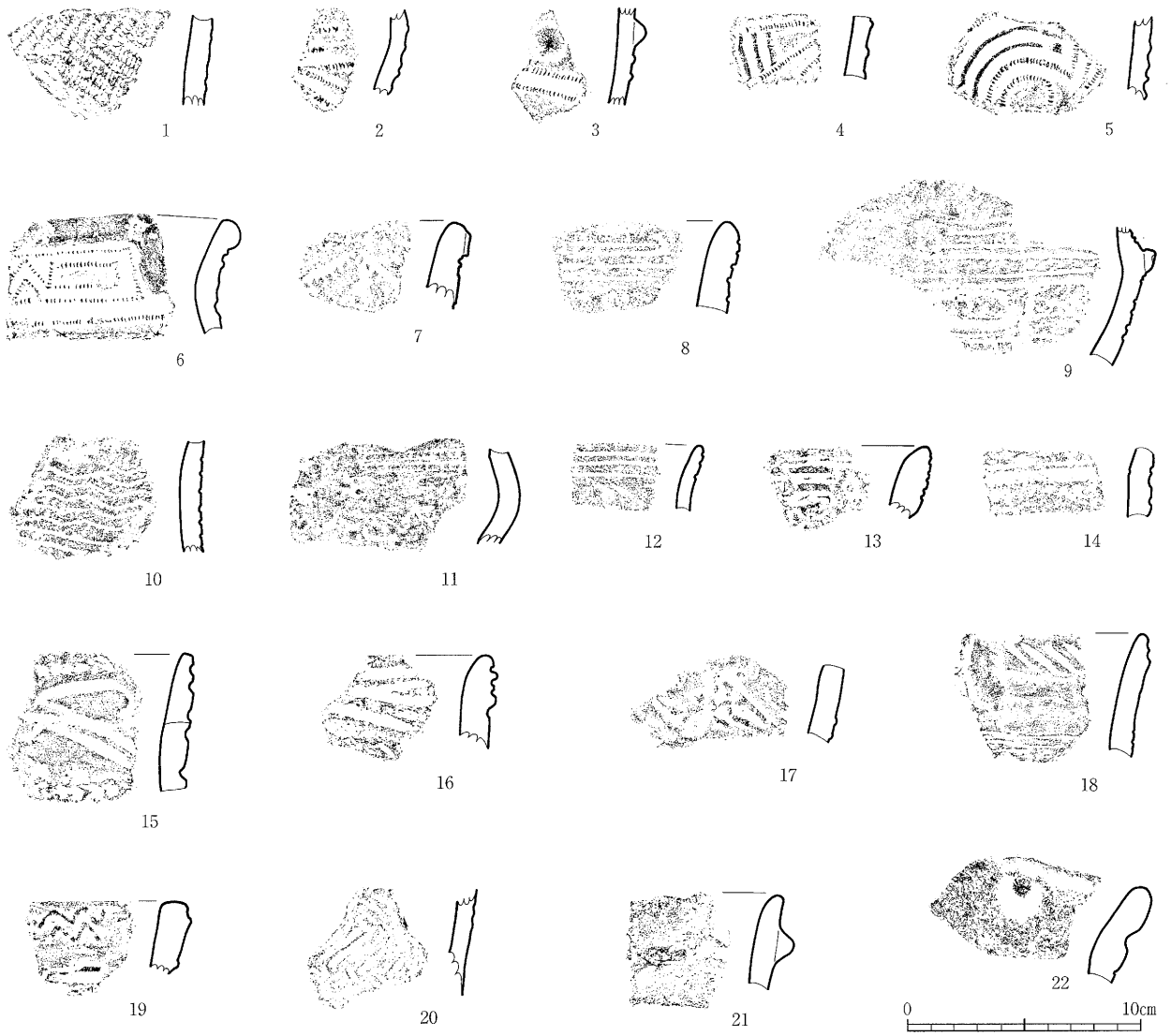
Pit NO	位置（Grid）	形	長×短（cm）	深さ（cm）	埋土	Pit NO	位置（Grid）	形	長×短（cm）	深さ（cm）	埋土
1	G－1区	C	22×22	13.7	A	81	F－4区	C	36×37	37.3	D
2	G－2区	B	23×17	23.6	A	82	F－4区	B	37×21	26.2	D
3	G－2区	C	20×20	14.8	B	83	F－4区	B	43×28	16.6	D
4	G－2区	D	25×18	14.2	B	84	F－5区	C	21×21	17.5	A
5	G－2区	B	35×20	10.0	A	85	F－5区	B	22×17	18.0	D
6	G－2区	B	38×32	4.2	B	86	G－5区	A	38×35	23.6	A
7	G－2区	D	42×33	13.5	A	87	F－5区	C	27×27	21.0	C
8	G－2区	C	28×27	25.1	B	88	F－5区	－	(32) × (16)	16.2	C
9	G－2区	B	34×25	39.8	B	89	F－5区	A	25×25	24.2	A
10	G－2区	A	28×25	55.7	B	90	G－5区	－	(46) ×45	20.1	D
11	G－2区	B	62×48	29.8	B	91	G－5区	A	(27) × (25)	19.6	A
12	G－2区	B	29×24	28.1	B	92	G－5区	A	20×20	25.2	A
13	G－2区	B	23×20	45.5	B	93	G－5区	B	32×23	17.0	A
14	G－2区	B	59×42	61.7	C	94	G－6区	B	27×20	8.4	D
15	G－2区	C	34×34	58.1	C	95	G－5区	A	20×20	16.3	A
16	－	－	－	－	－	96	G－6区	D	42×38	16.0	D
17	H－2区	D	(36) × (21)	47.0	B	97	G－6区	A	19×17	21.2	D
18	H－2区	D	34×29	15.5	A	98	G－6区	A	21×19	24.3	C
19	H－2区	C	22×20	25.5	B	99	G－6区	B	31×20	29.5	D
20	G－2区	D	44×38	50.7	A	100	G－6区	A	20×21	23.8	D
21	G－2区	D	37×34	30.0	B	101	G－6区	D	45×33	30.0	D
22	G－2区	D	73×37	44.8	A	102	G－6区	B	34× (21)	11.7	D
23	G－2区	D	64×41	70.3	B	103	G－6区	B	32×28	46.8	D
24	G－2区	D	44×24	33.0	B	104	G－6区	B	31×23	39.4	D
25	G－2区	十杭	－	－	－	105	F－6区	D	103×28	29.8	A
26	G－2区	B	32×26	33.7	B	106	G－6区	A	40×37	21.4	A
27	G－2区	－	(44) ×27	7.5	B	107	F－6区	A	54×52	43.1	A
28	F－2区	B	30×24	13.8	B	108	F－6区	－	(24) ×20	3.7	D
29	F－2区	A	16×15	9.3	B	109	F－6区	C	16×15	34.0	D
30	F－2区	B	20×19	10.0	B	110	F－6区	B	26×20	33.8	D
31	F－2区	－	(15) ×22	36.5	B	111	F－6区	A	24×23	53.3	D
32	F－2区	B	18×14	6.6	B	112	G－6区	D	52×38	33.2	A
33	F－2区	－	16× (12)	4.9	B	113	F－6区	A	18×18	14.1	A
34	F－2区	B	34×25	－	B	114	F－7区	A	26×24	11.2	A
35	F－2区	B	42×33	21.0	－	115	F－7区	A	18×16	30.4	A
36	F－2区	－	(48) × (27)	11.8	A	116	F－7区	A	42×40	24.0	A
37	G－2区	D	26×22	24.8	C	117	G－7区	A	19×12	10.0	A
38	G－3区	A	30×30	25.5	C	118	G－7区	B	29×18	16.8	A
39	G－3区	C	17×16	41.5	A	119	G－6区	B	43×26	18.1	D
40	G－3区	D	36×28	15.5	C	120	G－6区	A	21×19	30.5	D
41	G－3区	B	30×26	19.1	C	121	G－6区	D	46×40	28.1	D
42	G－3区	C	23×19	28.3	C	122	G－6区	C	26×20	12.7	D
43	－	－	－	－	－	123	G－6区	A	28×29	41.7	B
44	－	－	－	－	－	124	G－7区	B	56×40	23.7	B
45	G－3区	D	50×27	23.0	C	125	G－7区	D	47×28	24.5	B
46	G－2区	D	40×33	20.7	A	126	G－6区	B	34×27	28.0	A
47	H－2区	B	59×38	20.5	C	127	G－7区	A	12×12	30.1	D
48	G－2区	A	33×28	48.0	C	128	G－7区	D	37×30	13.0	D
49	G－3区	C	30×27	61.1	A	129	G－7区	A	33×32	36.2	A
50	G－3区	A	17×17	54.0	A	130	G－7区	B	69×35	45.9	A
51	G－3区	B	43×23	61.2	C	131	G－7区	A	(44) ×43	36.8	D
52	G－3区	A	25×22	21.0	C	132	G－7区	B	40× (28)	33.9	C
53	G－3区	B	23×18	28.8	C	133	G－7区	A	20×20	33.1	D
54	G－3区	C	23×22	28.8	C	134	G－7区	A	37×32	32.3	A
55	G－3区	B	27×18	33.0	C	135	G－7区	B	28×20	23.2	D
56	G－3区	D	35×18	23.3	A	136	G－7区	A	32×25	25.4	A
57	G－3区	D	31×21	7.1	A	137	G－7区	C	20×18	13.4	A
58	G－4区	A	22×22	18.4	A	138	G－7区	A	34×28	18.1	A
59	G－4区	D	53×33	44.9	C	139	G－7区	D	46×39	31.8	A
60	G－4区	A	31×30	9.3	C	140	G－7区	B	25×18	32.6	D
61	G－4区	B	35×20	18.9	C	141	G－8区	A	25×25	21.7	D
62	G－4区	A	18×17	17.0	C	142	G－8区	C	34×28	31.6	D
63	－	－	－	－	－	143	G－8区	A	18×17	15.8	D
64	G－4区	B	26×18	18.4	C	144	G－8区	A	15×14	54.6	D
65	G－4区	－	(34) ×28	28.6	A	145	G－8区	A	(20) ×17	12.6	D
66	F－4区	B	25×18	－	A	146	G－8区	A	25×25	13.5	D
67	F－4区	C	22×17	13.0	A	147	G－8区	A	30×28	23.3	D
68	F－4区	C	34×34	27.0	C	148	G－8区	A	26×24	30.9	C
69	G－4区	A	19×17	12.7	A	149	G－8区	B	60×30	15.7	C
70	G－4区	D	36×25	25.9	C	150	G－8区	B	38×30	22.8	A
71	F－4区	B	43×28	26.7	C	151	G－8区	A	15×15	11.2	A
72	F－4区	B	19×17	14.8	C	152	G－8区	D	58×58	33.4	A
73	F－4区	D	45×30	－	C	153	F－8区	－	(19) ×20	12.0	A
74	F－5区	D	30×22	40.0	C	154	F－8区	－	(36) × (27)	33.6	A
75	F－5区	C	18×17	13.3	C	155	G－6区	B	30×19	42.5	D
76	G－5区	C	26×25	25.2	C	156	G－6区	C	26×19	14.4	D
77	G－4区	A	22×17	32.7	D	157	H－6区	B	26×19	9.5	D
78	G－5区	A	15×14	11.6	D	158	H－6区	A	27×25	8.4	D
79	G－3区	D	62×31	41.9	D	159	H－6区	A	26×24	10.0	D
80	F－4区	C	25×23	12.5	D	160	H－6区	B	34×27	9.6	D

１次調査ピット集計表（１）

Pit NO	位置（Grid）	形	長×短（cm）	深さ（cm）	埋土
161	H－6区	D	58×（50）	14.0	D
162	H－6区	C	31×28	17.5	A
163	H－6区	A	20×20	12.1	A
164	H－6区	D	26×22	10.1	D
165	H－5区	A	29×14	20.8	D
166	H－5区	D	26×20	12.8	D
167	H－6区	A	26×21	18.5	D
168	H－6区	A	29×28	24.1	D
169	H－6区	A	31×31	38.3	D
170	H－6区	A	22×22	12.5	D
171	H－6区	B	46×23	22.1	D
172	H－5区	B	26×20	12.7	D
173	H－5区	C	34×33	20.1	D
174	H－5区	B	38×31	21.6	D
175	H－5区	A	18×16	14.4	D
176	H－5区	B	30×24	17.5	A
177	H－5区	B	23×20	12.5	A
178	H－5区	C	26×24	32.2	A
179	F－4区	D	30×50	11.2	A
180	E－5区	A	21×21	7.5	A
181	F－5区	B	35×27	22.5	A
182	F－5区	B	24×13	12.8	D
183	F－6区	A	27×27	35.8	A
184	F－6区	A	22×20	15.8	D
185	F－6区	B	33×25	20.9	D
186	E－5区	A	28×27	8.8	D
187	E－5区	B	50×38	9.4	A
188	E－5区	C	35×34	32.4	A
189	E－5区	－	24×（16）	11.5	A
190	E－4区	B	25×16	27.9	A
191	E－5区	B	26×19	9.3	A
192	D－5区	B	23×18	21.7	A
193	E－5区	B	60×45	27.6	A
194	E－5区	A	20×19	26.0	D
195	E－5区	B	45×27	22.1	A
196	E－6区	B	60×43	16.5	D
197	E－5区	B	27×22	26.6	D
198	E－5区	D	57×25	33.4	D
199	E－5区	A	19×19	12.4	A
200	E－6区	D	63×55	23.8	D
201	F－4区	D	（54）×（25）	16.9	A
202	F－4区	B	34×24	5.8	A
203	F－4区	D	26×17	5.8	A
204	F－4区	－	28×（20）	9.4	A
205	E－5区	D	29×20	－	B
206	E－5区	C	23×19	－	B
207	F－6区	B	39×32	52.9	D
208	F－6区	C	26×24	45.5	D
209	F－6区	A	22×21	21.2	D
210	－	－	－	－	－
211	E－5区	D	50×34	－	D
212	E－5区	B	37×30	29.4	D
213	D－4区	B	24×20	17.1	D
214	D－4区	B	37×29	10.5	D
215	D－4区	B	23×18	18.4	D
216	D－5区	D	37×20	10.8	A
217	D－5区	A	19×17	11.9	A
218	D－5区	B	45×30	－	D
219	D－5区	B	34×24	15.9	D
220	D－5区	B	25×21	－	A
221	D－5区	B	27×23	19.1	D
222	D－5区	A	26×24	－	D
223	D－5区	C	36×26	－	D
224	E－5区	B	22×13	－	A
225	E－6区	B	48×32	5.5	A
226	D－6区	B	22×16	10.6	D
227	D－6区	B	27×15	11.5	D
228	D－6区	B	24×18	17.0	D
229	D－6区	D	79×24	10.8	D
230	D－6区	A	20×19	22.4	D
231	D－6区	B	27×18	9.8	A
232	D－6区	B	18×15	8.9	A
233	D－5区	C	19×19	37.2	D
234	D－5区	D	44×23	6.1	D
235	D－5区	B	30×20	10.2	D
236	D－5区	B	38×27	14.1	A
237	D－5区	D	53×33	31.1	D
238	D－5区	C	21×20	10.7	D
239	－	－	－	－	－
240	D－5区	B	43×33	24.3	D

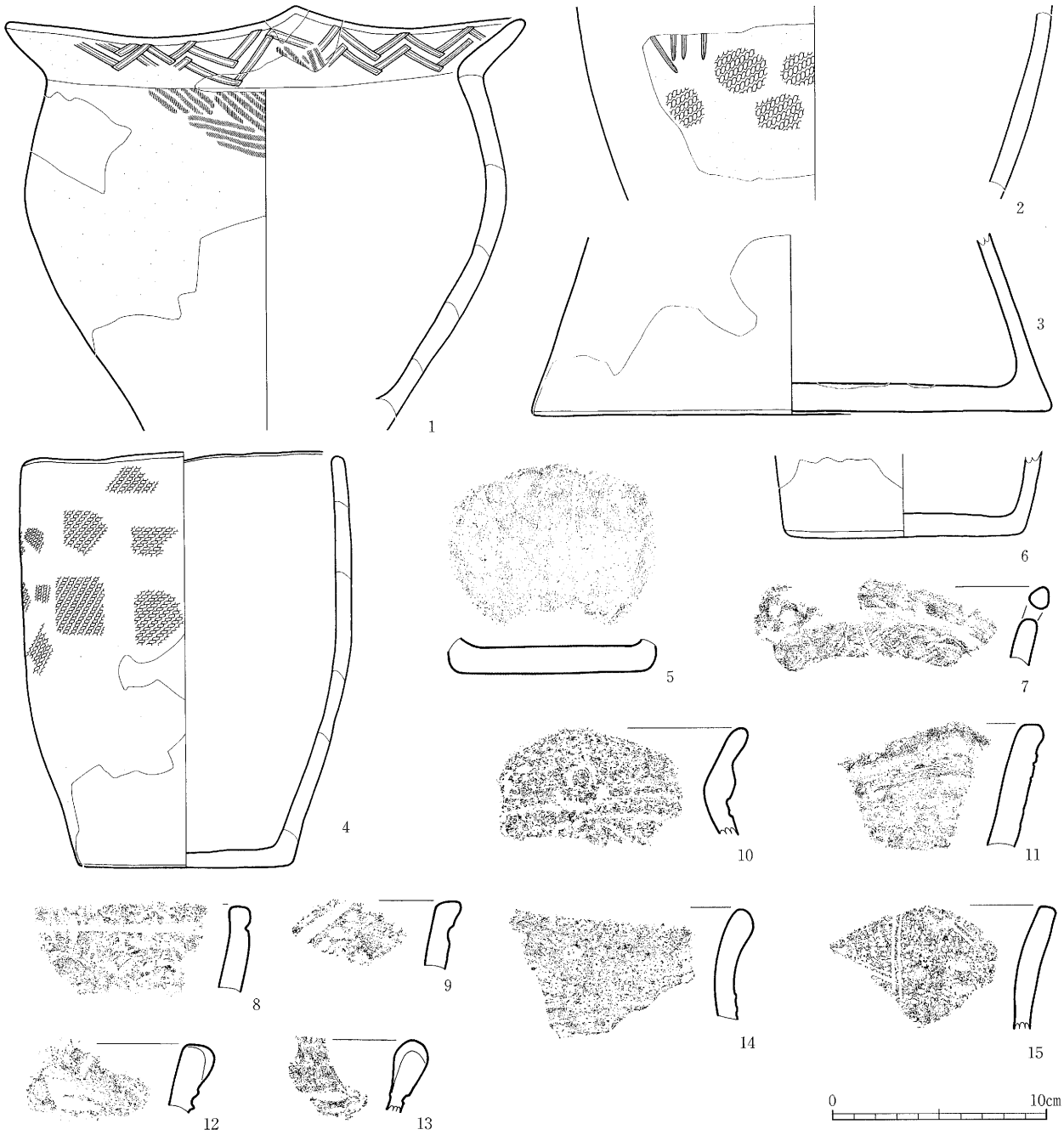
Pit NO	位置（Grid）	形	長×短（cm）	深さ（cm）	埋土
241	D－6区	B	24×21	16.3	D
242	D－6区	B	27×18	－	D
243	C－6区	D	49×34	14.2	D
244	C－6区	B	23×18	33.6	D
245	C－6区	C	22×18	12.2	D
246	C－6区	A	22×21	20.0	A
247	C－6区	－	（28）×20	19.7	D
248	C－6区	A	18×18	16.2	D
249	C－6区	B	20×17	34.9	D
250	C－6区	A	21×19	18.6	A
251	C－6区	B	53×46	32.5	A
252	C－6区	B	53×39	23.4	D
253	C－6区	B	42×33	34.5	D
254	D－5区	－	（32）×30	8.7	D
255	D－4区	－	36×30	16.3	D
256	C－5区	B	33×26	24.0	D
257	C－5区	B	23×18	9.3	D
258	C－5区	B	23×18	30.6	D
259	C－5区	A	17×15	16.5	D
260	C－6区	B	24×21	19.4	D
261	C－6区	A	15×13	15.5	D
262	B－5区	D	26×21	20.9	D
263	B－5区	B	32×25	7.1	D
264	B－5区	－	（18）×（18）	11.3	D
265	C－5区	A	24×25	21.7	D
266	C－5区	B	27×16	21.7	D
267	C－5区	A	20×23	7.4	D
268	－	－	－	－	－
269	－	－	－	－	－
270	B－5区	B	32×22	8.6	C
271	B－5区	B	15×12	22.3	F
272	B－5区	B	29×25	40.9	A
273	B－5区	B	40×36	31.6	D
274	B－5区	B	56×52	17.2	D
275	B－5区	B	27×18	45.3	D
276	B－5区	B	46×28	13.0	D
277	B－5区	A	25×25	29.6	A
278	B－5区	A	17×17	5.1	D
279	B－6区	B	21×18	5.4	D
280	B－6区	B	30×25	19.8	A
281	B－6区	A	16×15	17.5	A
282	B－5区	B	24×21	7.8	A
283	A－6区	A	18×18	10.8	A
284	A－6区	C	27×26	37.8	A
285	A－6区	B	41×32	17.0	D
286	B－6区	A	32×32	11.7	B
287	A－5区	－	34×（22）	13.8	C
288	A－5区	D	（49）×（39）	18.1	C
289	A－5区	－	（22）×22	14.6	C
290	A－5区	C	27×24	10.3	C
291	A－5区	A	31×29	26.9	D
292	A－5区	A	31×28	9.4	D
293	A－4区	A	19×17	－	D
294	B－5区	B	22×16	15.5	D
295	B－5区	A	16×15	15.7	D
296	B－5区	B	26×17	6.3	C
297	B－5区	B	22×18	15.8	D
298	B－5区	A	20×19	16.6	D
299	B－5区	B	30×23	13.6	C
300	B－5区	－	30×（22）	11.0	A
301	B－5区	A	13×12	19.6	C
302	B－5区	－	20×（12）	－	A
303	B－5区	B	22×18	12.7	A
304	B－4区	A	17×15	10.8	A
305	D－5区	C	18×17	22.7	D
306	C－5区	B	17×14	14.1	D
307	C－5区	C	20×16	12.8	D
308	B－5区	B	23×20	23.6	D

１次調査ピット集計表（２）



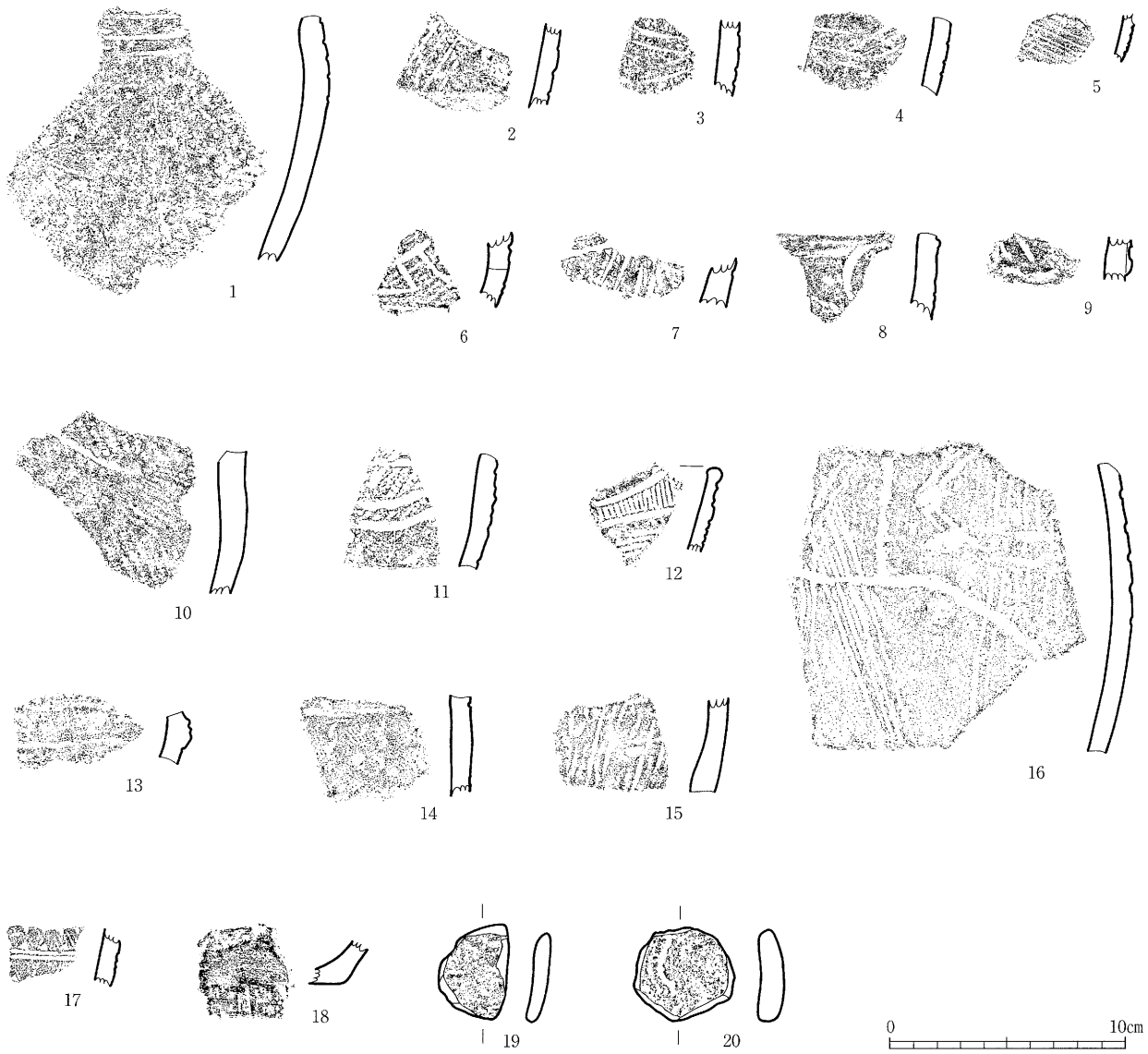
図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
30－1	A－47	SK21		縄文土器	体部	羽状		写真53
30－2	A－38	SK5		縄文土器	体部	結節浮線文		写真53
30－3	A－39	SK5		縄文土器	体部	ボタン貼付文、結節浮線文		写真53
30－4	A－40	SK5		縄文土器	体部	結節浮線文、帯状貼付文		写真53
30－5	A－41	SK5		縄文土器	体部	結節浮線文、隆線、沈線		写真53
30－6	A－37	SK5		縄文土器	口縁部	隆帯、結節浮線文	隆帯（方形区画）	写真53
30－7	A－84	Pit79	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、刺線		写真53
30－8	A－72	SK75	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、刺線		写真53
30－9	A－79	SK92-C	埋層	縄文土器	体部	沈線、刺線		写真53
30－10	A－43	SK18	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真53
30－11	A－87	Pit228	埋層	縄文土器	体部	刺突		写真53
30－12	A－53	SK28	埋層	縄文土器	口縁部	沈線		写真53
30－13	A－63	SK57	埋層	縄文土器	口縁部			写真53
30－14	A－70	SK75	埋層	縄文土器	口頭部			写真53
30－15	A－83	Pit22	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、刺突		写真53
30－16	A－36	SK3	埋層	縄文土器	口縁部	波状口縁	沈線が太く、くっきりしている	写真53
30－17	A－76	SK75	埋層	縄文土器	体部	隆線		写真53
30－18	A－71	SK75	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、隆帯		写真53
30－19	A－61	SK51	埋層	縄文土器	口縁部	隆線		写真53
30－20	A－60	SK38	埋層	縄文土器	体部	縄文		写真53
30－21	A－62	SK51	埋層	縄文土器	口縁部	隆帯		写真53
30－22	A－45	SK18	埋層	縄文土器	口縁部	円形刺突		写真53

第30図　土坑出土土器（１）



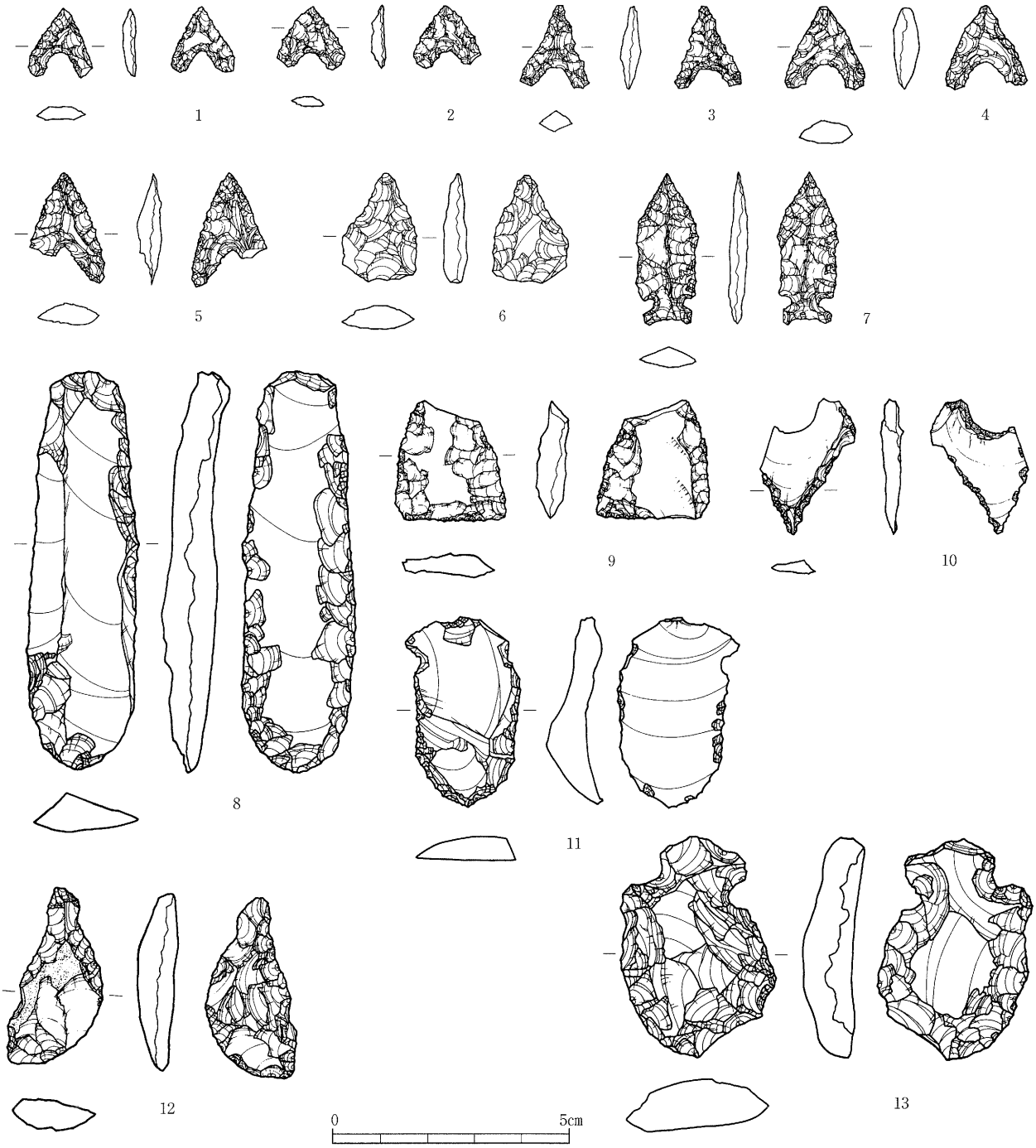
図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
31－1	A－119	SK10		縄文土器	口縁～体部	無節条文R、沈線文、大部マメツ	胎土中に大きめの砂粒が多い	写真54
31－2	A－117	SK75		縄文土器	体部	縄文LR、沈線		写真54
31－3	A－120	SK97		縄文土器	底部	火をうけて　剥落	胎土中に砂粒が多い	写真54
31－4	A－116	SK17		縄文土器	口縁～体部	RL縄文		写真54
31－5	A－81	SK94	埋層	縄文土器	底部			写真54
31－6	A－115	SK10		縄文土器	底部	大部マメツ、底部ナデ	胎土中に砂粒が多い	写真54
31－7	A－75	SK75	埋層	縄文土器	口縁部			写真54
31－8	A－80	SK94	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、隆線		写真54
31－9	A－77	SK86	埋層	縄文土器	口縁部	沈線、刺突		写真54
31－10	A－48	SK21		縄文土器	口縁部	刺突、沈線、隆線		写真55
31－11	A－73	SK75	埋層	縄文土器	口縁部	隆線		写真55
31－12	A－68	SK73	埋層	縄文土器	口縁部	隆帯		写真55
31－13	A－86	Pit228	埋層	縄文土器	口縁部	沈線		写真55
31－14	A－51	SK21		縄文土器	口縁部	隆帯		写真55
31－15	A－49	SK21		縄文土器	口縁部	沈線		写真55

第31図　土坑出土土器（２）



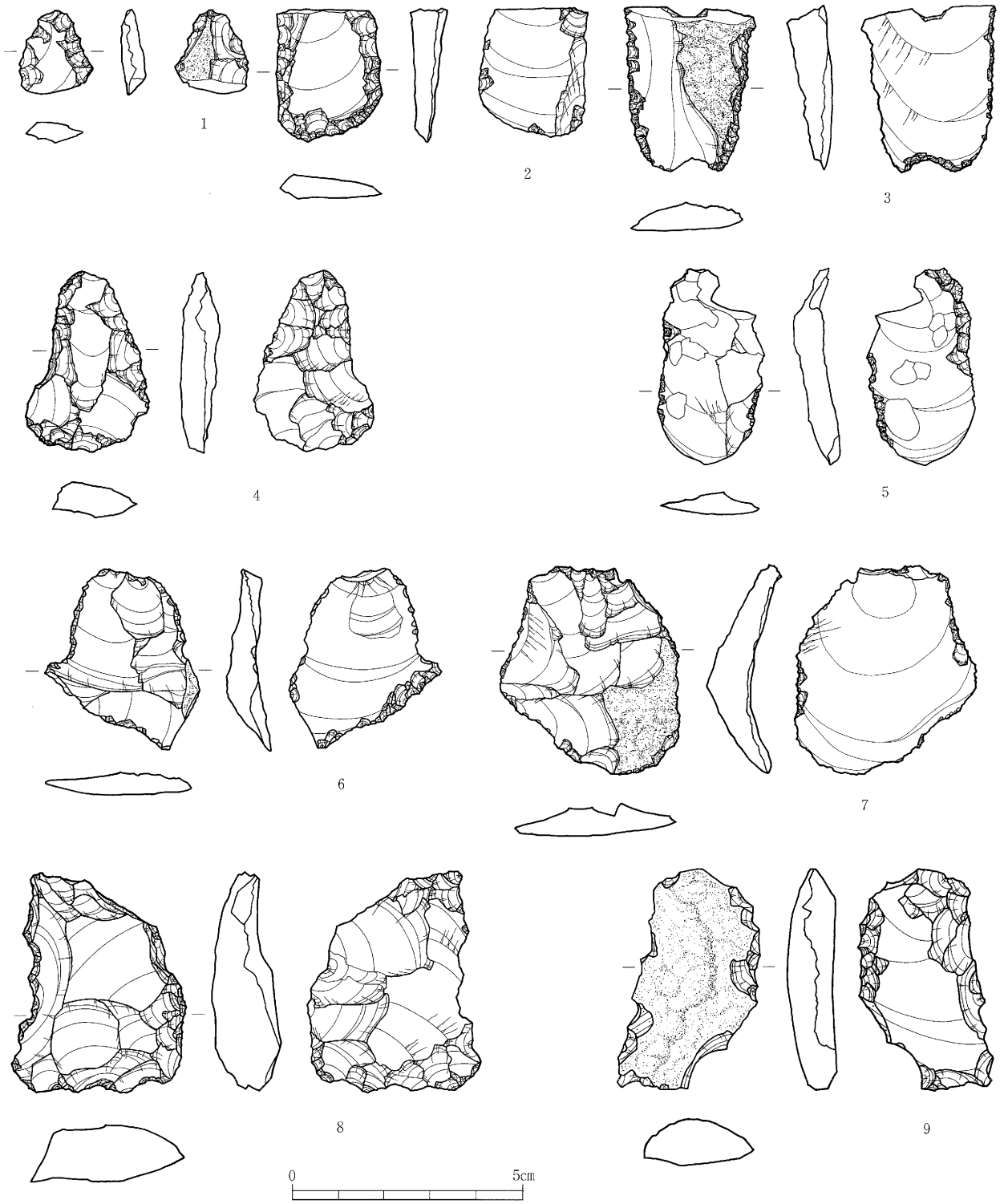
図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
32－1	A－46	SK21	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真56
32－2	A－54	SK29	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真56
32－3	A－55	SK29	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真56
32－4	A－44	SK18	埋層	縄文土器	体部	平行沈線	胎土中に砂粒が多い	写真56
32－5	A－59	SK35	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真56
32－6	A－65	SK60	埋層	縄文土器	体部	隆線、沈線、縄文		写真56
32－7	A－57	SK31	埋層	縄文土器	体部	沈線、縄文		写真56
32－8	A－52	SK28	埋層	縄文土器	体部	沈線、隆線		写真56
32－9	A－85	Pit182		縄文土器	体部	刺突		写真56
32－10	A－56	SK30	埋層	縄文土器	体部	縄文		写真56
32－11	A－50	SK21		縄文土器	体部	沈線、縄文		写真56
32－12	A－66	SK66	埋層	縄文土器	口縁部	沈線		写真56
32－13	A－78	SK92-C	埋層	縄文土器	体部	刺突文、沈線		写真56
32－14	A－82	Pit10	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真56
32－15	A－74	SK75	埋層	縄文土器	体部	縄文		写真56
32－16	A－69	SK75	埋層	縄文土器	体部	沈線		写真56
32－17	A－67	SK72	埋層	縄文土器	体部	沈線、刺突		写真56
32－18	A－58	SK32	埋層	縄文土器	底部	網代痕		写真56
32－19	A－42	SK12	埋層	土製品	——		土製円盤	写真56
32－20	A－64	SK57	埋層	土製品	——	沈線	土製円盤	写真56

第32図　土坑出土土器（３）



図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備考	写真図版No.
33－1	A－27	SK60-b		石鏃	16.0	15.0	2.3	0.5	珪質頁岩		写真58
33－2	A－15	SK11		石鏃	15.0	15.5	2.7	0.5	珪化凝灰岩		写真58
33－3	A－20	SK21		石鏃	19.5	15.5	4.5	0.7	珪化凝灰岩		写真58
33－4	A－57	SK21		石鏃	19.5	19.0	5.8	1.5	珪化凝灰岩		写真58
33－5	A－58	SK21		石鏃	27.0	17.5	5.1	1.5	珪質頁岩		写真58
33－6	A－32	SK201		石鏃	27.0	19.0	5.6	2.1	デイサイト		写真58
33－7	A－19	SK17	埋土上	アメリカ式石鏃	36.0	14.5	3.8	2.0	チャート		写真58
33－8	A－29	SK75		石篦	95.5	26.5	10.3	28.1	珪化凝灰岩		写真58
33－9	A－18	SK15		スクレイパー	28.5	25.5	6.0	4.6	珪化凝灰岩		写真58
33－10	A－63	SK44		不定形石器（ドリル？）	31.0	23.0	4.0	2.1	珪質頁岩		写真58
33－11	A－30	SK75		スクレイパー？	45.0	28.0	9.5	9.7	珪質頁岩		写真58
33－12	A－16	SK12		石匙	42.5	21.5	7.4	7.1	チャート		写真58
33－13	A－33	SK202		石匙	50.0	40.0	11.5	23.2	珪質頁岩		写真58

第33図　土坑出土石器（１）

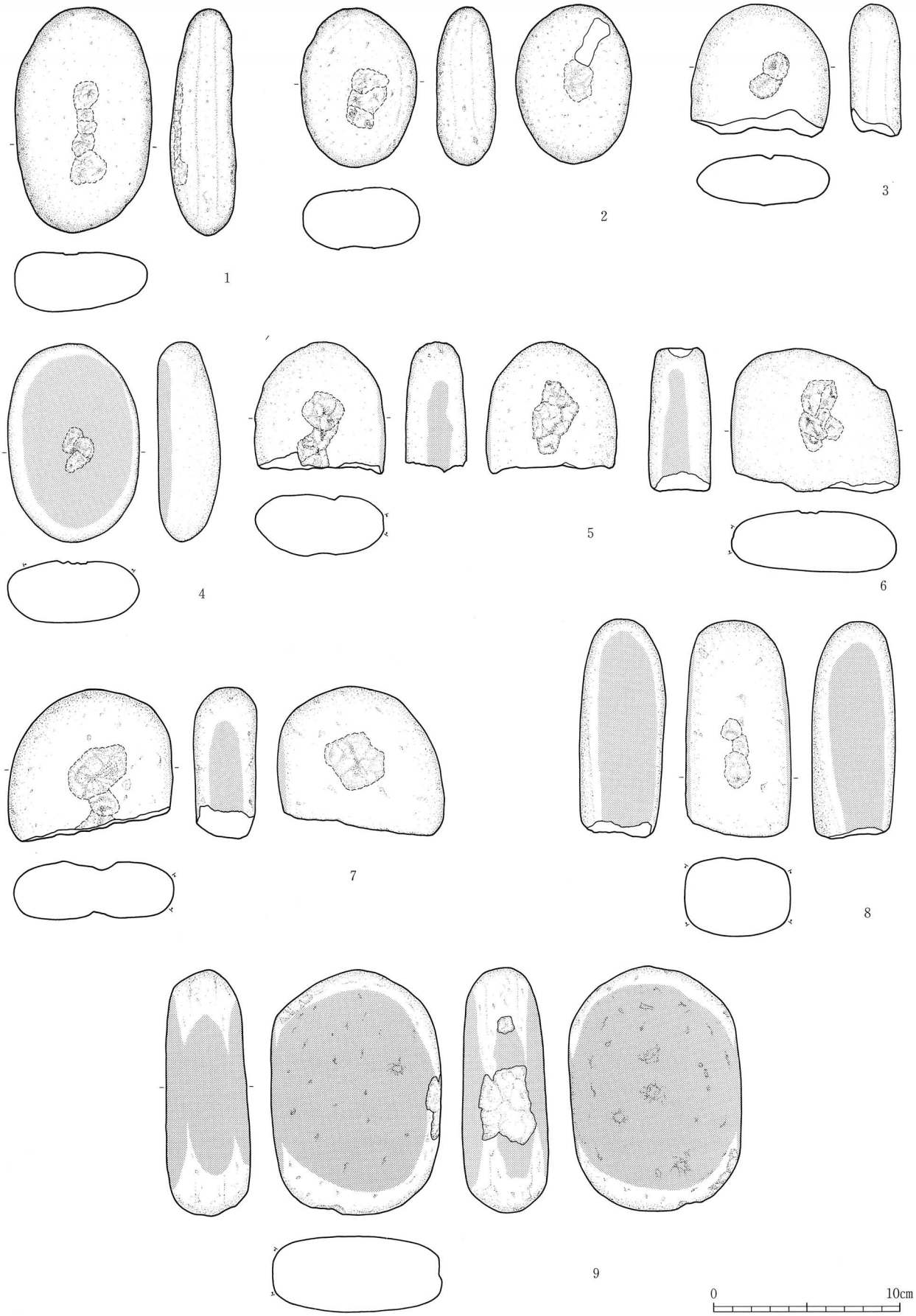


図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
34－1	A－61	SK17		不定形石器	20.0	18.0	5.2	1.5	流紋岩		写真58
34－2	A－14	SK 8		不定形石器	32.0	26.0	6.6	7.3	珪化凝灰岩		写真58
34－3	A－26	SK44		不定形石器	40.0	32.5	7.6	12.5	珪質頁岩		写真58
34－4	A－17	SK15		不定形石器	44.0	28.0	7.5	9.5	珪化凝灰岩		写真58
34－5	A－56	SK21		不定形石器	47.0	26.0	6.6	6.3	珪質頁岩		写真59
34－6	A－64	SK203		不定形石器	45.0	37.5	7.2	7.8	珪化凝灰岩		写真59
34－7	A－62	SK21		不定形石器	53.0	44.0	12.0	18.9	珪質頁岩		写真59
34－8	A－21	SK28		不定形石器	56.0	42.0	13.1	29.9	珪化凝灰岩		写真59
34－9	A－23	SK28		石鏃	54.5	34.5	11.3	20.3	珪質頁岩		写真59

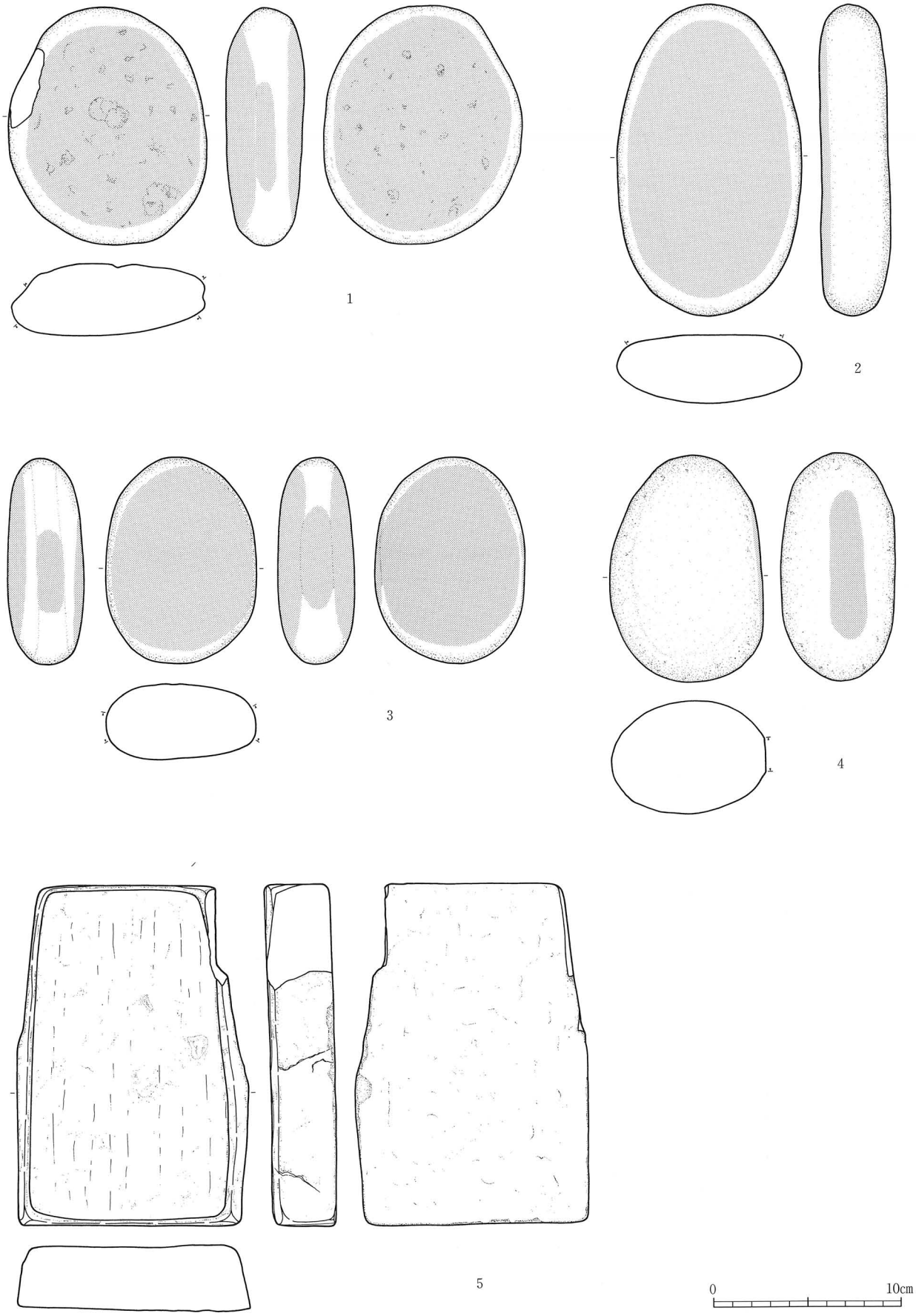
第34図　土坑出土石器（２）

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
35－1	A－25	SK28		不定形石器	56.0	42.0	6.5	14.8	デイサイト		写真59
35－2	A－22	SK28		コア？	67.0	39.5	24.1	58.1	珪化凝灰岩		写真59
35－3	A－31	SK75		不定形石器	40.0	50.0	14.5	27.9	珪質頁岩		写真59
35－4	A－24	SK28		磨斧の一部？	41.0	38.0	7.1	14.4	珪化凝灰岩		写真59
35－5	A－28	SK68		石製品	38.5	36.0	15.9	34.9	珪化凝灰岩		写真59
35－6	A－35	G－2区		不定形石器	35.0	26.0	9.1	6.1	デイサイト		写真60
35－7	A－34	Pit80		不定形石器	37.5	27.0	7.5	6.1	デイサイト		写真60
35－8	A－36	G－2区		剥片	49.0	61.0	12.5	29.5	珪質頁岩		写真60

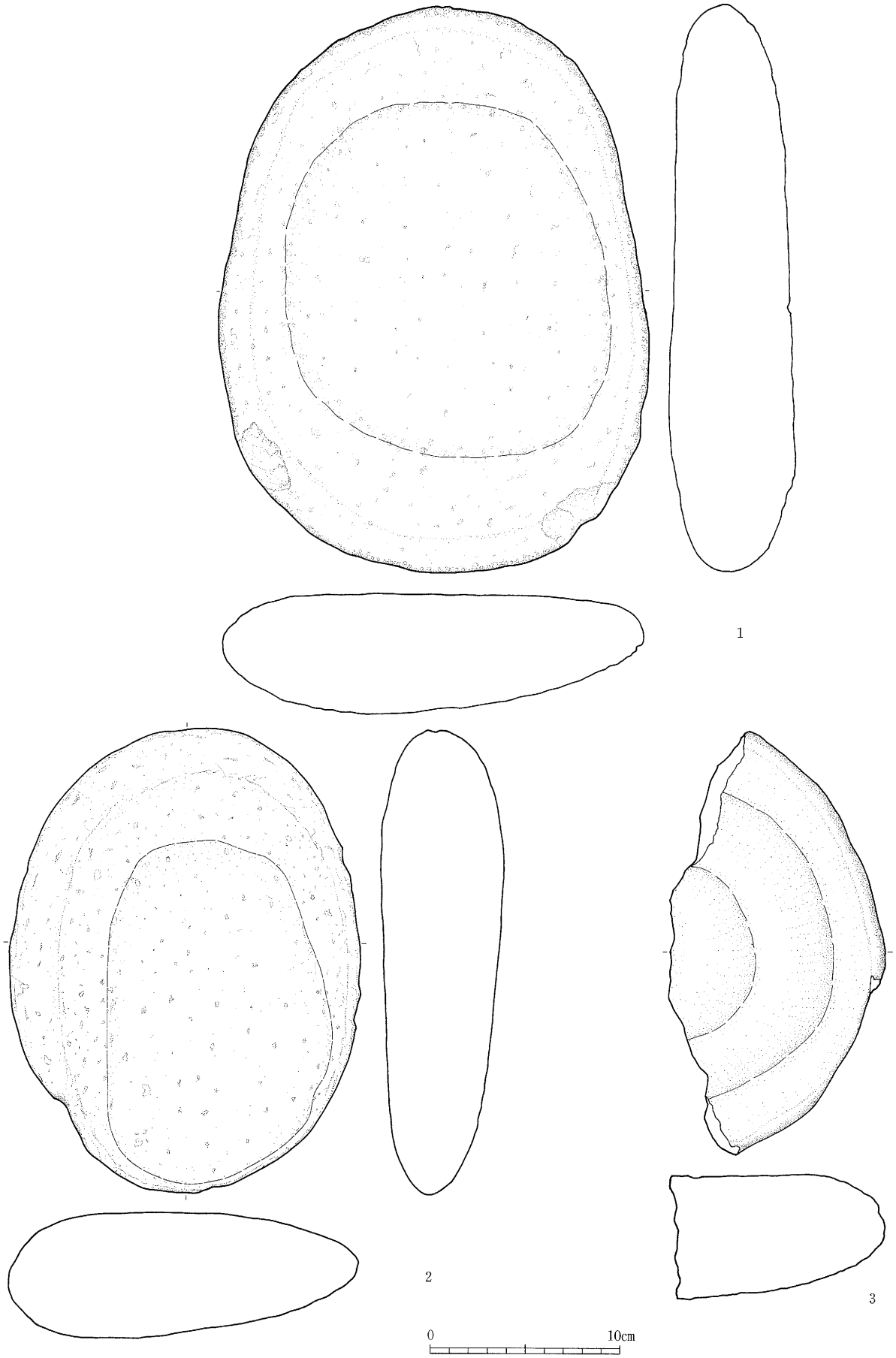
第35図　土坑出土石器（３）



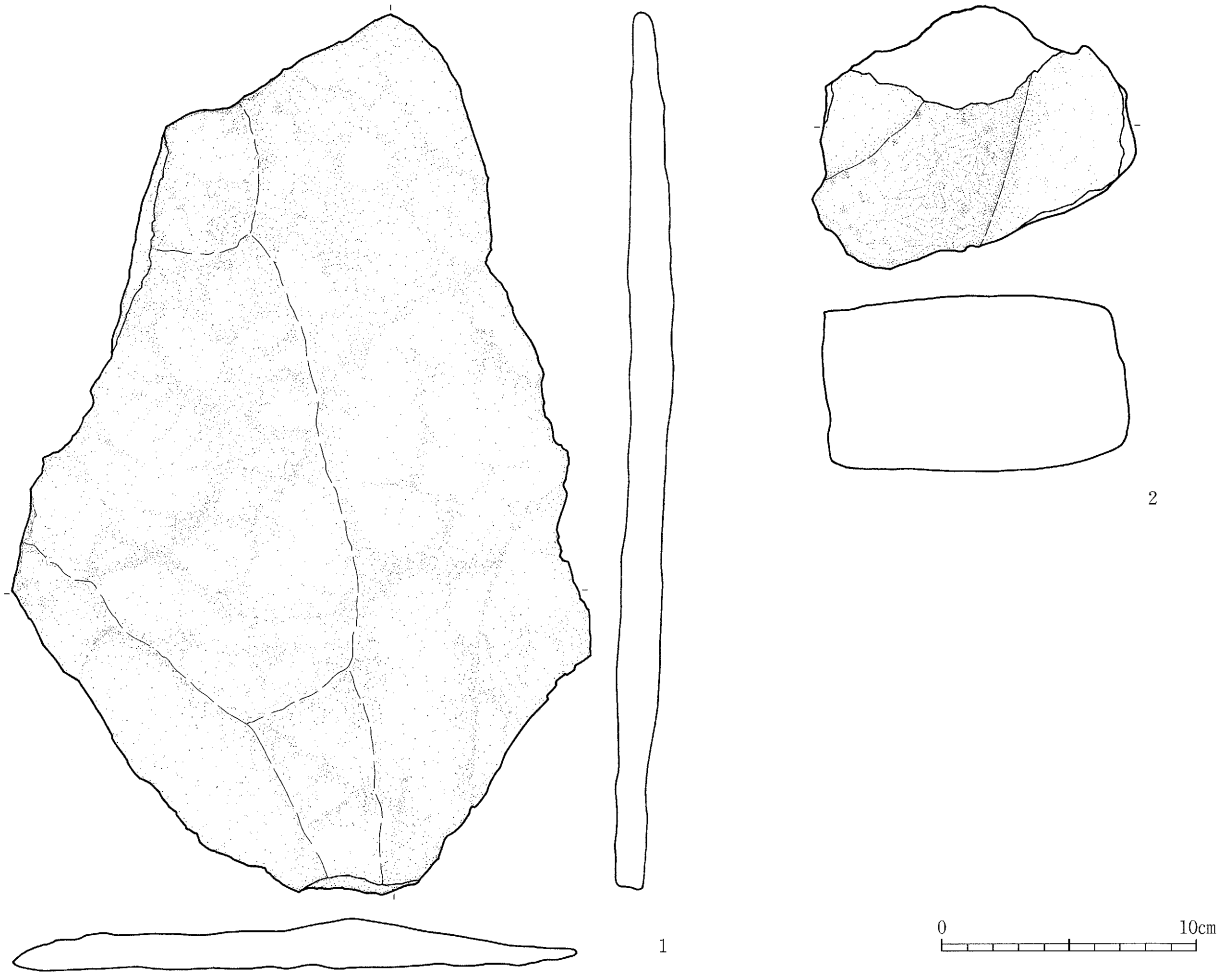
第36図　土坑出土石器（４）



第37図　土坑出土石器（５）



第38図　土坑出土石器（６）



第39図　土坑出土石器（７）

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
36－１	B－21	SK２		凹石	1220	740	355	450	安山岩		写真60
36－２	B－30	SK19		凹石	860	630	320	240	安山岩		写真60
36－３	B－43	SK92－b		凹石	720	750	310	230	安山岩	凹片面、反対面敲打痕？	写真60
36－４	B－42	SK92－b		磨凹石	1080	715	340	390	安山岩		写真60
36－５	B－27	SK18		磨凹石	710	700	330	240	安山岩		写真60
36－６	B－31	SK21		磨凹石	790	910	340	335	安山岩		写真60
36－７	B－22	SK10		凹石	820	900	350	330	石英安山岩　デイサイト		写真60
36－８	B－26	SK10		磨石	1175	570	450	540	安山岩		写真60
36－９	B－24	SK12		磨石	1330	940	470	880	安山岩		写真60
37－１	B－36	SK30		磨凹石	1280	1055	420	760	安山岩		写真60
37－２	B－37	SK30		磨石	1670	1000	380	1030	安山岩		写真60
37－３	B－28	SK21		磨石	1120	800	420	430	安山岩		写真61
37－４	B－40	SK44		磨石	1220	830	660	930	デイサイト		写真61
37－５	B－33	SK21		石製品	1840	1250	390	1560	石英安山岩質凝灰岩		写真61
38－１	B－25	SK10		石皿	3150	2280	670	5350	安山岩		写真61
38－２	B－35	SK21		石皿？	2470	1855	650	3790	安山岩		写真61
38－３	B－29	SK21		石皿	2260	1140	675	1800	安山岩		写真61
39－１	B－34	SK21		石製品？	3510	2280	270	1760	安山岩		写真61
39－２	B－32	SK21		石皿？	1050	1280	735	1130	玄武岩		写真61

土坑出土石器（４）～（７）観察表

（４）接合資料・両極剥離石器（第40・41図）

Ｇ－５区に位置しているSK17・SK18・SK19から、両極剥離のある楔形石器とその接合資料が出土している。ほとんどはSK17からのもので、接合資料５点と楔形石器２点が出土している。SK18とSK19からは楔形石器がそれぞれ１点出土している（Ａ－72・Ａ－73）。石材はいずれもチャートをもちいている。接合資料については、SK17と他の土坑との石器間に接合関係はない。

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　考	写真図版No.
40－１	Ａ－65	SK17		両極剥離	58.5	23.0	10.0	19.4	チャート		写真52
40－２	Ａ－65a	SK17		両極剥離	26.0	31.0	10.0	9.1	チャート		写真52
40－３	Ａ－65b	SK17		両極剥離	35.0	28.5	7.8	7.6	チャート		写真52
40－４	Ａ－65c	SK17		両極剥離	22.5	17.0	8.5	2.7	チャート		写真52
40－５	Ａ－66	SK17		両極剥離	33.0	33.5	10.9	10.7	チャート		写真52
40－６	Ａ－66a	SK17		両極剥離	29.0	28.5	7.5	5.2	チャート		写真52
40－７	Ａ－66b	SK17		両極剥離	31.5	29.0	9.8	5.5	チャート		写真52
40－８	Ａ－70	SK17		両極剥離	28.0	26.0	7.1	5.4	チャート		写真52
40－９	Ａ－71	SK17		両極剥離	24.0	7.5	4.0	1.2	チャート		写真52
40－10	Ａ－72	SK18		両極剥離	26.0	13.5	9.0	1.7	チャート		写真52
40－11	Ａ－73	SK19		両極剥離	28.0	19.5	5.5	3.8	チャート		写真52
41－１	Ａ－67	SK17		両極剥離	29.5	25.0	15.9	10.7	チャート		写真52
41－２	Ａ－67a	SK17		両極剥離	29.5	21.0	8.4	4.5	チャート		写真52
41－３	Ａ－67b	SK17		両極剥離	30.0	22.0	7.7	6.2	チャート		写真52
41－４	Ａ－68	SK17		両極剥離	28.5	41.0	10.1	9.4	チャート		写真52
41－５	Ａ－68a	SK17		両極剥離	23.0	33.0	6.9	5.6	チャート		写真52
41－６	Ａ－68b	SK17		両極剥離	28.5	19.5	7.2	3.8	チャート		写真52
41－７	Ａ－69	SK17		両極剥離	29.0	15.0	14.5	4.8	チャート		写真52
41－８	Ａ－69a	SK17		両極剥離	26.0	9.0	10.5	2.1	チャート		写真52
41－９	Ａ－69b	SK17		両極剥離	29.0	9.0	10.6	2.6	チャート		写真52
41－10	Ａ－69c	SK17		両極剥離	13.0	6.4	3.4	0.1	チャート		写真52

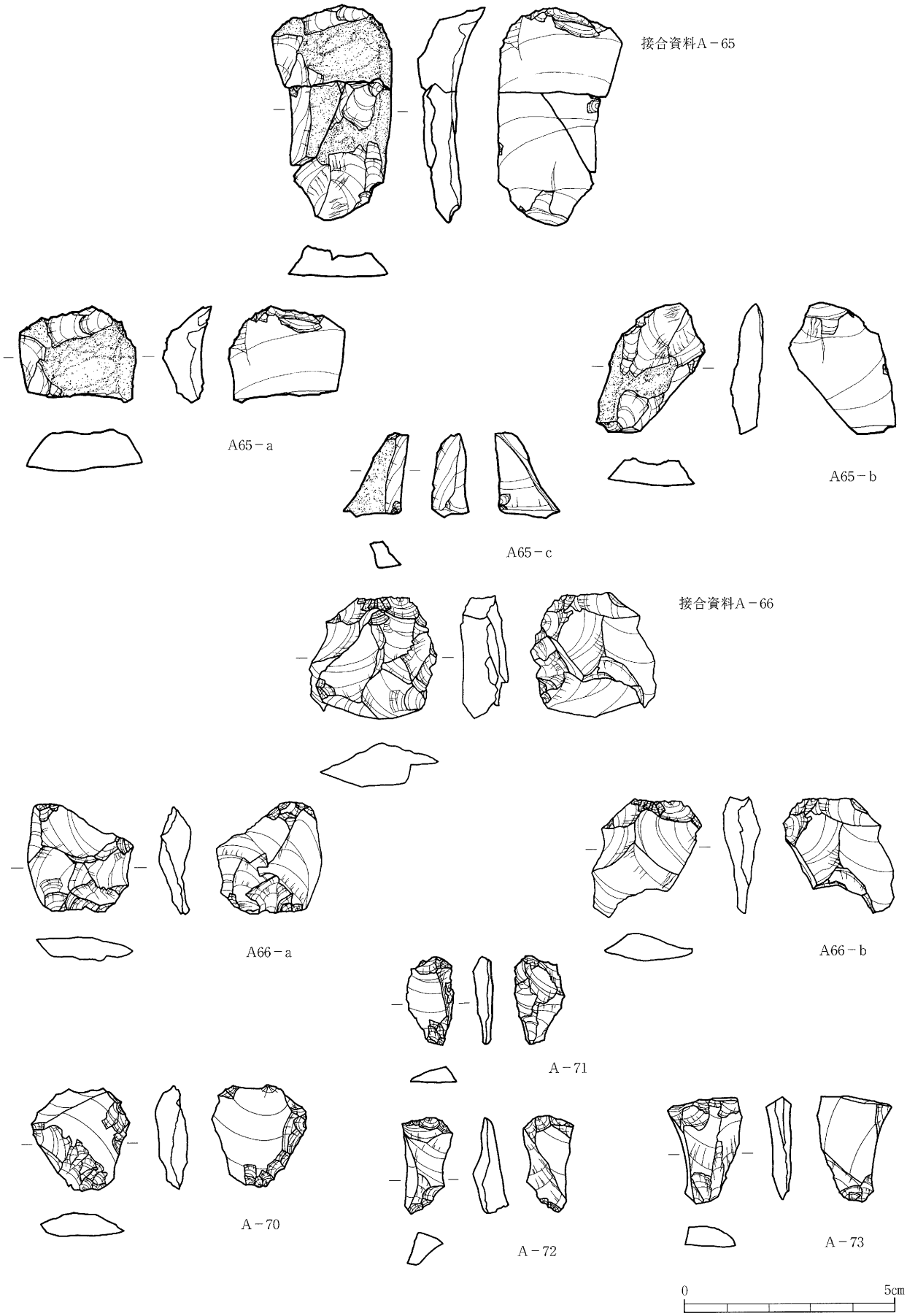
両極剥離石器観察表

（５）基本層出土遺物（第42・46図）

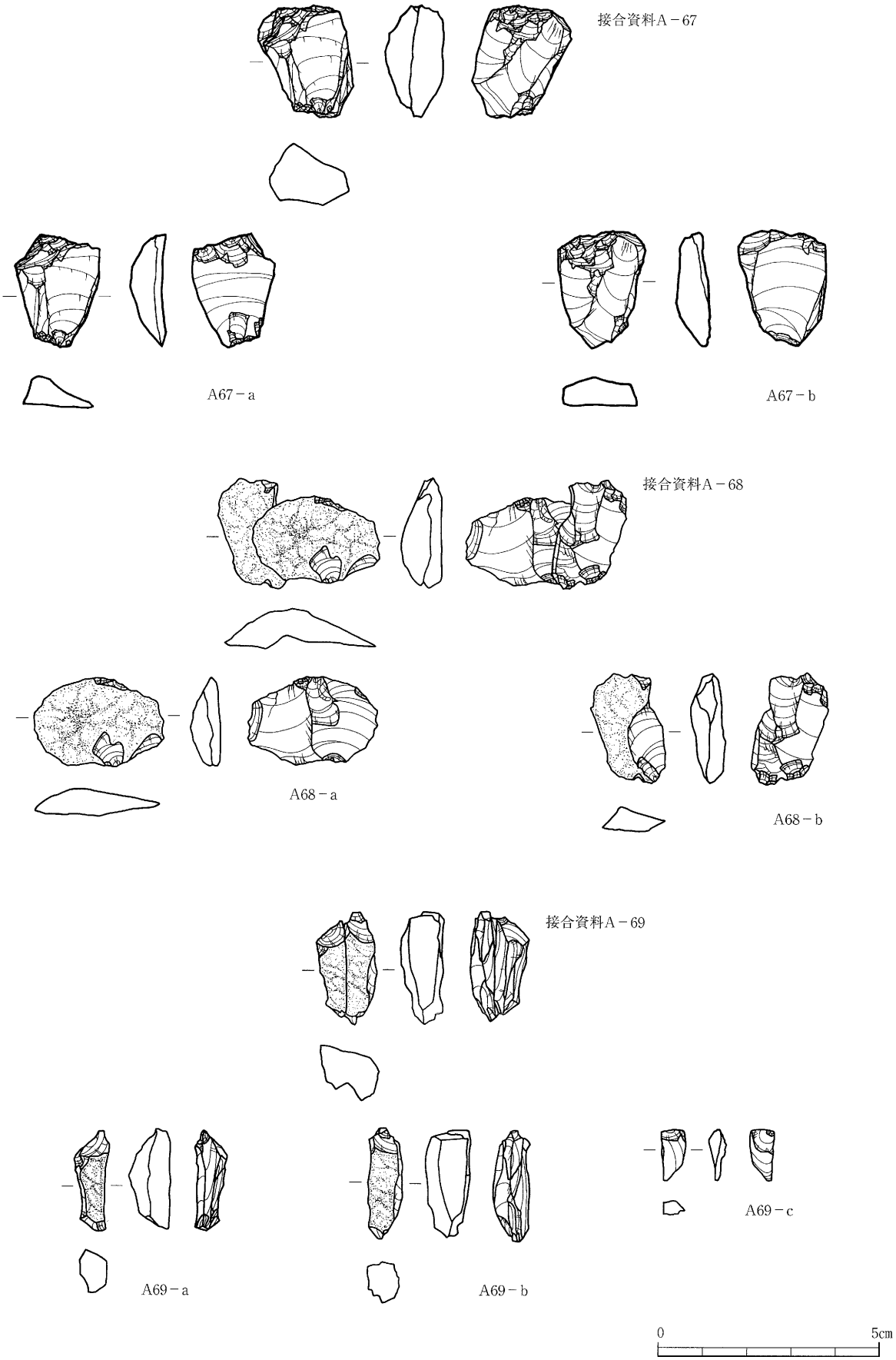
基本層出土とした遺物のほとんどは表土またはⅡ層中からのものであり、一部にピットや遺構検出面であるⅢ層からのものや表採などを含んでいる。ここでは、縄文土器のほか、石鏃２点、石錐１点、石篦２点、石匙１点、不定形石器９点、剥片３点、磨石６点、磨凹石１点、凹石１点を図示している。このうち第45図３・４は、下層調査時にⅣ層中から出土した剥片と不定形石器であり、第46図１・８の礫石器はピットから出土している。

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　考	写真図版No.
43－１	Ａ－46	Ⅱ区	Ⅰ・Ⅱ層	石鏃	24.5	11.5	7.5	1.9	珪化凝灰岩		写真62
43－２	Ａ－45	Ⅱ区	Ⅰ・Ⅱ層	石鏃	25.0	15.5	4.8	1.4	珪質頁岩		写真62
43－３	Ａ－40	Ⅰ区	Ⅲ層	石錐？	23.0	17.0	5.7	1.4	デイサイト		写真62
43－４	Ａ－49	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	石篦	79.0	36.5	15.5	46.6	珪質頁岩		写真62
43－５	Ａ－48	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	石匙	73.0	34.0	9.7	18.9	珪化凝灰岩		写真62
43－６	Ａ－52	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	石篦	79.0	37.5	16.1	41.1	珪化凝灰岩		写真62
43－７	Ａ－42	Ⅰ区	Ⅰ～Ⅱ層	石匙	38.5	50.0	9.1	14.7	チャート		写真62
43－８	Ａ－51	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	不定形石器	27.5	17.5	4.2	2.3	珪化凝灰岩		写真62
43－９	Ａ－50	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	不定形石器	57.0	56.5	8.7	21.7	珪化凝灰岩		写真62
43－10	Ａ－41	Ⅰ区	３層	不定形石器	21.5	25.0	7.4	4.6	珪化凝灰岩		写真62
44－１	Ａ－47	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	不定形石器	64.5	46.0	12.5	36.8	珪質頁岩		写真62
44－２	Ａ－38	Ⅰ区	Ⅰ・Ⅱ層	剥片	78.5	41.5	23.4	63.5	珪質頁岩		写真63
44－３	Ａ－53	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	不定形石器	62.5	43.0	13.2	31.1	珪質頁岩		写真63
44－４	Ａ－37	Ⅰ区	Ⅰ・Ⅱ層	剥片	54.0	37.5	15.8	22.4	珪質頁岩		写真63
44－５	Ａ－43	Ⅰ区	Ⅰ・Ⅱ層	不定形石器	47.5	79.5	17.4	61.0	珪質頁岩		写真63
45－１	Ａ－44	Ⅰ区	Ⅰ・Ⅱ層	不定形石器	77.0	64.0	21.0	86.5	デイサイト		写真63
45－２	Ａ－39	Ⅰ区		不定形石器	62.0	61.0	15.4	44.2	珪化凝灰岩		写真63
45－３	Ａ－55	Ⅰ区	Ⅳ層	剥片	68.0	73.5	23.6	124.9	珪質頁岩		写真64
45－４	Ａ－54	Ⅰ区	Ⅳ層	不定形石器	58.5	56.0	14.8	35.2	流紋岩		写真63
46－１	Ｂ－19	Ⅰ区	Pit14	磨凹石	130.0	103.5	34.0	685.0	安山岩		写真64
46－２	Ｂ－12	Ⅰ区		凹石	95.0	60.0	27.2	175.0	石英安山岩質凝灰岩		写真64
46－３	Ｂ－９	Ⅰ区		磨石	115.0	93.5	38.0	575.0	デイサイト		写真64
46－４	Ｂ－13	Ⅱ区	Ⅰ・Ⅱ層	磨石	125.0	102.0	37.8	610.0	デイサイト		写真64
46－５	Ｂ－16	Ⅲ区	Ⅰ・Ⅱ層	磨石	81.0	104.0	37.6	350.0	安山岩		写真64
46－６	Ｂ－14	Ⅱ区	Ⅰ・Ⅱ層	磨石	130.0	102.5	39.0	750.0	安山岩		写真64
46－７	Ｂ－10	Ⅰ区	表採	磨石	152.5	69.5	46.0	650.0	安山岩		写真64
46－８	Ｂ－18	Ⅰ区	Pit７	磨石	88.0	79.0	46.0	410.0	デイサイト		写真64

基本層出土石器(1)～(4)観察表



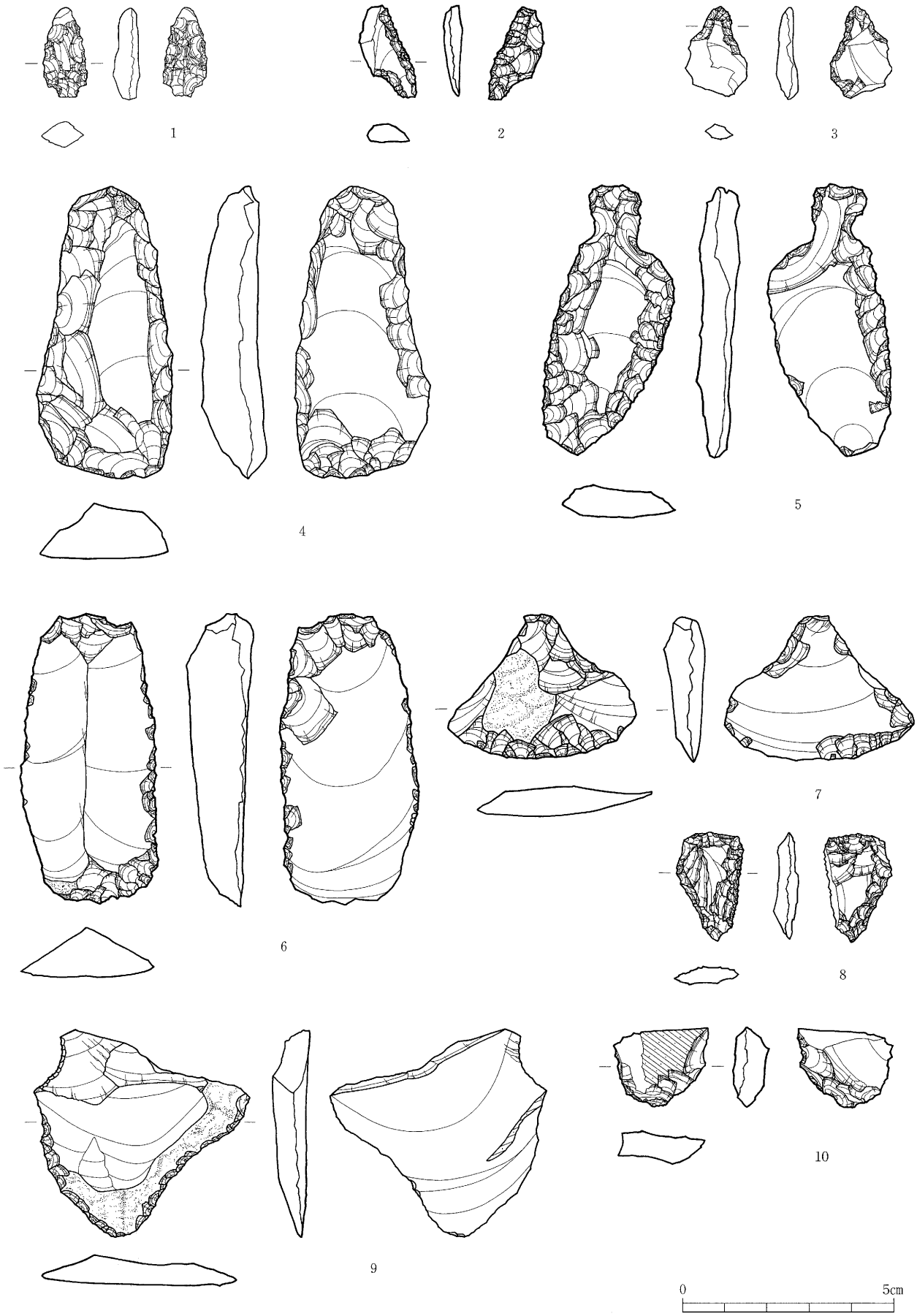
第40図　接合資料（１）両極剥離石器



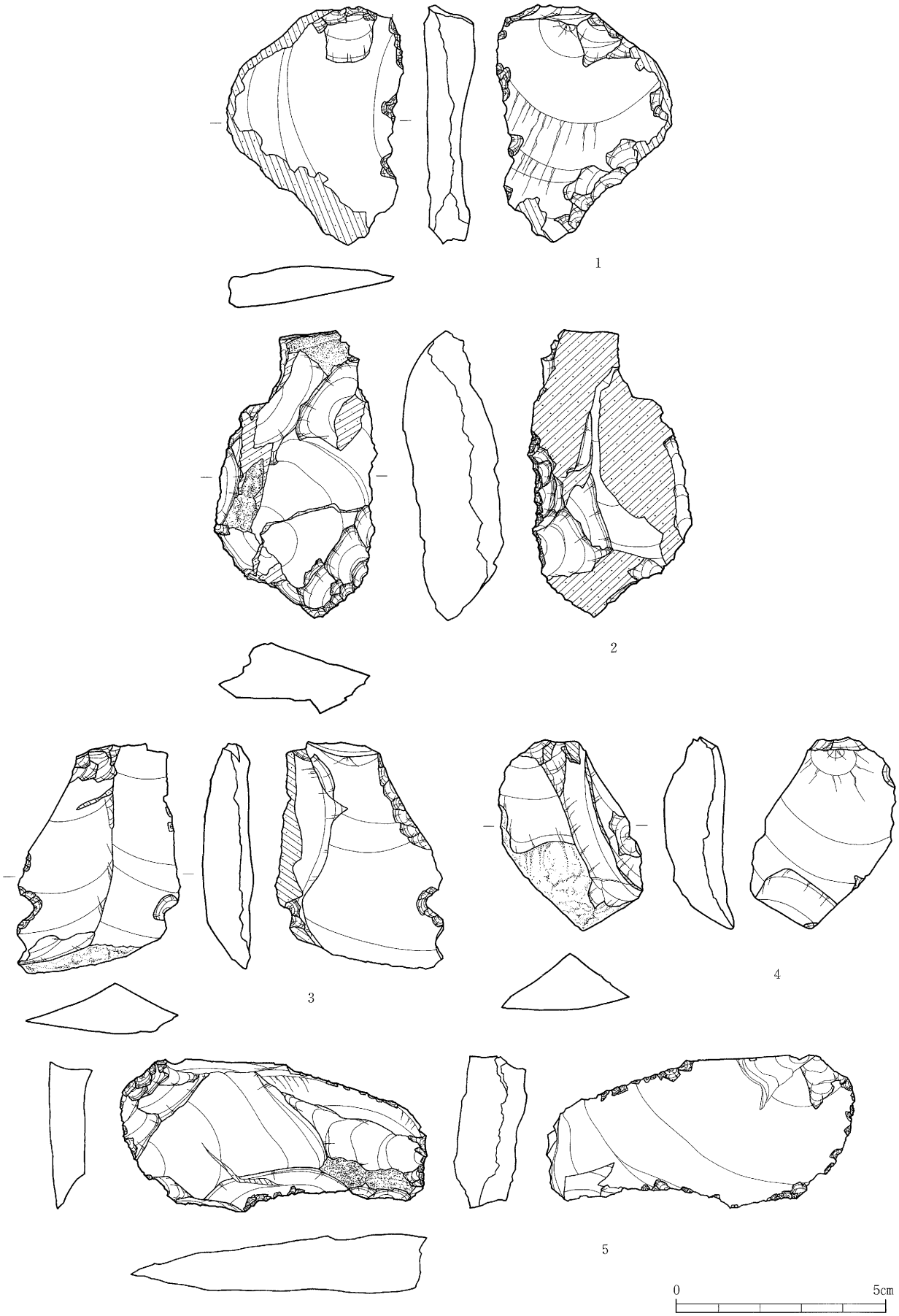
第41図　接合資料（２）両極剥離石器

図版No.	登録No.	出土地点	層　位	種　別	部　位	文様の特徴	備　　考	写真図版No.
42－１	A－103		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	体部	沈線、刺突、隆帯		写真57
42－２	A－106		Ⅲ層	縄文土器	体部	沈線		写真57
42－３	A－111			縄文土器	口縁部	押し引き文、沈線	試掘調査出土	写真57
42－４	A－105			縄文土器	口縁部	刺突		写真57
42－５	A－110			縄文土器	体部	沈線	試掘調査出土	写真57
42－６	A－90			縄文土器	体部	沈線		写真57
42－７	A－89		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部	沈線		写真57
42－８	A－97		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部	刺突文		写真57
42－９	A－104		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部	連続刺突文		写真57
42－10	A－109			縄文土器	口縁部	沈線	試掘調査出土	写真57
42－11	A－93		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部	沈線、隆帯		写真57
42－12	A－100		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	体部	沈線		写真57
42－13	A－112			縄文土器	口縁部	沈線、刺突、貼付文、短沈線	試掘調査出土	写真57
42－14	A－107		Ⅱ・Ⅲ層	縄文土器	体部	沈線		写真57
42－15	A－92		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部	沈線		写真57
42－16	A－95		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部	沈線		写真57
42－17	A－88		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	口縁部			写真57
42－18	A－91		Ⅰ・Ⅱ層	縄文土器	体部	沈線、隆線、縄文		写真57

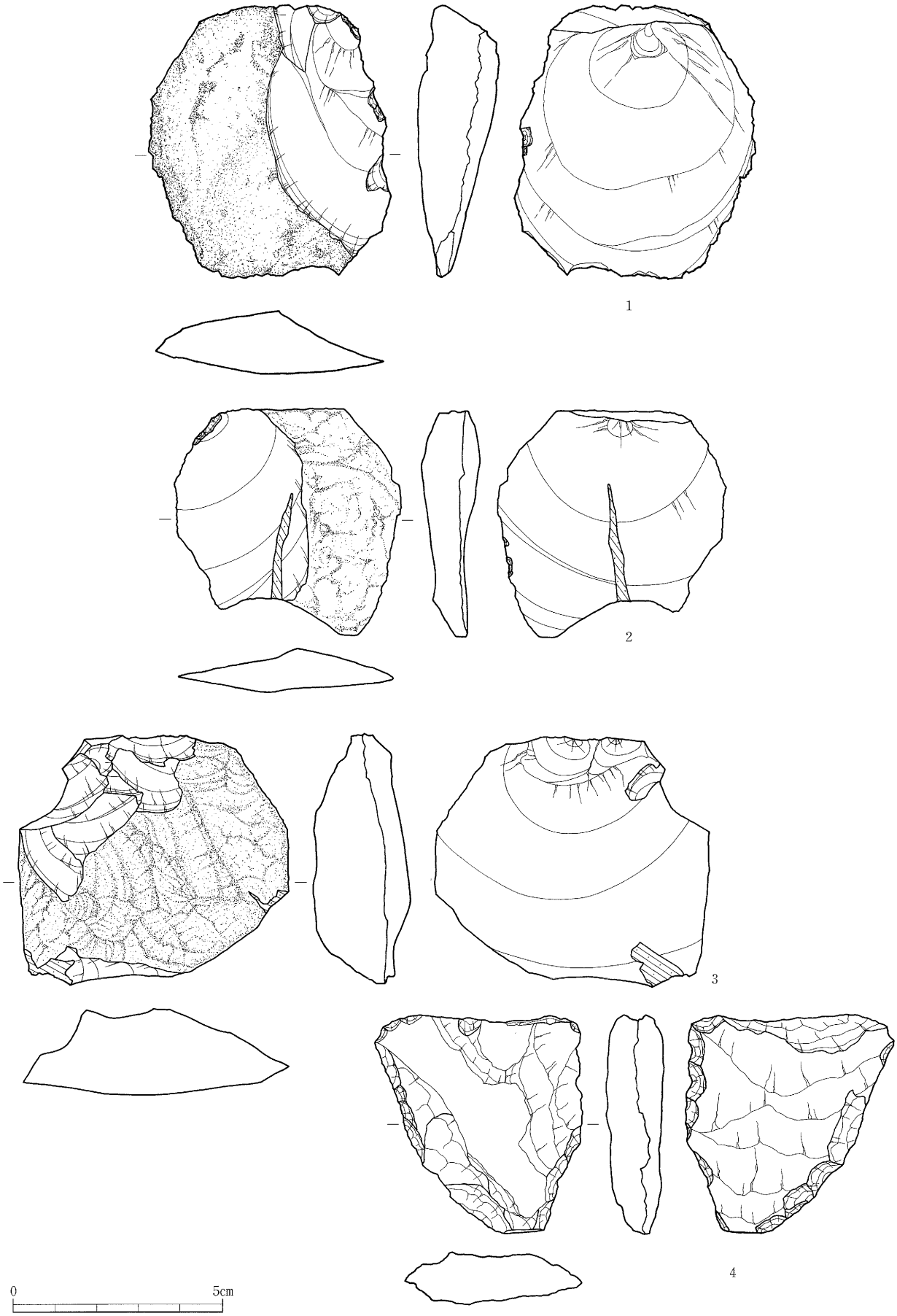
第42図　基本層出土土器



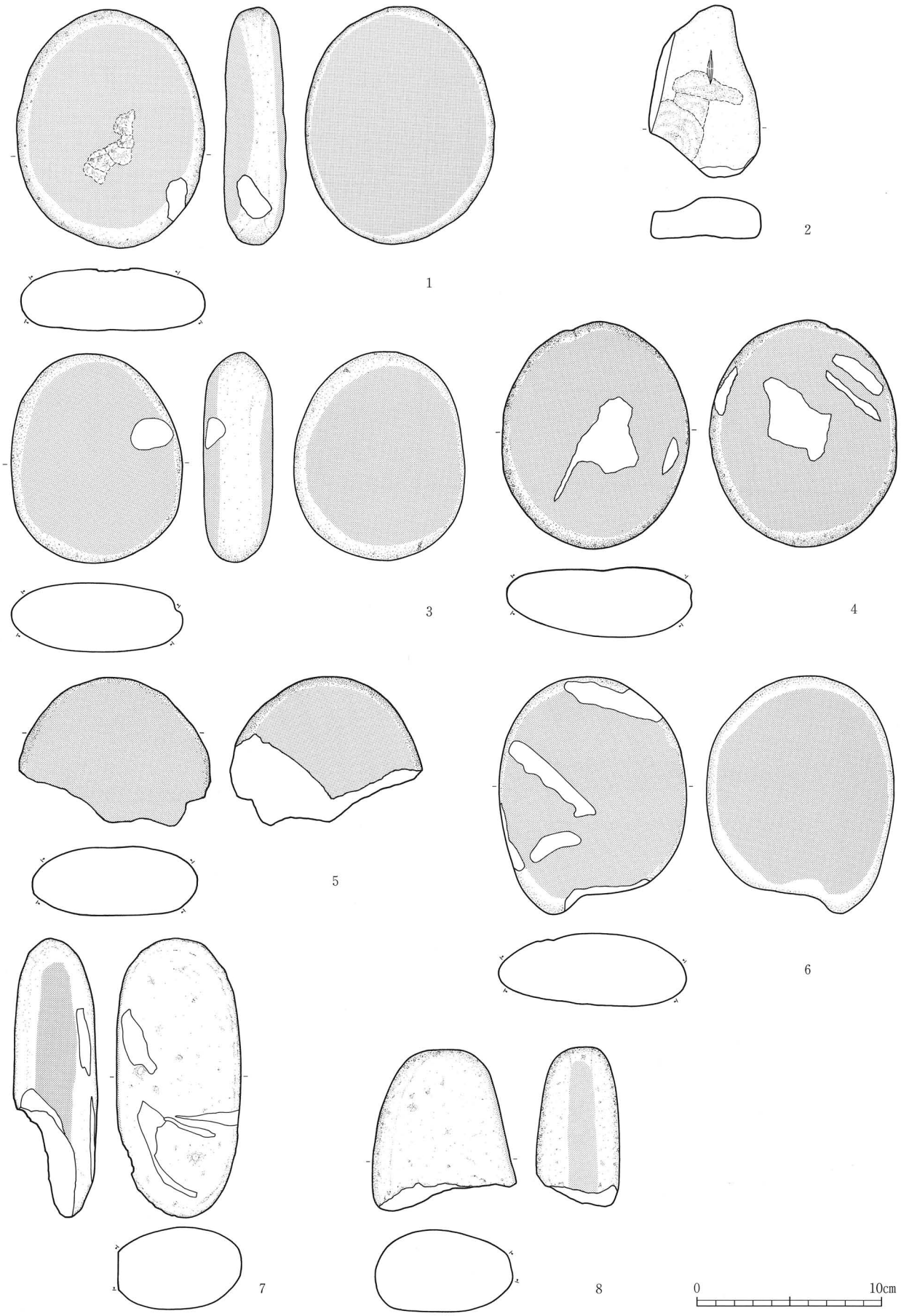
第43図　基本層出土石器（１）



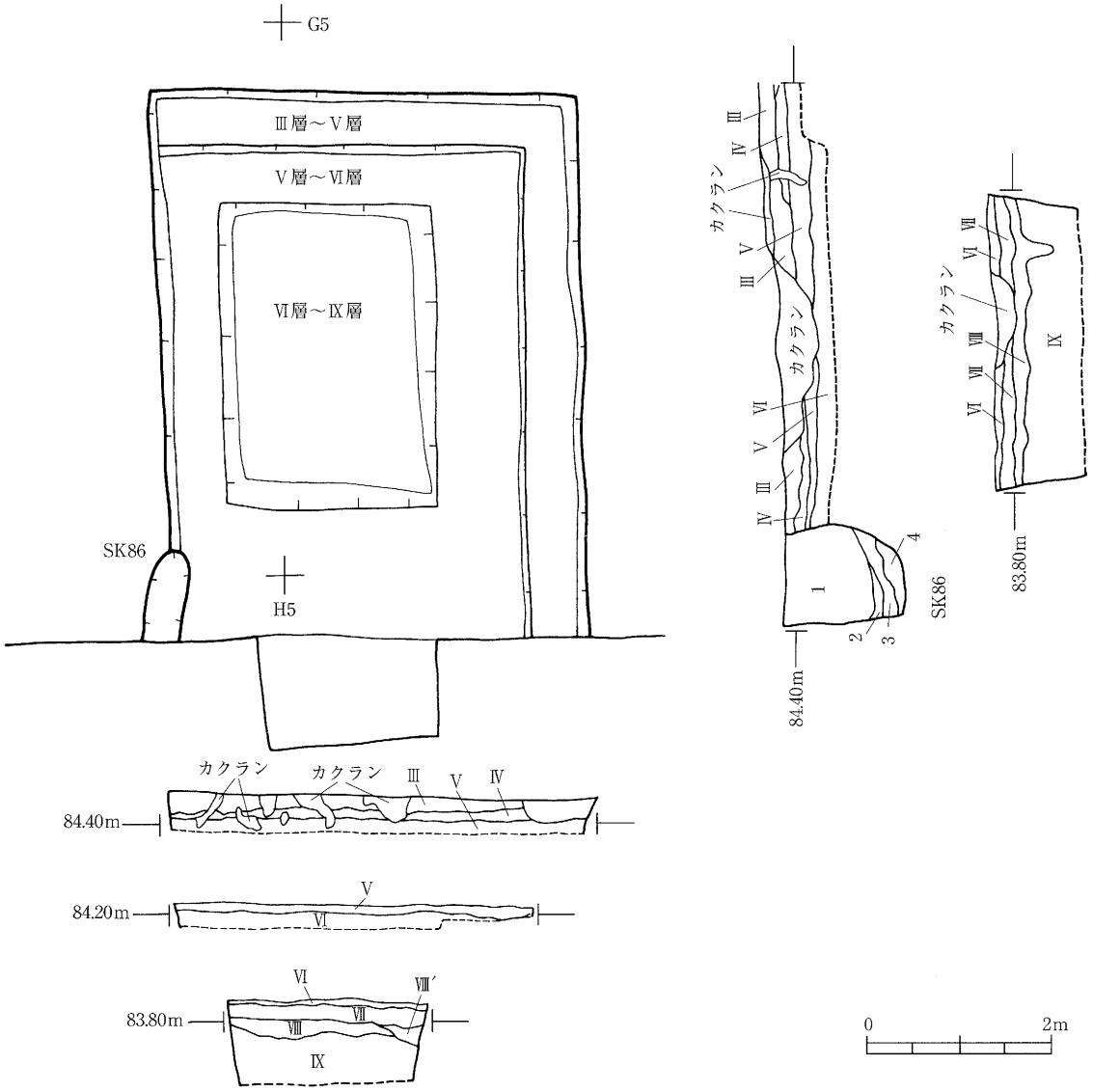
第44図　基本層出土石器（２）



第45図　基本層出土石器（３）



第46図　基本層出土石器（４）



第47図　下層調査区

（６）下層調査（第47図）

遺構調査終了後、Ｇ－５区に６ｍ×4.5ｍ程度の下層調査区を設定し、調査区を縮小しながら２ｍ近く掘り下げを行ない、Ⅲ層以下の基本層序を確定させた。下層からの遺物の出土はなかった。

Ⅰ層：10YR2/2黒褐色シルト。しまりのないボソボソした土。

Ⅱ層：10YR3/3暗褐色シルト。層厚10cm前後、しまりのないボソボソした土。

Ⅲ層：7.5YR3/4暗褐色シルト。層厚10～20cm。遺構検出面になっている。

Ⅳ層：10YR5/4にぶい黄褐色シルト。層厚10cm前後。

Ⅴ層：10YR4/3にぶい黄褐色シルト。層厚25cm前後。

Ⅵ層：7.5YR4/4褐色シルト。層厚25cm前後。

Ⅶ層：7.5YR4/3褐色粘土質シルト。層厚15～20cm。

Ⅷ層：10YR5/6黄褐色砂質シルト。風化した１cm大程度の小礫を含む。層厚15～25cm。

Ⅸ層：10YR5/8黄褐色小砂礫層。層厚60cm以上。

２．まとめ

（１）八木山緑町遺跡は、ＪＲ仙台駅南西の標高80数ｍの八木山丘陵上（通称）に位置している。今回の調査は、宅地造成に伴うもので、道路計画部分を対象として実施した。

調査の結果、縄文時代前期末葉から中期初頭の竪穴住居跡５軒（SI１・４・７・８・９）、弥生時代後期の竪穴住居跡２軒（SI２・３）のほか、土坑120基、ピット300基などが発見された。

（２）縄文時代の竪穴住居跡跡はあまり残存状況はよくなかったが、住居跡の平面形は方形を呈し、地床炉をもっている。住居跡から出土した土器については、良好な資料はすくなかったが、これらの住居跡の時期については、出土遺物から前期末葉の大木６式から中期初頭7a式期のものと考えられる。

（３）今回の出土遺物のうち、SI９住居跡とSK10土坑から出土した土器について編年的な位置付けを考えてみたい。SI9住居跡から出土した土器のうち第19図１は、口縁上部を欠いているが、沈線文と縦位短沈線文によって区画されたなかに三角形の彫去が入っている。頸部は「く」の字状にくびれ、球状に膨らんだ胴上部には沈線文と三角形の彫去が施文され、胴下半部はＲＬ縄文の結節文が施文されている。第19図４は、外反する口縁部には沈線による孤状文と刺突文が施文され、頸部との間を横位の隆帯と楕円形貼付文によって区画している。SK10出土した土器第31図３は、口縁部は波状口縁で外傾し、頸部が「く」の字状にくびれ、胴中位から上部にかけて膨らむ器形で、いわゆる「金魚鉢形深鉢」である。

このような土器の県内での類似資料としては、北前遺跡（仙台市）・小梁川遺跡（七ヶ宿町）長根貝塚（涌谷町）などの出土資料があり、それぞれ大木7a式期及び大木６式期としてとらえることができる。

（４）弥生時代の竪穴住居跡の平面形は楕円形を呈し、地床炉をもっている。柱穴は壁柱穴となる可能性が高い。八木山緑町遺跡の周辺で弥生時代の竪穴住居跡が発見されている遺跡としては、八木山丘陵南西部の富沢低地に向かって張り出した、標高60数ｍの台地上に位置する土手内遺跡がある。平成元年に行なわれた調査によって、竪穴住居跡１軒と土坑１基が発見されている。住居跡の規模は、長軸3.6ｍ×短軸2.8ｍで、平面形は楕円形を呈し、床面の中央に炉跡とおもわれる焼け面をもっている。時期的には、出土遺物から後期の天王山式期に位置付けられている。弥生時代の住居跡について仙台市内では調査例が少なく、今回の調査は貴重な調査例となった。

（５）SI２住居跡から出土した土器については、口縁部から胴上部にかけては条間のあいた縄文によって羽状に施文され、胴下半部は縦位に施文されている。地文のみの構成であり、編年的な位置付けについては弥生時代後期に比定される資料としておきたい。

（６）土坑については様々な形態のものがあり、断面の形状も様々である。なかには、落し穴状のものや貯蔵穴状の形状をもつものや土壙墓の可能性のあるものもある。時期的には出土遺物から、ほとんどの土坑は縄文時代前期末葉から中期初頭のものと思われる。

［２］第２次調査

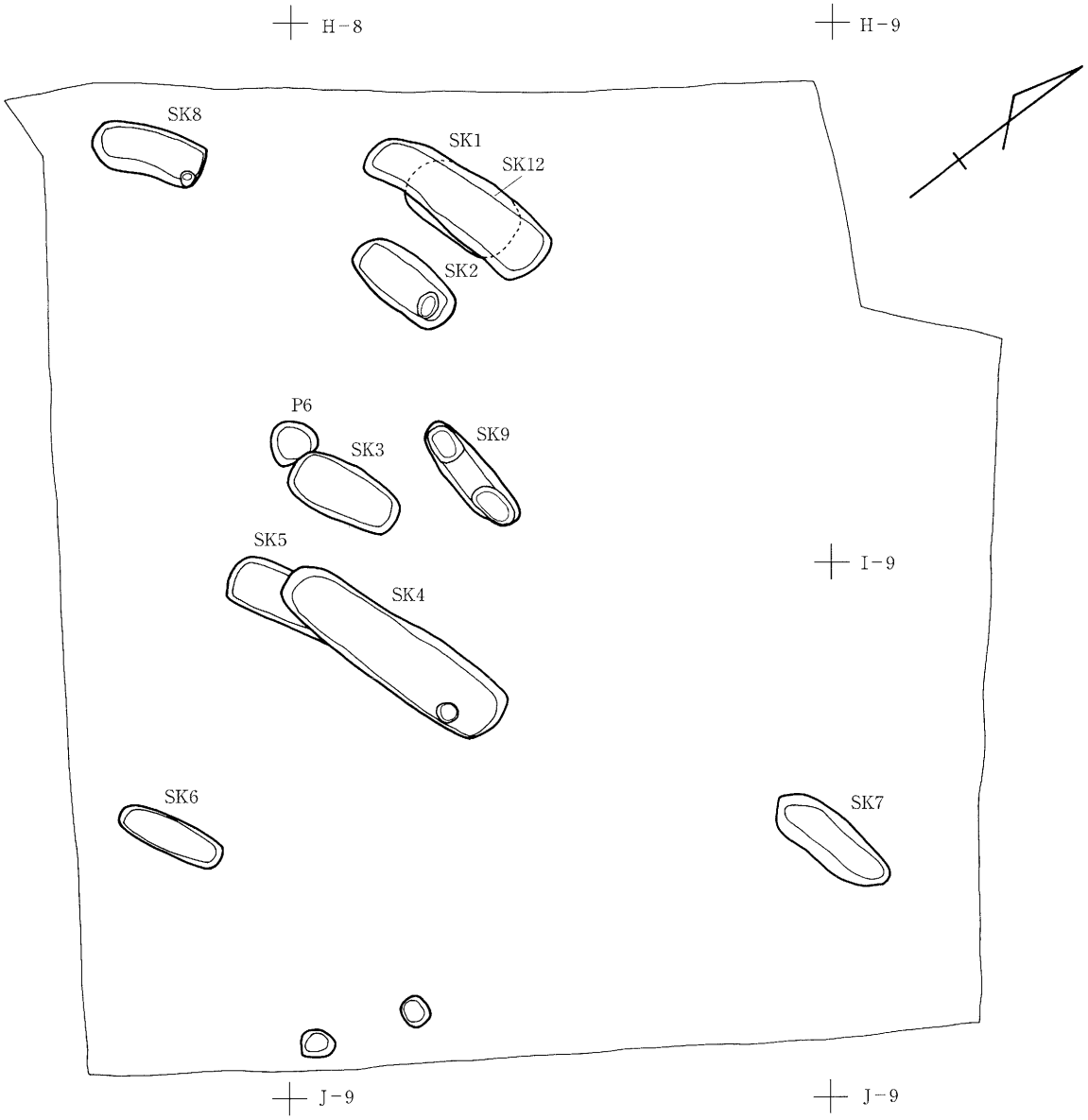
１．発見遺構と出土遺物

平成11年度の発掘調査では、調査地点が平成７年度の調査区を挟んでいることから、それぞれ東区・西区と呼称している（第４図）。発見された遺構としては、土坑12基とピット５基がある。これらの土坑のうちSK１・10の２基からは管玉が出土していることや、形態・規模・主軸方位・埋土状況に類似性がみられることから弥生時代の土壙墓である可能性が高いと考えられる。

７年度に発見されている土坑のなかにも同様の形状を示すものもあり、周辺の土坑のなかからも土壙墓となる可能性が考えられる。以下、各遺構と遺物の詳細について述べたい。

（１）土　坑

検出された土坑は、東区９基、西区３基の計12基で、前述のとおり、２基の土坑から管玉がそれぞれ６点ずつ合計12点出土している。土坑の形態からみると、楕円形を呈するSK11以外はすべて隅丸長方形を基調としている。またその規模からみると、長軸1.80m以上となるSK１・４・10の３基以外は、1.30～1.50mと比較的小規模といえ



第48図　東区平面図

る。土坑間の重複状況についてみると、SK１とSK12、SK４とSK５に切り合いがある。また、主軸方向や埋土の堆積状況については、ほぼ長軸方向を東西に同じくしていることや、埋土の観察からは、大小のブロック状の土壌が混入しているといういわゆる人為的な堆積状況を示している。これらのことなどから弥生時代の土壙墓である可能性が高いと考えられる。

管玉の出土した２基の土坑の堆積土については、すべて持ち帰りその後水洗選別を行なったが、土器の細片が数点出土したのみであった。その他の出土遺物としては、剥片石器４点と礫石器２点があるが、土器については、著しい摩滅により文様不明のものや、無文土器の小片が出土しているだけで図示できるものはなかった。

①東区土坑（第48・49図）

SK１土坑

位　　置：Ｈ－８区南西部に位置している。土坑底面からＳＫ12が検出された。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はＮ－75°－Ｅとなっている。

規　　模：長軸2.27m、短軸0.54mで、検出面からの深さは約13cm程度と削平が激しく、浅い。

堆 積 土：暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：土坑底面西側から管玉６点が出土している（第52図）。素材はいずれも碧玉である。穿孔はいずれも両端から穿かれている。

SK２土坑

位　　置：Ｈ－８区南西部に位置し、SK１の東側に隣接している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はＮ－78°－Ｅと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規　　模：長軸1.27m、短軸0.60mで、検出面からの深さは約20cm程である

堆 積 土：極暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK３土坑

位　　置：Ｈ－８区南東部に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はＮ－65°－Ｅとなっている。

規　　模：長軸1.30m、短軸0.62mで、検出面からの深さは約13cm程である

堆 積 土：極暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK４土坑

位　　置：Ｉ－８区南西隅に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、SK５を切っている。長軸方向はＮ－75°－Ｅとなっている。

規　　模：長軸2.80m、短軸0.70mで、検出面からの深さは25cmである。

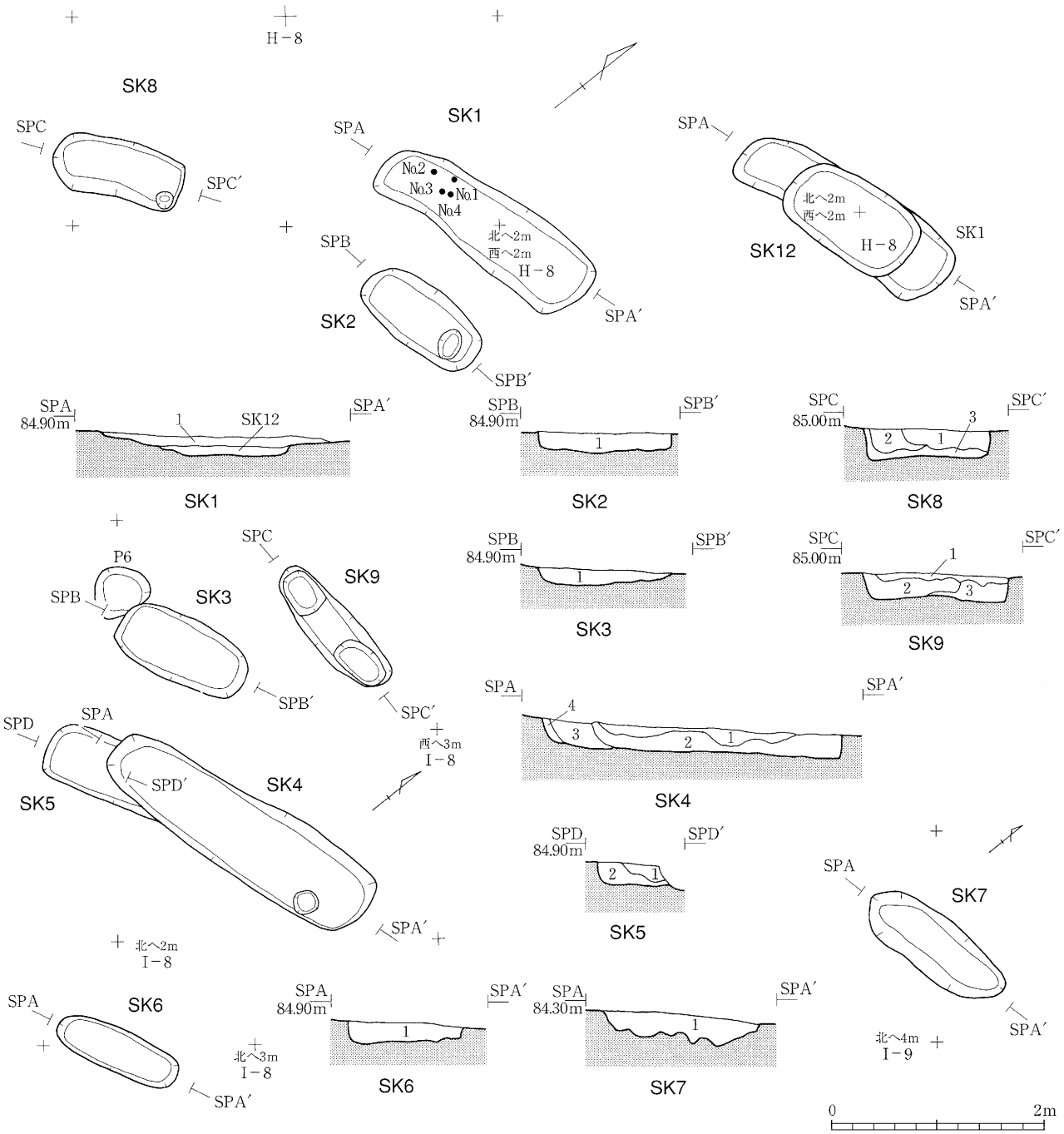
堆 積 土：埋土は４層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK５土坑

位　　置：Ｉ－７区北西隅に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、SK５に切られている。長軸方向はＮ－60°－Ｅとなっている。



機構名	位置（GHd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土　色	土　性	備　考
SK 1	H－8区	隅丸長方形	227×54	13	1層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 2	H－8区	隅丸長方形	127×60	20	1層	7.5YR2/3　極暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 3	H－8区	隅丸長方形	130×62	13	1層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 4	H－8区	隅丸長方形	280×70	25	1層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック（φ1cm）やや多含む
					2層	7.5YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック（φ1～2cm）少量多含む
					3層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	地山ブロック（φ1～2cm）少量多含む
					4層	7.5YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	
SK 5	I－7区	隅丸長方形	（　）×58	20	1層	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	10YR2/2黒色シルト混入
					2層	10YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	10YR4/6褐色のシルト混入
SK 6	I－7区	隅丸長方形	120×40	24	1層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 7	I－8区	隅丸長方形	153×53	25	1層	7.5YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	
SK 8	H－8区	隅丸長方形	124×54	28	1層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					2層	7.5YR4/4　褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					3層	7.5YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK 9	H－8区	隅丸長方形	143×40	34	1層	7.5YR4/3　褐色	粘土質シルト	7.5YR3/4ブロック若干含む
					2層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					3層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
SK12	H－8区	隅丸長方形	132×73	13	1層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
					2層	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	10YR5/6粘土ブロックに混る

第49図　東区土坑

規　　模：長軸1.50m以上、短軸0.58mで、検出面からの深さは20cmである。

堆 積 土：埋土は４層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK６土坑

位　　置：Ⅰ－７区に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN－65°－Eとなっている

規　　模：長軸1.20m、短軸0.40mで、検出面からの深さは24cmである。

堆 積 土：暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK７土坑

位　　置：Ⅰ－８区に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN－77°－Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規　　模：長軸1.53m、短軸0.53mで、検出面からの深さは25cmである。

堆 積 土：暗褐色の粘土質シルトの単層で、黒褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物としては、摩滅して文様不明の土器片が２点ある。

SK８土坑

位　　置：H－８区に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN－57°－Eとなっている。

規　　模：長軸1.24m、短軸0.54mで、検出面からの深さは28cmである。

堆 積 土：埋土は３層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK９土坑

位　　置：H－８区南東に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN－91°－Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規　　模：長軸1.43m、短軸0.40mで、検出面からの深さは34cmである。土坑底面の両端がわずかにくぼんでいる。

堆 積 土：埋土は３層に分けられた。いずれも地山の黄褐色土をブロック状に含んでいる。人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

SK12土坑

位　　置：H－８区南西部に位置し、SK1の底面から検出している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はN－77°－Eと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規　　模：長軸1.32m、短軸0.73mで、検出面からの深さは約13cm程である。

堆 積 土：褐色の粘土質シルトの単層で、黄褐色土をブロック状に含み人為的に埋め戻されたような状況を呈している。

出土遺物：出土遺物は無かった。

②西区土坑（第50・51図）

SK10土坑

位　　置：Ｆ－７区北西部に位置している。

平 面 形：隅丸長方形で、長軸方向はＮ－85°－Ｅと、真北から見るとほとんど東西方向といえる。

規　　模：長軸1.82m、短軸0.76mで、検出面からの深さは27cmである。

堆 積 土：埋土は３層に分けられた。

出土遺物：摩滅して文様不明の土器片が９点あるが、図示できるものはなかった。土坑底面西側から管玉６点が出土している（第52図）。素材はいずれも碧玉である。穿孔はいずれも両端から穿かれている。

SK11土坑

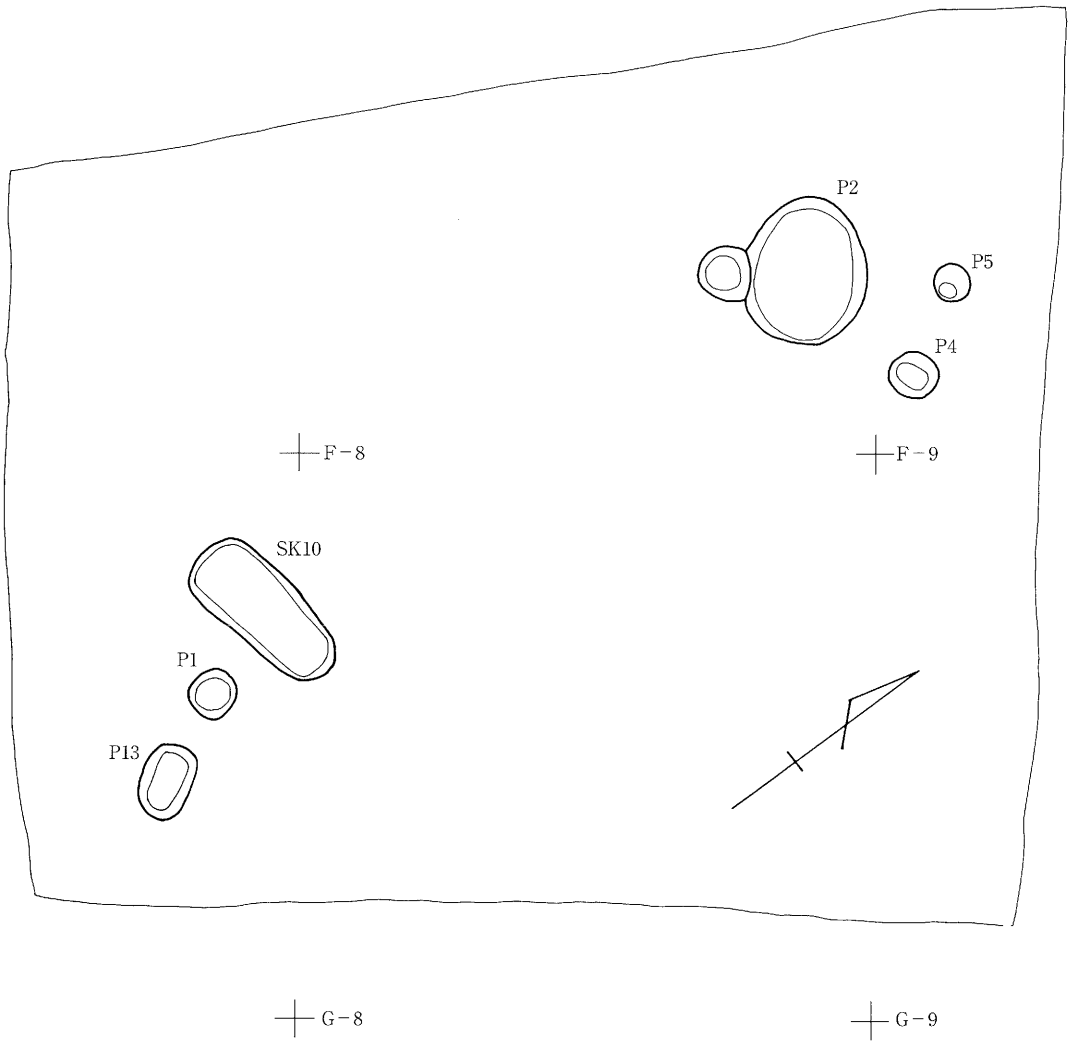
位　　置：Ｅ－８区南東部に位置している。

平 面 形：楕円形で、長軸方向はＮ－52°－Ｅである。

規　　模：長軸1.55m、短軸1.22mで、検出面からの深さは25cmである。

堆 積 土：埋土は２層に分けられた。埋１層中には、炭化物粒や焼土粒が含まれている。

出土遺物：摩滅して文様不明の土器片が５点あるが、図示できるものはなかった。礫石器が２点出土している（第53図６・７）。６は磨凹石で、使用痕跡としての磨面と凹部が両面にみとめられる。７は凝灰岩



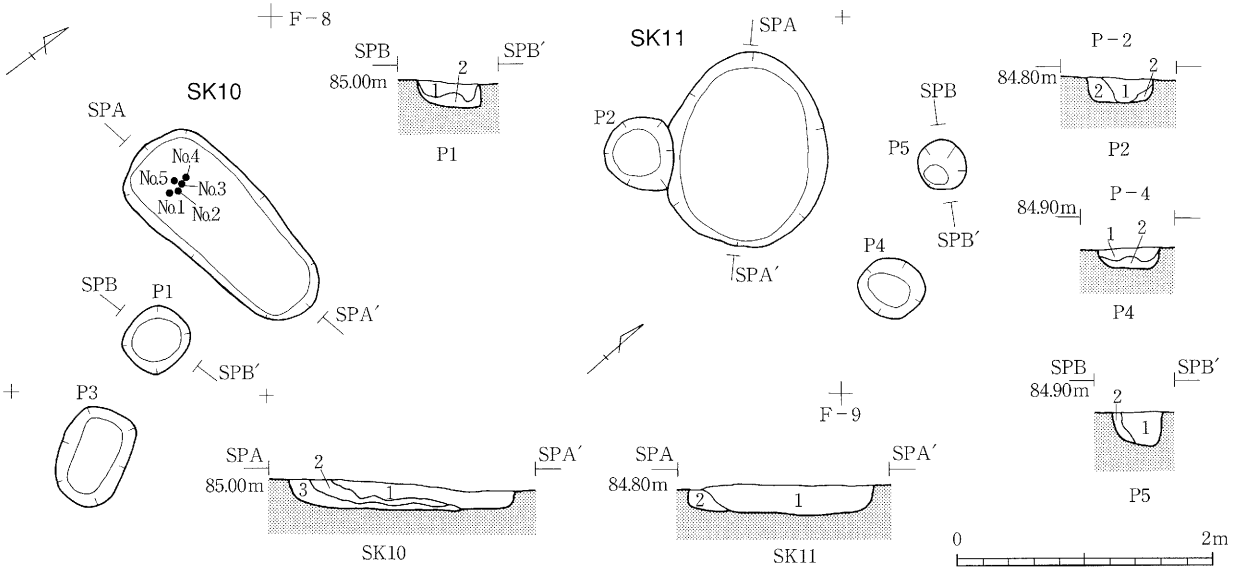
第50図　西区平面図

質の石材をもちいた石製品である。断面形は扁平で、小さな凹凸のある自然面の片面に使用痕跡としての磨面がみられる。磨面は凸部のほぼ全面にひろがっているのにたいし、凹部には見られないことから、幅広の比較的大きな素材を繰り返し研磨した結果と考えられる。大きさ・重さ・形態などからみて、据え置いてなんらかの加工物を研磨したいわゆる「砥石」のようなものと考えたい。

（２）ピット

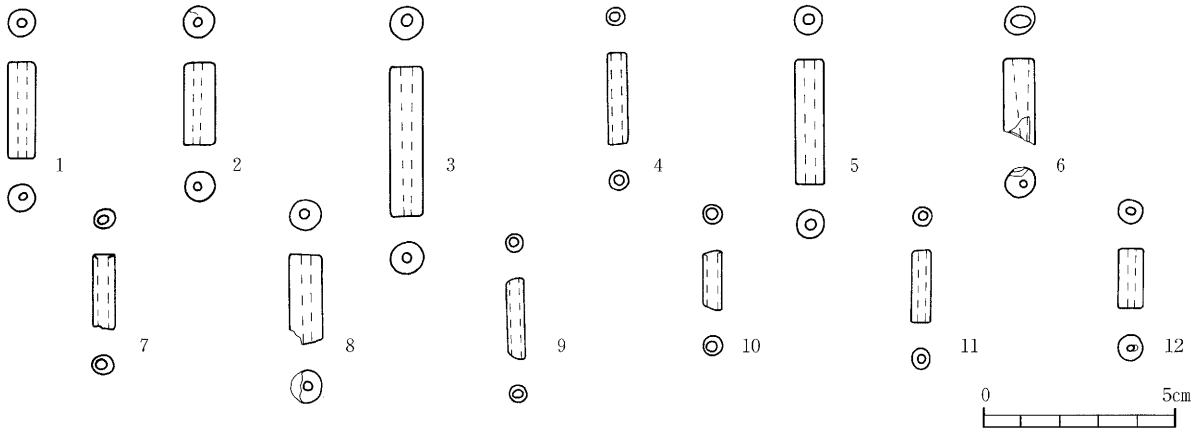
ピットは、東区で２基、西区で５基検出されているだけであり、周辺で検出されている土坑との関係を含めてその性格については不明である（第48・50図）。

出土遺物としては、土器はいずれも著しい摩滅により文様不明のものか、無文土器の細片であり図示できる資料はなかった。石器は５点出土している（第53図）。１・２は石匙で、ともに両側辺から抉りを入れることによって作り出されたつまみ部をもっている。１は、下半部が折れているが、横長剥片を素材としており、打面にこだわらずに刃部を作り出している。２は、刃部が曲線・直線により構成され、尖端部をもたない。３・４はともに二次加工のある剥片素材の石器で、このうち３は、腹面の一部に受熱による焼けはじけがみられる。５は、表土中から出土した凹石で、使用痕跡としての凹部が両面にみとめられる。



機構名	位置（GHd）	平面形	規模（長×短・cm）	壁高（cm）	埋土層位	土　色	土　性	備　考
SK10	F－７区	隅丸長方形	182×76	27	１層			
					２層			
					３層			
SK11	E－８区	楕円形	155×122	25	１層	10YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	10YR4/6　粘土ブロックを混入
					２層	10YR4/4　褐色	粘土質シルト	10YR3/3　混入
Pit 1	F－７区	円形	51×46	17	１層	10YR2/2　黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒混入
					２層	10YR3/4　暗褐色	粘土質シルト	7.5YR5/6　粒子混入
Pit 2	E－８区	円形	58×54	19	１層	10YR3/4　暗褐色	シルト	若干10YR2/2混入
					２層	7.5YR4/6　褐色	粘土質シルト	10YR3/4の土が混入
Pit 3	F－７区	楕円形	80×53	11	１層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	人為的な堆積状況
Pit 4	E－９区	円形	50×47	17	１層	7.5YR3/3　暗褐色	粘土質シルト	
					２層	7.5YR4/4　褐色	粘土質シルト	１層のブロックを若干含む
Pit 5	E－９区	円形	40×36	27	１層	10YR2/3　黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック含む、炭化物若干混入
					２層	7.5YR4/4　褐色	粘土質シルト	地山と類似

第51図　西区土坑・ピット



第52図　土坑出土遺物（１）

図版No.	登録No.	出土地点	層位	器種	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重量（g）	石材	備　　考	写真図版No.
52－1	Kd 1	SK 1	埋土	管玉	25.5	－	7.5	2.4	碧玉		写真20
52－2	Kd 2	SK 1	埋土	管玉	21.5	－	8.2	2.6	碧玉		写真20
52－3	Kd 3	SK 1	埋土	管玉	39.5	－	8.8	5.1	碧玉		写真20
52－4	Kd 4	SK 1	埋土	管玉	21.6	－	4.8	1.2	碧玉		写真20
52－5	Kd 5	SK 1	埋土	管玉	33.2	－	7.7	3.4	碧玉		写真20
52－6	Kd 6	SK 1	確認面	管玉	22.6	－	8.4	1.1	碧玉		写真20
52－7	Kd 7	SK10	埋土	管玉	19.9	－	5.3	1.0	碧玉		写真20
52－8	Kd 8	SK10	埋土	管玉	24.2	－	8.5	3.0	碧玉		写真20
52－9	Kd 9	SK10	埋土	管玉	21.7	－	4.9	0.9	碧玉		写真20
52－10	Kd10	SK10	埋土	管玉	16.0	－	5.0	0.6	碧玉		写真20
52－11	Kd11	SK10	埋土	管玉	19.3	－	5.2	1.0	碧玉		写真20
52－12	Kd12	SK10	埋土	管玉	16.0	－	6.8	1.3	碧玉		写真20
53－1	Ka 4	Pit 4	埋土	石匙	68.6	34.1	11.0	21.9	珪化凝灰岩		写真21
53－2	Ka 1	Pit 1		石匙	49.2	50.0	6.5	8.9	珪質頁岩		写真21
53－3	Ka 3	Pit 3			49.1	34.8	12.5	19.3	珪質頁岩		写真21
53－4	Ka 2	Pit 1	埋土		65.5	31.5	17.0	26.5	デイサイト		写真21
53－5	Kc 2	東区	表土	凹石	136.1	67.5	33.5	461.0	安山岩		写真22
53－6	Kc 1	SK11		凹石（磨）	124.1	77.8	34.4	500.0	安山岩		写真22
53－7		SK11			285.0	153.0	28.9	1,600.0			写真22

土坑出土遺物観察表

（３）遺構外出土遺物

遺構外の出土遺物としては、土器はいずれも著しい摩滅により文様不明のものか、無文土器の細片であり図示できる資料はなかった。第53図５は、表土中から出土した凹石で、使用痕跡としての凹部が両面にみとめられる。

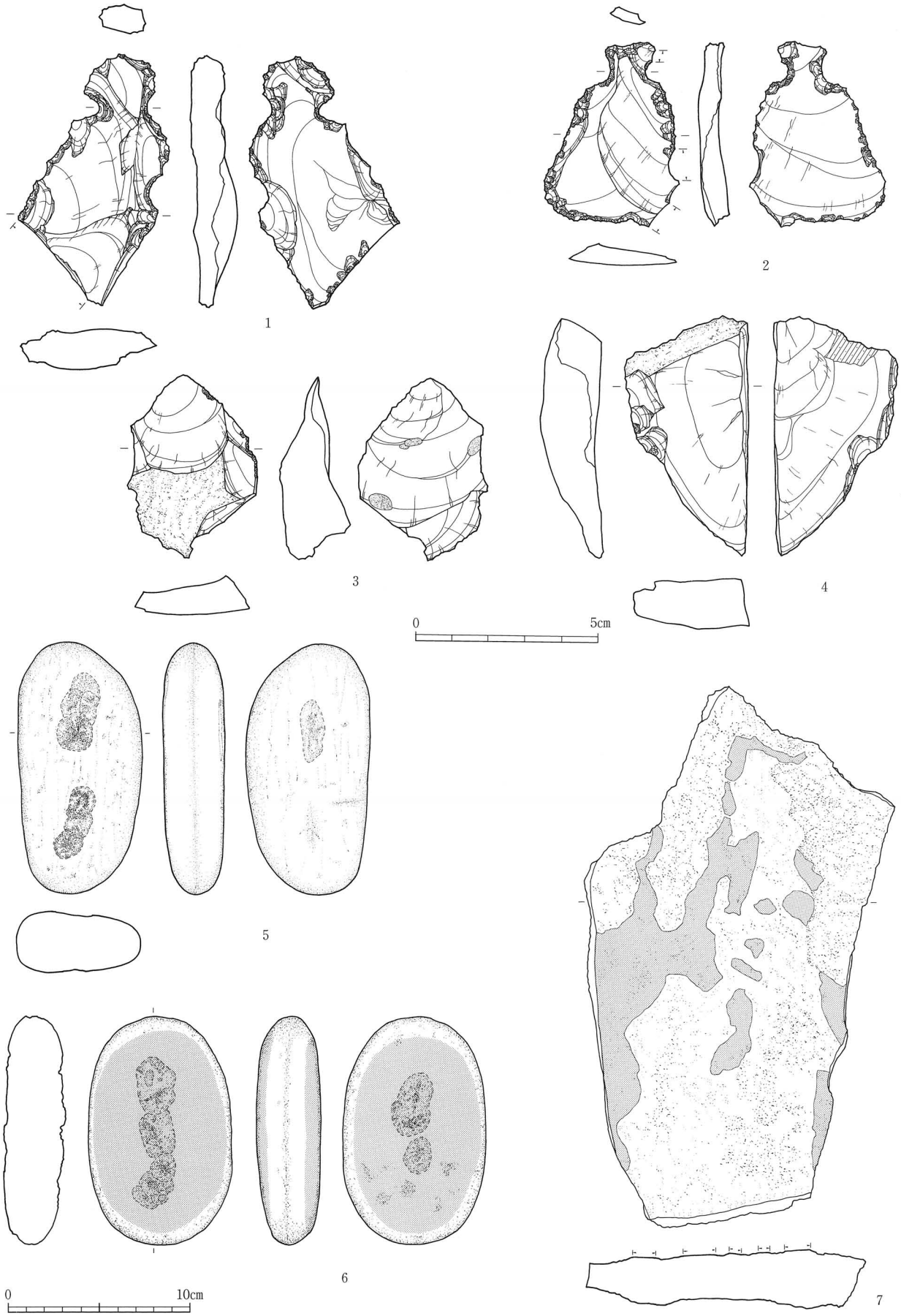
２．まとめ

（１）２次調査は、土地利用計画の変更に伴い実施されたもので、調査区は１次調査区東側部分を挟んでいる。測量基準点については１次調査時に設定した測量杭を基準としている。

（２）今回の調査で発見された遺構は、土坑12基、ピット５基である。これらの土坑の形態についてみると、SK11が楕円形を呈する以外は隅丸長方形のものである。規模については、長軸が２ｍ以上となるSK１・４以外のものは長軸1.3～1.8mの中におさまる。主軸方位については、真北から70°～90°東に振れているグループと、50°～65°東に振れているグループに大別されるが、真北からみるとほとんど東西方向に並んでいるといえる。

土坑の形態、規模、長軸方向、配列などにある程度規則性がみられることや、大小のブロック状の土壌が混入しているという埋土状況などから、これらの土坑については、弥生時代の土壙墓と考えられる。

（３）土坑からの出土遺物は、SK１・10の２基の土坑から管玉がそれぞれ６点ずつ出土した以外、SK11からの礫石器がある程度である。これ以外の遺物がないことから今回発見された土壙墓が弥生時代の中でどの時期に位置付けられるかは不明である。



第53図　土坑出土遺物（２）

Ⅰ　八木山緑町遺跡（第１・２次調査）

八木山緑町遺跡の周辺において弥生時代の墓域が発見されている遺跡としては、丘陵南東部の沖積地にある下ノ内浦遺跡から後期の土壙墓と土器棺墓が、西台畑遺跡から桝形囲式期の土器棺墓などが発見されている。

（４）１次調査において、弥生時代後期の天王山式段階に比定される時期と思われる竪穴住居跡２軒が発見されていたことから、今回の土壙墓とともに八木山丘陵上における弥生時代の様相の一端があきらかになった。

引用参考文献

佐藤・斎野（1982）　「北前遺跡」『仙台市文化財調査報告書第36集』

渡部　紀（1989）　「北前遺跡－第３次調査報告書－」『仙台市文化財調査報告書第129集』

熊谷・主浜（1992）　「土手内－土手内遺跡・土手内窯跡・土手内横穴Ｂ地点発掘調査報告書－」『仙台市文化財調査報告書第165集』

工藤哲司（1996）　「中在家南遺跡他」『仙台市文化財調査報告書第213集』

宮城県教育委員会（1969）　「埋蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚－」『宮城県文化財調査報告書第19集』

宮城県教育委員会（1986）　「小梁川遺跡遺物包含層土器編」『宮城県文化財調査報告書第117集』

丹羽　茂（1981）　「大木式土器」『縄文文化の研究４』雄山閣出版

縄文文化検討会（1988）　『東北地方の弥生土器の編年について』

弥生時代研究会（1990）　『「天王山式期をめぐって」の検討会記録集』

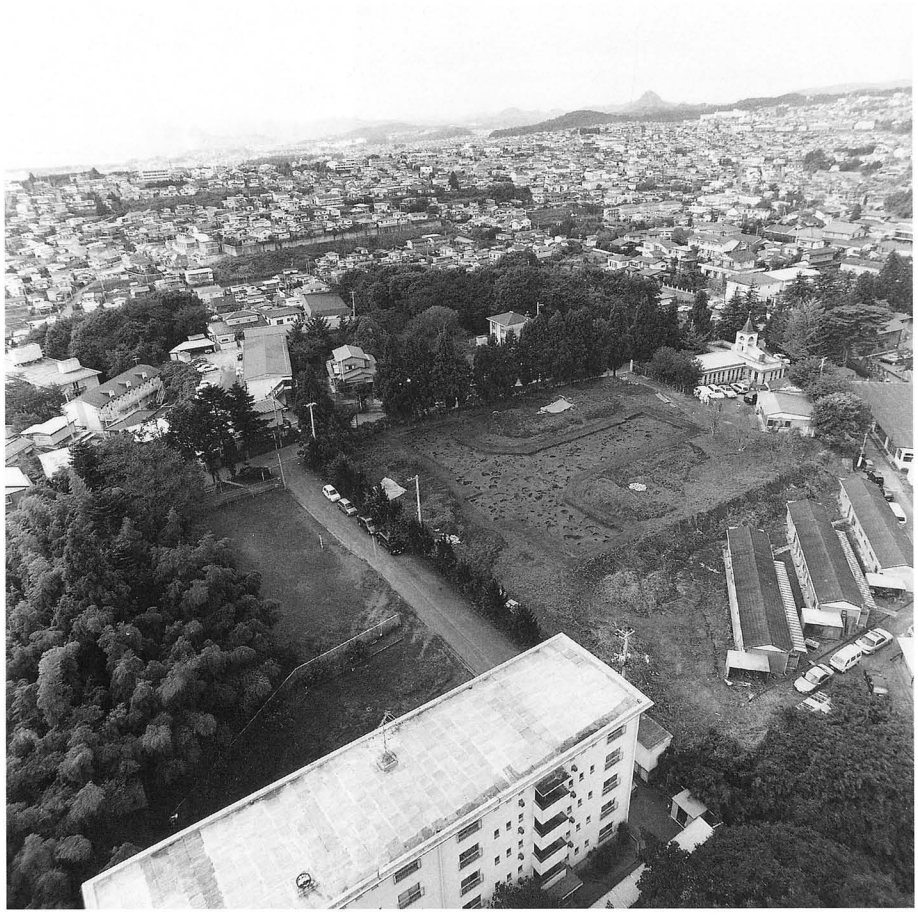


写真１
遺跡全景
東方上空より

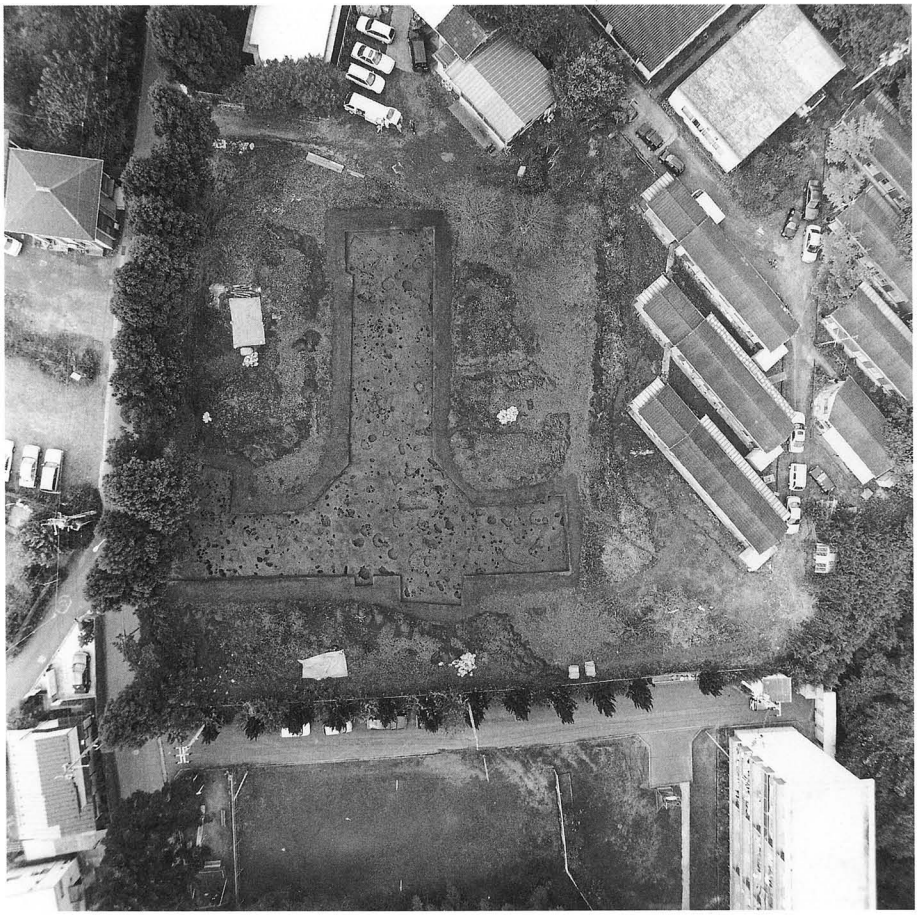


写真２
１次調査区全景

写真３
１次調査区全景
（Ⅰ～Ⅱ区）

写真４
１次調査区全景
（Ⅱ区）

写真５
１次調査区全景
（Ⅲ区）

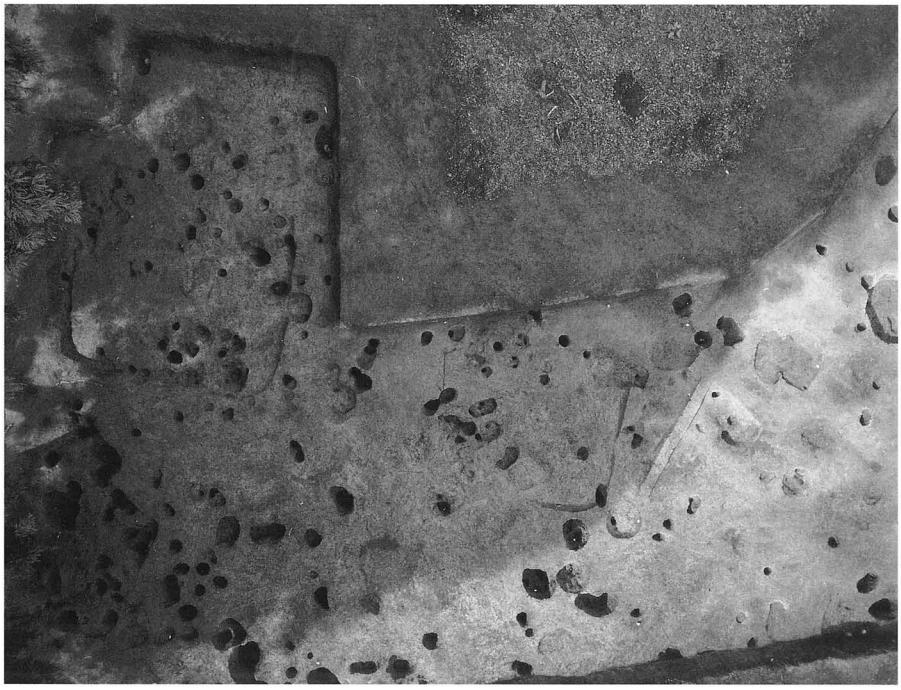


写真６
SI01・04・07
竪穴住居跡

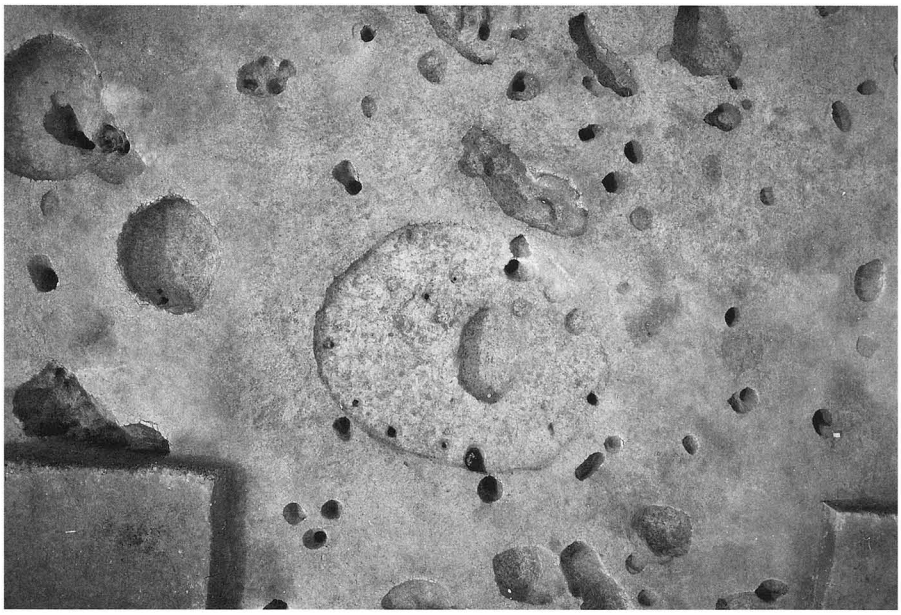


写真７
SI02
竪穴住居跡

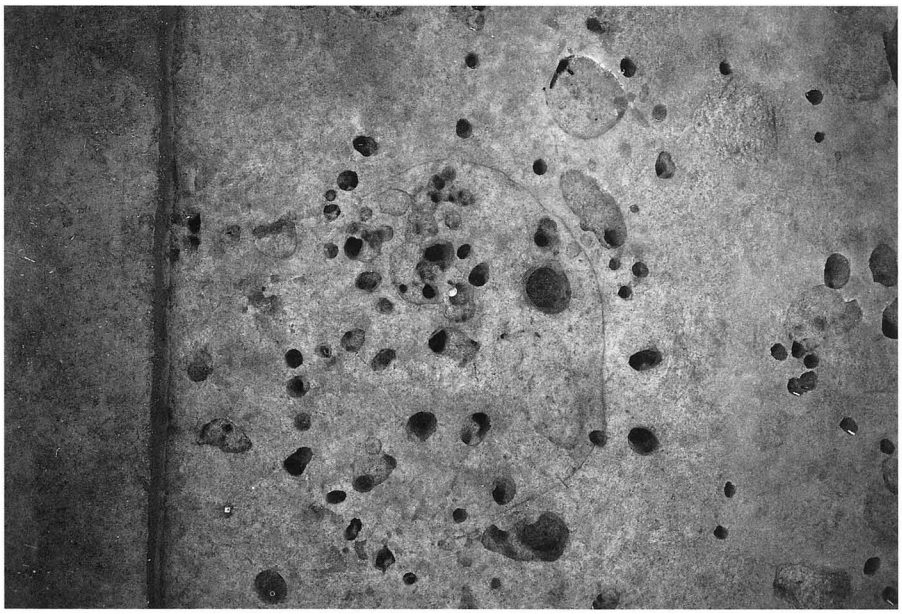


写真８
SI03
竪穴住居跡

写真９　調査前状況（西より）

写真10　調査前状況（南より）

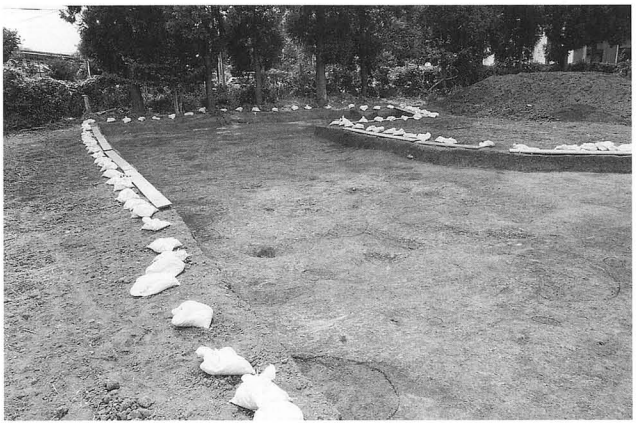


写真11　Ⅰ区遺構検出状況（東より）

写真12　Ⅰ区完掘全景（東より）

写真13　Ⅱ区遺構検出状況（南より）

写真14　Ⅱ区完掘全景（南より）

写真15　Ⅲ区遺構検出状況（西より）

写真16　Ⅲ区完掘全景（西より）

写真17　Ⅰ・Ⅱ区完掘全景（北より）

写真18　Ⅱ・Ⅲ区完掘全景（東より）

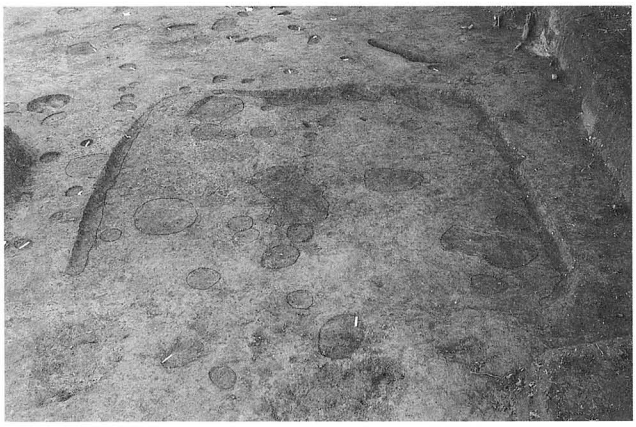


写真19　SI01床面検出状況（西より）

写真20　SI01床面完掘全景（東より）

写真21　SI01掘り方検出状況（西より）

写真22　SI02床面検出状況（東より）

写真23　SI02床面完掘全景（北より）

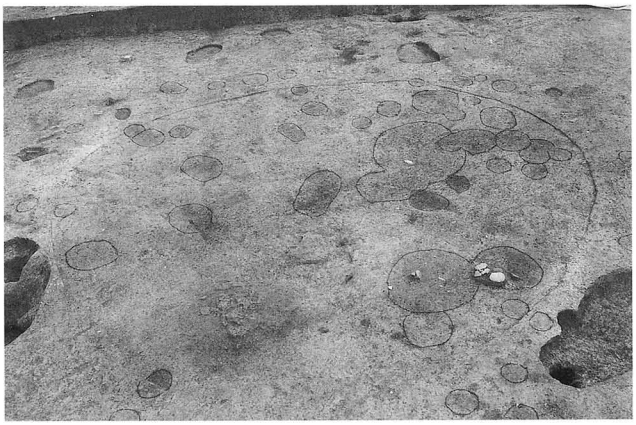


写真24　SI03床面検出状況（北より）

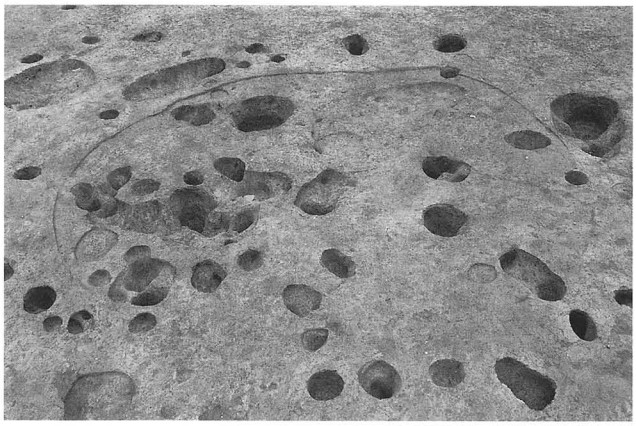


写真25　SI03床面完掘全景（南より）

写真26　SI04床面検出状況（東より）

写真27　SI04・SK2石棒出土状況（南より）

写真28　SI04床面完掘全景（東より）

写真29　SI07床面完掘全景（西より）

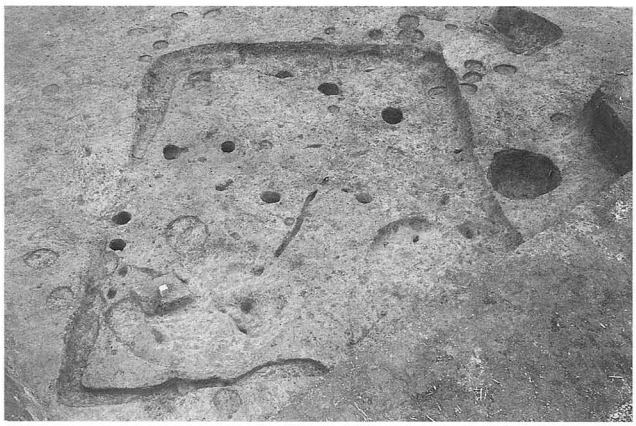


写真30　SI08床面完掘全景（西より）

写真31　SI09土器出土状況（南より）

写真32　SI09床面完掘全景（西より）

写真33　Ⅲ区完掘全景（東より）

写真34　SK47～52全景（北より）

写真35　SK16・17・18全景（東より）

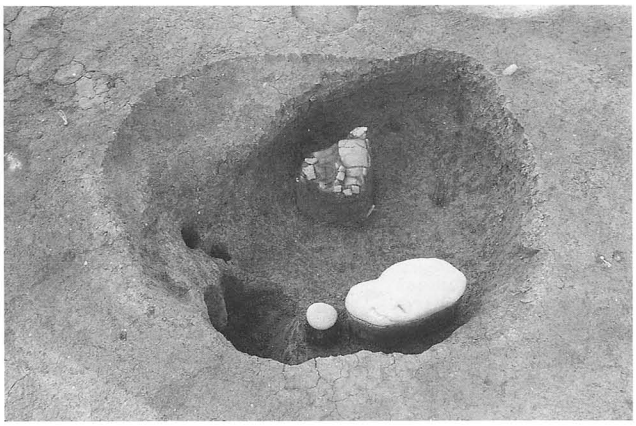


写真36　SK17全景（東より）

写真37　SK21全景（北より）

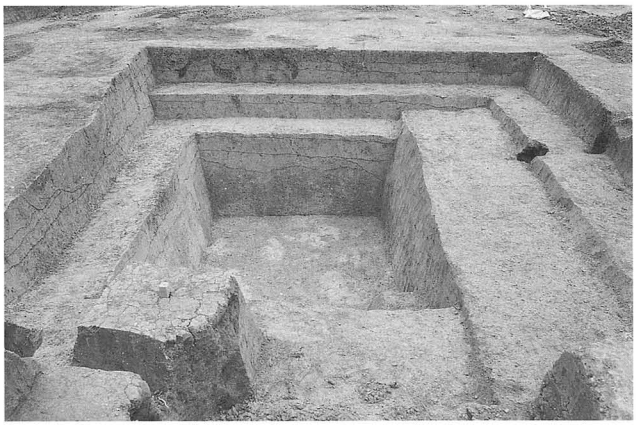


写真38　下層調査区全景（東より）

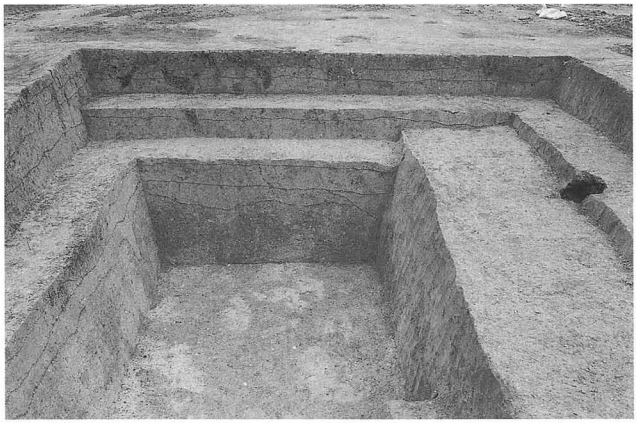


写真39　下層調査区西壁断面

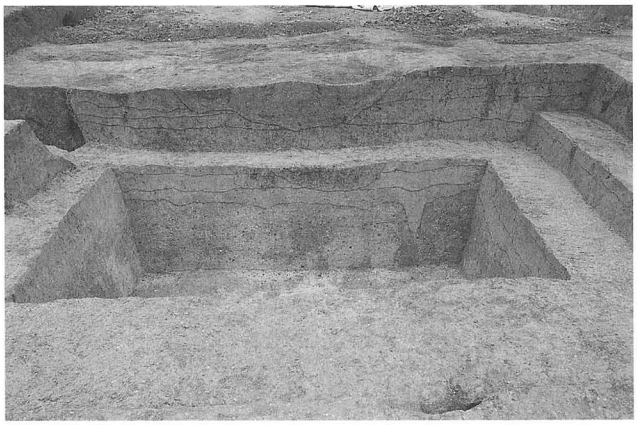


写真40　下層調査区南壁断面

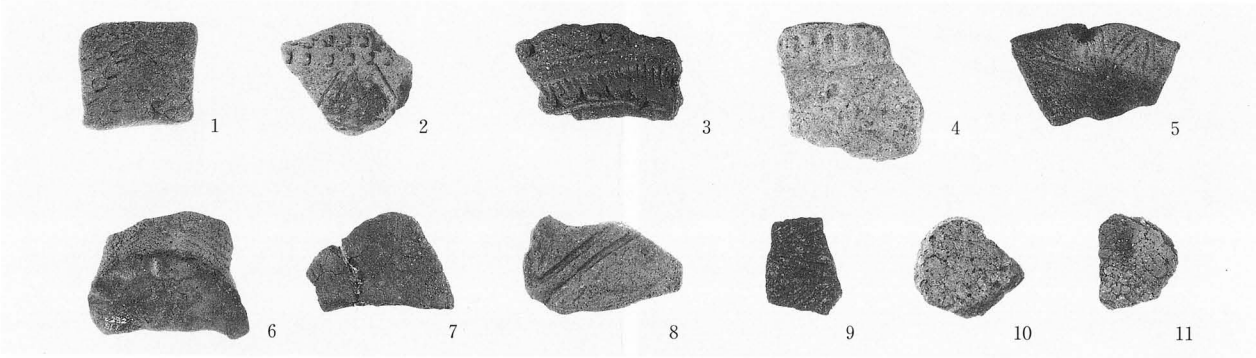


写真41　SI01出土土器（第７図）

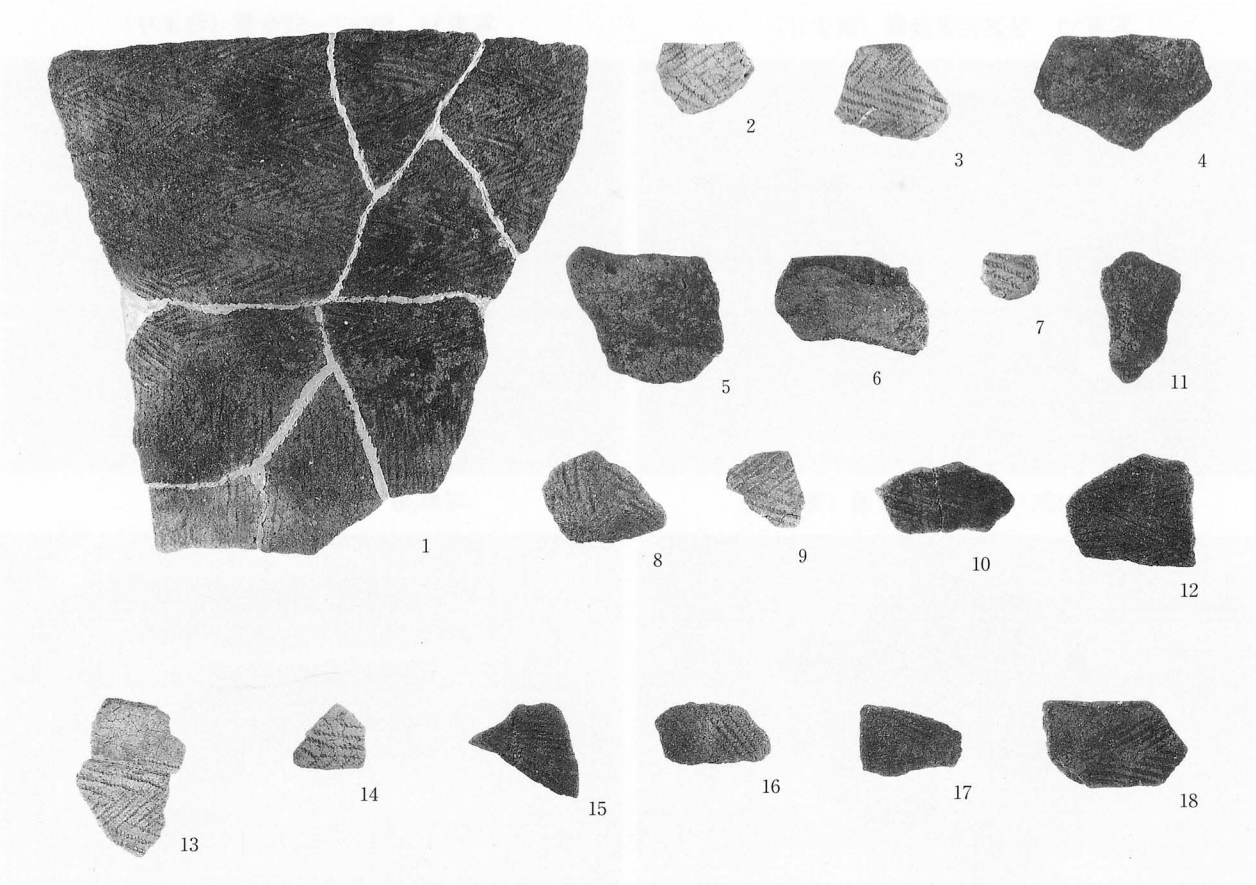


写真42　SI02出土土器（第９図）

写真43　SI03出土土器（第11・15・17図）

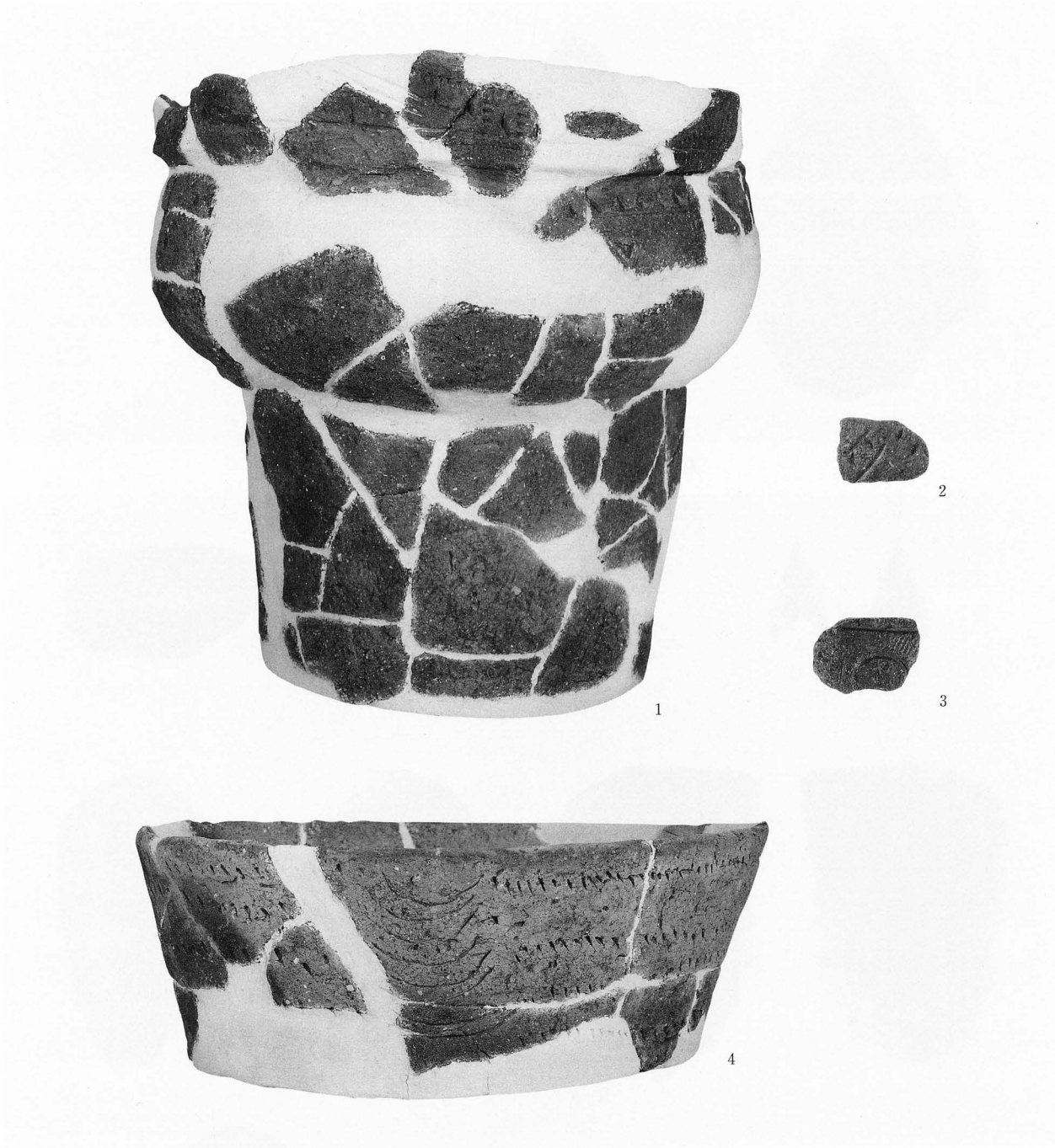


写真44　SI09出土土器（第19図）

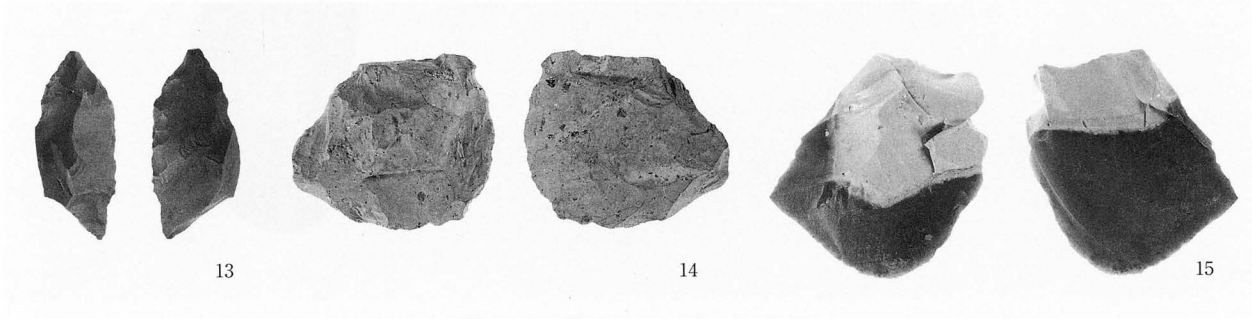


写真45　SI01出土石器（１）（第７図）

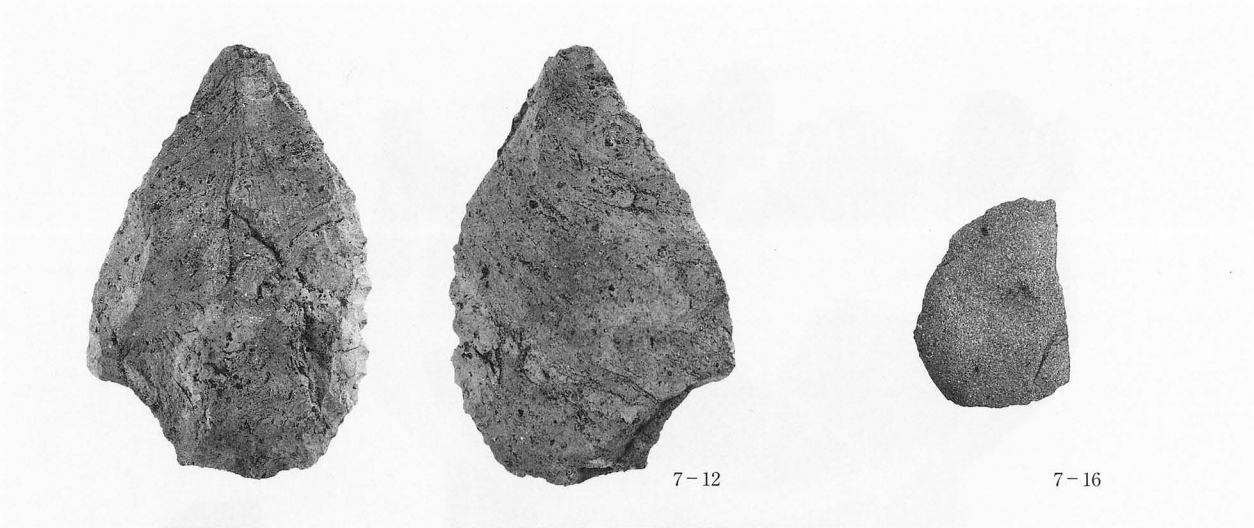


写真46　SI01出土石器（２）第７図

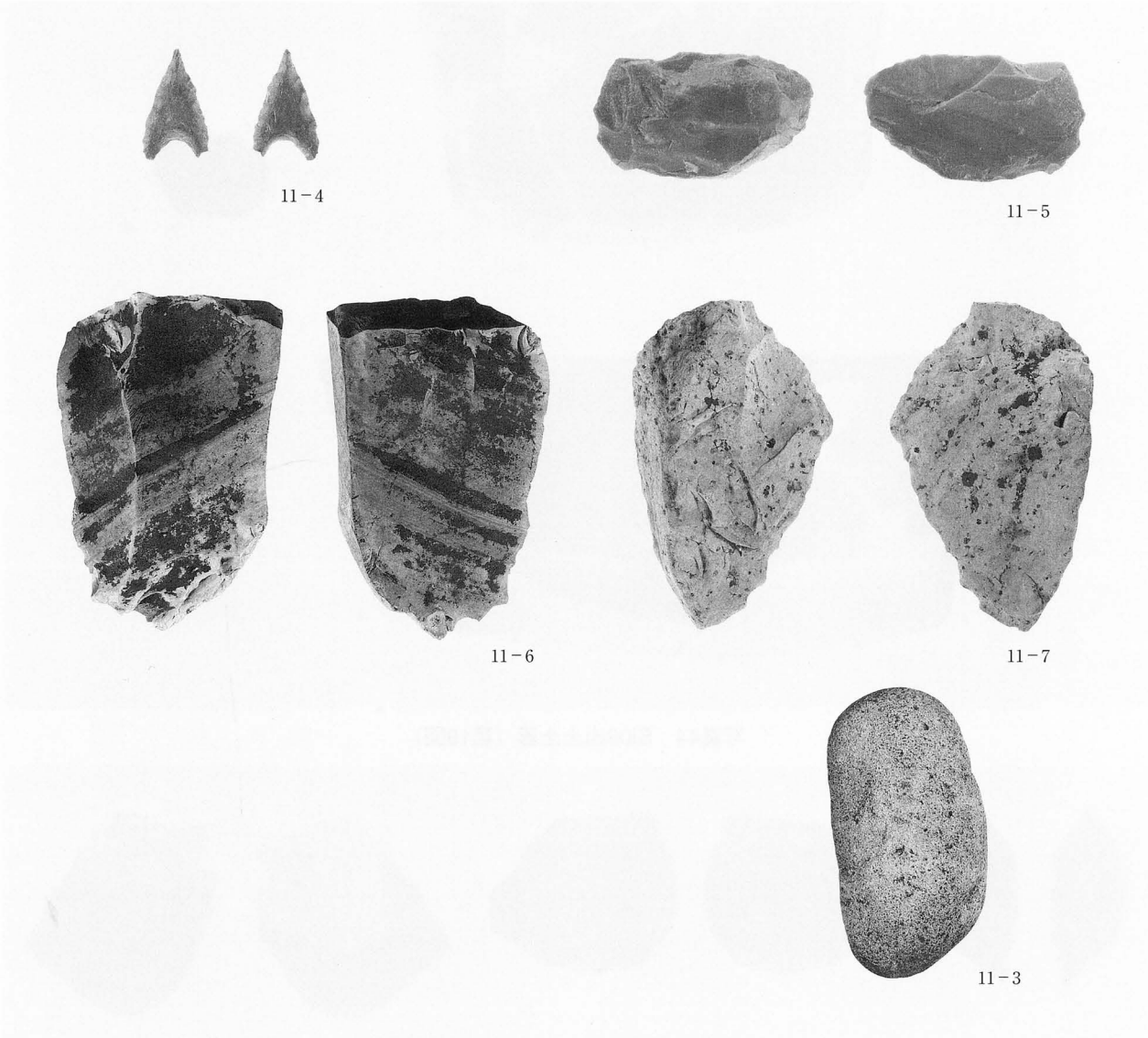


写真47　SI03出土石器　第11図

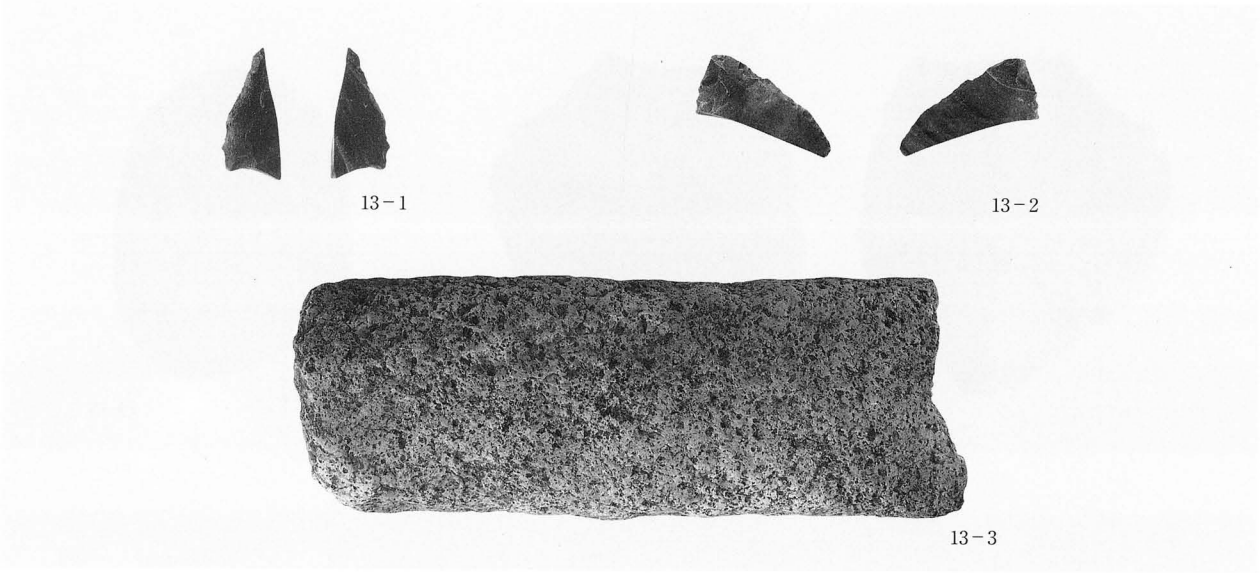


写真48　SI04出土石器　第13図

写真49　SI07出土石器　第15図

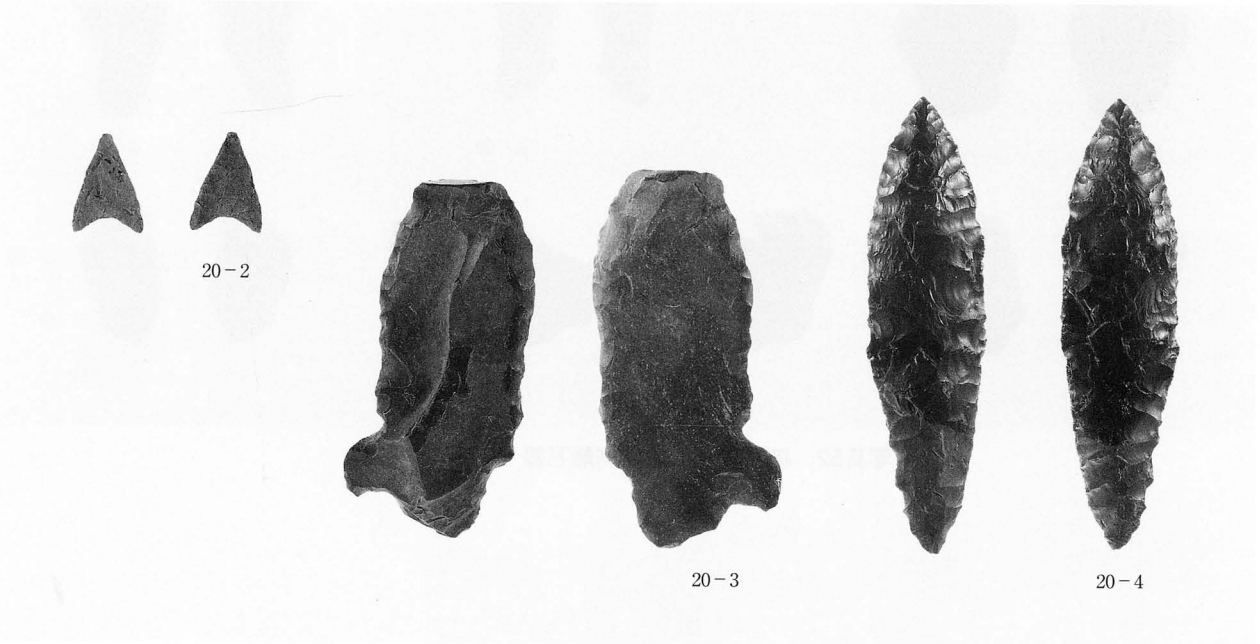


写真50　SI01出土石器（１）第20図

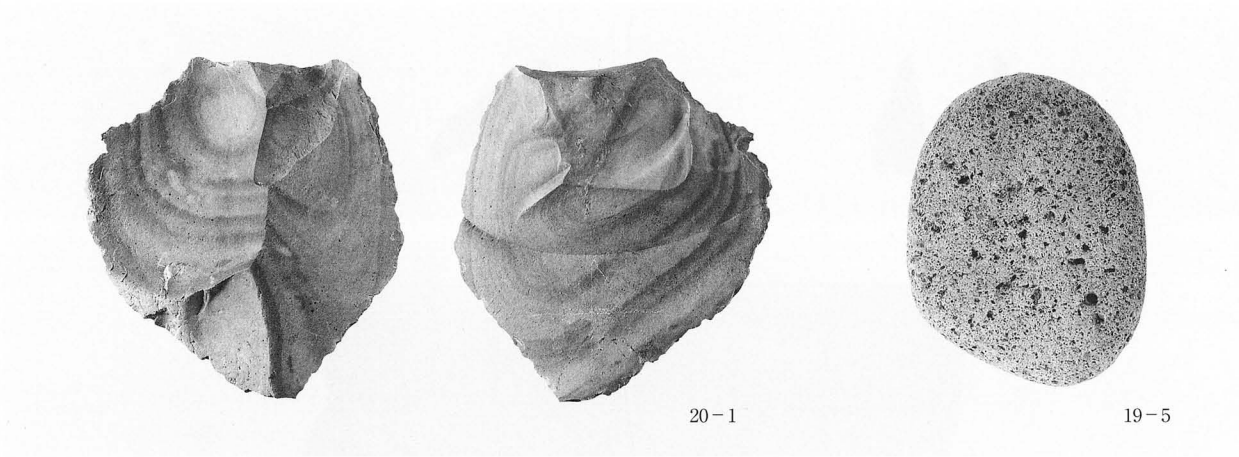


写真51　SI09出土土器（２）第19・20図

写真52　接合資料・両極剥離石器　第40・41図

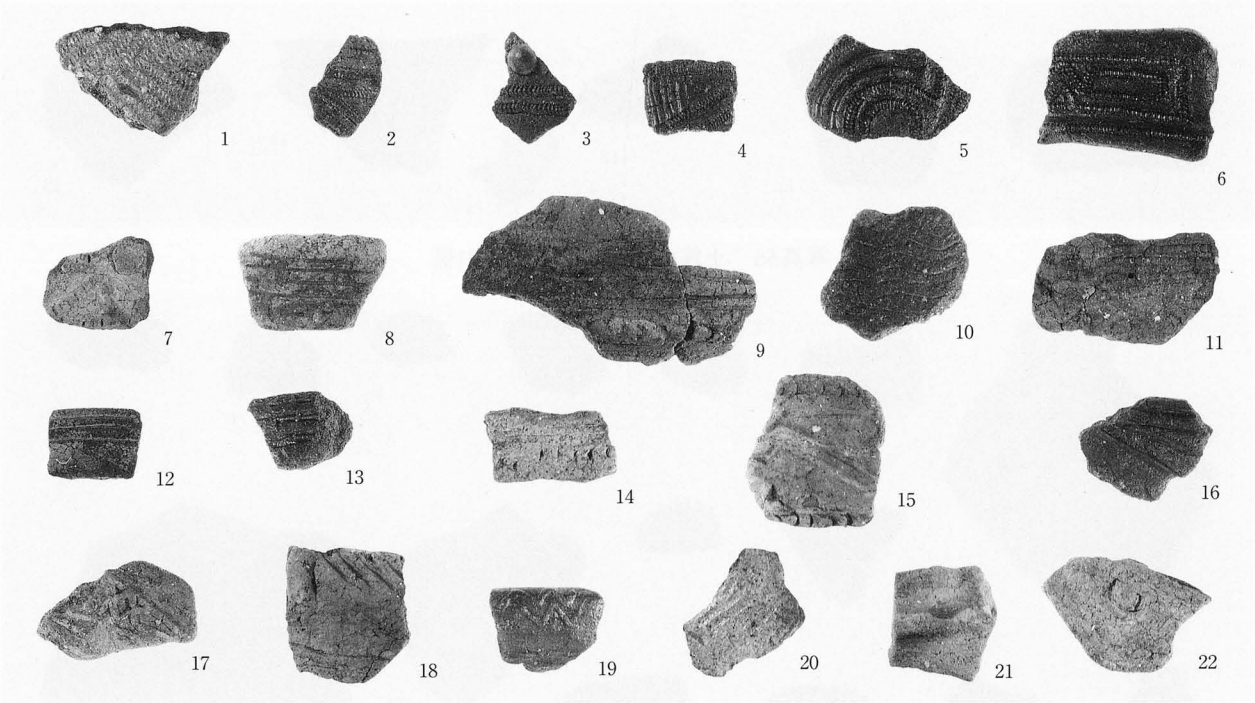


写真53　土坑出土土器（１）第30図

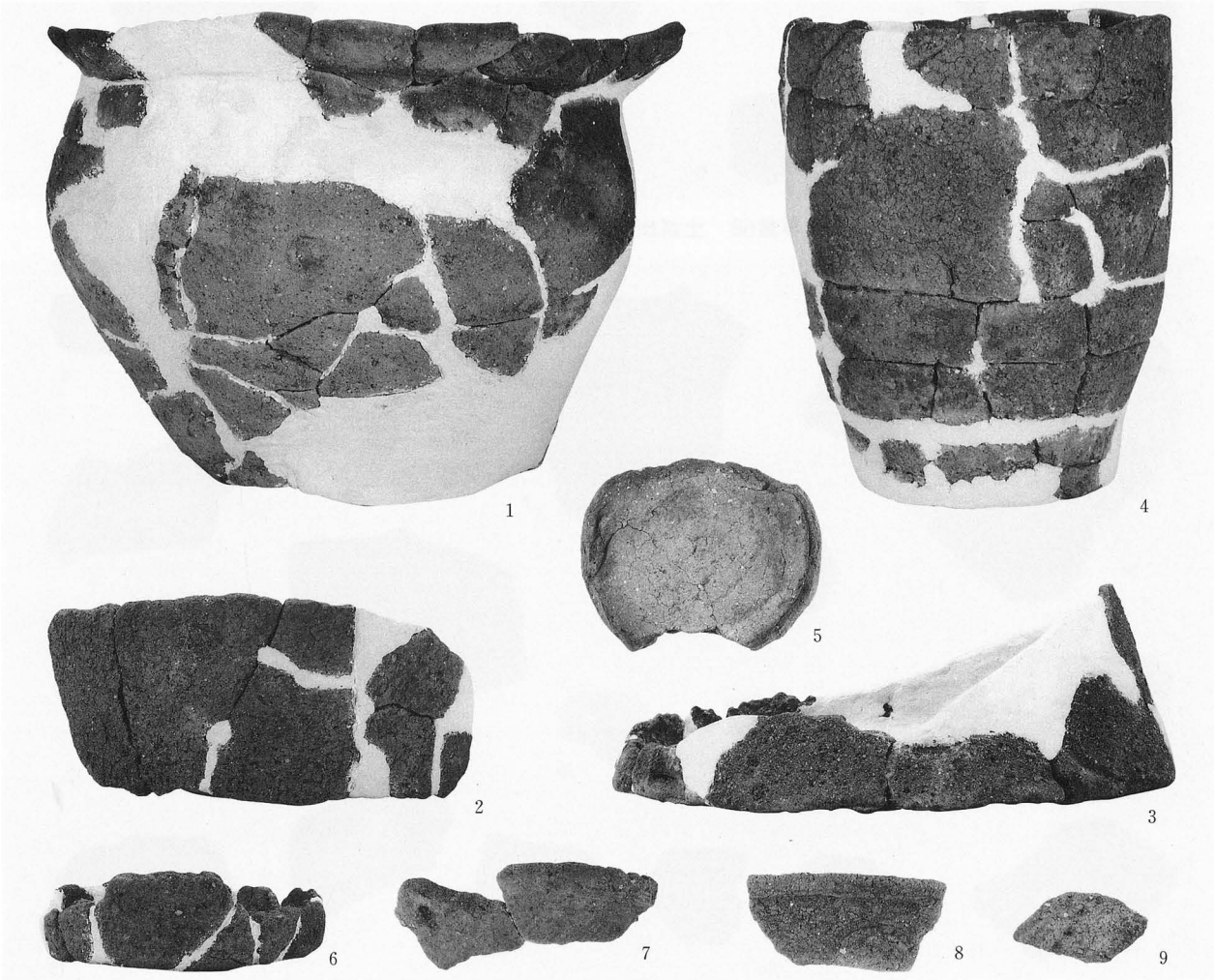


写真54　土坑出土土器（２）第31図

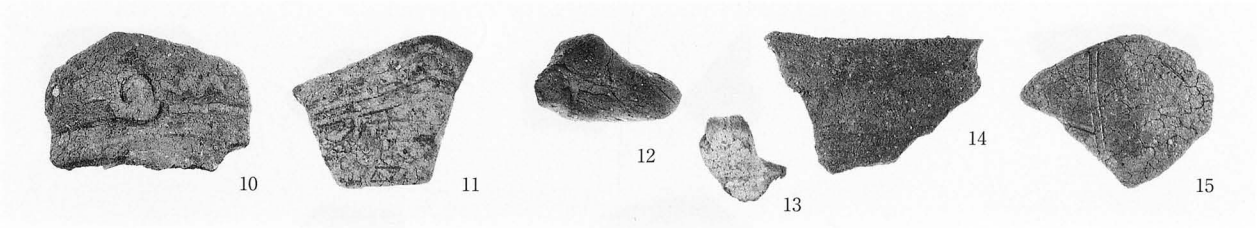


写真55　土坑出土土器（２）第31図

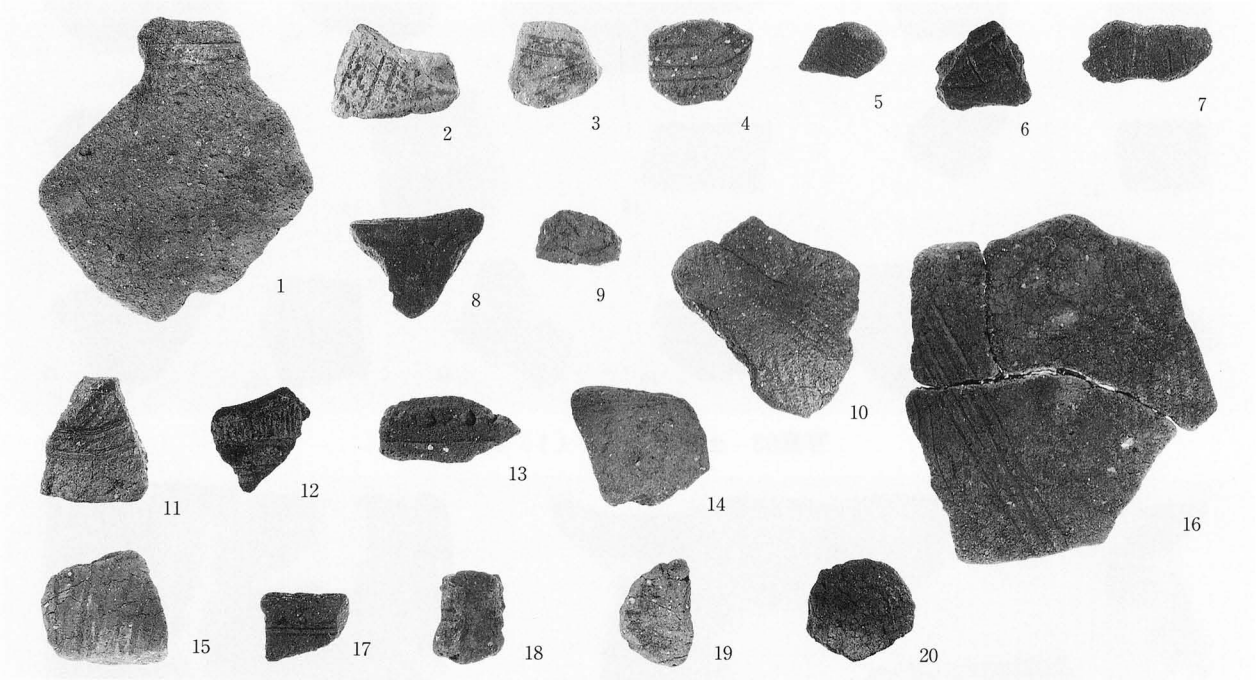


写真56　土坑出土土器（３）第32図

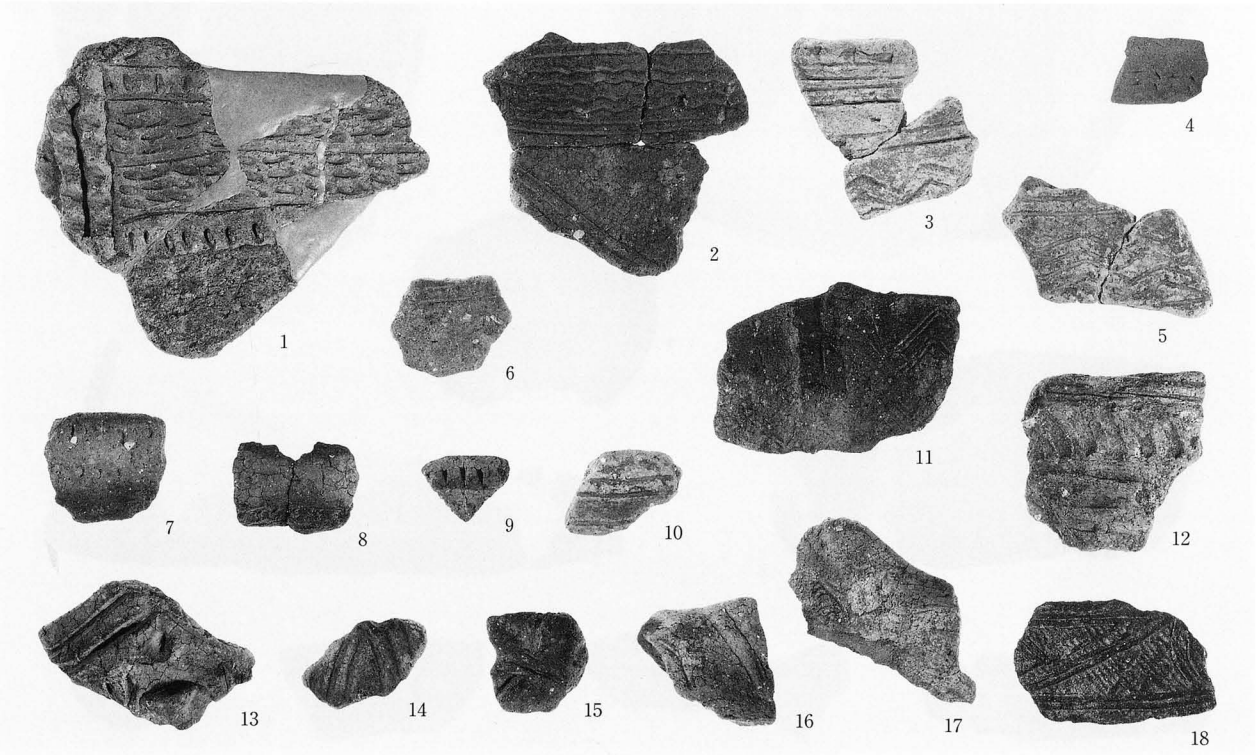


写真57　基本層出土土器　第42図

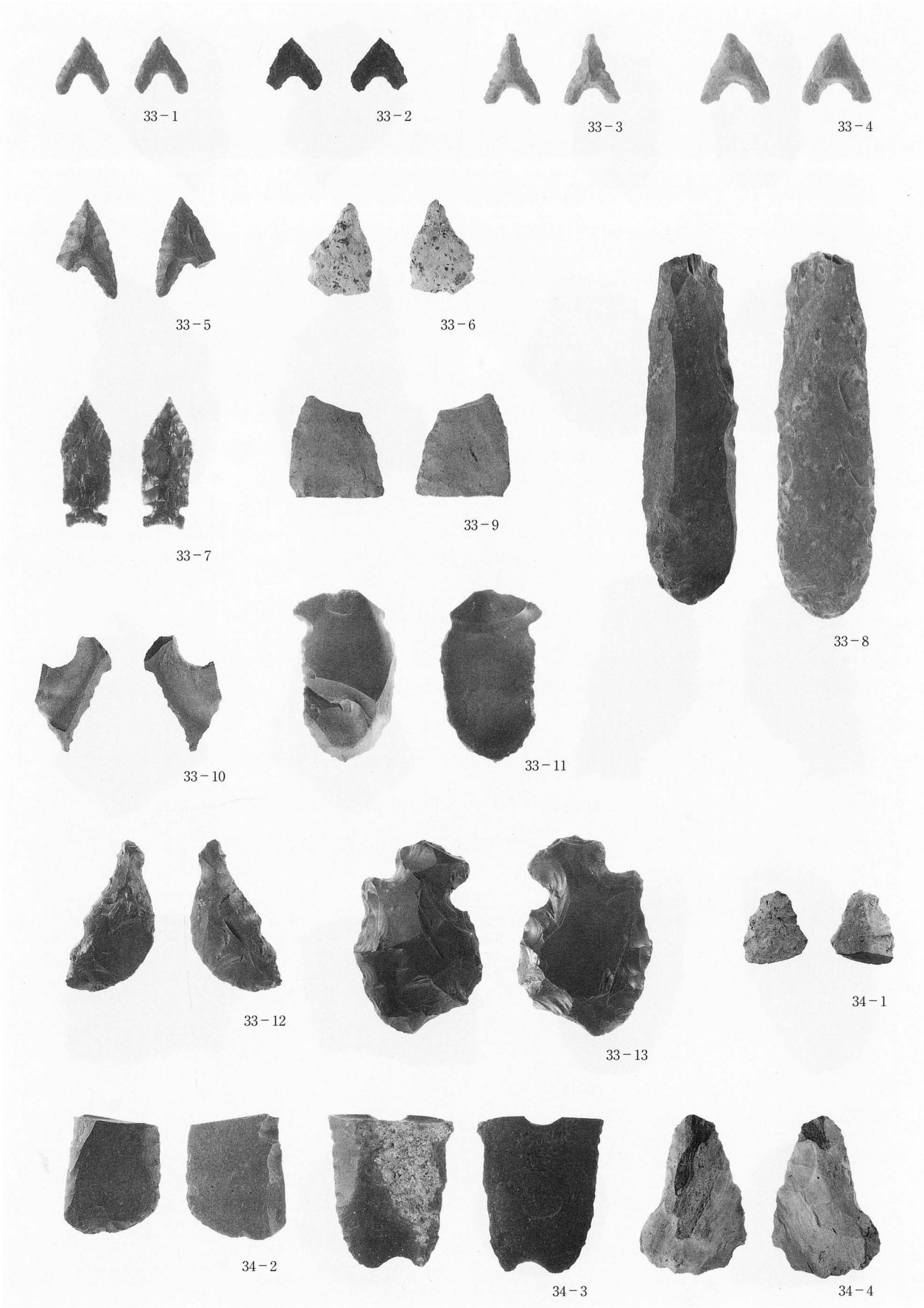


写真58　土坑出土石器（１）第33・34図　剥片石器　S＝2/3

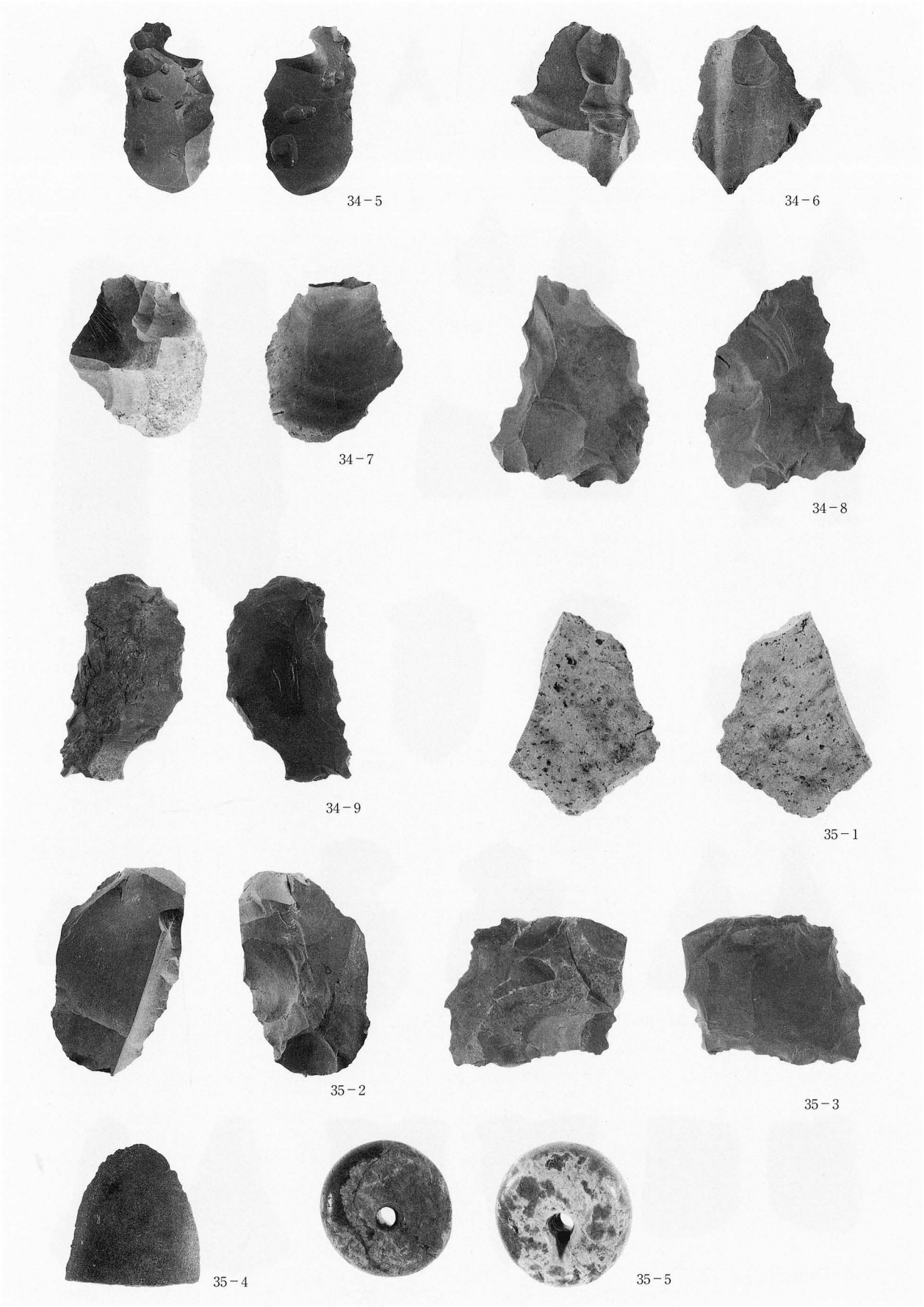


写真59　土坑出土石器（２）第34・35図　剥片石器　S＝2/3

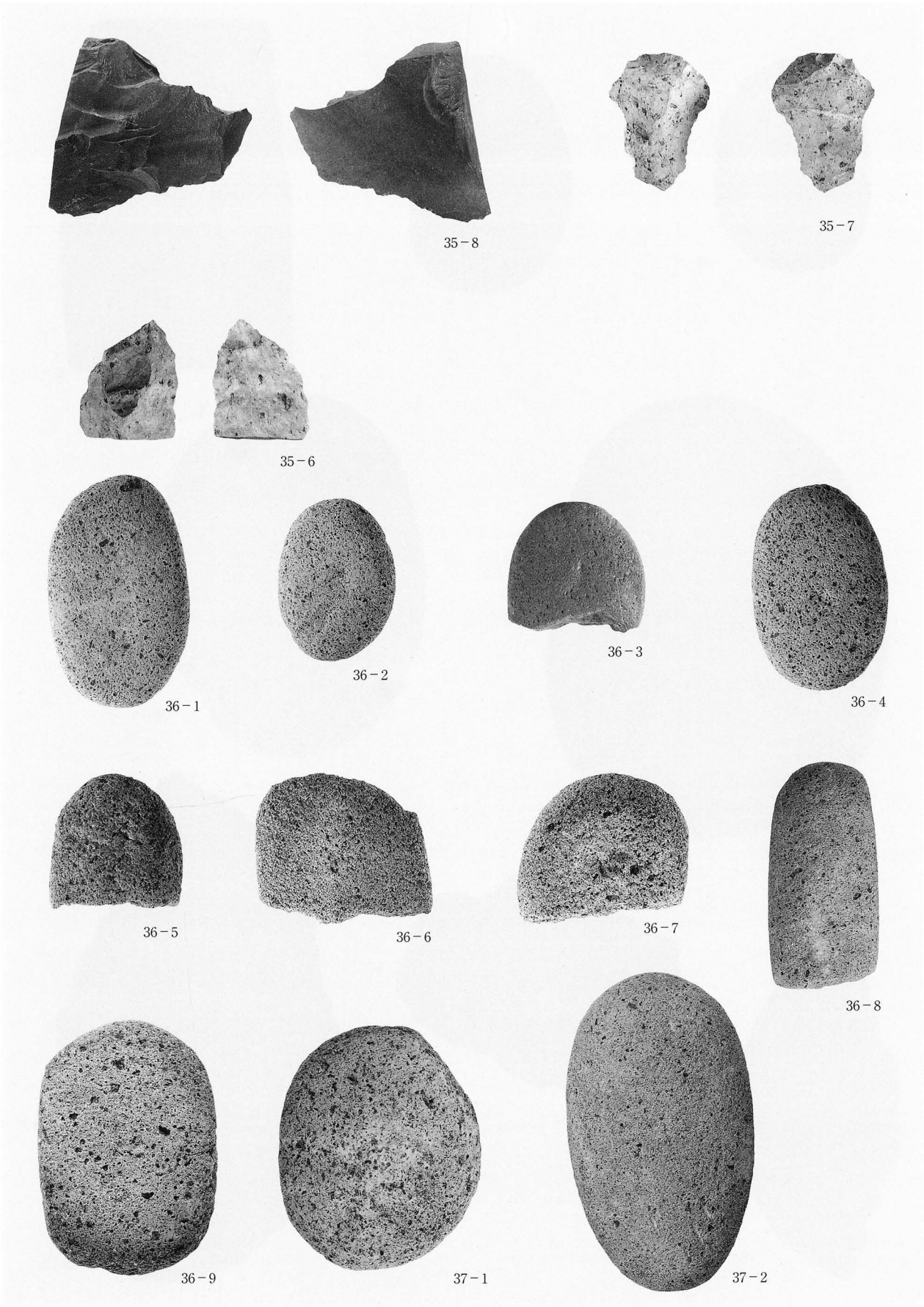


写真60　土坑出土石器（３）第35・36・37図　剥片石器　S＝2/3　礫石器　S＝1/3

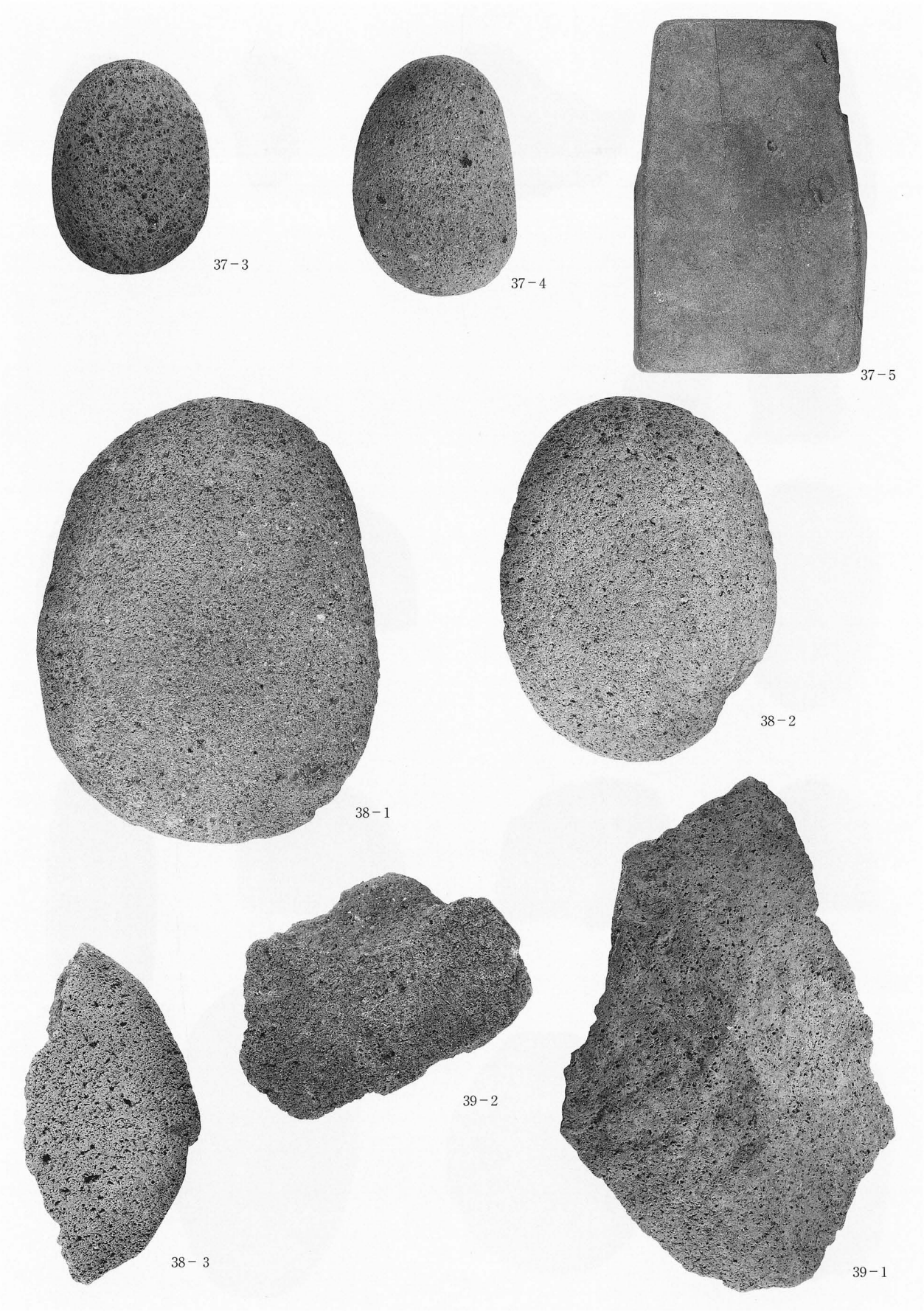


写真61　土坑出土石器（４）

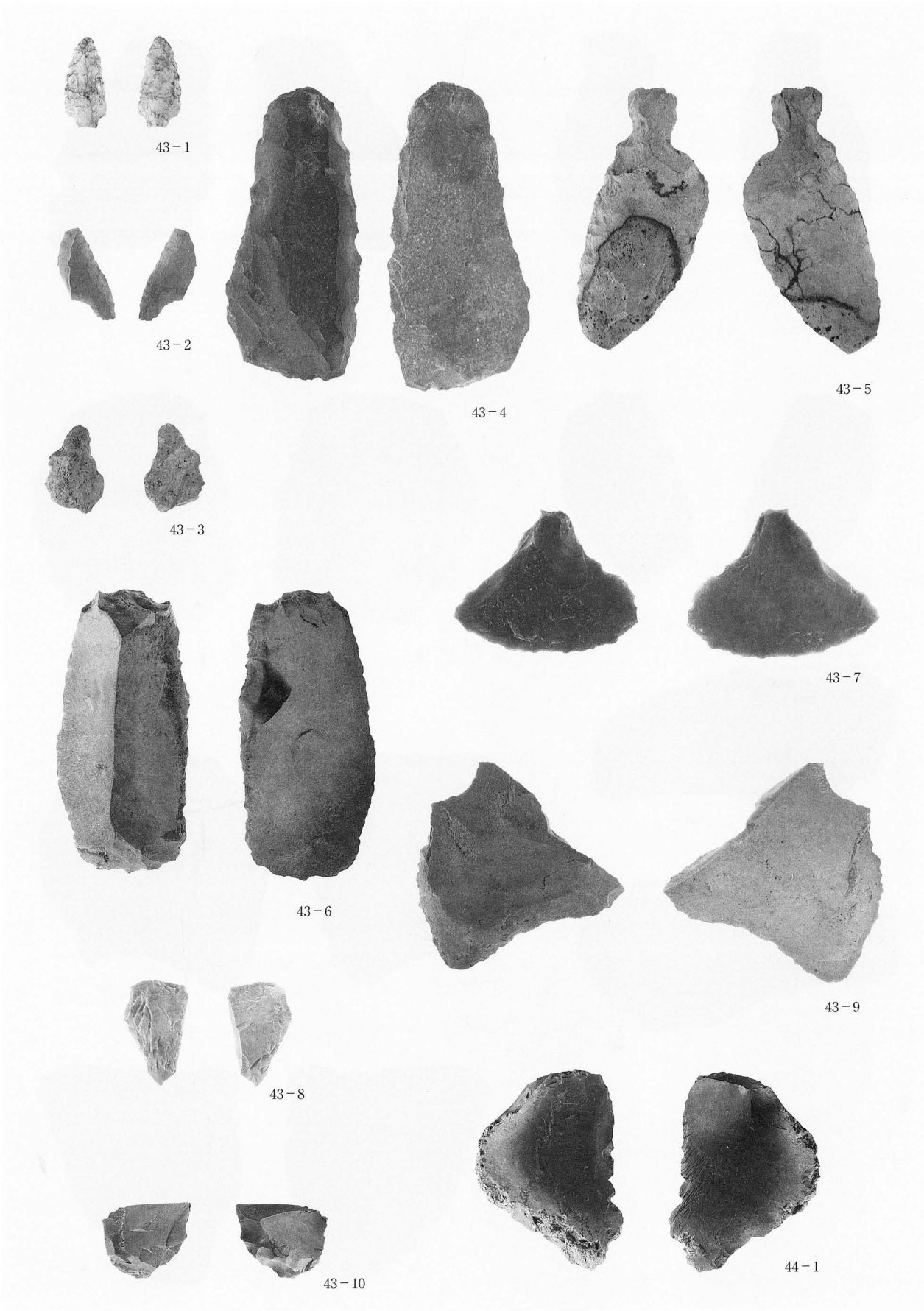


写真62　基本層出土石器（１）第43・44図　Ｓ＝2/3

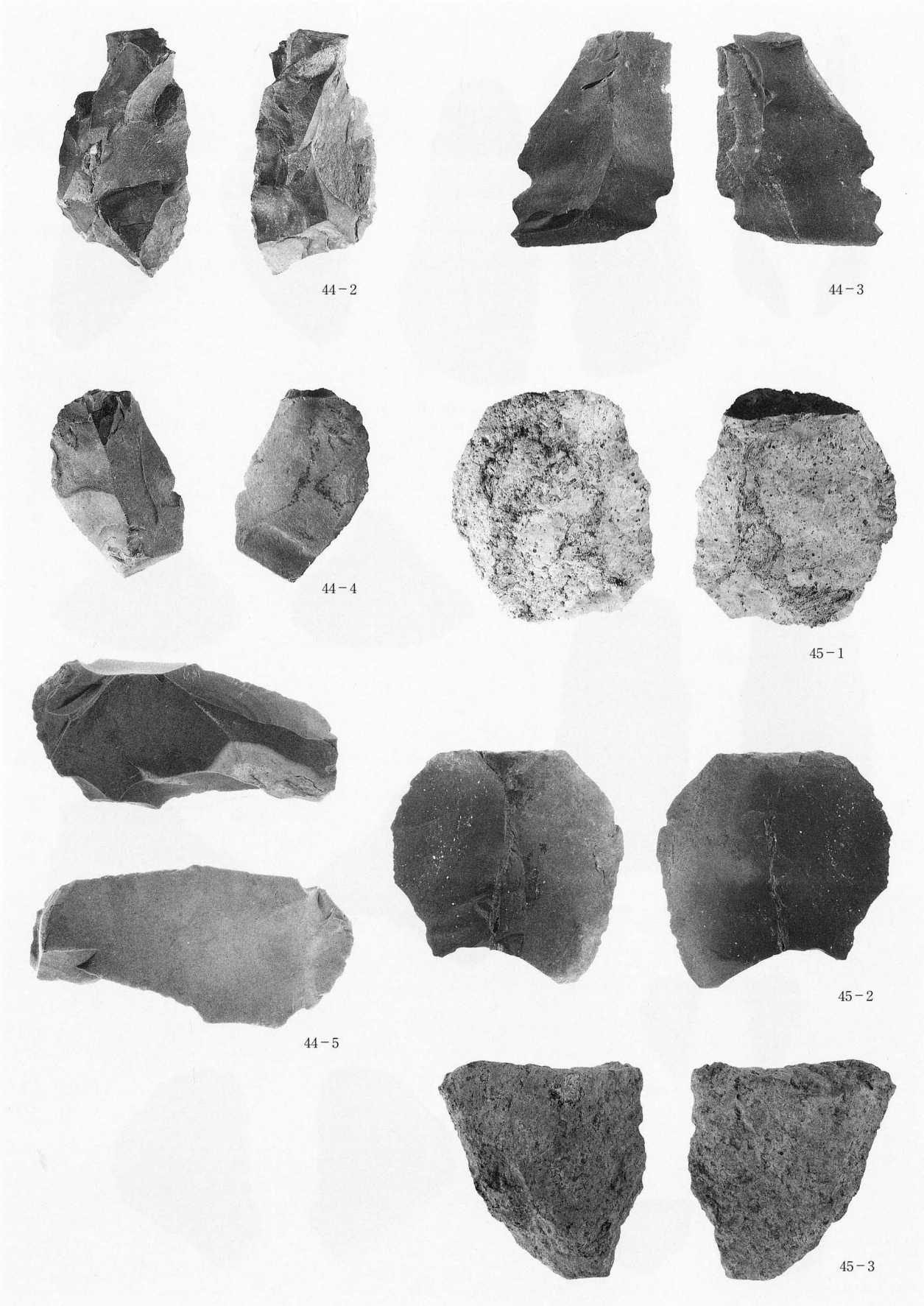
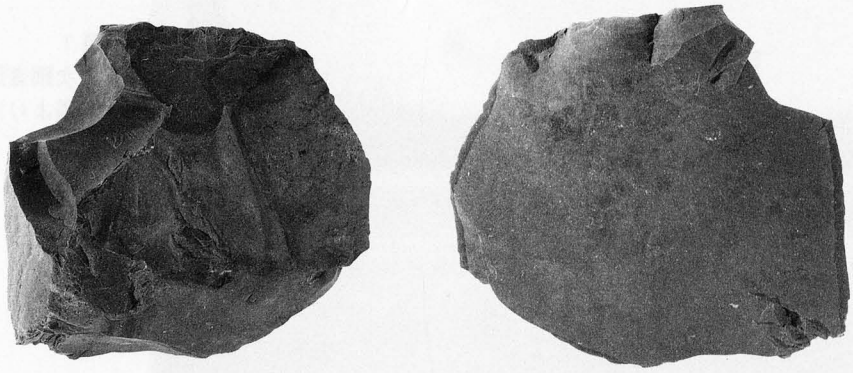
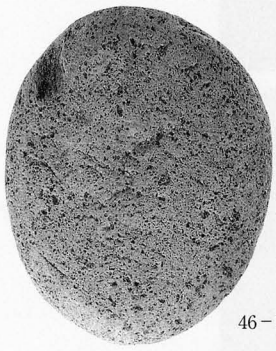


写真63　基本層出土石器（２）第44・45図　Ｓ＝2/3

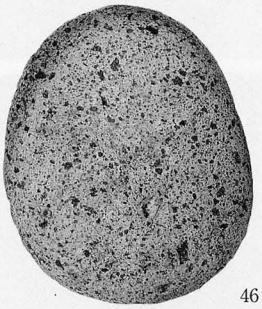


45－3

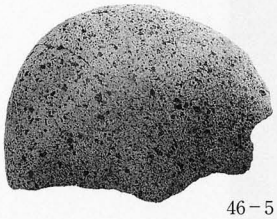


46－1

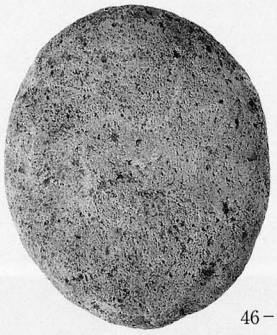
46－2



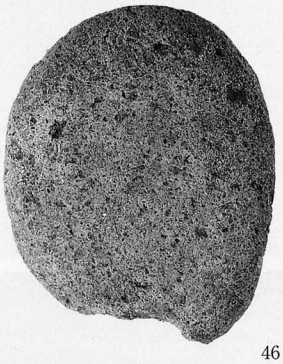
46－3



46－5



46－4



46－6

46－7

46－8

写真64　基本層出土石器（３）第45・46図

写真１
２次調査区全景
（西より）

写真２
２次調査東区全景
（西より）

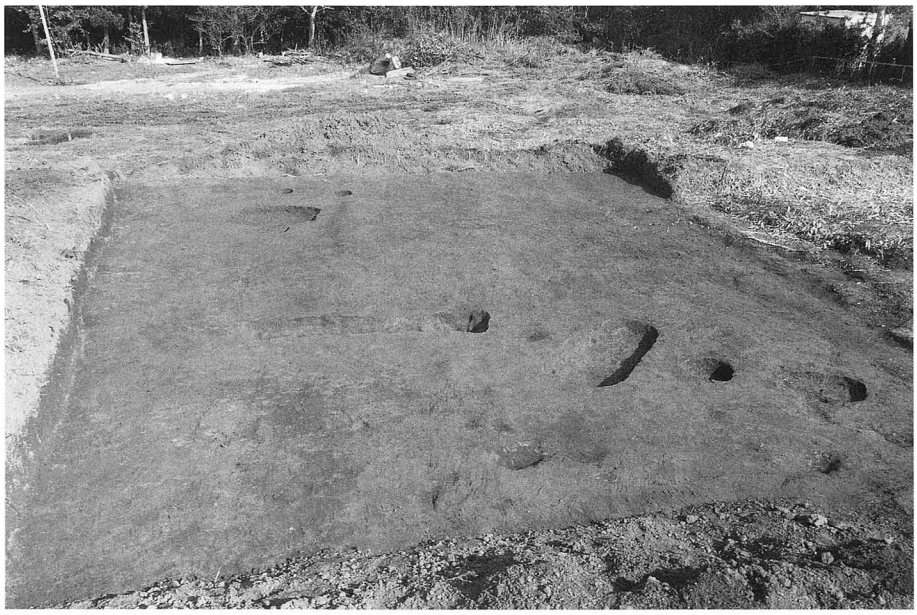


写真３
２次調査西区全景
（南より）

写真４　東区遺構検出状況（西より）

写真５　東区土坑群全景（北より）

写真６　SK１検出状況（南より）

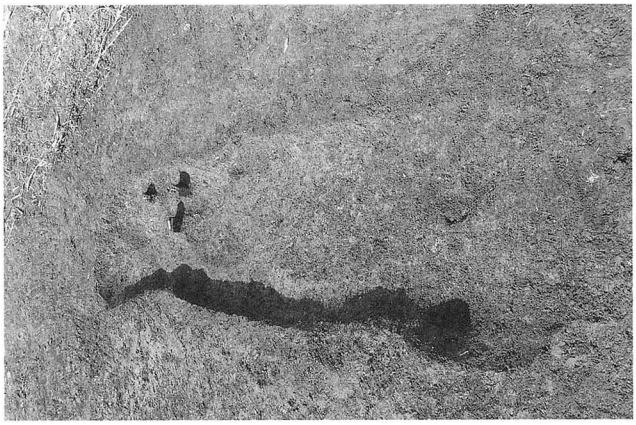


写真７　SK１完掘全景（南より）

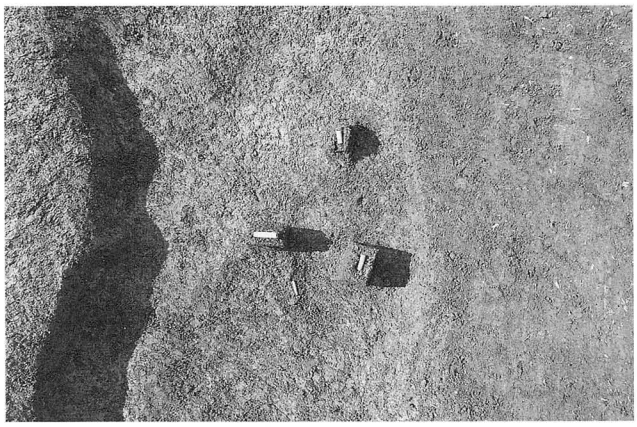


写真８　SK１管玉出土状況（東より）

写真９　SK１・２・12完掘全景（東より）

写真10　SK３・４完掘全景（東より）

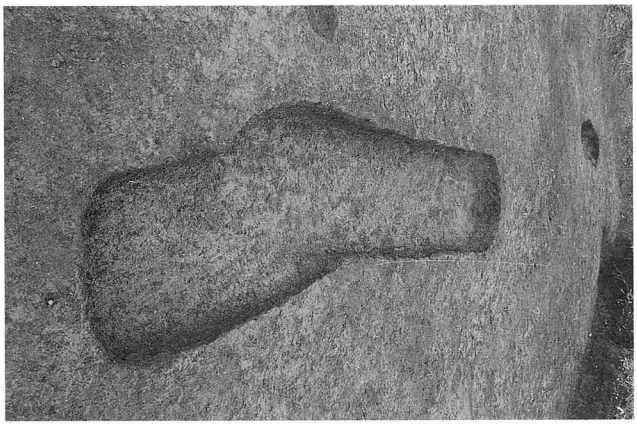


写真11　SK４・５完掘全景（南より）

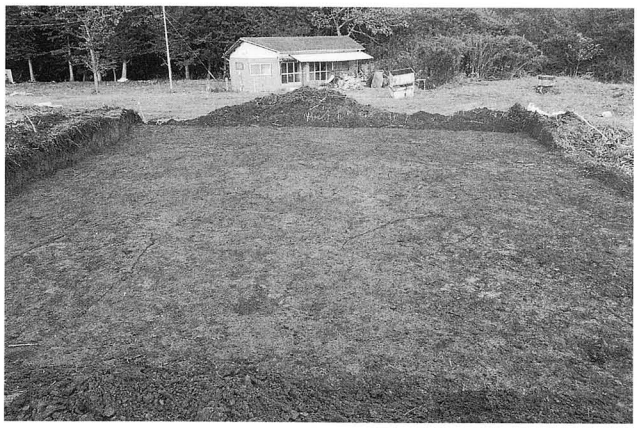


写真12　西区遺構検出状況（南より）

写真13　西区土坑群全景（東より）

写真14　SK10管玉出土状況（北より）

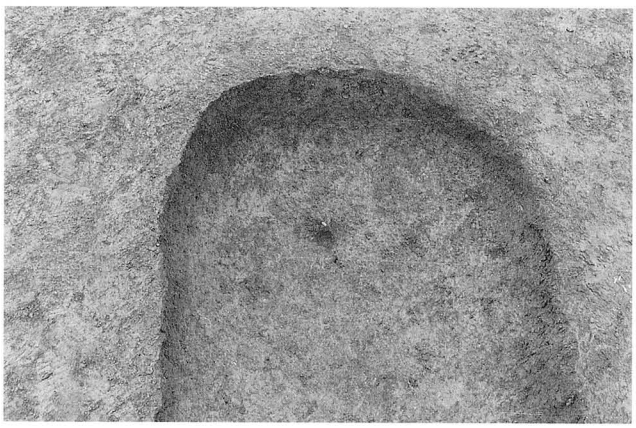


写真15　SK10管玉出土状況（東より）

写真16　SK10管玉出土状況（北より）

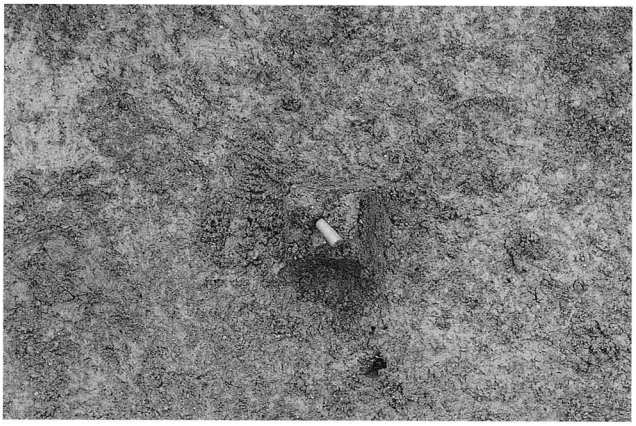


写真17　SK10管玉出土状況（東より）

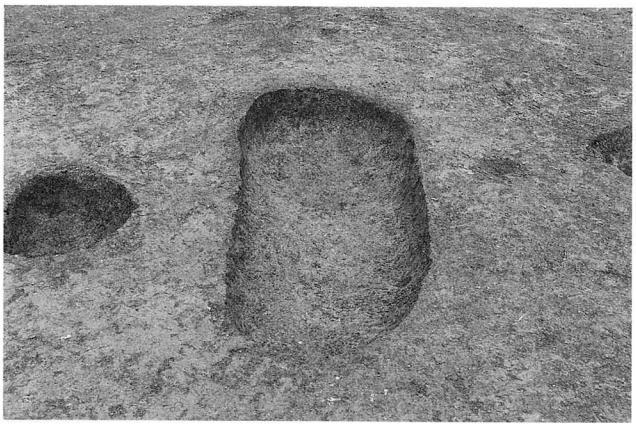


写真18　SK10完掘全景（東より）

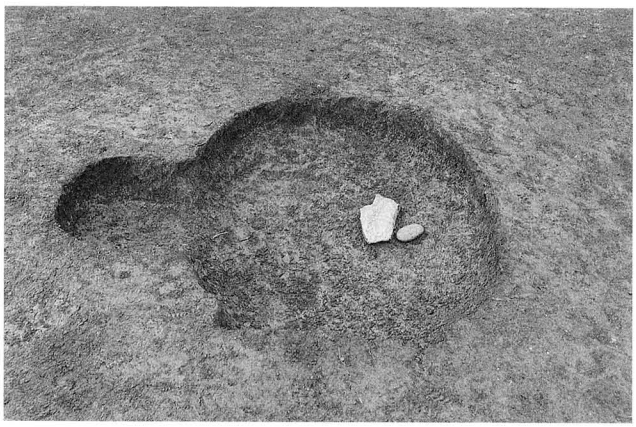


写真19　SK11完掘全景（東より）

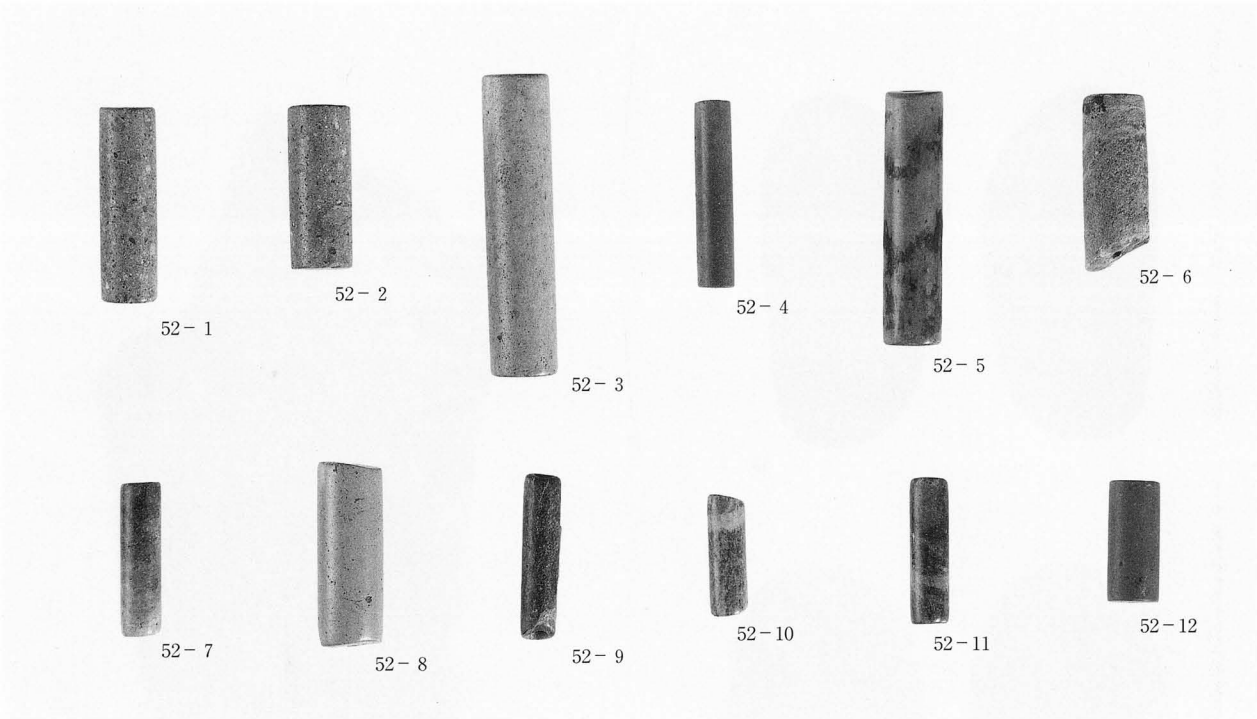


写真20　SK１・10出土管玉（第52図）　S＝1/1

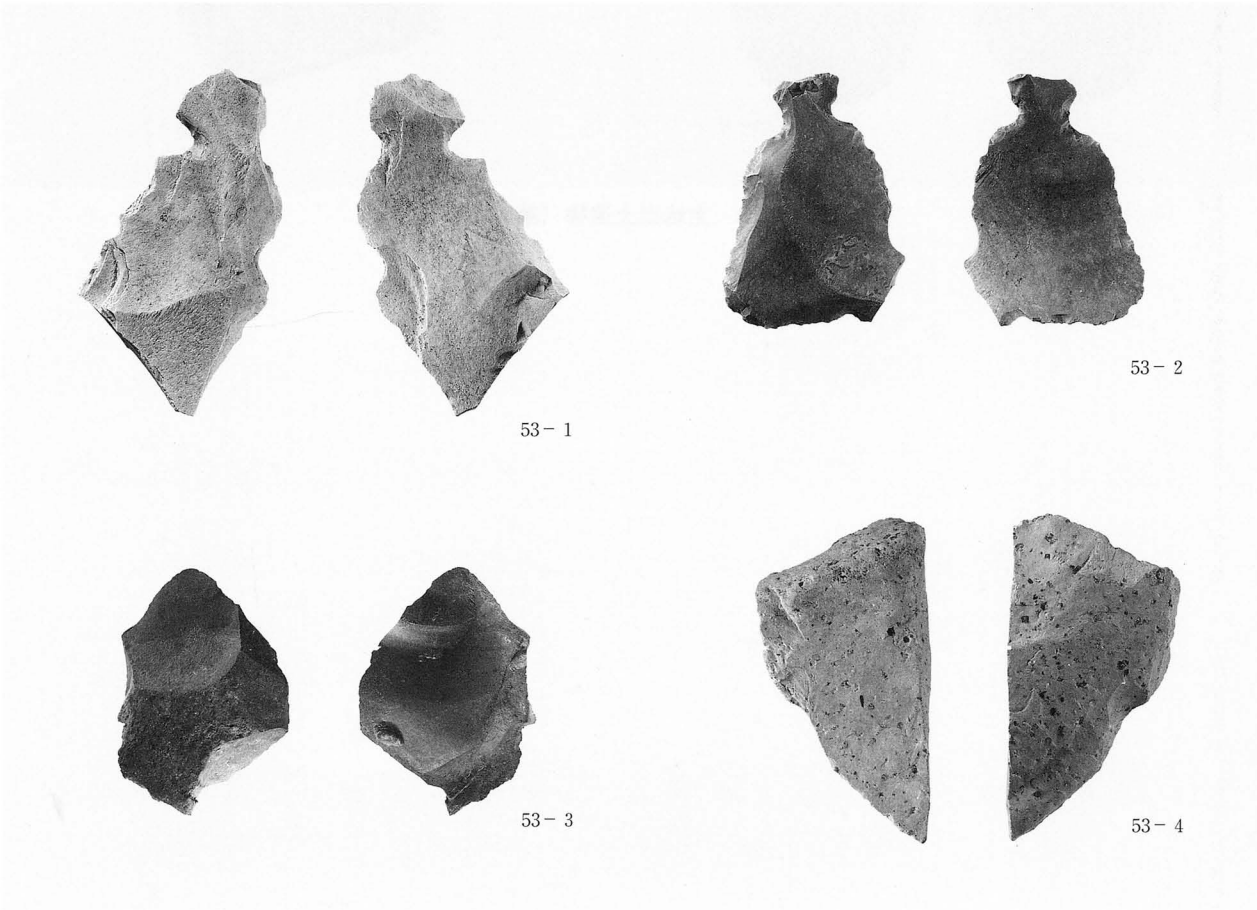


写真21　土坑出土遺物（第53図）　S＝2/3

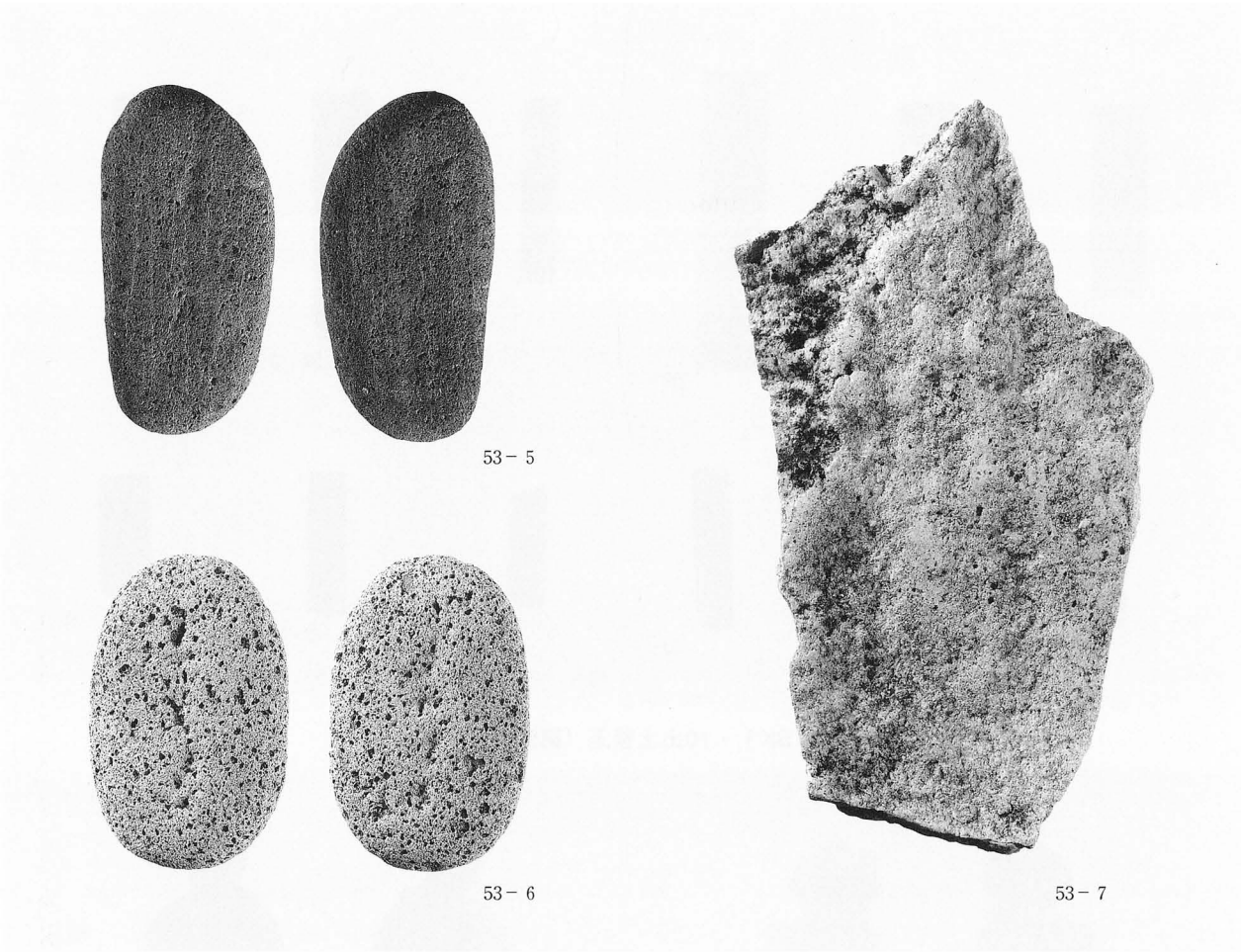


写真22　土坑出土遺物（第53図）

Ⅱ　洞ノ口遺跡

［１］第３次調査

１．調査要項

遺　跡　名　洞ノ口遺跡（宮城県遺跡番号01372）

調査地点　仙台市宮城野区岩切字青津目・分台外他

調査原因　仙台市岩切駅東土地区画整理事業

調査対象面積　84,800㎡

調査面積　2,435㎡

調査期間　平成11年10月４日～平成12年１月24日　平成12年４月17日～平成12年11月17日

調査主体　仙台市教育委員会

調査担当　仙台市教育委員会文化財課

担当職員　（確認調査）篠原信彦　主浜光朗（本調査）佐藤　洋　主浜光朗　吉田和正　村上秀樹

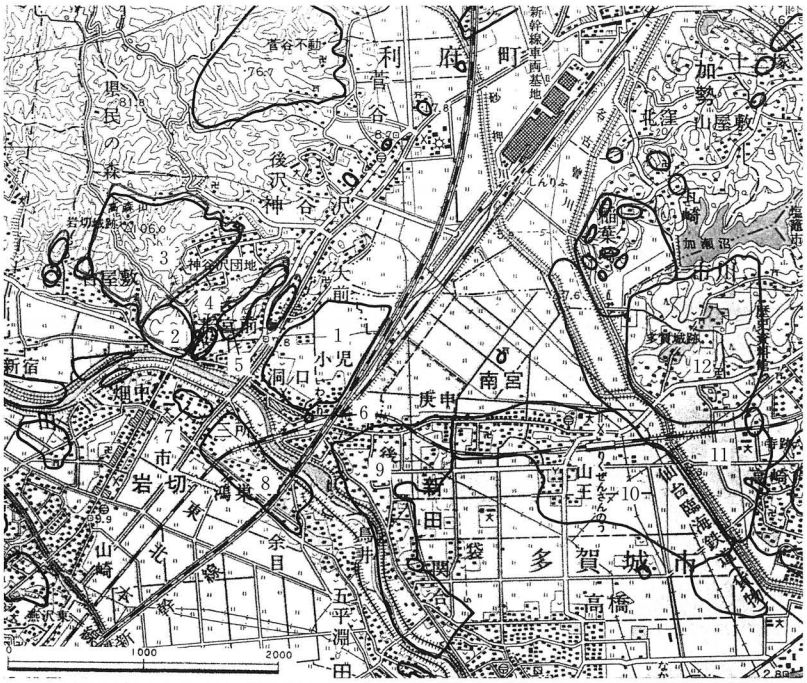
調査参加者　佐藤洋子　石川カツ子　佐藤優子　森谷愛子（以上整理も含む）菱沼みのり　山並明夫　永野くみ子　千葉恒男　加藤友治　藤江勝子　吉田公治　三浦貢　小野寺達重　吉田やよえ　宮城富子　小松千代子　石井千代子　青木吉次　阿部みのる　須賀栄子　板橋栄子　阿部敬子　小川良子　鈴木きぬ子　三浦たか子　奥山妙子　奥山祐子　斎藤喜恵子　武田典子　山田惣治　村田健三　菊池よしえ　鈴木秀典　三浦喜代　平賀千律子　横山美代子　内田節子　大槻明美　佐藤悦子　高橋弘子　相沢美佐子　上野美子　佐藤としゑ　郷湖静子　佐々木和江

整理参加者　及川のり子　小山つるよ　若生洋子　小林由美

申　請　者　（１年次）仙台市・多賀城市・岩切駅東土地区画整理準備委員会　委員長　加藤久雄（２年次）仙台市岩切駅東土地区画整理組合　理事長　加藤久雄

２．遺跡の位置と環境

洞ノ口遺跡は、仙台市の北東約９㎞の地点、宮城野区岩切字洞ノ口・洞ノ口東・青津目・分台外他の地区に位置する遺跡である。遺跡南面には、奥羽山系から東に延び、遺跡付近から次第に南流して仙台港に注ぐ七北田川が横たわっている。七北田川は、上流から下流までほとんど同一幅の谷底平野を有し、段丘面の間を蛇行を繰り返して流下し、自然堤防を発達させている。遺跡は七北田川の左岸の自然堤防並び



番号	遺跡名	立地	種別	時代	番号	遺跡名	立地	種別	時代
1	洞ノ口遺跡	自然堤防 後背湿地	城館 水田跡	古墳～近世	7	今市遺跡	自然堤防	包含地	平安～中世
2	東光寺遺跡	丘陵斜面	城跡・寺院・石窮仏 横穴墓・板碑・集落	中世～近世	8	鴻巣遺跡	自然堤防	集落跡	弥生～中世
3	史跡岩切城	丘陵	城館	中世	9	新田遺跡	自然堤防	集落跡 水田跡	古墳～中世
4	地蔵堂 古碑群	丘陵斜面	板碑	鎌倉	10	山王遺跡	自然堤防 後背湿地	集落跡 水田跡	弥生～近世
5	若宮前遺跡	丘陵斜面	城館 信仰遺跡	縄文・古墳 ～近世	11	市川橋遺跡	自然堤防 後背湿地	集落跡 水田跡	弥生～平安
6	洞ノ口古碑	自然堤防	墳墓	鎌倉	12	特別史跡 多賀城史跡	丘陵 後背湿地	国府跡	奈良～中世

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

にその後背湿地に立地している。標高は５ｍ～８ｍで、七北田川沿いが高く北東に向かって徐々に低くなっている。

本遺跡周辺には、古墳時代以降の遺跡が数多く分布しており、そのほとんどは七北田川両岸の丘陵面と自然堤防上に集中している。特に本遺跡付近には「たかのこう（多賀の国府）」があったという説もあり、七北田川の右岸には「国府の津」に由来するとも言われる鴻巣遺跡・今市遺跡、左岸には史跡岩切城・東光寺遺跡・若宮前遺跡などの中世の遺跡が多く分布している。また、陸奥国府であった多賀城が東部に位置していたことから、岩切から多賀城跡にかけての自然堤防上には、新田遺跡・山王遺跡・市川橋遺跡などの古代から中世にかけての遺跡が分布している。新田遺跡及び山王遺跡北部の後背湿地は、留守氏によって大規模な新田開発が行われたという説もあり、水田跡も確認されている。

３．調査の方法と経過

（１）調査に至る経過

洞ノ口遺跡の北東部に隣接する、後背湿地に広がる水田地帯において土地区画整理事業が実施されることになった。仙台市教育委員会は、申請者と協議の上、工事において掘削を伴う部分について事前に確認調査を実施することとした。洞ノ口遺跡では、土地区画整理事業に伴う宅地予定地内で１次調査が行われ、中世の城館及び溝跡、井戸跡、水田跡などが発見されている。また、都市計画道路泉塩釜線予定地内の２次調査では、中世の城館及び溝跡、墳墓などが発見されている。平成10年10月に行われた確認調査の結果、後背湿地全体に水田跡が広がっていることが確認された。そのため、洞ノ口遺跡の範囲が拡張され、区画整理地内の掘削を伴う工事部分について本調査を実施することとした。

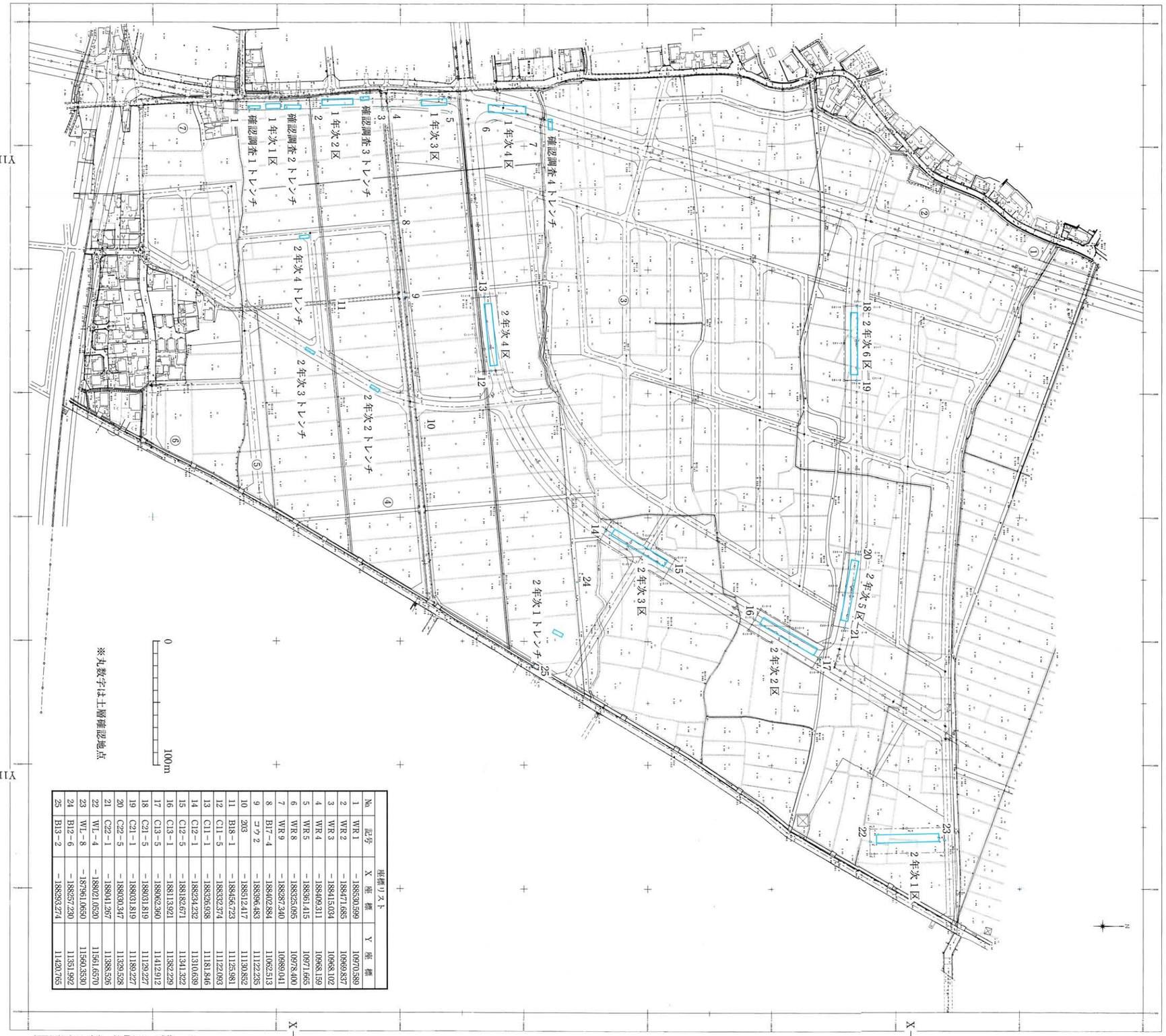
（２）調査方法

区画整理地内のほとんどの地域が盛土を伴う開発になるため、都市計画道路岩切駅前線予定地の調査結果から道路部分の調査の実施を検討することとし、当初都市計画道路岩切駅前線予定部分に調査区を設定した。確認調査においては、都市計画道路岩切駅前線予定部分に４ヶ所のトレンチを設定した。１トレンチについては３ｍ×12m、２トレンチについては３ｍ×15m、３トレンチについては３ｍ×８ｍ、４トレンチについては３ｍ×９ｍである。その調査結果、１トレンチから３トレンチで水田跡と思われる遺構が確認された。本調査の１年次は調査区を都市計画道路岩切駅前線予定地に１区～４区まで設定した。１区については４ｍ×12m、２区については５ｍ×25m、３区については５ｍ×20m、４区については６ｍ×25mとした。２年次は調査区を区画整理地内に１～６区まで設定した。調整池部分を１区、都市計画道路岩切１号線部分を２区・３区・４区、都市計画道路岩切２号線部分を５区・６区とし、各区とも６ｍ×50mとした。さらに暗渠工事に伴う調整池部分に１ヶ所（１トレンチ）、区画整理地内南部の道路予定部分について３ヶ所（２～４トレンチ）の調査区を設定した。１トレンチと４トレンチについては３ｍ×８ｍ、２トレンチと３トレンチについては２ｍ×８ｍである。いずれの調査も重機による掘り下げを行い、人力によって精査し、水田跡の把握・土層断面の図化・イネのプラントオパール分析試料の採取を主とする調査を実施した。

また、本調査２年次においては、調査区内の暗渠工事に伴う土層確認調査を６カ所、旧水道管撤去箇所における土層確認調査を１カ所で実施した。

４．基本層序

調査区が広範囲にわたるため、土性・色調などに違いは見られるが、Ⅰ層からⅦ層までの層位が確認された。すべての地点で、すべての層位が確認できたわけではなく、地点によっては層序に違いがみられる。基本層序については１年次調査と２年次調査に分けて記述する。



X－188000
X－188500
Y11500
Y11000
N
2年次１区
2年次２区
2年次３区
2年次４区
2年次５区
2年次６区
2年次１トレンチ
2年次２トレンチ
2年次３トレンチ
2年次４トレンチ
1年次１区
1年次２区
1年次３区
1年次４区
確認調査１トレンチ
確認調査２トレンチ
確認調査３トレンチ
確認調査４トレンチ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
0
100m
※丸数字は土層確認地点

座標リスト

No.	記号	X　座　標	Y　座　標
1	WR 1	－188530.599	10970.589
2	WR 2	－188471.685	10969.837
3	WR 3	－188415.034	10968.102
4	WR 4	－188409.311	10968.159
5	WR 5	－188361.415	10971.665
6	WR 8	－188325.095	10978.400
7	WR 9	－188287.340	10989.041
8	B17－4	－188402.884	11062.513
9	コウ２	－188396.483	11122.235
10	203	－188512.417	11130.852
11	B18－1	－188456.723	11125.981
12	C11－5	－188332.374	11122.093
13	C11－1	－188326.938	11181.846
14	C12－1	－188234.232	11310.639
15	C12－5	－188182.671	11341.322
16	C13－1	－188113.921	11382.229
17	C13－5	－188062.360	11412.912
18	C21－5	－188031.819	11129.227
19	C21－1	－188031.819	11189.227
20	C22－5	－188030.347	11329.528
21	C22－1	－188041.267	11388.526
22	WL－4	－188021.0520	11561.6570
23	WL－8	－187961.0650	11560.3530
24	B12－6	－188257.230	11351.992
25	B13－2	－188293.274	11420.765

第２図　調査区配置図

〈１年次調査〉

Ⅰ層は、主に褐色系の粘土質土壌で６層に細分される。小礫を含む層がある。現耕作土を含む現代の水田作土と考えられる。

Ⅱ層は、主に褐色系の粘土質土壌で８層に細分される。鉄分・マンガンを多く含む層がある。近代水田作土を含む層と考えられる。

Ⅲ層は、粘土質の土壌で９層に細分される。鉄分を含む層、マンガンを斑に含む層、白色風化礫を含む層がある。近世の水田作土を含む層と考えられる。

Ⅳ層は、粘土質の土壌で８層に細分される。鉄分を含む層、白色風化礫を含む層がある。中世の水田作土を含む層と考えられる。

Ⅴ層は、黒色系の粘土質土壌で５層に細分される。一部の層をのぞいて灰白色火山灰を小ブロック状あるいは斑に含んでいる。古代の水田作土を含む層と考えられる。

Ⅵ層は、黒色系の粘土質土壌で４層に細分される。 鉄分・砂を少量含む層がある。古墳時代の土壌と考えられる。

Ⅶ層は、自然堆積の層で砂質土壌と粘土質土壌からなる。砂質土壌は１層、粘土質土壌は３層確認された。

〈２年次調査〉

Ⅰ層は、粘土質の土壌で８層に細分される。酸化鉄を含む層が見られる。現耕作土を含む現代の水田作土と考えられる。

Ⅱ層は、粘土質の土壌で５層に細分される。近代の水田作土を含むと考えられる。

Ⅲ層は、粘土質の土壌で７層に細分される。酸化鉄・酸化した石を含む層がある。近世の水田作土を含む層と考えられる。

Ⅳ層は、粘土質の土壌で11層に細分される。１区・５区では確認できない。酸化鉄・白色小礫を含む層が見られる。下層の巻き上げが見られる層もある。中世の水田作土を含む層と考えられる。

Ⅴ層は、黒色系の粘土質土壌で４層に細分される。灰白色火山灰を小ブロック状あるいは斑に含んでいる。１区では一部層状に確認された。古代の水田作土を含む層と考えられる。

Ⅵ層は、灰色系の粘土質土壌で５層に細分される。４区、３トレンチ、４トレンチのみで確認された。４区で土師器の壺が出土したことから古墳時代の土壌と考えられる。

Ⅶ層は、自然堆積の層で、18層に細分され、砂質土壌２層と粘土質土壌16層からなる。黒色土壌と灰色土壌の互層が多く見られる。粘土質土壌のほとんどは泥炭層で北東部に寄るほど植物遺体の占める割合が多くなり、１区と５区では植物遺体のみの層が確認された。砂質土壌については４区と２トレンチで確認された。

今回の調査で確認された灰白色火山灰は、10世紀前半に降灰したと言われている十和田ａ火山灰である。分析結果の詳細については仙台市文化財調査報告書第250集「郡山遺跡21　郡山遺跡・仙台平野の遺跡群　平成12年度発掘調査概報」を参照頂きたい。

５．発見遺構と出土遺物

（１）確認調査

都市計画道路岩切駅前線予定部分に、調査区を４カ所、南から順に１～４トレンチとして設置した。確認調査の結果、Ⅲ層では、１～４トレンチの全ての調査区で水田跡と考えられる土層が確認された。特に２トレンチでは調査区南部で、南側に傾きを持つ落ち込みが確認され、落ち込みの堆積土は２層である。この落ち込みは水田跡の可能性がある。３トレンチでは、Ⅴ層を巻き上げたと考えられる灰白色火山灰が確認された。Ⅳ層では、１トレン

チ・２トレンチ・４トレンチで水田跡と考えられる土層が確認された。いずれからもⅤ層を巻き上げたことによる灰白色火山灰が確認された。Ⅴ層の下層は、自然堆積と考えられる植物遺体を含む互層であり、２トレンチのみで確認された。

（２）本調査１年次

Ⅰ層・Ⅱ層上面及び層中で検出された遺構については、新しい時期のものと考えられたため、記述から除いた。

１区　Ⅲ層上面及びⅣ層上面から溝跡３条が確認された。また、Ⅳ層中から東西方向の大溝跡と考えられる遺構が検出された。水田跡と考えられるⅢ層は、Ｓ－８より北側で２層確認され、Ⅴ層はⅣ層中検出の溝跡を挟んで南北両側で１層確認された。

２区　Ⅲ層及びⅣ層において水田跡が検出された。また、Ⅳ層上面の南東部角及びⅣ層中の南部には溝状遺構が検出された。Ⅴ層は残りが悪く明確ではないが、水田跡が検出された。遺物はⅣ層において、須恵器の甕の転用硯・須恵器片・土師器片が出土している。

３区　機械による南北方向の轍があり、南部ではⅣ層にまで及んでいる。Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層において畦畔を伴う水田跡が検出された。

４区　Ⅲ層は現代の溝や比較的新しい時期の水田により削平されており、南部中央部分にのみ畦畔を伴う水田跡が検出された。現代の溝は、Ⅳ層まで及んでおり、一部畦畔を削平している。Ⅳ層では畦畔の残りがよく、区画の小さい水田跡が検出された。Ⅴ層では畦畔を伴う比較的区画の大きい水田跡が検出された。遺物は、Ⅰ層において陶器の擂り鉢の破片を利用したと考えられる陶器製円盤が出土している。

①Ⅲ層検出遺構

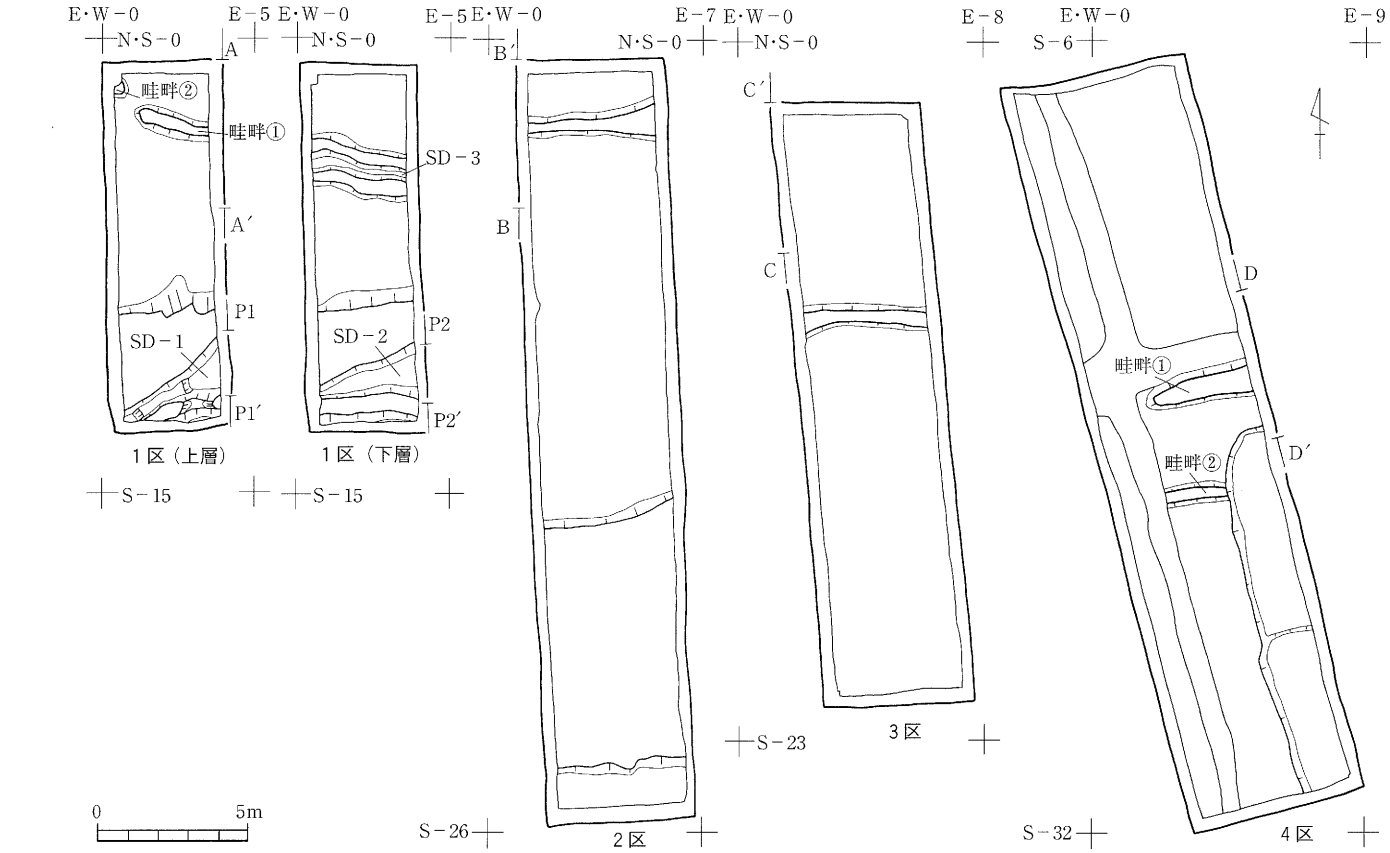
Ⅲ層水田跡　１区北部において畦畔が２条確認された。いずれも調査区外へ延びている。畦畔①はＳ－２～３付近に位置し、Ｅ－２付近からＥ－13°－Ｓの方向へ延びている。上幅は30～40cm程度、下幅は80～90cm程度であり、高さは３cm程度である。畦畔②はＳ－３付近に位置し、Ｅ－２付近からＷ－34°－Ｓの方向へ延びており、その東端のみ確認された。確認された範囲での上幅は40cm程度、下幅は60cm程度であり、高さは２～３cm程度である。畦畔①と畦畔②の間は水口と考えられる。また、南部には高まりが確認された。高まりの方向はＥ－20°－Ｎとほぼ東西方向であり、調査区外に延びているため、正確な形状・規模は不明である。高さは10cm程度である。非耕作域であることから、大畦と考えられる。この大畦と考えられる高まりの北側が水田跡と考えられる。

また、この下層において調査区北部と南部に高まりが２ヶ所確認された。北部の高まりは、Ｅ－10°－Ｓとほぼ東西方向であり、調査区外へ延びている。上幅は140cm前後、下幅は160～180cm、高さは３cm程度の畦畔である。中央部には同方向にSD－３が位置している。南部の高まりは上層の大畦の下部に位置する。方向はＥ－10°－Ｎとほぼ東西方向であり、調査区外へ延びている。上幅は340～380cm、下幅は確認できる箇所で440cm程度、高さは10cm程度の畦畔である。中央部には同方向にSD－２が位置している。Ⅲ層でこの２条の畦畔に挟まれた範囲及び南北両側に水田跡が広がっていると考えられる。

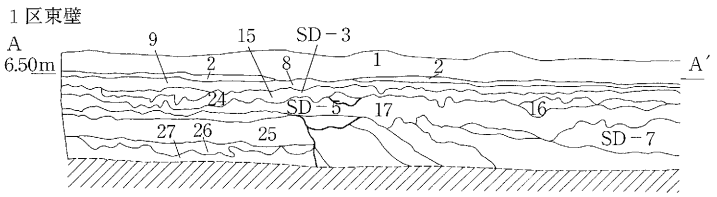
２区では、北部Ｓ－３付近にＥ－１°－Ｎと東西方向の畦畔が確認された。上幅は15～50cm、下幅は40～70cm程度であり、高さは４cm前後である。また、南部に幅の広い高まりが確認された。方向はＥ－10°－Ｎと東西方向である。上幅は400cm程度、下幅は420cm程度、高さは北側で10cm前後、南側で７cm前後の大畦と考えられる。この大畦の北側は水田跡と考えられる。

３区では、調査区のほぼ中央部にＥ－10°－Ｎと調査区を東西に横切る畦畔が確認された。上幅は20～30cm、下幅は40～60cmであり、高さは北側で５cm程度、南側で２cm程度である。この畦畔の南北両側が水田跡と考えられる。

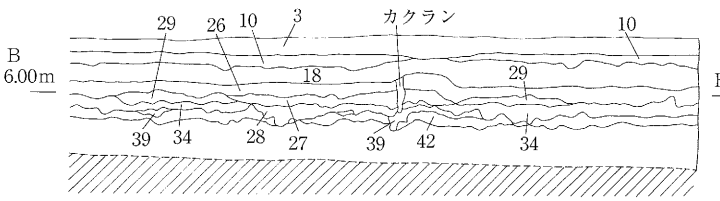
４区では、中央部にほぼ東西方向の畦畔を２条確認した。畦畔①はＳ－17付近に位置し、Ｅ－２付近からＥ－16°－Ｎの方向で延びている。Ｅ－２付近で途切れており、水田と考えられる。上幅は30～40cm程度、下幅は60cm



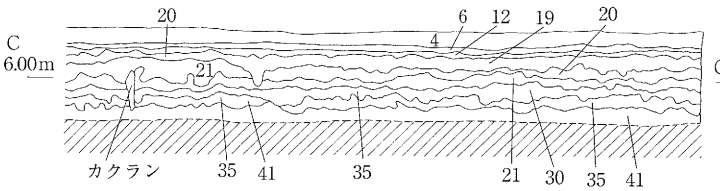
1区東壁



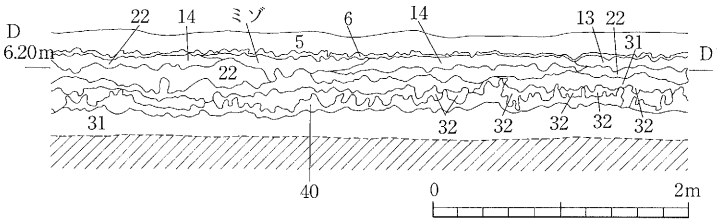
2区西壁



3区西壁



4区東壁



層位	No.	土色	土性	備考
Ⅰ	1	2.5Y4/2　黄灰色	シルト質粘土	小礫を含む。
	2	7.5YR4/4　褐色	シルト質粘土	
	3	2.5YR3/2　黒褐色	粘土	小礫・炭化物・鉄分を含む。
	4	10YR3/2　黒褐色	粘土	砂礫を含む。
	5	10Y3/1　オリーブ黒色	粘土	小礫・炭化物少量を含む、鉄分は上部に多い。
	6	10YR4/4　褐色	粘土	鉄分集積層
Ⅱ	7	10YR4/2　灰黄褐色	シルト質粘土	細砂・鉄分・炭化物を含む。
	8	2.5Y3/2　黒褐色	シルト質粘土	細砂・鉄分・炭化物を含む。
	9	10YR3/1　黒褐色	粘土	鉄分多い、マンガン斑を含む。
	10	5Y3/1　オリーブ黒	粘土	鉄分・炭化物・マンガン少量、細砂多量に含む。
	11	10YR4/1　褐灰色	粘土	鉄分、マンガン多量、炭化物少量を含む。
	12	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	鉄分多い、礫・砂を含む。
	13	10YR4/1　褐灰色	粘土	鉄分、マンガン斑多い。
	14	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	鉄分、白色風化礫（北部）少量、東壁ではマンガン斑が少量見られる。
Ⅲ	15	10YR3/1　黒褐色	粘土	鉄分、マンガン斑、炭化物、細砂を含む。
	16	2.5YR4/1　黄灰色	シルト質粘土	鉄分、マンガン斑を含む。
	17	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	鉄分、マンガンを斑に少量を含む。
	18	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	鉄分、炭化物少量含む。
	19	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	鉄分、炭化物少量含む。
	20	2.5Y4/2　暗灰黄	粘土	鉄分、炭化物少量含む。
	21	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	鉄分少量・白色風化礫少量含む。
	22	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	鉄分、白色風化礫少量含む。
	23	10YR4/1　褐灰色	粘土	鉄分少量含む。
Ⅳ	24	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	鉄分を多量に、マンガンを斑に少量含む。
	25	10GY2/1　緑黒色	粘土	上部に鉄分多い。炭化物・小礫を含む。
	26	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	鉄分多量、マンガン少量含む。
	27	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	鉄分を少量含む。
	28	7.5GY3/1　暗緑灰色	シルト質粘土	鉄分、炭化物を含む。
	29	2.5Y4/2　暗灰褐色	粘土	鉄分、灰白色火山灰ブロックを少量含む。
	30	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	白色風化礫を含む。鉄分を少量含む。
	31	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	鉄分を少量含む。北部に白色風化礫が多い。
	32	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	鉄分を少量含む。31より白っぽい。
Ⅴ	33	5Y2/1　黒色	粘土	灰白色火山灰は見られない。
	34	10YR1.7/1　黒色	粘土	鉄分少量、上部に灰白色火山灰を少量含む。
	35	2.5Y2/1　黒色	粘土	
	36	10YR1.7/1　黒色	粘土	希に灰白色火山灰ブロックを含む。
	37	2.5Y2/1　黒色	粘土	鉄分、炭化物、灰白色火山灰ブロックを少量含む。白色風化礫北部で多量に含む。
Ⅵ	38	5G1.7/1　緑黒色	粘土	
	39	10YR1.7/1　黒色	粘土	鉄分・砂を少量含む。
	40	2.5Y2/1　黒色	粘土	
	41	5Y2/1　黒色	粘土	
Ⅶ	42	7.5GY3/1　暗緑灰色	砂層	粘土・鉄分を含む。下半部は粘土層。
	43	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	
	44	2.5GY4/1　暗オリーブ灰色	粘土	しまりがない。砂は見られない。
	45	2.5GY4/1　暗オリーブ灰色	粘土	しまりがある。
SD－3	1	2.5Y4/1　黄灰色	シルト質粘土	鉄分・マンガン斑を含む。
SD－5	1	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	鉄分・マンガン斑少量含む。

第3図　1年次Ⅲ層水田跡・土層断面図

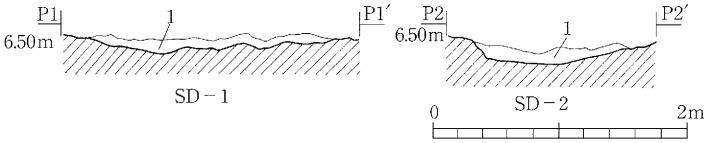
前後であり、高さは北部で10cm前後、南部で３cm前後である。畦畔②はＳ－21付近に位置し、Ｅ－２付近では現代の溝に、Ｅ－５付近ではⅠ層の落ち込みに切られており、その一部のみ確認された。畦畔②の方向はＥ－７°－Ｎの方向で、上幅は20cm前後、下幅は40cm前後であり、高さは２cm前後である。この畦畔を含む現代の溝と上層の落ち込みに囲まれた範囲が水田跡と考えられる。

Ⅲ層の水田跡は、耕作土は10cm前後であり、１区では２層、２区・３区・４区では１層確認された。下面の凸凹は２区を除いて顕著に見られる。土師器片・須恵器片・陶器片・中国製の青磁椀・永楽銭・鉄製品・種子が出土している。中世から近世の水田跡と考えられる。また、３区の水田跡と考えられる層の下部及び４区の現代の溝に切られている北側の層も水田跡の可能性がある。

SD－１溝跡　１区南東部角の大畦上で検出された。Ｅ－40°－Ｎの方向に大畦に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は60～140cm、底面幅は20～100cmである。断面形は浅いⅢ型である。深さは一定しておらず、確認面からの深さは浅い箇所で３～４cm、深い箇所で15cmである。底面レベルは一定せず、東に寄るにしたがって深さが増している。堆積土は単層であり、Ⅲ層水田耕作土と同層である。遺物は出土していない。

SD－２溝跡　１区南東部大畦上、ほぼSD－１の下部に位置し、Ｅ－25°－Ｎの方向に大畦に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は40～190cm、底面幅は20～100cmである。断面形は浅いⅢ型である。確認面からの深さは浅い箇所で５cm、深い箇所で10cm程度である。東へ寄るにしたがって幅及び深さが増している。堆積土は単層であり、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SD－３溝跡　１区北部の畦畔上、Ｓ－４付近に位置し、Ｅ－20°－Ｓの方向に畦畔に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は80～120cm、底面幅は30～70cmである。断面形は浅いⅢ型である。確認面からの深さは５cm程度である。堆積土は単層であり、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。



遺構	層位	土色	土性	備考
SD－1	1	10YR3/1　黒褐色	粘土	鉄分・マンガン斑・炭化物・細砂を含む。
SD－2	1	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	鉄分・マンガン斑・炭化物を含む。

第４図　SD－１・SD－２断面図

②Ⅳ層検出遺構

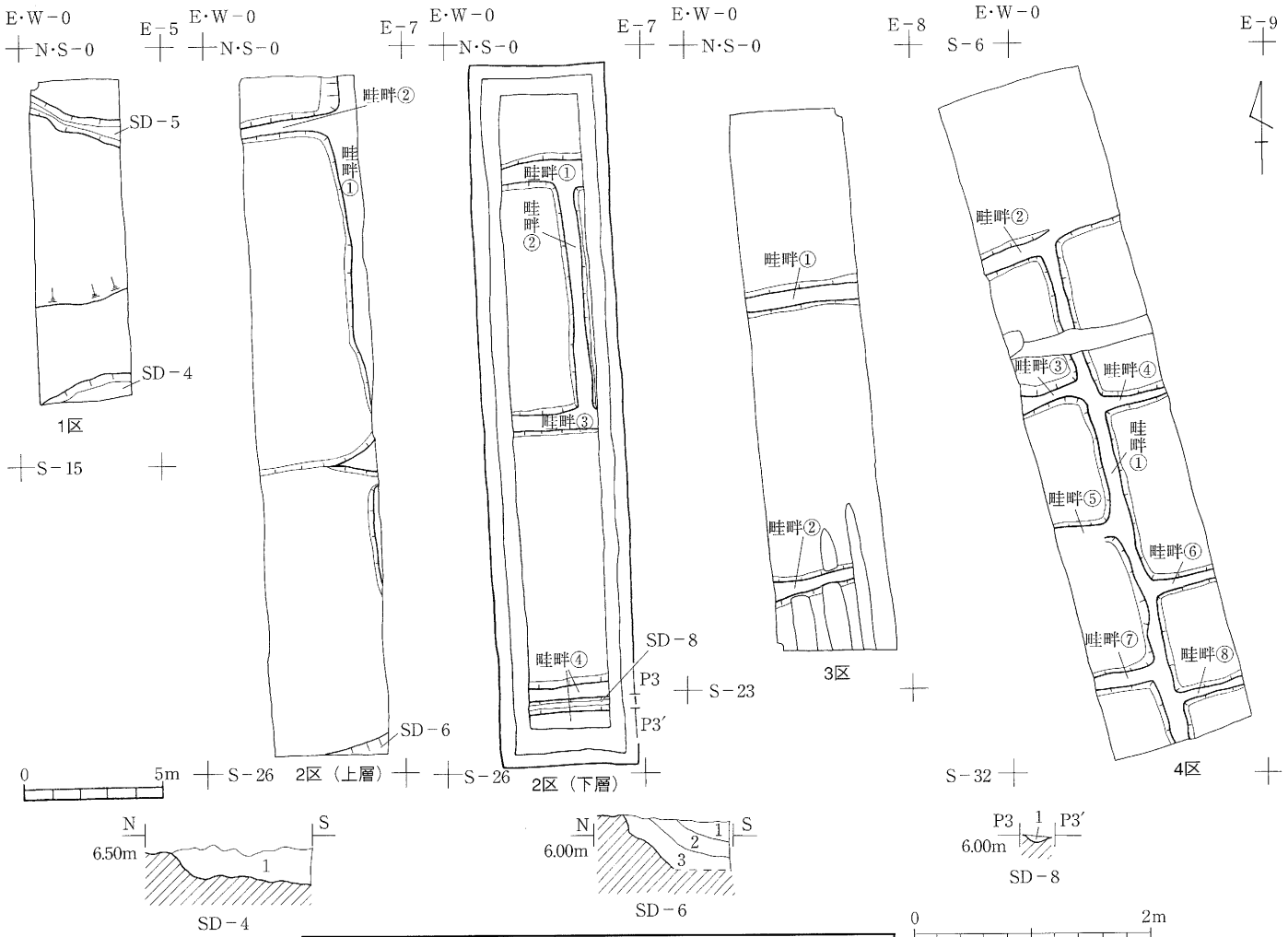
Ⅳ層水田跡　２区において、Ｓ－３付近とＳ－25付近にⅢ層の疑似畦畔が１条ずつ確認された。この直下において、Ｓ－15より北部にＮ－６°－Ｗの方向の畦畔①及び、畦畔①とＳ－３付近で接するＥ－９°－Ｎの方向の畦畔②の２条が確認された。２条とも調査区外へ延びている。畦畔①の上幅及び下幅は不明であるが、高さは北部で10cm前後、南部で５cm前後である。畦畔②の上幅は40cm程度、下幅は80cm程度であり、高さは10cm前後である。また、Ｓ－15付近及びＳ－16～Ｓ－20の東部に段差が確認された。Ｓ－15付近の段の方向はＥ－10°－Ｎとほぼ東西方向であり、比高差は２～５cm程度で北側が低くなっている。この段差は、畦畔が削平されたことによって、段差のみが残ったものと考えられる。調査区東の段の方向はＮ－８°－Ｗとほぼ南北方向であり、比高差は２～５cm程度である。

また、この下層において畦畔が４条確認された。Ｓ－４付近の調査区をＥ－３°－Ｎの方向に横切る畦畔①は、上幅は60～80cm程度、下幅は90～130cm程度であり、高さは２～５cm程度である。畦畔①とＥ－４付近で接するＳ－６°－Ｅの方向の畦畔②は、上幅は40～60cm程度、下幅は70～80cm程度であり、高さは３cm前後である。南北方向の畦畔②とＳ－13付近で接し、Ｅ－１°－Ｎと調査区を東西方向に横切る畦畔③は、上幅は60～70cm程度、下幅は90cm程度であり、高さは３cm前後である。Ｓ－23付近でＥ－１°－Ｎと調査区を東西に横切る畦畔④は上幅は

150cm以上、下幅は170cm以上であり、調査区の南側に延びている。高さは北側で４～７cm、前後である。畦畔上Ｓ－23付近に同方向のSD－８がある。

３区において畦畔が２条確認された。Ｓ－９付近でＥ－９°－Ｎと調査区を東西に横切る畦畔①は、上幅は50～60cm程度、下幅は90～110cm程度であり、高さは２～５cm程度である。また、Ｓ－19付近のＥ－16°－Ｎ方向で調査区西側から東側へ延びる畦畔②は、上幅は40～80cm程度、下幅は70～120cm程度であり、高さは２～５cm程度である。機械耕作による轍の跡が南北方向に畦畔に乗り上げる形で残っているが、畦畔は固いためくぼまずに残っている。しかし、Ｅ－６付近の轍は畦畔を切っており、そこから東側には畦畔は確認できず、削平を受けたものと考えられる。

４区では畦畔が８条確認された。畦畔①はＥ－１～Ｅ－６付近にかけてＮ－15°－Ｗの方向に延びており、上幅は25～60cm程度、下幅は100cmであり、高さは３cm前後である。また、Ｓ－16付近において上層で確認された東西方向の現代の溝に切られている。畦畔②はＳ－13付近で南東方向の畦畔に接してＥ－26°－Ｎと調査区をほぼ北東に横切っている。Ｅ－２より東側では畦畔の北側は確認できなかったが、上幅は50cm程度、下幅は90～100cmであり、高さは１～２cm程度であるが、調査区東端では４cmである。畦畔③はＳ－18付近で南東方向の畦畔に接してＷ－21°－Ｎとほぼ西へ延びており、上幅は40～60cm程度、下幅は80～120cmであり、高さは５cm前後である。畦畔④はＳ－19付近で南東方向の畦畔に接してＥ－14°－Ｎとほぼ東へ延びており、上幅は20～50cm、下幅は60～90cm



遺構	層位	土　　色	土性	備　　考
SD－4	1	5Y3/1　黒褐色	粘土	鉄分・細砂を含む。上部は縁っぽく固め。
SD－6	1	10YR4/2　灰黄褐色	粘土	鉄分少量含む。
	2	10YR4/1　褐灰色	粘土	砂ブロック・鉄分を少量含む。
	3	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	
SD－8	1	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	鉄分・火山灰ブロック少量含む。

第５図　Ⅳ層水田跡、SD－４・SD－６・SD－８断面図

であり、高さは北側で２cm前後、南側で４cm前後である。畦畔⑤はＳ－23付近で南東方向の畦畔に接してＷ－５°－Ｎとほぼ西へ延びている。北側の輪郭のみ確認され、規模は不明である。畦畔⑥はＳ－25付近で南東方向の畦畔に接してＥ－18°－Ｎとほぼ東へ延びており、上幅は30～50cm程度、下幅は60～90cm程度であり、高さは３cm前後である。畦畔⑦はＳ－28付近で南東方向の畦畔に接してＥ－10°－Ｎとほぼ西へ延びており、上幅は40～50cm、下幅は80～100cmであり、高さは３cm程度である。畦畔⑧はＳ－29付近で南東方向の畦畔に接してＥ－16°－Ｎとほぼ東へ延びており、上幅20～30cm、下幅50～60cmであり、高さは１～３cmである。

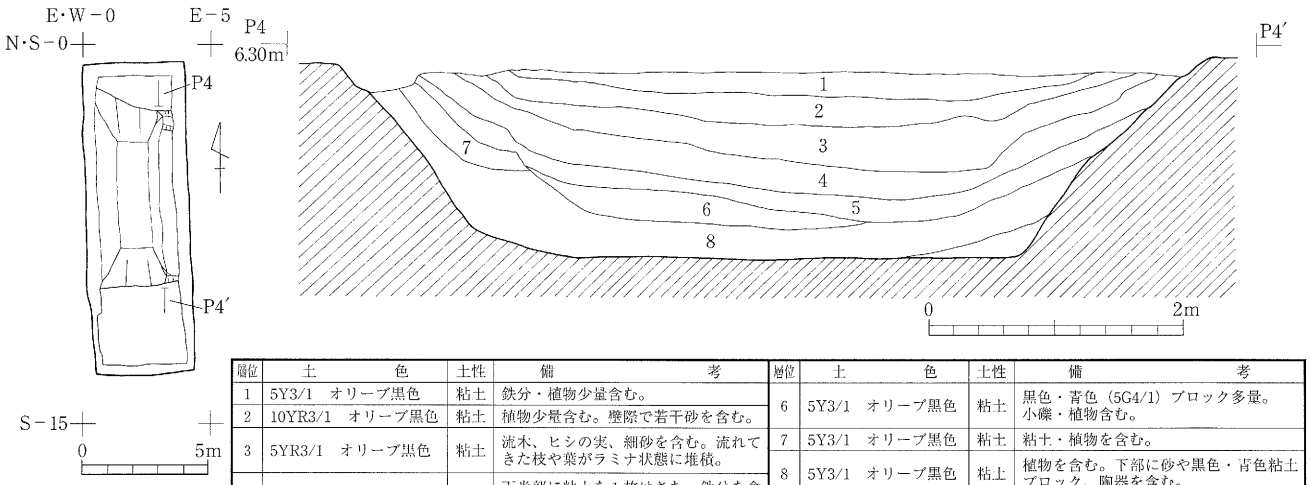
Ⅳ層の水田跡は、耕作土は10cm前後であり、２区で２層、３区・４区では１層確認された。下面の凸凹は顕著に見られる。土師器片・須恵器片・常滑産陶器をはじめとする陶器片・木製品・鉄製品・種子が出土している。中世の水田跡と考えられる。４区の畦畔跡から判断すると、中世における水田は比較的小さい区画ながら、整然と区画されていた様子が伺える。また、４区の水田跡の下層も、残りはよくないが、水田跡の可能性がある。

SD－４溝跡　１区南端に位置しＥ－15°－Ｎの方向に延びていると考えられる。調査区外へ延びており検出されたのは北壁の一部であり、形状・規模は不明であるが、調査区内での状況は、確認面からの最深部の深さは20cm程度になる。底部はほぼ平坦であると考えられ、壁は約60°の角度で立ち上がっている。堆積土は単層であり、上部はグライして固くなっているが、自然堆積と考えられる。近世の水田の土層とは異なっており、中世の溝跡と考えられる。遺物は出土していない。

SD－５溝跡　１区Ｓ－２からＳ－４にかけて、Ｅ－19°－Ｓの方向に延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は40～100cmで、底面幅は10～50cmである。断面形は浅い皿型である。確認面からの深さは10～20cm程度である。土師器が出土している。堆積土はⅢ層である。

SD－６溝跡　２区南東部角をＥ－20°－Ｎの方向で横切っており、検出されたのはその北壁一部のみである。形状・規模は不明である。堆積土は、検出した範囲内では自然堆積と考えられる３層が確認できた。さらに深くなると考えられ、大溝の可能性も考えられる。

SD－７溝跡　１区Ｓ－２からＳ－10にかけて、Ｎ－90°－Ｅと調査区をほぼ真東西に横切るように延びており、検出されたのはその一部である。上幅は約680cmで、底面幅は約410cmである。断面形は台形で、確認面からの深さは160cm程度である。底面は平坦で、壁は約60°の角度で立ち上がっている。堆積土は自然堆積と考えられる９層からなるが、１～３層までの上層と４層以下の下層に大別できる。下層部分では６層の堆積が７・８層を切っており、１度掘り返した形跡が確認できる。上層では木鉢の一部・性格不明の木製品１点・土師器片・須恵器片・陶器片・



層位	土色	土性	備考
1	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	鉄分・植物少量含む。
2	10YR3/1　オリーブ黒色	粘土	植物少量含む。壁際で若干砂を含む。
3	5YR3/1　オリーブ黒色	粘土	流木、ヒシの実、細砂を含む。流れてきた枝や葉がラミナ状態に堆積。
4	5GY4/1	砂層	下半部に粘土を１枚はさむ。鉄分を含む。
5	5Y2/1　黒色	粘土	植物を多く含む。枝も見られる。

層位	土色	土性	備考
6	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	黒色・青色（5G4/1）ブロック多量。小礫・植物含む。
7	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	粘土・植物を含む。
8	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	植物を含む。下部に砂や黒色・青色粘土ブロック、陶器を含む。
9	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	下層の黒色粘土ブロックを多量に含む。植物を少量含む。

第６図　SD－７

種子が出土しており、下層では土師器片・須恵器片・陶器片・磁器片・木製品・石製品・種子・骨が出土している。特に底面付近からは木杭・木鉢が出土している。

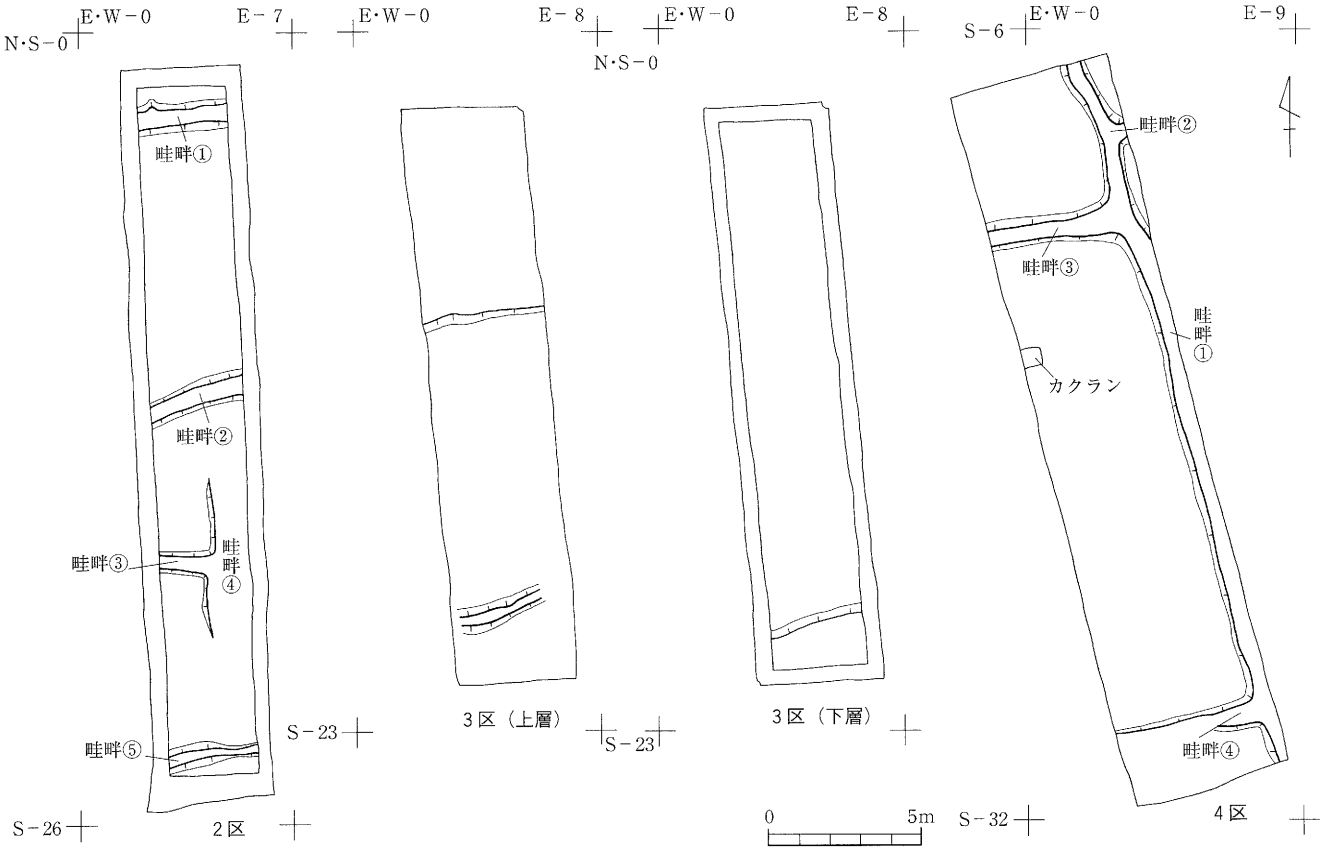
SD－８溝跡　２区Ｓ－24付近に位置し、畦畔上で検出された。Ｅ－２°－Ｎと畦畔に伴うように延びている。調査区外へ延びており、検出されたのはその一部である。上幅は約20cmで、底面幅は約10cmである。断面形は浅い皿型である。確認面からの深さは２～８cmである。堆積土は直上の層である。。

③Ⅴ層検出遺構

Ⅴ層水田跡　１区のⅤ層はSD－７によって、南北に分かれて分布しているが、Ⅳ層の下層の下面に凸凹が顕著に現れており、その状況から水田跡の可能性があるが、明確な判断はできない。

２区においては、畦畔状の高まりが５条確認された。いずれも正確な形状・規模は不明である。Ｓ－３付近のＥ－10°－Ｎの方向の畦畔①は，上幅は40～70cm程度、下幅は90～120cm程度であり、高さは３～７cm程度である。Ｓ－12付近のＥ－20°－Ｎの方向の畦畔②は、上幅は50～60cm程度、下幅は80～100cm程度であり、高さは３cm前後である。Ｓ－17付近のＷ－６°－Ｎの方向の畦畔③は、上幅は40～50cm程度、下幅は70～80cm程度、高さは２cm前後であり、Ｅ－４付近でＮ－２°－Ｗの方向の畦畔④に接している。畦畔④はＳ－15～Ｓ－20にかけて西側の段差のみ確認された。比高差は３cm前後である。Ｓ－24付近の東西方向の畦畔⑤は、上部の幅は20～40cm程度、下幅は40～80cm程度で、高さは１cm前後である。これらの畦畔状の高まりを確認した層は残存状況が悪く、上層の疑似畦畔の可能性もあるため、水田跡であるかどうかについては明確な判断はできない。

３区のＳ－10付近で南側へ下がる段差が確認された。段の方向はＥ－11°－Ｎであり、高さは２～６cmあり、東へ寄るにしたがって高さが大きくなる。段差の北側Ｓ－９付近に段差と同方向の土色の違いが確認された。畦畔の輪郭と考えられることから、この段差は畦畔が削平され、段差のみになったものと考えられる。段差から畦畔の輪郭までの幅は70～100cm程度である。Ｓ－19付近でＥ－21°－Ｎの畦畔を確認した。一部のみの検出である。上幅は



第７図　１年次Ⅴ層水田跡

20～40cm程度、下幅は60～90cm程度であり、高さは３～６cm程度である。

この下層のＳ－19付近において北側へ下がる段差が確認された。段の方向はＥ－19°－Ｎで、高さは３cm前後である。また、この層の下面のＳ－５～８付近のＥ－３より東側で若干の高まりが確認された。水田区画を反映したものであるかどうかは不明である。

４区では、畦畔が４条確認された。いずれも調査区外へ延びている。畦畔①はＥ－１～８の範囲に位置し、Ｎ－17°－Ｗの方向に調査区を縦断する畦畔である。Ｓ－13付近から南の範囲では畦畔の西側のみ確認された。確認された範囲では、上幅は20～70cm程度、下幅は70～100cmであり、高さは２～５cmである。畦畔②はＳ－９付近からＥ－17°－Ｎの方向へ延びており、一部のみ確認された。上幅は40cm程度、下幅は90cmであり、高さ差は４cm前後である。畦畔③はＳ－12付近からＷ－８°－Ｓの方向で延びており、上幅は50～80cm程度、下幅は90～140cmであり、高さは３～５cm程度である。畦畔④はＳ－29付近からＷ－15°－Ｓの方向へ延びており、Ｅ－６より西側では畦畔の北側のみ確認された。上幅は40～70cm程度、下幅は70～100cm程度であり、高さは２cm前後である。Ｓ－17付近の西端部には、上層で確認された撹乱坑が残存している。

Ⅴ層における水田跡は、３区で２層、４区では１層確認され、耕作土は10cm前後である。１・２区については明確に水田跡とは判断できなかった。灰白色火山灰が含まれている。下面の凸凹は顕著に見られる。遺物は須恵器片が出土しており、中世の遺物が皆無であることから、古代（平安期）の水田跡と考えられる。

（３）本調査２年次

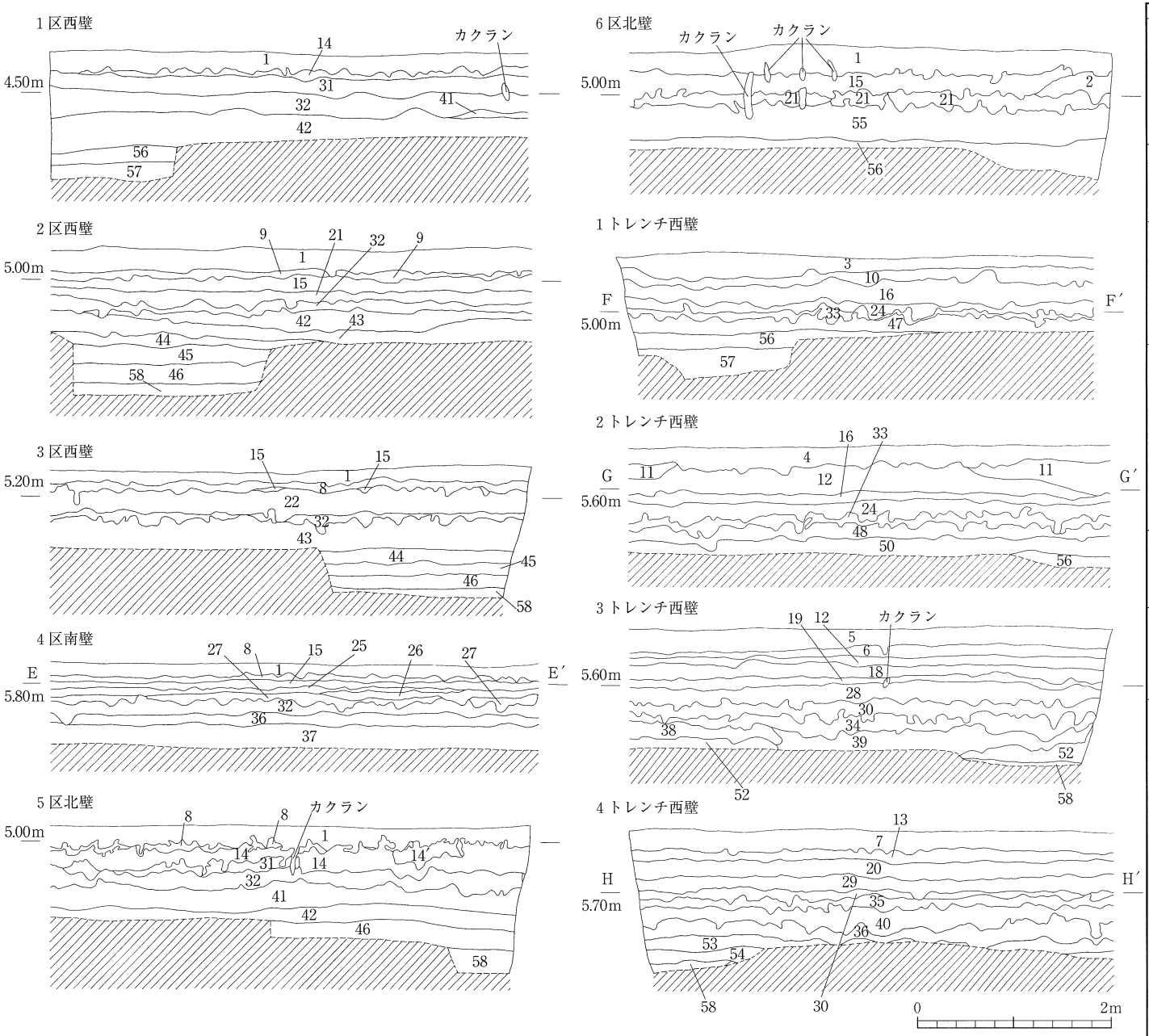
Ⅰ層・Ⅱ層上面及び層中で検出された遺構については、新しい時期のものと考えられたため、記述から除いた。

１区・５区　Ⅲ層は多量の未分解植物遺体を多量に含む粘土層であり、その下層は灰白色火山灰をブロックに含むⅤ層となっている。さらにその下層は植物遺体のみの泥炭層となっている。近世以前の水田跡と考えられる層は確認できなかった。１区Ⅴ層直上でロクロ使用の土師器の高台付坏片が、Ⅴ層で内面に黒色処理がしてある土師器の坏片が出土した。また、５区のⅦ層（泥炭層）北壁に南北方向に倒れた状態で、上端が二股になっている約2.3mの杭状の木製品が出土している。

２区　Ⅳ層において畦畔が３条確認された。南北方向の畦畔からは、性格不明の木製品、杭の先端部と考えられる木製品が出土した。また、東西方向の畦畔の下層にあたるⅤ層上面において溝状遺構が確認された。溝状遺構からは、杭の一部と考えられる木製品が２点出土している。また、溝状遺構の延長部に当たる西壁中からも木製品が１点出土している。灰白色火山灰を含むⅤ層の下層は植物遺体を多く含む泥炭層になっている。水田跡と考えられる層はⅢ層及びⅣ層であり、中世より古い時期の水田跡と考えられる層は確認できなかった。遺物は、Ⅴ層の下層から、内面に黒色処理されている土師器の坏片が出土している。

３区　Ⅲ層上面、調査区中央部において土坑１基及び調査区南部に南に向かって傾きを持つ性格不明の落ち込みが確認された。Ⅳ層上面では調査区中央部にほぼ真北方向の畦畔が１条確認された。また、Ⅲ層調査区中央部に性格不明の土坑状の落ち込みが確認された。調査区南半の西側セクションにこの落ち込みとほぼ同様の落ち込みが確認された。調査区の北西部から垂直に立った状態で四角形の断面を持つ杭が出土した。水田跡と考えられる層は、Ⅲ層とⅣ層確で確認された。遺物は、Ⅰ層において土鈴が、Ⅱ層・Ⅲ層からは土師器片・須恵器片・陶磁器片が出土している。灰白色火山灰を含むⅤ層より下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。

４区　調査区の西半部は２年次調査の他の調査区と比較すると土層の数が多く、１年次調査の調査区とほぼ同様の土層分布が見られる。東半部は２年次の２区・３区・５区・１トレンチ・２トレンチ・３トレンチとほぼ同様の土層分布が見られる。Ⅱ層中では、疑似畦畔が４条確認され、水田跡と考えられる。また、水田跡と考えられる層が、Ⅲ層で１層、Ⅳ層で３層、Ⅴ層で１層確認された。Ⅲ層は近世の水田跡、Ⅳ層は中世陶器片が出土していることから中世の水田跡と考えられる。遺物は、Ⅲ層から陶器片、Ⅳ層からは中世陶器片・須恵器片、ロクロ使用の土師器



第８図　２年次土層断面図

層位	No.	土色	土性	備考
Ⅰ	1	7.5Y4/2　灰オリーブ色	粘土	酸化鉄斑が特に上部に多い。
	2	10YR5/2　灰黄橙色	粘土	酸化鉄を含む。上部に2.5Y6/2（灰黄色）の部分有り
	3	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	
	4	5Y3/2　オリーブ黒色	粘土	
	5	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	下部に酸化鉄集積
	6	2.5Y4/1　黄灰色	粘土	酸化鉄を含む。上部に酸化鉄集積
	7	2.5Y3/3　暗オリーブ褐色	粘土	
	8	2.5Y2/1　黒色	粘土	7.5Y3/2（オリーブ黒）を含む部分有り。
Ⅱ	9	5Y4/1　灰色	粘土	2.5Y4/2を斑に含む。
	10	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	
	11	2.5Y5/2　暗灰黄色	粘土	マンガン、砂を含む。上部酸化鉄集積。
	12	5Y4/1　灰色	粘土	
	13	2.5Y5/3　黄褐色	粘土	酸化鉄、マンガン、砂を含む。
Ⅲ	14	7.5YR3/4　暗褐色	粘土	10YR4/2を層状に含む部分有り。酸化鉄、多量の未分解植物遺体を含む。
	14′	7.5YR3/4　暗褐色	粘土	14より明るい。
	15	7.5YR3/1　黒褐色	粘土	酸化鉄を含む。
	16	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	酸化した小礫を含む。植物遺体を含む。
	17	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	
	18	2.5Y5/1　黄灰色	粘土	
	19	2.5Y5/1　黄灰色	粘土	酸化鉄を含む。上部酸化鉄集積。
	20	2.5Y5/2　黄灰色	粘土	酸化鉄を含む。
Ⅳ	21	10YR3/1　黒褐色 5Y4/1　灰色	粘土 粘土	撹拌。上層との層理面から層中に白色小礫が多い。酸化鉄を含む。下面近くに灰白色火山灰が見られる所有り。
	22	10YR4/1　灰色	粘土	酸化鉄を含む。下部に下層の黒色土を巻き上げた跡があるが、下面はほぼ平坦。
	23	10YR3/1　黒褐色	粘土	
	24	5Y2/1　黒色	粘土	白色小礫を含む。
	25	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	炭化物、酸化鉄を含む。
	26	N3/0　暗灰色	粘土	炭化物、酸化鉄を含む。
	27	10YR3/1　黒褐色	粘土	炭化物、酸化鉄を含む。下層の灰白黒土の巻き上げが見られる。
	28	2.5Y2/1　黒色	粘土	
	29	5Y4/1　灰色	粘土	酸化鉄を含む。
	30	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	
	31	10YR2/1　黒色	粘土	10YR2/3を含む部分有り。5Y4/2小ブロックを層状に含む。植物遺体多い。
Ⅴ	32	10YR1.7/1　黒色	粘土	灰白色火山灰（5Y6/4）を含む。
	33	2.5Y2/1　黒色	粘土	灰白色火山灰を含む。
	34	5Y2/1　黒色	粘土	灰白色火山灰を含む。
	35	5Y2/1　黒色 5Y3/1　オリーブ黒色	粘土 粘土	互層。灰白色火山灰が少量見られる。 多少植物遺体を含む。
Ⅵ	36	2.5Y4/1　黄灰色	粘土	多少植物遺体を含む。
	37	10YR5/2　灰黄橙色	粘土	酸化鉄、白色小礫を含む。
	38	5Y4/1　灰色	粘土	縞状になっている。
	39	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	白色小礫を含む。
	40	5Y2/1　黒色 5Y4/1　灰色	粘土 粘土	互層。
Ⅶ	41	10YR2/2　黒褐色	粘土	植物遺体のみの部分。
	42	N1.5/0　黒色	粘土	植物遺体が多い。未分解の大きな繊維が層状になっている所有り。
	43	10YR2/1　黒色	粘土	植物遺体が多い。層中に5Y5/3を層状に含む所有り。
	44	10YR4/4　褐色 5Y2/1　黒色	粘土 粘土	互層。
	45	2.5Y3/3　暗オリーブ褐色 7.5Y4/1　黒色	粘土 粘土	互層。
	46	N1.5/0　黒色 7.5Y4/1　灰色	粘土 粘土	互層。
	47	10YR1.7/1　黒色	粘土	植物遺体を含む。
	48	5Y2/1　黒色	粘土	植物遺体を含む。
	49	N2/0　黒色	粘土	植物遺体を含む。
	50	2.5GY5/1　オリーブ灰色	微砂	植物遺体を少量含む。
	51	5G5/1　緑灰色	粘土	
	52	7.5Y4/1　灰色 7.5Y6/1　灰色	粘土 粘土	縞状。植物遺体を含む。
	53	10Y5/1　灰色	粘土	植物遺体を含む。
	54	10YR1.7/1　黒色 10Y2/1　灰色	粘土 粘土	
	55	10YR1.7/1　黒色 N1.5/0　黒色	粘土	上部に10YR1.7/1、下部にN1.5/0
	56	10YR1.7/1　黒色 2.5Y4/3　オリーブ褐色	粘土 粘土	互層。N1.5/0を粒状に含む。 植物遺体が多い。
	57	N1.5/0　黒色 2.5Y4/3　オリーブ褐色	粘土 粘土	互層。植物遺体を多く含む。
	58	2.5Y2/1　黒色	粘土	

の坏片が出土している。灰白色火山灰を含むⅤ層の下層にあたるⅥ層からは、底部に木葉痕が見られるロクロ非使用の土師器の壺が出土している。古墳時代のものと考えられる。Ⅵ層の下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっており、さらに下層は砂層となっている。南側側溝から杭が垂直に立った状態で出土した。

６区　水田跡と考えられる層は、調査区の断面の状況からⅣ層で１層確認された。調査区のＥ－10より西側は、地下水位が高いため湧水が著しく精査が困難な状態であったため、Ⅳ層下層の調査は断念した。遺物は、砥石・土師器片・須恵器片・陶器片が出土している。灰白色火山灰を含むⅤ層より下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。

１トレンチ・２トレンチ・３トレンチ・４トレンチ　Ⅳ層において、１トレンチで１条、２トレンチで３条の畦畔が確認された。水田跡と考えられる層は、Ⅲ層では１トレンチ・２トレンチ・４トレンチで１層、３トレンチで２層、Ⅳ層では全てのトレンチで１層、Ⅴ層では４トレンチで１層確認された。中世より古い時期の水田跡と考えられる層は４トレンチのみで確認された。Ⅴ層は灰白色火山灰を含んでおり、１～３トレンチⅤ層の下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。但し、２トレンチのさらに下層には砂層も確認された。４トレンチは灰白色火山灰を含むⅤ層の下にⅥ層が確認され、その下層は植物遺体を多く含む泥炭層となっている。遺物は、３トレンチⅡ層から内面に黒色処理されている土師器の坏片、４トレンチⅤ層から土師器片が出土している。また、４トレンチⅢ層上面で性格不明の落ち込み（SX－４）が確認された。

①Ⅲ層検出遺構

Ⅲ層水田跡　６区において畦畔状の遺構が２条確認された。調査区の東側Ｅ－21～25にかけてＮ－27°－Ｅの方向に延びている畦畔は、上幅は約80～120cm、下幅は約150～190cmであり、高さは約15～19cmである。調査区外へ延びている。Ｅ－３～12、Ｓ－１～４にかけて位置するＥ－16°－Ｎの畦畔は、上幅は約20～40cm、下幅は約50～80cmであり、高さは約10～13cmである。これらの畦畔状の遺構は、疑似畦畔と考えられるため水田跡の可能性は低い。

Ⅲ層における水田跡と考えられる遺構は、２区・３区・４区・１トレンチ・２トレンチ・４トレンチで１層、３トレンチで２層確認された。耕作土は約10～15cmであり、下面の凸凹は比較的顕著に現れており、水田として耕作したと考えられる形跡が見られる。遺物は陶器片が出土しており、その状況から近世の水田跡であると考えられる。

SK－２土坑　３区の中央部西寄り、Ｎ・Ｓ－０、Ｗ－２の付近に位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸約110cm、短軸約90cmのほぼ楕円形であり、底面までの深さは50cmである。断面形は浅い摺鉢状を呈しており、壁は底面から約25°の角度で立ち上がり、確認面付近で約60°の角度になる。堆積土は２層に分けられ、自然堆積である。遺物は陶器片が出土している。性格不明の土坑である。

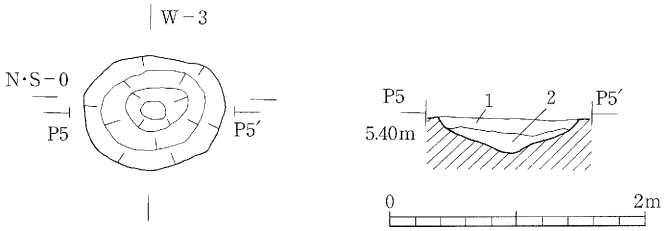
SX－１落ち込み　３区の南寄り、Ｓ－６付近から南に位置している。Ⅲ層上面で、Ｗ－１°－Ｎと調査区をほぼ東西方向に横切るように南方向への落ち込みが確認された。北壁のみが確認され、調査区外へ延びており、正確な形状・規模は不明である。確認面から底部までの比高差は40cm前後である。堆積土は４層に分けられ、自然堆積である。遺物は土師器片が出土している。水田跡の可能性もあるが、明確な判断はできない。性格不明の遺構である。

SX－４落ち込み　４トレンチのⅢ層で確認された。調査区のＥ－２付近から東方向への落ち込みである。方向はＮ－２°－Ｗとほぼ真北方向である。調査区外へ延びているため、正確な形状・規模は不明である。確認面から底面までの深さは約110cmである。底面は北から南へ２つの段差を持っている。壁は、底面から約20cmでテラス状になり、その上部では約60°、確認面付近では約30°の角度になる。堆積層は３層からなる上層と４層からなる下層の２層に大別できる。下層からは、木片・種子・馬の顎の骨が出土している。明確な判断はできないが、形状からSX－２と同様の性格を持つ遺構と考えることも可能であるが、１年次調査のSD－７と同様の大溝の一部である可能性も考えることもできる。遺構の一部のみの確認であり、詳細は不明である。

②Ⅳ層検出遺構

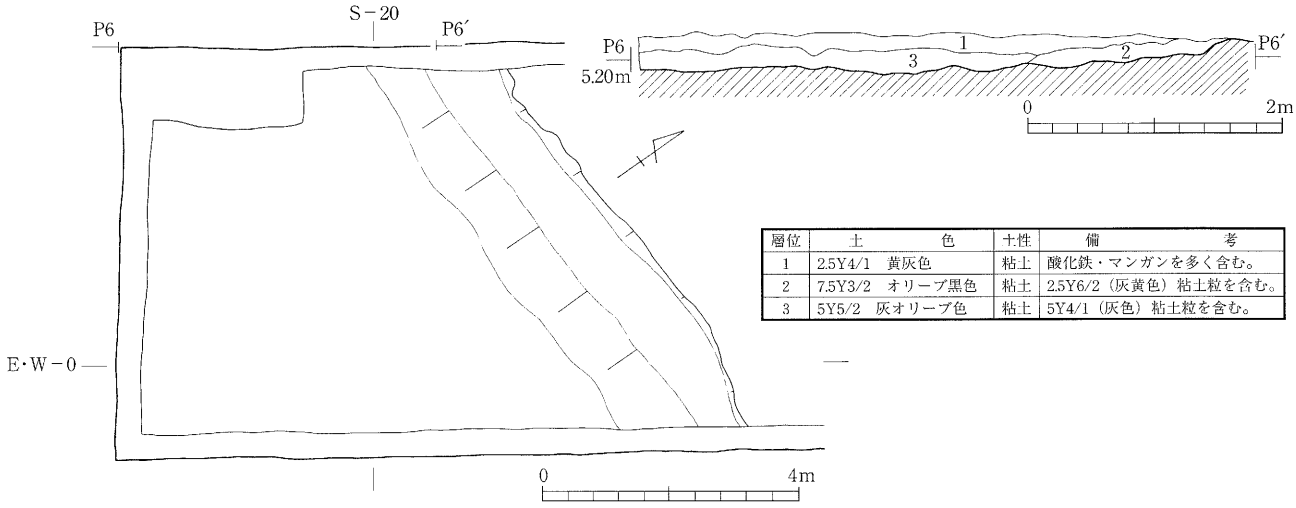
Ⅳ層水田跡　２区において畦畔が３条確認された。３条とも調査区外へ延びており、正確な形状・規模は不明である。畦畔①は調査区の北側Ｎ－16から北壁にかけて位置しており、真北方向である。上幅は約100～120cm、下幅は約130～160cmであり、高さは約８～10cmである。畦畔②はＮ－２～11付近に位置し、Ｎ－２付近で畦畔③に接する。畦畔②の方向は畦畔①と同方向であり、真北方向である。上幅は約50～80cm、下幅は約90～110cmであり、高さは約７～10cmである。畦畔②からは、板状の木製品１点、杭１点、性格不明の木が２点出土している。畦畔③はＮ－２～Ｓ－２付近に位置し、Ｅ－１°－Ｎの方向である。上幅は約80～100cm、下幅は約170～200cmであり、高さは約10～20cmである。

３区のほぼ中央部に畦畔が２条確認された。Ｎ－３～Ｓ－４付近に位置する畦畔①の方向はＮ－２°－Ｅとほぼ真北方向である。南部は調査区外に延びているが、北部はＮ－３・Ｗ－４付近で途切れる。上幅は約20～60cm、下幅は約70～130cmであり、南に寄るに従い幅が狭くなる。高さは約５～10cmである。Ｓ－16～21付近に位置する畦畔②は、Ｅ－20°－Ｎの方向である。上幅は約40～100cm、下幅は約110～140cmであり、高さは約２cmである。Ｓ－



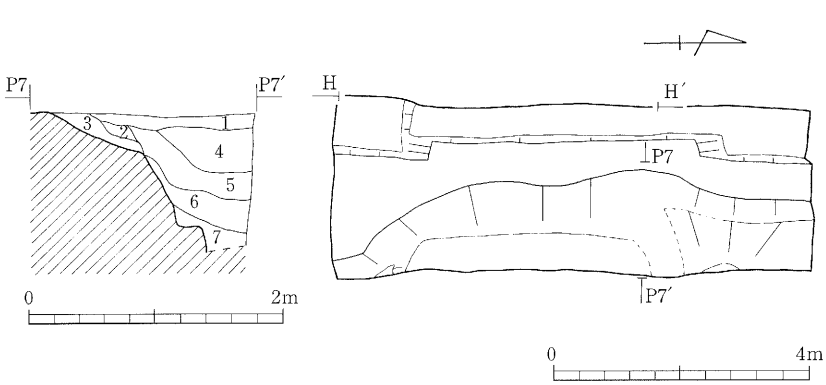
層位	土　色	土　性	備　考
1	2.5Y4/1　黄灰色	砂質シルト	径１～数mmの砂粒、炭化物、酸化鉄、マンガン粒を含む。
2	5Y3/1　オリーブ黒色	シルト質粘土	酸化鉄、2.5Y3/1（黒褐色）シルトブロックを含む。

第９図　SK－２



層位	土　色	土性	備　考
1	2.5Y4/1　黄灰色	粘土	酸化鉄・マンガンを多く含む。
2	7.5Y3/2　オリーブ黒色	粘土	2.5Y6/2（灰黄色）粘土粒を含む。
3	5Y5/2　灰オリーブ色	粘土	5Y4/1（灰色）粘土粒を含む。

第10図　SX－１



層位	土　色	土性	備　考
1	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	酸化鉄を含む。
2	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	酸化鉄を含む。
3	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	酸化鉄を含む。２よりやや暗い色。
4	5Y3/2　オリーブ黒色	粘土	粒状の小さい固まりを含む。木片・種子を含む。
5	5Y4/1　灰色	粘土	水分を多く含む。粒状の小さい固まり、白色小礫を含む。馬の頸の骨が出土。
6	5Y2/1　黒色	粘土	水分を多く含む。粒状の小さい固まりを含む。灰白色火山灰を含む。
7	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	水分を多く含む。粒状の小さい固まりを含む。

第11図　SX－４

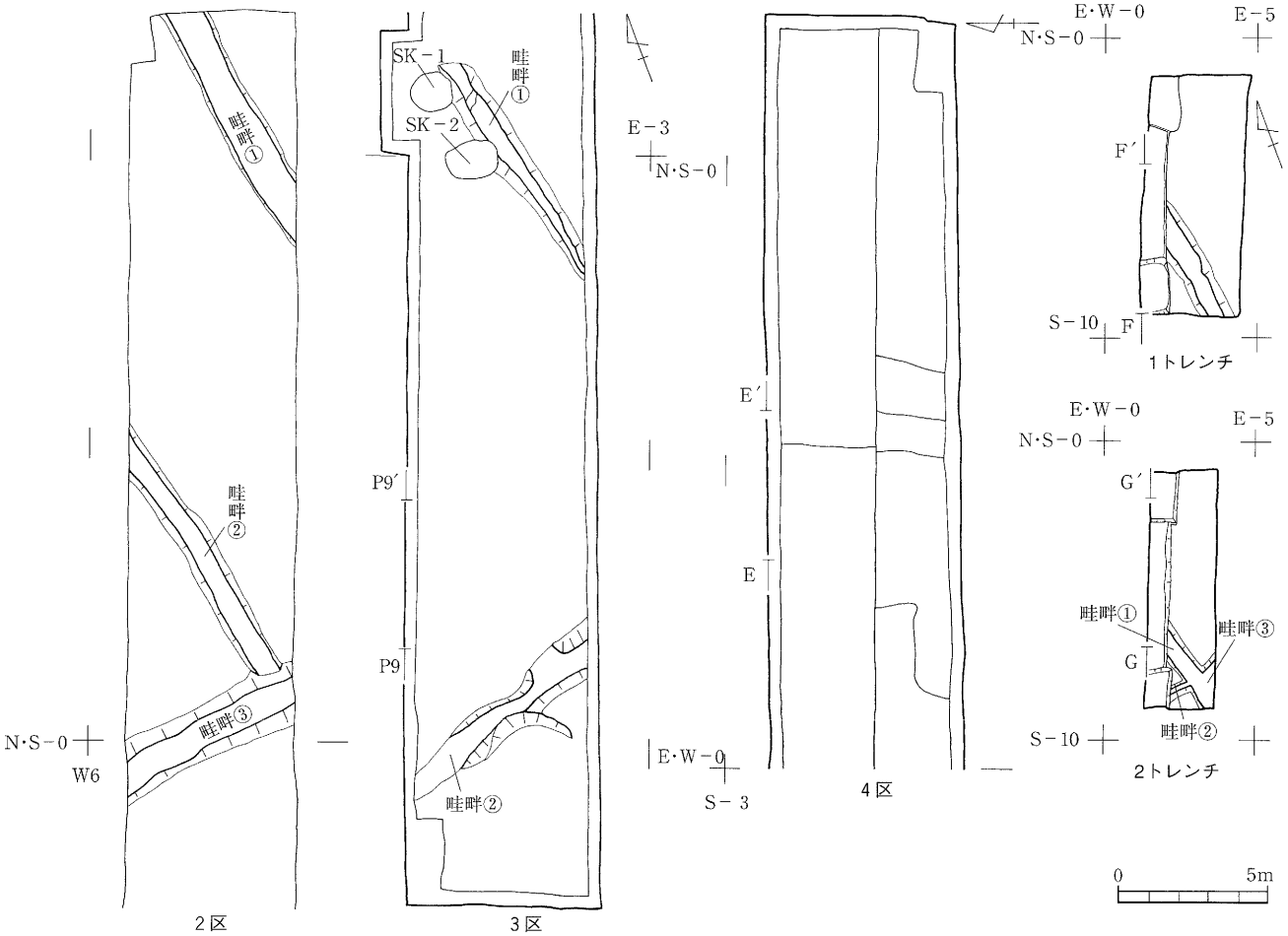
17付近で北方向に延びていくような形跡はあるが、削平を受けているため確認できない。また、この下層も断面の状況から水田跡と考えられる。

１トレンチにおいて、Ｎ－３°－Ｅとほぼ真北方向の畦畔が１条確認された。調査区外へ延びている。畦畔の上幅は約40～70cm、下幅は約100～120cmであり、高さは約４～10cmである。

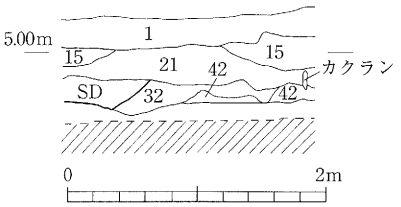
２トレンチにおいて畦畔が３条確認された。調査区外へ延びている。畦畔①はＳ－６～９付近に位置しており、Ｎ－７°－Ｗとほぼ真北方向である。上幅は約50cm、下幅は約90cmであり、高さは約３～８cmである。畦畔②はＳ－８～９付近に位置する畦畔で、方向はＷ－８°－Ｎであり、Ｓ－８付近で畦畔①に接している。上幅は約10cm、下幅は約40cmであり、高さは約３～８cmである。畦畔③はＳ－７付近で一部のみ確認された。Ｓ－８付近で畦畔①に接している。上幅及び下幅は不明である。高さは約８cmである。

Ⅳ層における水田跡は、２区・６区・１トレンチ・２トレンチ・３トレンチで１層、３区・４トレンチで２層、４区で３層確認された。耕作土は10cm前後であり、下面の凸凹は顕著に現れており、水田として耕作したと考えられる形跡が見られる。遺物は中世陶器片が出土しており、中世の水田跡と考えられる。

SX－２落ち込み　３区中央部、Ｓ－３～８付近に位置している。３区Ⅳ層中で確認された。遺構の北西部は調査



第12図　２年次Ⅳ層水田跡



層位	土　　色	土性	備　　考
1	7.5Y4/2　灰オリーブ色	粘土	酸化鉄斑が特に上部に多い。
15	7.5YR3/1　黒褐色	粘土	酸化鉄を含む。
21	10YR3/1　黒褐色 5Y4/1　灰色	粘土 粘土	水田土壌攪拌。上層との層理面から層中に白色小礫が多い。酸化鉄を含む。下面近くに灰白色火山灰が見られる所有り。
32	10YR1.7/1　黒色	粘土	灰白色火山灰（5Y6/4）を含む。
42	N1.5/0　黒色	粘土	植物遺体が多い。未分解の大きな繊維が層状になっている所有り。

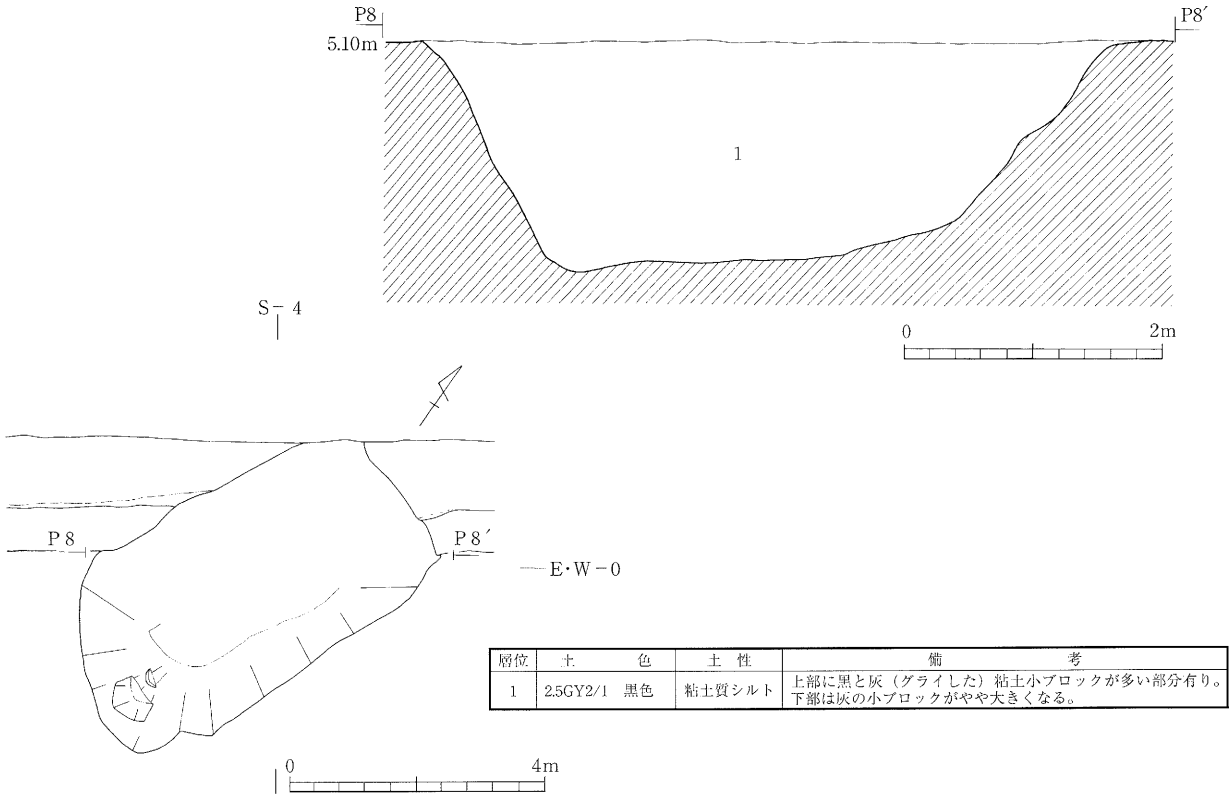
第13図　２年次Ⅳ層畦畔断面図

区外へ延びており、正確な形状・規模は不明である。平面形は、長軸約570cm、短軸約300cmの不整な長方形で、長軸方向はほぼ真北方向である。確認面から底面までの深さは190cm程度とかなりの深さを持っており、断面は台形を呈している。底面はほぼ平坦である。壁の角度は約60°と急角度で立ち上がっている。南東部角の壁の部分には、２段のテラス状の段差が確認できた。確認面からの深さは上部のテラスまでは74cm、下部のテラスまでは135cmとなっている。堆積土は人為堆積と考えられる単層である。遺物は須恵器片が出土している。泥炭層採掘のための土坑の可能性があるが、泥炭層より下層部にまで掘り込みが見られるため、明確な判断はできない。性格不明の遺構である。実際の掘り込み面は、確認面から８～10cm上部のⅣ層上面になる。

SX－３落ち込み　３区Ｓ－12～16付近の西壁セクションで土坑状の落ち込みが確認されたが、平面上では確認できなかった。正確な形状・規模は不明である。堆積土は人為堆積と考えられる単層であり、SX－２と同層である。明確な判断はできないが、セクション図の状況から判断するとSX－２とほぼ同様の規模であると考えられる。性格不明の遺構である。

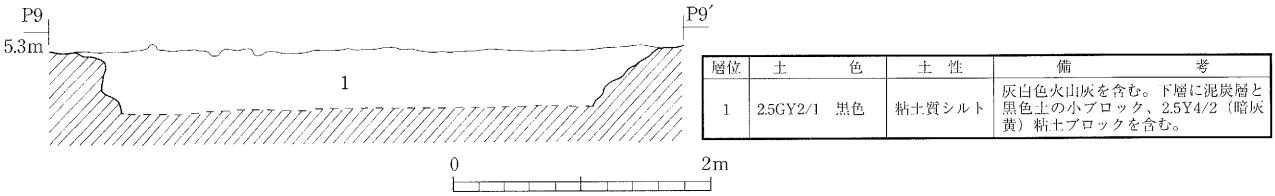
③Ⅴ層検出遺構

Ⅴ層水田跡　セクション図の状況及び１年次調査から、水田跡と考えられる層が４区・４トレンチで１層確認された。４区では下層の巻き上げが顕著に現れており、耕作した形跡が確認された。４トレンチでは２種類の土層が混在しており、下層を巻き上げたと考えられる形跡が確認された。いずれの調査区も下面の凸凹は顕著に見られる。遺物は土師器片が出土しており、１年次調査のⅤ層と同時代である古代の水田跡と考えることができる。



層位	土　色	土　性	備　考
1	2.5GY2/1　黒色	粘土質シルト	上部に黒と灰（グライした）粘土小ブロックが多い部分有り。下部は灰の小ブロックがやや大きくなる。

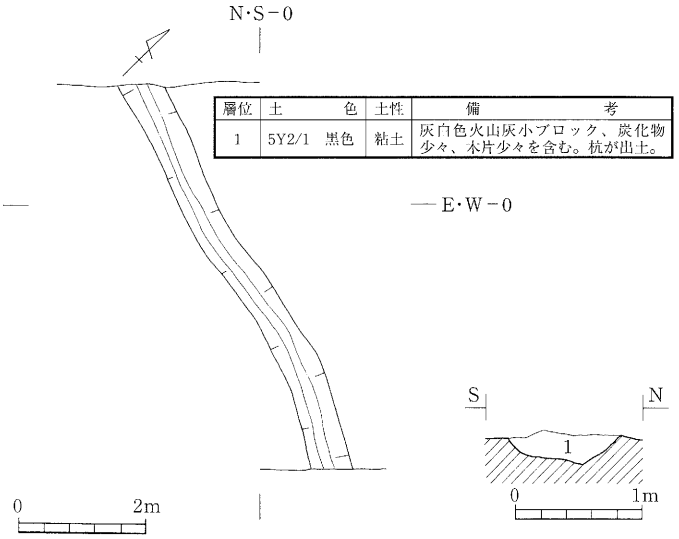
第14図　SX－２



層位	土　色	土　性	備　考
1	2.5GY2/1　黒色	粘土質シルト	灰白色火山灰を含む。下層に泥炭層と黒色土の小ブロック、2.5Y4/2（暗灰黄）粘土ブロックを含む。

第15図　SX－３

溝跡　２区のⅤ層上面、調査区中央部Ｎ－１～Ｓ－２にかけて畦畔の南側に平行して接する形で確認された。溝の方向はＷ－３°－Ｎの方向で、調査区の外側へ延びている。上幅は30cm前後、底面幅は10cm前後である。断面形は皿型であり、確認面からの深さは約25cmである。調査区の標高が北東に向かって低くなるのに対し、底面は西へ向かって傾斜している。堆積土は自然堆積による単層で、木杭が２点出土している。また、調査区西壁中から木杭が１点出土している。底面が西方へ傾く理由については不明である。

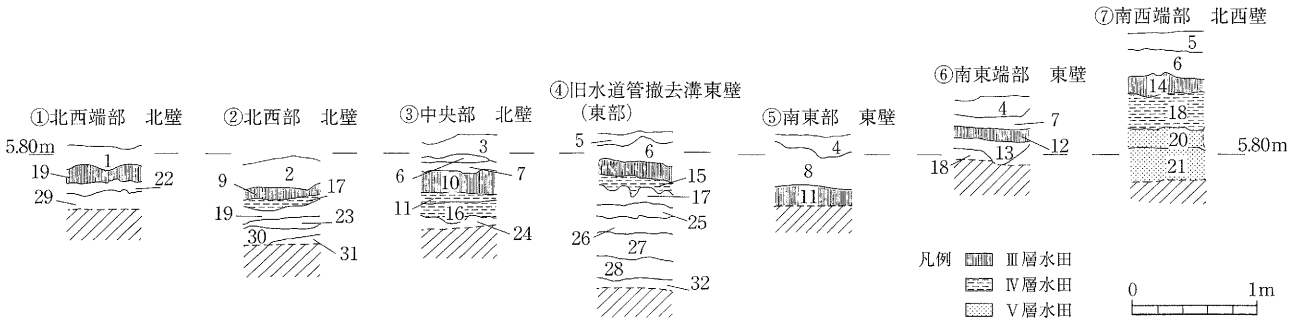


層位	土色	土性	備考
1	5Y2/1　黒色	粘土	灰白色火山灰小ブロック、炭化物少々、木片少々を含む。杭が出土。

第16図　溝跡

④区画整理地内の土層状況

調査区内の７カ所を土層確認対象箇所とした。灰白色火山灰を含むⅤ層は、北西端部・北部・中央部・旧水道管撤去溝の各調査箇所で確認されている。灰白色火山灰が確認された土層のレベルは一定ではなく、調査区の北西部においては地表から浅いレベルで確認され、東部に寄るにしたがい確認レベルが深くなっている。南西端部の調査では古代の層まで確認したが、灰白色火山灰を確認することはできなかった。粘土層の下層の状態については、調査区北西端部では砂層となっており、北西端部から５ｍほど東に寄ると地表から同レベルの深さでは砂層は確認できず、泥炭層が広がっている。旧水道管撤去溝では、泥炭層の下層に砂層が確認された。また、本調査の成果から、水田跡と考えられる土層が各調査箇所で確認された。Ⅲ層近世水田跡と考えられる土層は、各調査箇所で１層ずつ確認された。Ⅳ層中世水田跡と考えられる土層は、北西部・南西端部・旧水道管撤去溝で１層、中央部で２層確認された。Ⅴ層古代水田跡と考えられる土層は、南西端部において２層確認された。遺物は、南西端部の調査におい



層位	No.	土色	土性	備考
Ⅰ	1	5Y3/1　オリーブ黒色	砂質	
	2	7.5Y4/2　灰オリーブ	粘土	
	3	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	下層より少し暗い色。
	4	2.5Y3/3　暗オリーブ褐色	粘土	
	5	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	
Ⅱ	6	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	酸化鉄を含む。
	7	2.5Y5/2　暗灰黄色	粘土	酸化鉄を含む。
	8	2.5Y3/2　黒褐色	粘土	
Ⅲ	9	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	
	10	5Y4/1　灰色	粘土	
	11	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土	酸化鉄を含む。
	12	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	やや白っぽい。
	13	2.5Y4/2　暗灰黄色	粘土	12よりやや濃い色。

層位	No.	土色	土性	備考
Ⅲ	14	2.5Y4/2　黄灰色	シルト質粘土	マンガン含む。
	15	2.5Y4/1　黄灰色	粘土	
Ⅳ	16	2.5Y3/1　黒褐色 2.5Y2/1　黒色	粘土 粘土	攪拌。
	17	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	少ししまった土。
	18	2.5Y3/2　黒褐色	シルト質粘土	マンガンを含む。酸化鉄集積層あり。
Ⅴ	19	2.5Y2/1　黒色	粘土	灰白色火山灰を含む。
	20	7.5GY4/1　暗緑灰色 10Y2/1　黒色	粘土 粘土	とても固い粘土。攪拌。
	21	7.5Y4/1　灰色 7.5Y3/1　オリーブ黒色	粘土 粘土	攪拌。
Ⅵ	22	2.5Y3/1　黒褐色	粘土	

層位	No.	土色	土性	備考
Ⅵ	23	2.5Y3/3　暗オリーブ褐色	粘土	
Ⅶ	24	10YR1.7/1　黒色	粘土	泥炭層
	25	5Y3/1　オリーブ黒色 5Y2/1　黒色	粘土 粘土	互層
	26	10Y6/1　灰色 10Y4/1　灰色	粘土 粘土	互層
	27	5Y2/1　黒色	粘土	植物遺体を含む。
	28	5Y2/1　黒色	粘土	上部に白い粒々を含む。
	29	5Y3/1　オリーブ黒色	砂質	植物遺体を含む。
	30	2.5Y5/3　黄褐色	砂質	
	31	2.5Y5/2　暗灰黄色	砂質	
	32	7.5Y4/1　灰色	砂質	グライした砂。

第17図　区画整理地内の土層状況

て、Ⅳ層から土師器の高坏の脚が出土した。古代の土層と考えられるⅤ層の上部で出土していることから、河川の氾濫により流されてきたものと考えることもできる。

６．まとめ

（１）今回の調査は、洞ノ口遺跡の北東部で行われた。標高は、4.8m～6.8m程度である。

（２）調査対象地域の水田跡は、大きく３つの地域に分けることができる。２年次調査の１区及び５区では、近世以前の水田跡は確認できず、近代以降になって水田耕作が行われるようになったことが考えられる。ただし、プラントオパール分析の結果、１区のⅣ層では水田耕作が行われていた可能性が高く、中世のある時期には北東側にも水田が広がっていた可能性が考えられる。２年次調査の２区・３区・４区の東半部・１トレンチ・２トレンチ・３トレンチでは、中世・近世・近代の３～４層の水田跡が確認された。確認調査の１～４トレンチ・１年次調査の１～４区・２年次調査の４区の西半部・４トレンチでは古代・中世・近世・近代の５～６層の水田跡が確認された。各調査区で確認された畦畔は、いずれもほぼ東西南北の方向性を持っており、比較的整然と区画されていたことが伺える。調査対象地域の水田跡の下層は、泥炭層と砂質土壌の層の２つに大別できる。主に２年次調査の４区から西側及び２年次調査の１トレンチと２トレンチの間より南側では砂質土壌が分布しており、調査対象地域の北東部については泥炭層が分布している。特に北東部に寄るほど植物遺体の占める割合が増している。したがって、比較的新しい時期まで調査対象地域の北東部は著しい湿地帯となっており、水田耕作にはあまり適さない土地であったと考えられる。以上のことから、自然堤防に近い地域では古代から水田耕作が行われており、時代を下がるにつれて、また農耕技術の進歩に伴って本格的な水田耕作地域が北東方向に広がっていったものと考えられる。

（３）その他の遺構として、溝跡、土坑、性格不明の遺構がある。遺物は少量である。陶磁器、土師器、須恵器、木製品、金属製品、石製品、古銭、骨が出土している。中でも遺構内出土の遺物は極めて少ない。時期の判明する遺物としては、古墳時代の非ロクロ使用の土師器の壺、古代の内面に黒色処理してある土師器の坏、中世陶器が出土している。また、中国製の青磁の椀が出土していることも併せて記述しておく。遺構の時期については遺物が極めて少なく詳細は不明であるため、土層の状況から判断せざるを得ない。調査で確認された溝跡は、中世から近世の遺構で水田耕作に関連した水路跡と考えることができる。そのうち、１年次調査では大溝跡と考えられる遺構SD－７溝跡が確認されている。しかし、SD－７は１次調査で確認された城館に伴う大溝跡の推定される延長線上にはない。大溝跡が方向を転換してSD－７溝跡の位置に至る可能性も考えられる。また、２年次調査で確認されたSX－４についても堆積土の状況がSD－７と類似しており、大溝の一部である可能性も考えられる。しかし、SX－４については遺構の一部のみの確認にとどまっているため、明確な判断はできない。SX－１は南方向への性格不明の落ち込みであるが、堆積土の状況およびプラントオパール分析の結果から水田跡の可能性も考えられる。また、SX－２及びSX－３は中世の遺構と考えられる性格不明の遺構であるが、泥炭層を掘削していることから泥炭採掘跡の可能性が考えられる。SK－２土坑は比較的新しい時期の遺構で、古くても近世以降の土坑である。性格は不明である。

（４）今回の調査では、中世に留守氏がその所領で行ったとされる新田開発の範囲が確認される可能性があり、『留守家文書』にみられる「岩切分荒野七町」の絵図に描かれている沼地の確認がその判断の根拠になると考えられた。調査区内で確認された中世の水田跡は、絵図に記された水田の範囲内に位置する可能性もあるが、絵図中の沼地跡と考えられる遺構をはじめ、区画を示す遺構等については確認されなかった。

Ⅱ　洞ノ口遺跡（第３次調査）

参考文献

金森・松本・工藤・古川・伊藤（1988）「東光寺遺跡　第１・２次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第112集　仙台市教育委員会

金森　安孝（1990）「東光寺遺跡第３次報告書」仙台市文化財調査報告書第142集　仙台市教育委員会

主浜・松本（1999）「山田条里遺跡（第２次・第３次調査）」『陸奥国分尼寺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第238集　仙台市教育委員会

竹田　幸司（1999）「北目城跡（第２次調査）」『陸奥国分尼寺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第238集　仙台市教育委員会

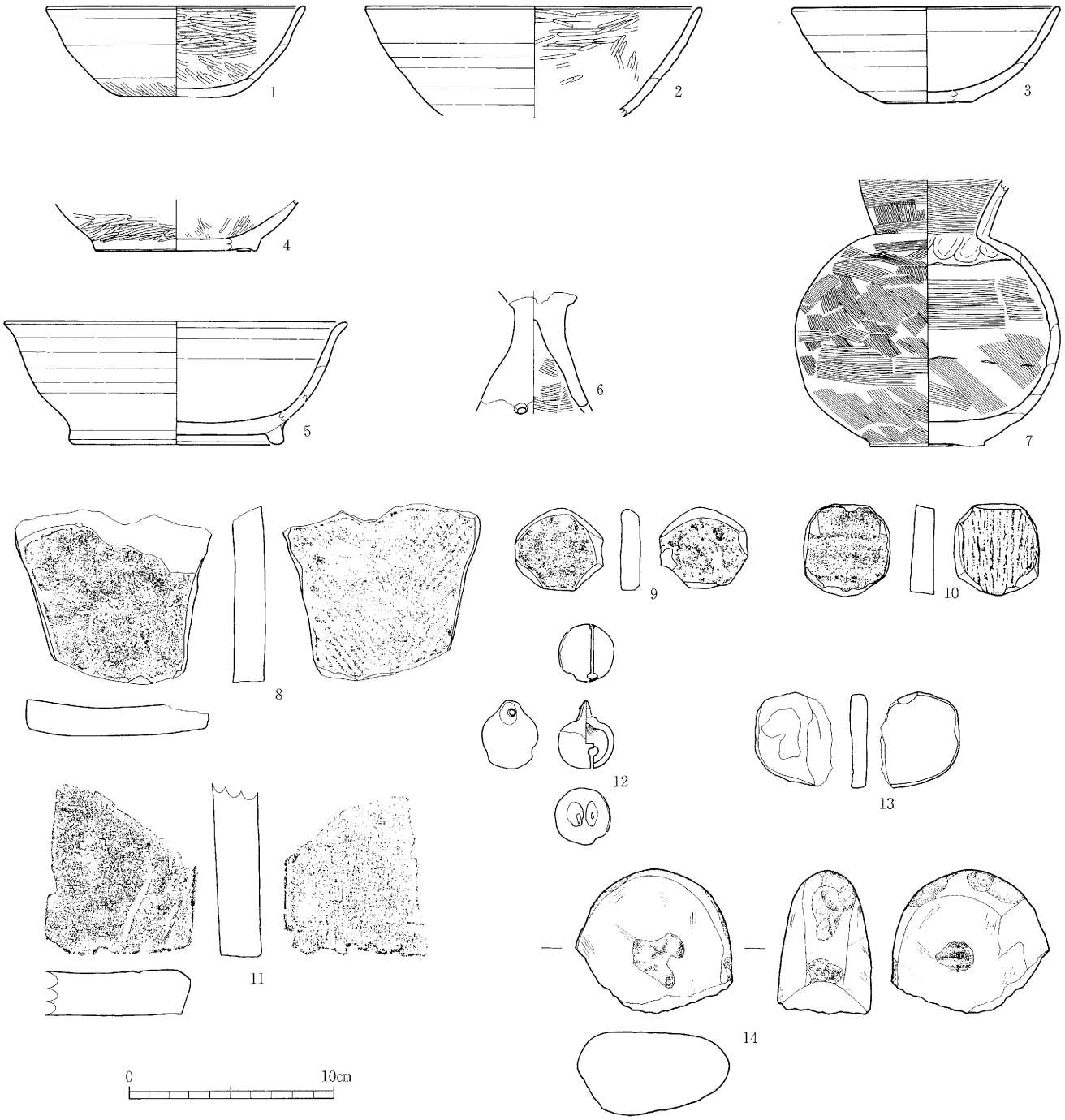
工藤・竹田・結城（1999）「北屋敷遺跡（第２次調査）」『陸奥国分尼寺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第238集　仙台市教育委員会

相澤・車田（平成12年）「西沢遺跡－第８次調査報告書－」多賀城市文化財調査報告書第58集　多賀城市教育委員会

平間・吉田（2000）「山田条里遺跡（第４次・第５次調査）」『五本松窯跡ほか』仙台市文化財調査報告書第247集　仙台市教育委員会

「仙台市史　通史編Ⅱ　古代中世」　仙台市史編纂委員会

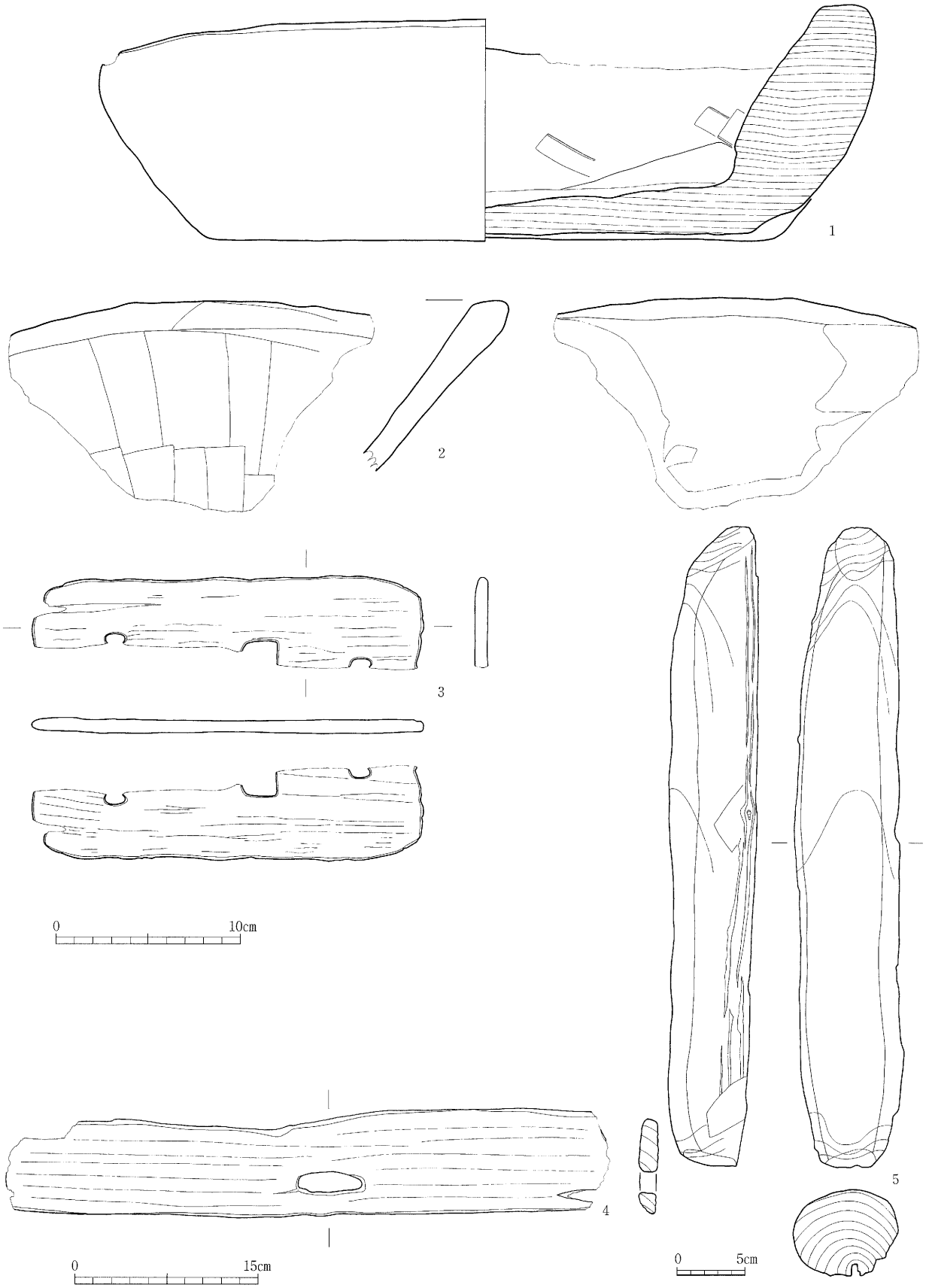
田中　則和「川沿いの屋敷群」『よみがえる中世７』Ｐ.93～Ｐ.98



No.	種　別	器　種	出　土　地　点	層位	特　　徴	備　　考	写真図版
1	土師器	杯	２年次１区	Ⅴ層	外面－7.5YR6/3（にぶい橙色）、ロクロ、ミガキ　内面－黒色処理、ミガキ		22
2	土師器	杯	１年次２区北端	Ⅳ層	外面－10YR7/1（灰白色）、ロクロ、ナデ　内面－黒色処理、ミガキ		23
3	土師器	杯	２年次４区	Ⅳ層	外面－10YR8/2（灰白色）、ロクロ　内面－10YR8/2（灰白色）、ロクロ		24
4	土師器	杯	２年次３トレンチ	Ⅲ層	外面－10YR7/2（にぶい黄橙色）、ミガキ　内面－黒色処理、ミガキ		25
5	土師器	高台付杯	２年次１区	Ⅲ層	外面－10YR7/6（明黄褐色）、ロクロ　内面－10YR7/6（明黄褐色）、ロクロ	灰白色火山灰直上	26
6	土師器	高杯（脚）	２年次南西端部	Ⅳ層	外面－7.5YR8/4（浅黄橙色）　内面－10YR8/2（灰白色）、ナデ		28
7	土師器	壷	２年次４区北側溝	Ⅵ層	外面－10YR8/1（灰白色）　口縁部：ハケメ、ヨコナデ　体部：ハケメ、ナデ　底部：木葉痕 内面－10YR8/2（灰白色）　口縁部：ナデ　体部：指押さえ、ナデ		29
8	須恵器	甕	１年次２区	Ⅳ層	平行タタキ、内面凹部に使用痕	転用硯	30
9	瓦			表採			33

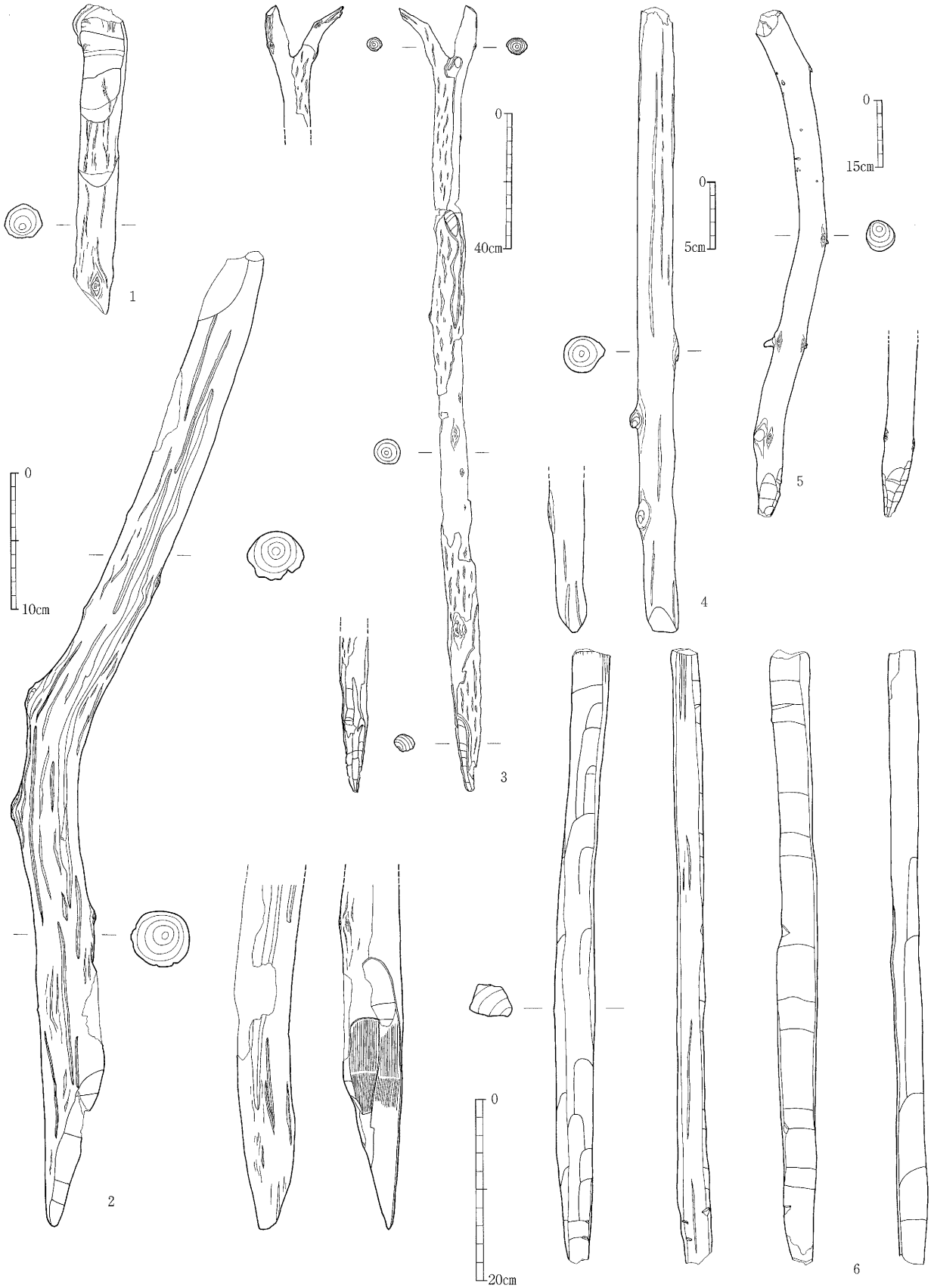
No.	種　別		出　土　地　点	層位	長×幅×厚　mm	重量 g	特　　徴	備　　考	写真図版
10	陶器製円盤		１年次１区SD－７	上層	44.0×40.0×10.0	22.4	中世。常滑産。		31
11	陶器製円盤		１年次４区	Ⅰ層	45.0×41.0×11.0	30.2	近世（19世紀）瑞産。	揺り鉢からの転用。	32
12	土師器	土鈴	２年次３区	Ⅰ層	34.0×22.0×28.0	6.5	外面－10YR8/1（灰白色） 内面－5YR7/6（橙色）、10YR8/2（灰白色）		35
13	石製円盤		２年次６区	Ⅲ層	47.0×(38.0)×8.0	11.0	片面剥落。		36
14	礫石器		１年次４区	Ⅴ層	70.0×75.0×45.0	315	両面にくぼみ、ミガキ。側面にタタキ。		

第18図　出土遺物（１）



No	種　別	器種	出　土　地　点	層位	特　　徴	写真図版
1	木製品	木鉢	１年次１区SD－７	上層	木鉢。口径（31.9cm）器高13.2cm底型（30cm）	53
2	木製品	木鉢	１年次１区SD－７	下層	木鉢の側面。器高（11.7cm）	54
3	木製品	板材	１年次１区SD－７	上層	中央部に穿孔を３つ以上持つと考えられる。	55
4	木製品	板材	２年次２区中央畦畔	Ⅳ層	中央部に穿孔を１つ持つ。穿孔は人工のものか節が抜けたものか不明。	56
5	木製品	杭	１年次１区SD－７	下層	両端に１面ずつ加工痕があり、両端はなめらかになっている。	57

第19図　出土遺物（２）



No.	種　別	器種	出　土　地　点	層位	特　　徴	写真図版
1	木製品	杭	２年次２区溝跡		側面が１面加工された杭。	
2	木製品	杭	２年次２区西壁中溝跡		先端部が１面加工された杭。	
3	木製品	杭	２年次５区北壁	Ⅶ層	先端を３面加工。中央部に枝の切除痕あり。上端部は二股に分かれているが、両方とも先に加工痕あり。	58
4	木製品	杭	２年次４区南側溝東側	Ⅶ層	先端部が２面加工された杭。	
5	木製品	杭	１年次１区SD－７	底面	先端部が３面加工された杭。	59
6	木製品	角杭	２年次３区西側溝北側	Ⅶ層	４面に加工された角杭。２面を生かした状態で先端部が細くなっている。	60

第20図　出土遺物（３）

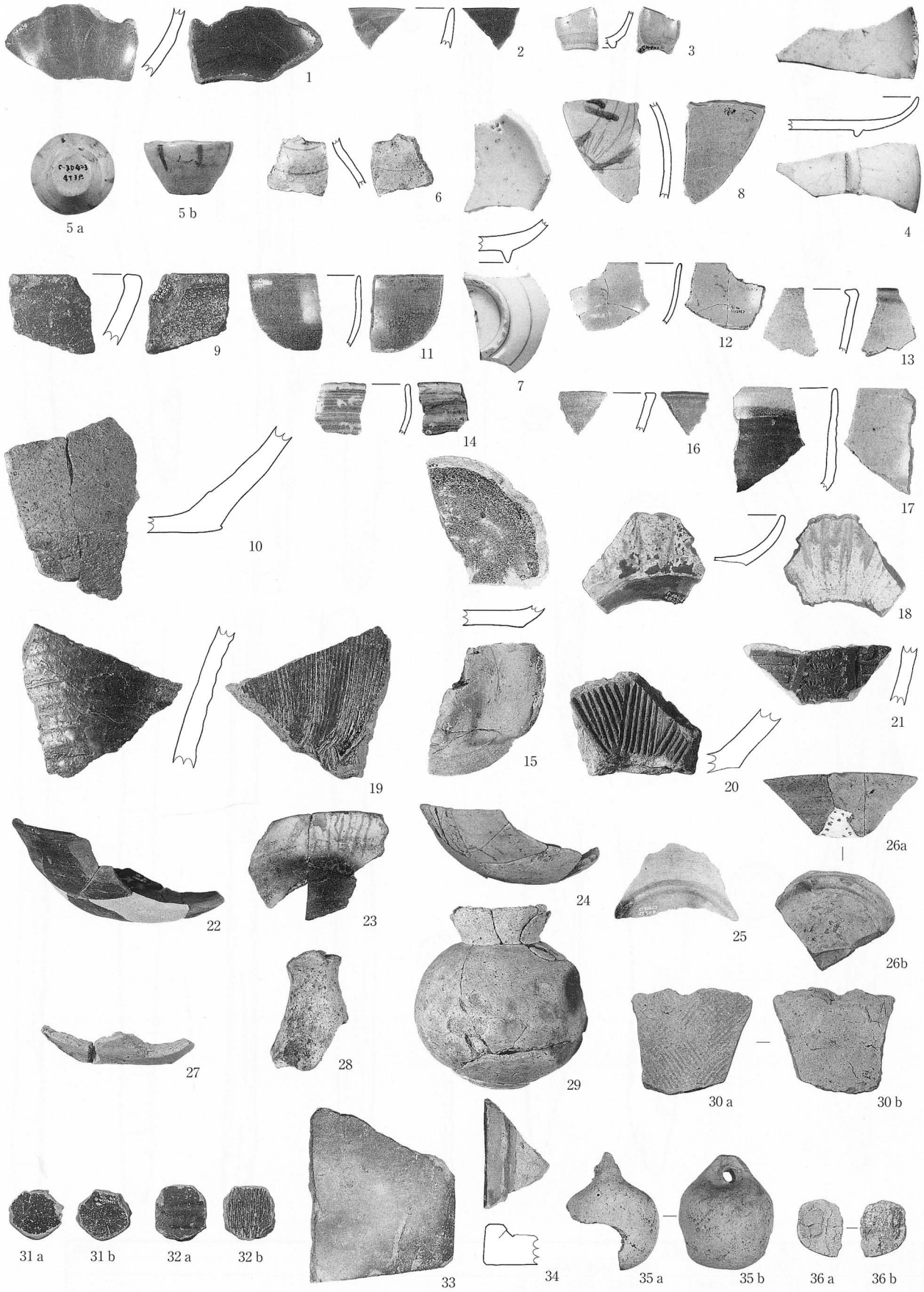
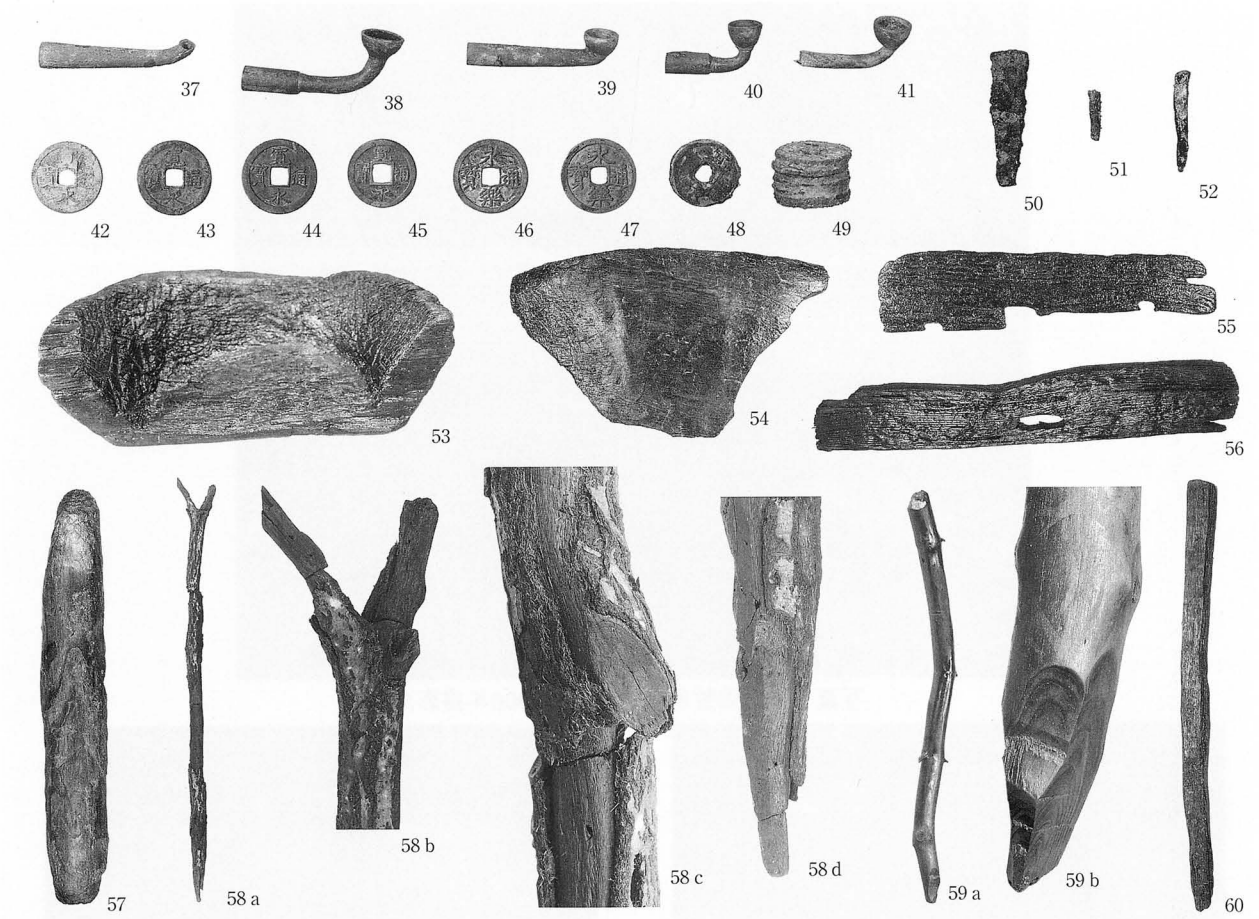

1
2
3
4
5 a
5 b
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26a
26b
27
28
29
30 a
30 b
31 a
31 b
32 a
32 b
33
34
35 a
35 b
36 a
36 b

写真１　出土遺物（１）



写真図版	出土地点	層位	種別	器種	産地	時期	備考
1	１年次３区南部	Ⅲ層	青磁	碗	龍泉窯系	13～14世紀	連弁文
2	１年次位置区SD－７	埋土下層	青磁	碗	龍泉窯系	13～14世紀	連弁文
3	２年次５区	Ⅱ層	白磁（？）	小杯		17～18世紀	
4	２年次５区	Ⅱ層	磁器	Ⅲ	肥前（？）	明治時代以降（19世紀）	上絵付絵Ⅲ
5	２年次４トレンチ	Ⅲ層	磁器	小型の瓶類		幕末～明治（19世紀）	上部を切除転用
6	２年次４区	Ⅱ層	磁器染付	瓶類	肥前	江戸時代（17～18世紀）	
7	２年次４区	Ⅲ層	磁器染付	碗	肥前	江戸時代	圏線、高台の中に銘がある。
8	２年次５区	側溝	磁器染付	壺	肥前	17世紀後半～18世紀代	
9	２年次４区	Ⅱ層	中世陶器	鉢orⅢ	在地	13世紀後半～14世紀前半	
10	２年次４区	Ⅳ層	中世陶器	鉢	在地	13世紀後半～14世紀前半	
11	２年次５区	Ⅰ層	陶器	碗	大堀相馬	18世紀	灰釉
12	１年次１区	Ⅲ層	陶器	碗	大堀相馬	18世紀後半	白濁釉
13	１年次１区	Ⅲ層	陶器	香炉	古瀬戸	14世紀～15世紀	灰釉
14	１年次２区	Ⅲ層	陶器	碗	肥前	18世紀	ハケ目文
15	１年次２区南半	Ⅲ層	陶器	Ⅲor鉢	古瀬戸	14世紀～15世紀	灰釉
16	１年次３区	Ⅲ層	陶器	香炉	古瀬戸	14世紀～15世紀	灰釉
17	１年次３区北部	Ⅲ層	陶器	碗	美濃	18世紀前半	かけ分け（灰釉と鉄釉）、腰錆碗
18	２年次６区	Ⅲ層	陶器	菊Ⅲ	瀬戸美濃	16世紀終わり～17世紀初め	灰釉菊Ⅲ
19	２年次５区	側溝	陶器	擂り鉢	堤	江戸時代（19世紀代）	鉄釉
20	２年次６区	Ⅲ層	瓦質土器	擂り鉢	在地	16世紀代	
21	２年次６区	Ⅲ層	瓦質土器	鉢類	在地	江戸時代	火鉢の可能性あり

写真図版	種別	出土地点	層位	長さ　cm	重量　g	備考
37	煙管	２年次３区	Ⅱ層	(6.5)	6.2	
38	煙管	２年次５区	表土下	6.5	11.6	
39	煙管	１年次２区	Ⅱ層	6.2	7.6	
40	煙管	１年次４区	Ⅰ層	4.0	6.5	
41	煙管	１年次３区南部轍内	埋土	(4.6)	5.6	

写真図版	種別	出土地点	層位	径　mm	重量　g	備考
42	銅銭	２年次６区	Ⅲ層	2.4	3.2	寛永通宝
43	銅銭	２年次２区	Ⅱ層	2.5	2.6	新寛永通宝
44	銅銭	１年次３区	Ⅱ層	2.6	2.6	新寛永通宝
45	銅銭	１年次３区	Ⅲ層	2.3	2.6	寛永通宝
46	銅銭	１年次３区	Ⅲ層	2.5	2.7	永楽通宝（初鋳1408年）
47	銅銭	１年次４区Ⅰ層直下の溝	埋土	2.5	2.1	永楽通宝（初鋳1408年）
48	銅銭	１年次２区	Ⅱ層	2.3	4.5	寛永通宝ヵ。複数が腐植し、１つに固まった状態になっている。厚さ0.5cm
49	銅銭	１年次２区	Ⅱ層	2.4	28.1	寛永通宝ヵ。複数が腐植し、１つに固まった状態になっている。厚さ1.7cm

写真図版	種別	出土地点	層位	長×幅×厚　cm	重量　g	備考
50	釘	２年次５区	表土下	6.1×1.2×1.1	37.9	
51	釘	１年次２区北半	Ⅲ層	(2.2)　×0.6×0.4	0.9	
52	釘	１年次３区	Ⅴ層	4.6×0.7×0.5	3.6	

写真２　出土遺物（２）

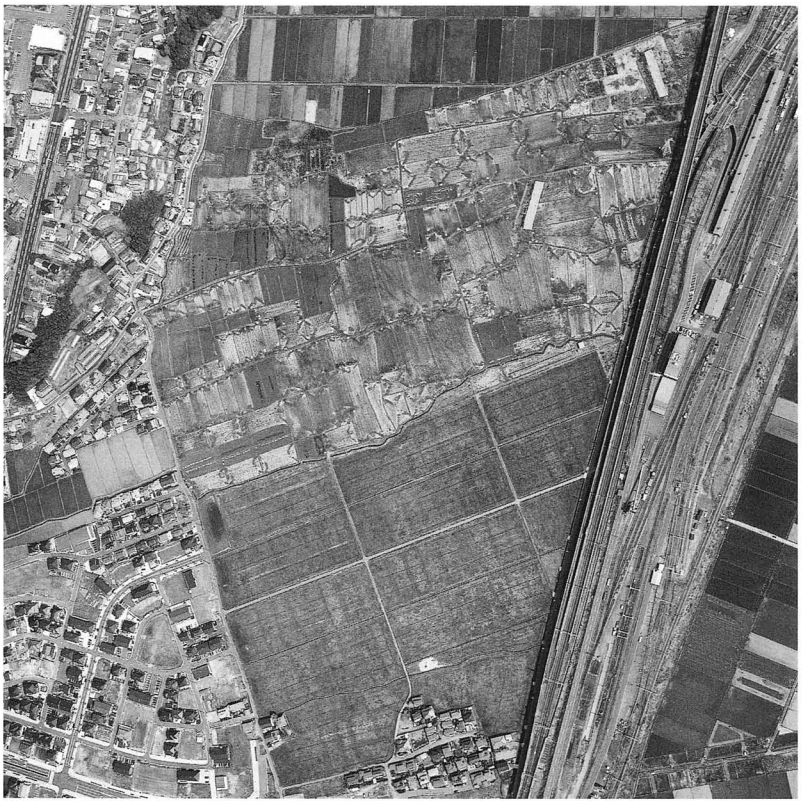


写真３　区画整理区域全景（2000年撮影）

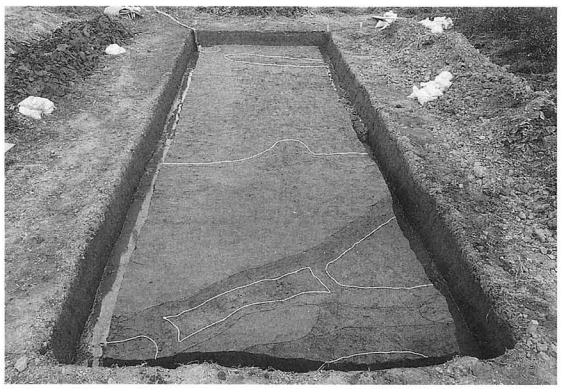


写真４　１年次１区SD－１（南より）

写真５　１年次１区Ⅲ層水田跡

写真６　１年次１区SD－５（西より）

写真７　１年次１区SD－７（南より）

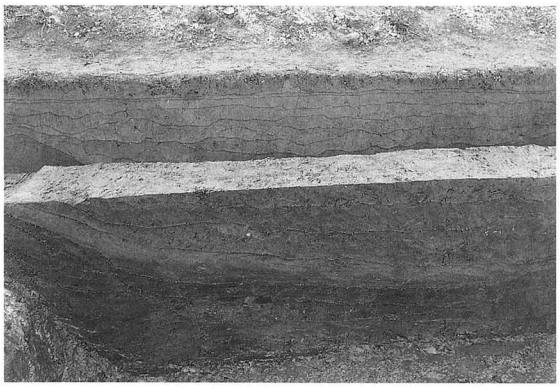


写真８　１年次１区SD－７東壁土層断面

写真９　１年次２区Ⅳ層水田跡（南より）

写真10　1年次2区西壁土層断面

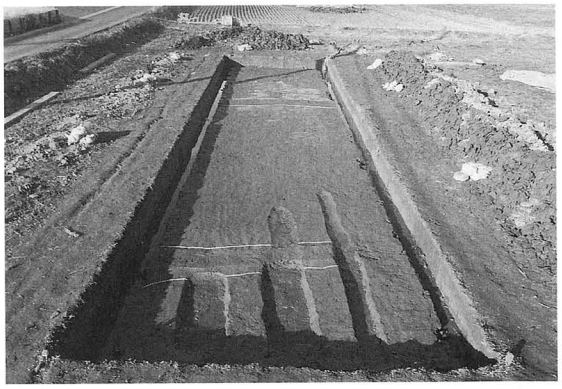


写真11　1年次3区Ⅳ層水田跡（南より）

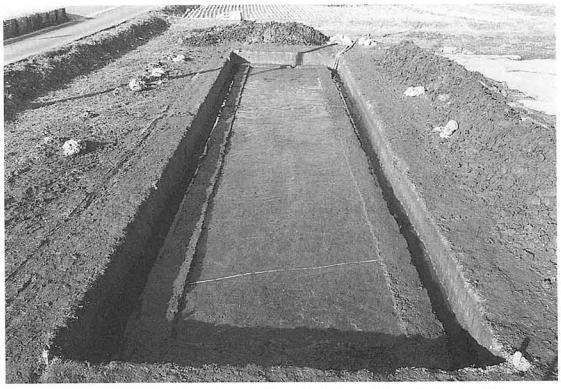


写真12　1年次3区Ⅴ層水田跡（南より）

写真13　1年次3区西壁土層断面

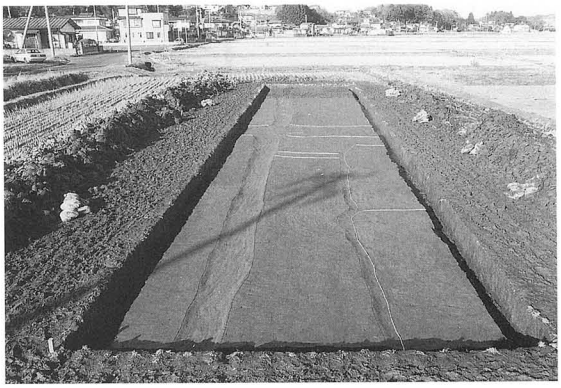


写真14　1年次4区Ⅲ層水田跡（南東より）

写真15　1年次4区Ⅳ層水田跡（南東より）

写真16　1年次4区Ⅴ層水田跡（南東より）

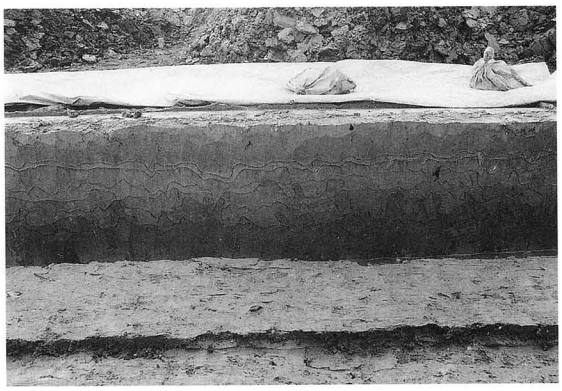


写真17　1年次4区東壁土層断面

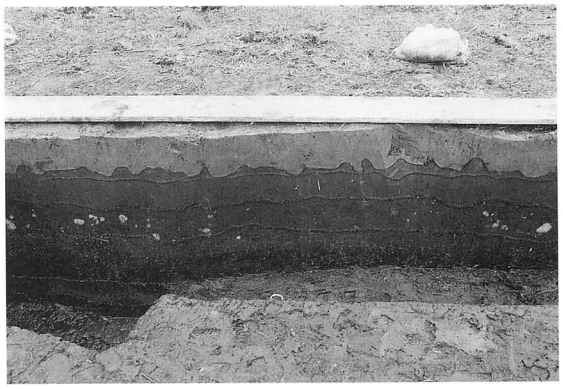


写真18　2年次1区西壁土層断面

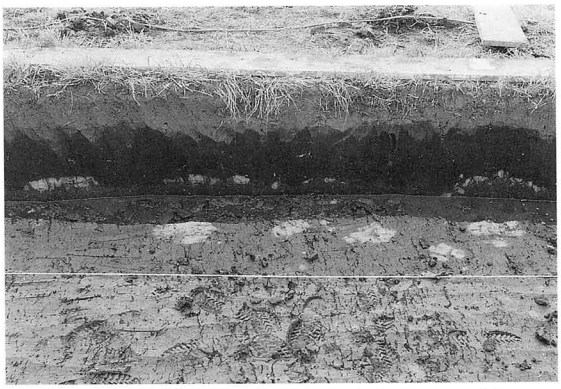


写真19　2年次1区灰白色火山灰検出状況

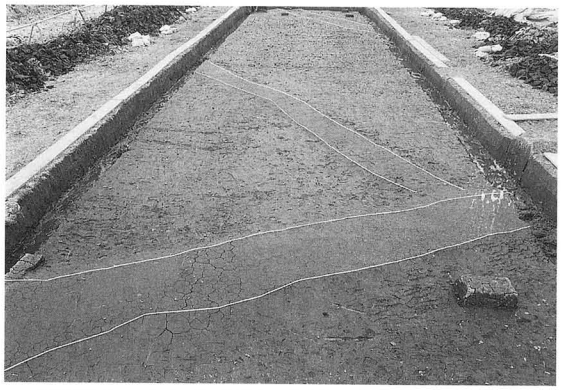


写真20　２年次２区Ⅳ層水田跡（南西より）

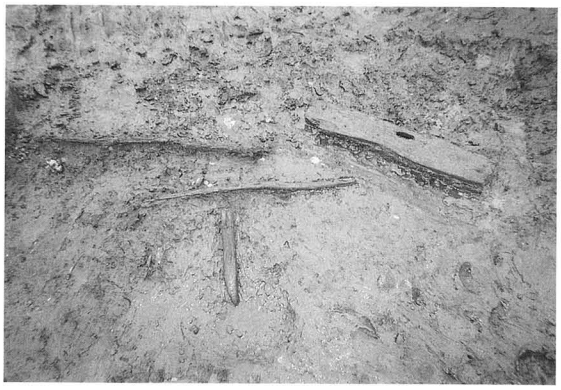


写真21　２年次２区中央畦畔木製品出土状況

写真22　２年次２区溝跡杭出土状況

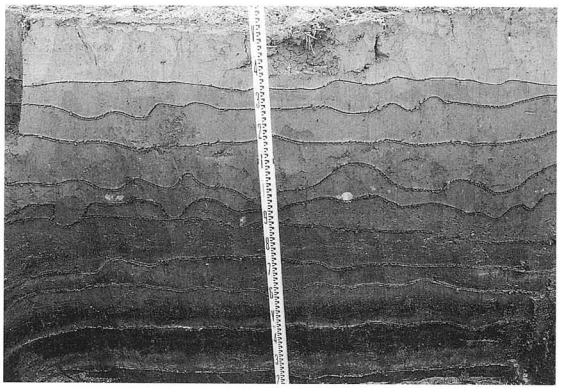


写真23　２年次２区西壁土層断面

写真24　２年次５区北壁杭出土状況

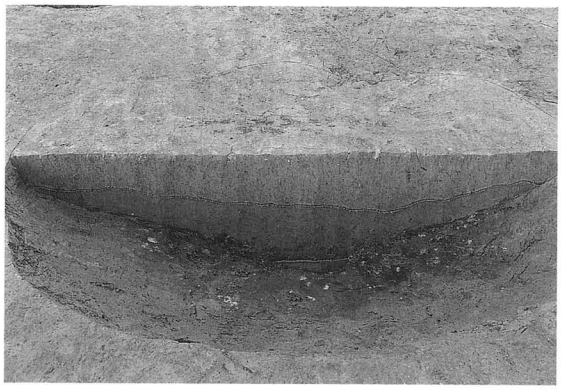


写真25　２年次３区SK－２断面

写真26　２年次３区SK－２完掘状況

写真27　２年次３区SX－１完掘状況（南西より）

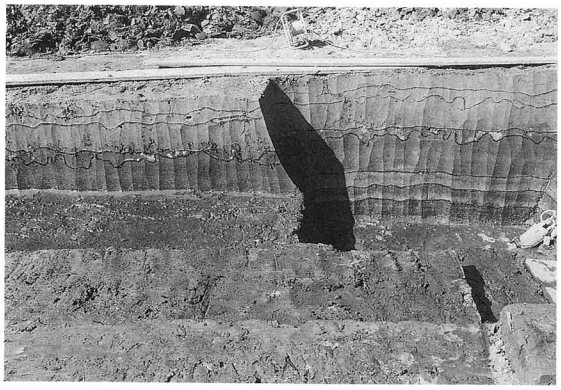


写真28　２年次３区西壁土層断面

写真29　２年次３区SX－２断面

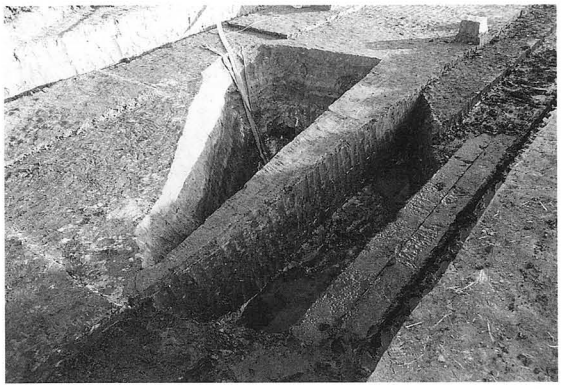


写真30　２年次３区SX－２（北西より）

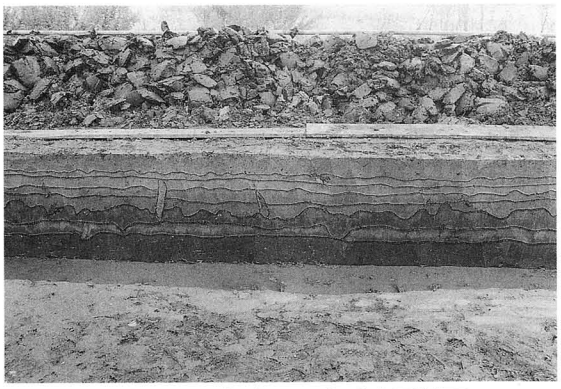


写真31　２年次４区南壁土層断面

写真32　２年次２トレンチⅣ層水田跡（南西より）

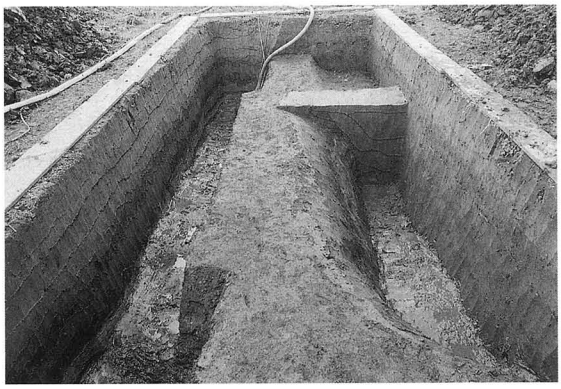


写真33　２年次４トレンチSX－４（南より）

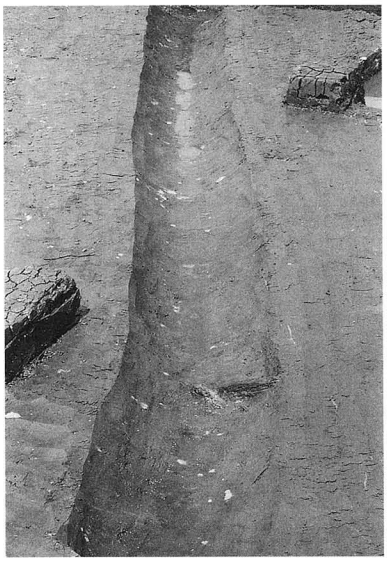


写真34　２年次２区溝跡（東より）

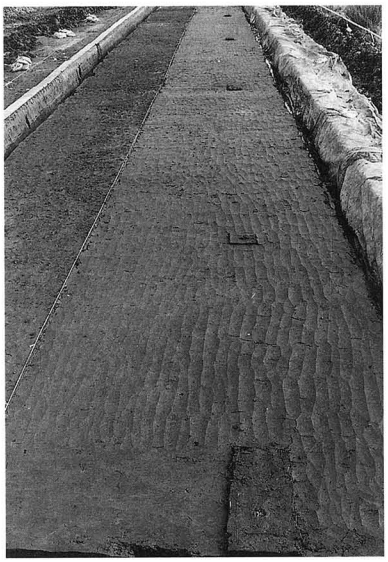


写真35　２年次４区Ⅳ層水田跡（西より）

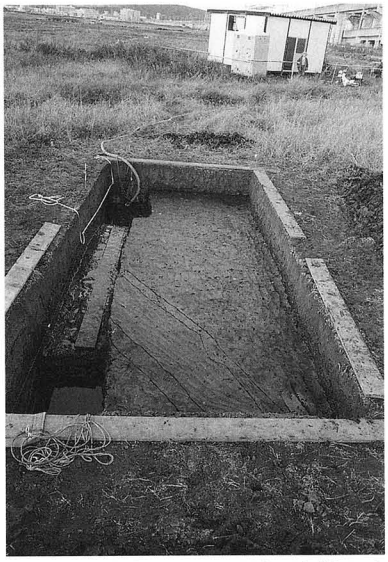


写真36　2年次1トレンチⅣ層水田跡（南より）

写真37　２年次４区北側溝土師器の出土状況

写真38　２年次３区北西側溝杭の出土状況

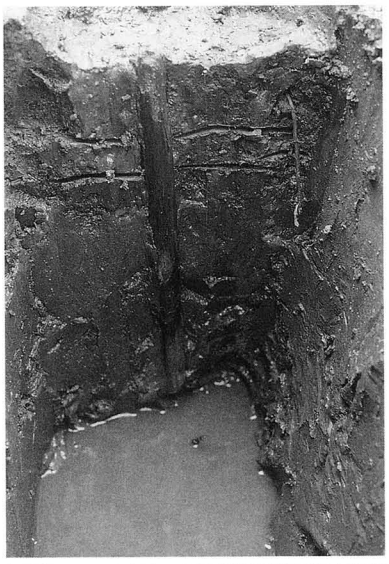


写真39　２年次４区南側側溝杭の出土状況

７．プラント・オパール分析

仙台市、洞ノ口遺跡第３次調査におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

（１）はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

洞ノ口遺跡第３次調査でも、複数の層準において水田耕作層の可能性が認められた。そこで、プラント・オパール分析を行い、稲作跡の可能性について検討を行うことになった。

（２）試料

本遺跡における試料採取地点および分析試料は、１区西壁の３層（試料№１）と４層（試料№２）、２区西壁の３層（試料№３）と４層（試料№４）、３区西壁の４層（試料№５）と５層（試料№６）、３区西壁ＳＸ－１の②層（試料№７）と④層（試料№８）、４区南壁の４層（試料№９）、５層（試料№10）および６層（試料№11）、５区北壁の３層（試料№12）、６区北壁の３層（試料№13）と４層（試料№14）、１トレンチ西壁の４層（試料№15）、２トレンチ西壁の４層（試料№16）と５層（試料№17）、３トレンチ西壁の５層（試料№18）、６層（試料№19）および７層（試料№20）、４トレンチ西壁の５層（試料№21）、６層（試料№22）および７層（試料№23）の計11地点23試料である。

（３）分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

２）試料約１ｇに直径約40μｍのガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

５）沈底法による20μｍ以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中のプラント・オパール個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10－５ｇ）を乗じて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

（４）分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ジュズダマ属、タケ亜科（ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類等である。これらの分類群について定

量を行い、その結果を第１表、および第21図に示した。

（５）考察

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行うにあたっては、通常、イネのプラント・オパールが試料１ｇあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作の行われていた可能性が高いと判断している。ただし、仙台平野ではこれまでの調査において密度が3,000個/ｇ程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは基準値を3,000個/ｇとした。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくいことから、密度が基準値に達していない場合であっても稲作跡である可能性が考えられる。これらのことを基準として、以下に稲作の可能性について検討を行う。また、その結果を図21にまとめた。

①１区西壁

３層と４層について分析を行った。その結果、両層よりイネのプラント・オパールが検出された。したがって、本地点ではこれらの層準において稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、３層ではプラント・オパール密度が1,200個/gとやや低いことから、あるいは他所の水田から混入したものであるかもしれない。

②２区西壁

本地点でも３層と４層について分析を行ったところ、両者からイネのプラント・オパールが高い密度あるいは比較的高い密度で検出された。したがって、それぞれにおいて稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

③３区西壁

ここでは４層と５層について分析を行った。その結果、いずれもイネのプラント・オパールが3,000個/ｇ以上の高い密度で検出された。よって、本地点ではこれらの層が稲作跡である可能性が高いと考えられる。

④３区西壁SX－１

①層と④層について分析を行った。両者よりイネのプラント・オパールが検出されたことから、当該層堆積時に本地点もしくは近傍において稲作が行われていたと考えられる。

⑤４区南壁

４層、５層、６層について分析を行った。その結果、すべての層よりイネのプラント・オパールが検出された。このうち、５層と６層ではプラント・オパール密度が3,000個/ｇ以上と高い値であり、４層でも2,400個/ｇと比較的高い値である。よって、本地点ではこれら各層において稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。

⑥５区北壁

３層について分析を行った。イネのプラント・オパールは検出されたものの、1,000個/ｇ未満と低い密度である。したがって、本地点の３層では稲作の行われていた可能性を否定することはできないが、他所からイネのプラント・オパールが混入した可能性が高い。

⑦６区北壁

３層と４層について分析を行った。ここでは３層のみでイネのプラント・オパールが検出された。ただし、密度は1,400個/ｇとやや低い値である。よって、３層では本地点で稲作の行われていた可能性が考えられるものの、他所からの混入の危険性も否定できない。

⑧１トレンチ西壁

ここでは４層について分析を行った。その結果、イネのプラント・オパールは検出されたが、1,400個/ｇとやや低い密度である。したがって、本地点の４層で稲作の行なわれていた可能性は考えられるものの、他所からの混入の危険性も否定できない。

⑨２トレンチ西壁

４層と５層について分析を行った結果、両者よりイネのプラント・オパールが検出された。いずれも密度が3,000

個/g以上と高い値であることから、本地点では４層と５層の両層で稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。

⑩３トレンチ西壁

５層、６層、７層について分析を行った。その結果、すべての試料からイネのプラント・オパールが検出された。このうち、６層では密度が3,000個/gと高い値であることから、稲作跡である可能性が高いと考えられる。また、５層でも2,500個/gと比較的高い密度であることから、稲作の行われていた可能性が考えられる。７層については密度が1,000個/gとやや低いことから、稲作の行われた可能性は考えられるものの、上層あるいは他所からイネのプラント・オパールが混入した危険性も否定できない。

⑪４トレンチ西壁

５層、６層、７層について分析を行った。ここでもすべての試料よりイネのプラント・オパールが検出された。７層では、密度が3,000個/ｇと高い値でありピークが認められる。したがって、本地点の７層では稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。なお、５層と６層でも稲作の行われた可能性が考えられるものの、密度がいずれも1,200個/gとやや低いことから他所からの混入である危険性も否定できない。

以上のことから、本遺跡において稲作跡の存在が考えられるのは、２区近辺の３層、１区、２区、３区、４区および２トレンチ一帯の４層、３区、４区、２トレンチおよび３トレンチ辺りの５層、４区と３トレンチ近辺の６層、４トレンチ近辺の７層である。

なお、３区西壁の５層、１トレンチの４層および４トレンチの６層ではヨシ属が非常に高い密度で検出されており卓越している。また、１区西壁の４層、２区西壁の３層と４層、６区北壁の４層および２トレンチの５層でも比較的高い密度である。こうしたことから、これらの層では当該地点近辺は湿地あるいはそれに近い環境であったと推定される。なお、周辺にはネザサ節型やクマザサ属型、さらにススキ属型もみられたと推定される。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－．考古学と自然科学，20，p.81-92.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学,17，p.73-85

第１表　仙台市、洞ノ口遺跡第３次調査のプラント・オパールの分析結果

検出密度（単位：×100個／ｇ）

分類群（和名・学名）／試料		１区西壁		２区西壁		３区西壁		３区SK－１		４区南壁			５区北壁	６区北壁		１トレ西壁	２トレ西壁		３トレ西壁			４トレ西壁		
		3	4	3	4	4	5	②	④	4	5	6	3	3	4	4	4	5	5	6	7	5	6	7
イネ科	Gramineae (Grasses)																							
イネ	Oryza sativa (domestic rice)	12	26	45	23	34	45	17	35	24	33	46	6	14		14	35	52	25	30	10	12	12	30
ヒエ属型	Echinochloa type							11		6														
ヨシ属	Phragmites (reed)	6	26	19	30	11	135	6	6	6	11	5	6	14	29	70		19			5	6	126	12
ススキ属型	Miscanthus type	12	9	11	30	11		6	12		5						10		5		5	6		
ジュズダマ属	Coix										5													
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																							
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa tyoe	30	9	49	53	52	150	75	58	43	88	77	24	7	7	14	45	32	15	30	21	29	18	18
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa) type	12	43	38	30	6	60	11	12	18	16	10	18			14	25	6	25	15	10	64	36	30
その他	Others	18	17	19			45	11	6		11					14	15	6			5	17	12	12
未分類等	Unknown	281	405	170	373	224	825	281	167	110	170	201	137	203	246	279	292	253	194	188	149	111	126	171
プラント・オパール総数		370	534	351	541	339	1260	419	294	207	340	340	190	237	282	404	420	370	263	262	205	244	330	272

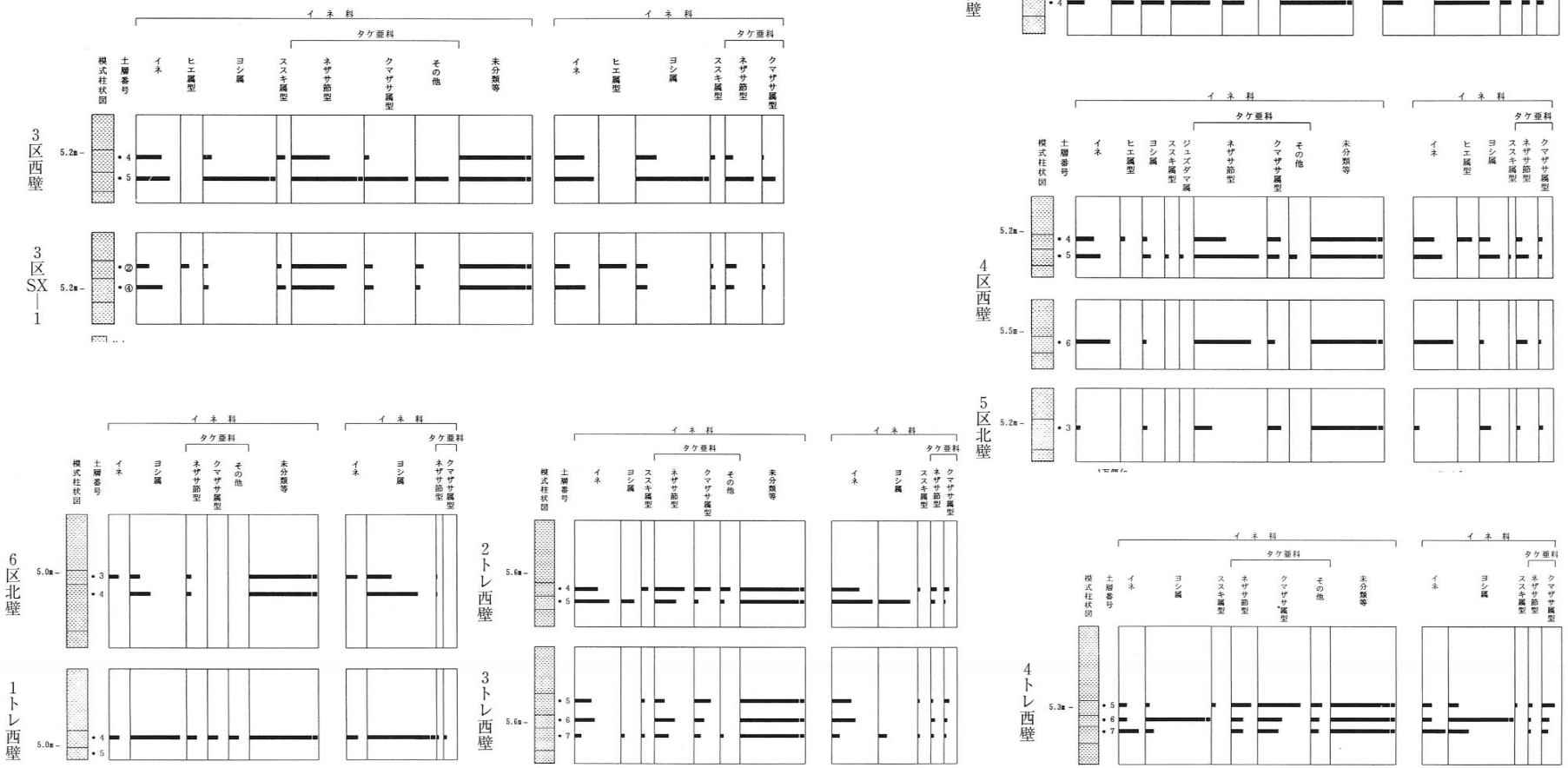
おもな分類群の推定生産量（単位：kg／㎡・cm）

イネ	Oryza sativa (domestic rice)	0.35	0.76	1.33	0.67	1.01	1.32	0.51	1.02	0.72	0.97	1.36	0.17	0.40		0.41	1.02	1.53	0.73	0.87	0.30	0.34	0.35	0.87
ヒエ属型	Echinochloa type							0.96		0.51														
ヨシ属	Phragmites (reed)	0.38	1.63	1.19	1.92	0.72	8.52	0.36	0.36	0.38	0.69	0.33	0.38	0.85	1.82	4.39		1.23			0.32	0.37	7.96	0.75
ススキ属型	Miscanthus type	0.15	0.11	0.14	0.38	0.14		0.07	0.14		0.07						0.12		0.06		0.06	0.07		
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa tyoe	0.14	0.04	0.24	0.26	0.25	0.72	0.36	0.28	0.20	0.42	0.37	0.11	0.03	0.03	0.07	0.21	0.16	0.07	0.14	0.10	0.14	0.09	0.09
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa) type	0.09	0.32	0.28	0.23	0.04	0.45	0.09	0.09	0.14	0.12	0.08	0.13			0.10	0.19	0.05	0.19	0.11	0.08	0.48	0.27	0.22

洞ノ口遺跡第３次調査における稲作層の可能性

	1区西壁	2区西壁	3区西壁	3区SX-1	4区南壁	5区北壁	6区北壁	1トレ西壁	2トレ西壁	3トレ西壁	4トレ西壁
3層	△	○				△	△				
4層	○	○	○		○		×	△	○		
5層			○		○				○	○	△
6層					○					○	△
7層										△	○
②				△							
④				△							

○：稲作跡の可能性大，△：稲作跡の可能性有り，×：イネのプラント・オパール検出されない



第21図　プラント・オパール分析結果

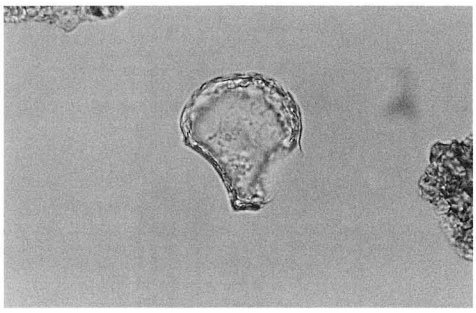


写真40　イネ
２年次２区西壁　３層

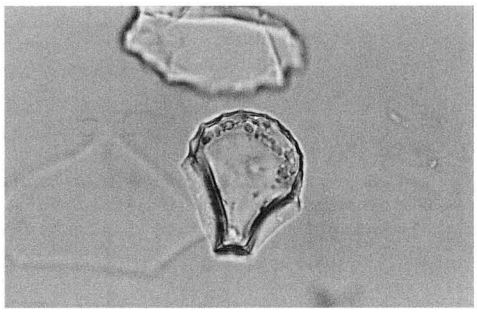


写真41　イネ
２年次３区西壁　５層

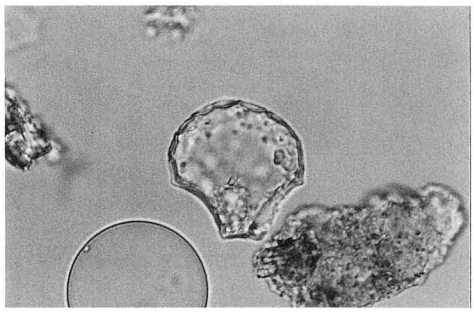


写真42　イネ
２年次２トレンチ西壁　５層

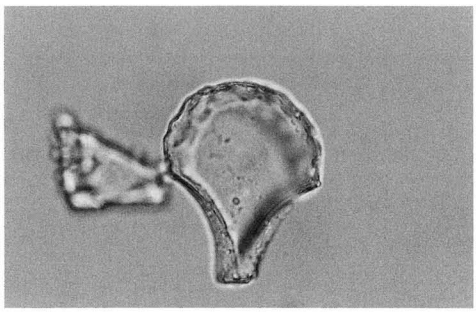


写真43　イネ
２年次４トレンチ西壁　７層

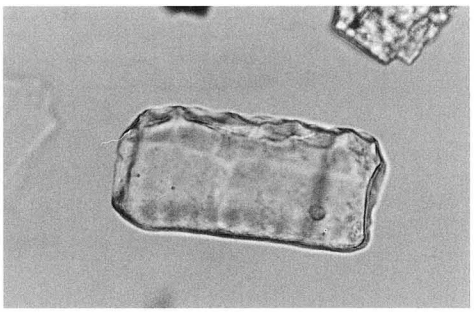


写真44　ヒエ属型
２年次３区SX－１②

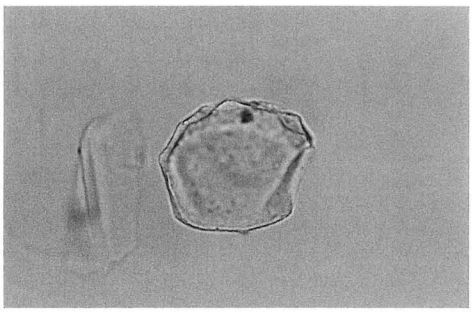


写真45　ジュズダマ属
２年次４区南壁５層

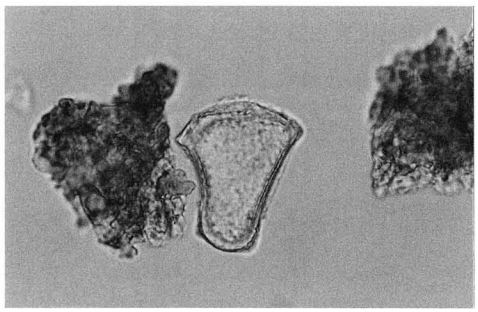


写真46　ウシクサ族（ススキ属）
２年次２区西壁　４層

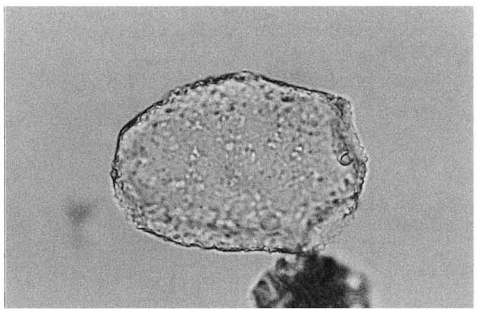


写真47　ヨシ属
２年次３区西壁　５層

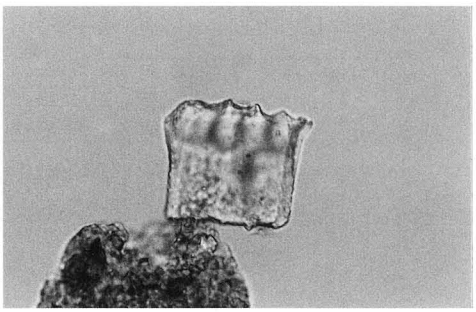


写真48　タケ亜科（ネササ節型）
２年次１区西壁　３層

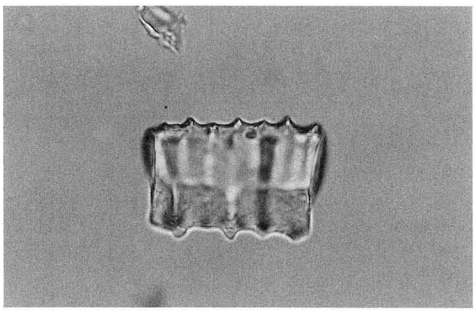


写真49　タケ亜科（ネザサ節型）
２年次２区西壁　４層

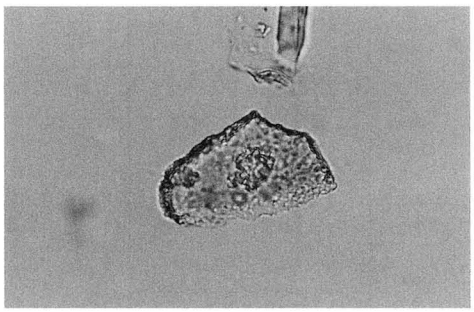


写真50　タケ亜科（ネザサ節型）
２年次２区西壁　４層

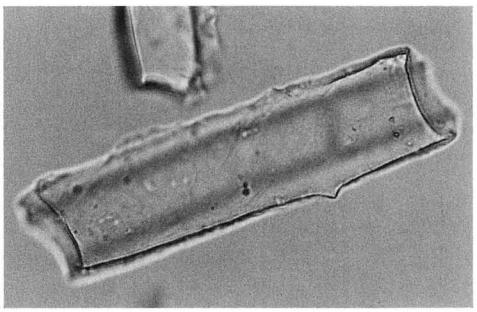


写真51　不明
２年次３区西壁　４層

プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真

［２］第６次調査

１．調査要項

調査名	洞ノ口遺跡第６次調査	調査期間	平成12年８月24日～８月30日
所在地	仙台市宮城野区岩切字洞ノ口103	調査主体	仙台市教育委員会
調査原因	個人住宅建設	調査担当	仙台市教育委員会文化財課
対象面積	164㎡	担当職員	吉岡恭平、平間亮輔
調査面積	26㎡	調査協力	加藤友男

発掘調査参加者　上野美子　小野寺美伊子　小山裕美　郷湖静子　佐々木和江　庄子善昭

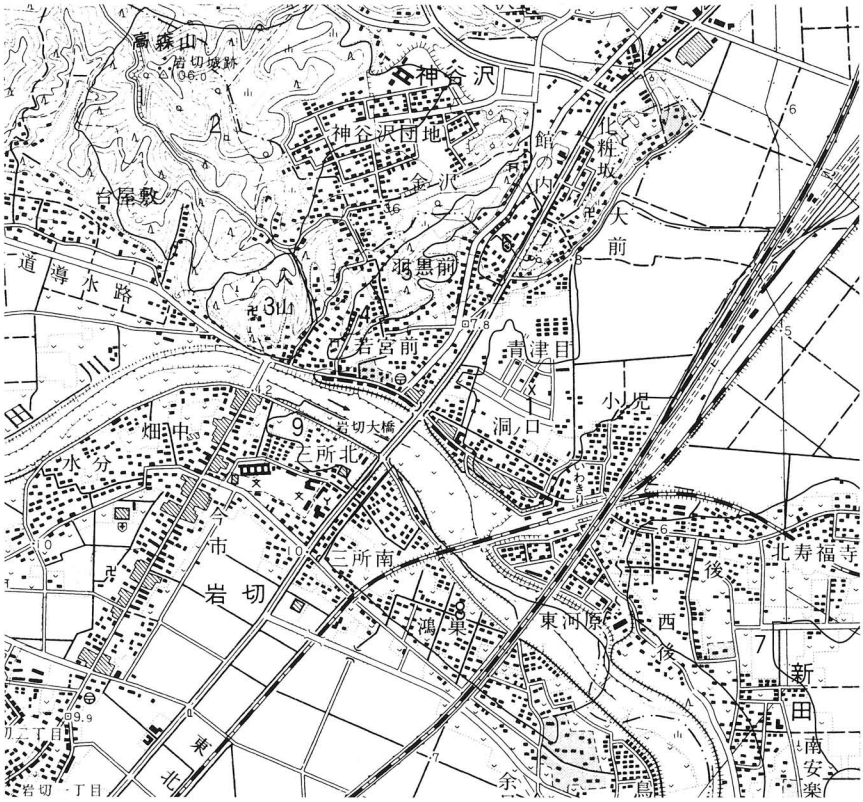
整理作業参加者　相沢美佐子　佐藤悦子　雫石良子　高橋弘子

２．遺跡の概要

遺跡の地理的位置及び歴史的環境については本書「第３次調査」に記述があるので、ここでは補足的に触れておくこととする。

本遺跡は城館の堀跡が地表面で顕著に認められる（写真１）遺跡として知られてきた。城館の西方約200ｍの位置には「奥大道」が南北に走り、南側には奥大道から分かれて南宮・塩釜方面へ向かう七北田川北岸の道があったと推定されている交通の要衝でもある。城館は留守氏関連の居館と考えられてきたが、最近では中世多賀国府の正庁とする説もあり、南側の道の両側には市場が広がっていたと考えられている。

なお、平成４年からは区画整理事業が行われて宅地化が進み、現在はその歴史的景観を見ることはできない。同事業に伴って実施された第１次調査の結果、地表面で見える痕跡は実際に堀の跡であり、中世後半の城館がほぼ予想された通りに存在することが確認された。さらにその後の道路建設に伴う第２次調査では城館の西側にも堀で仕切られた別の区画が存在することが判明し、第４次調査では、第１次調査時には不明確であった城館の東辺と考えられる堀跡を発見している。なお、城館の面の下層では古代の集落跡や畑跡が調査され、北側の後背湿地では古代～近世にかけての水田跡が重層的に確認されている[註1]。



第１図　周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代
1	洞ノ口遺跡	集落・城館 屋敷・水田・畑	古墳～近世
2	岩切城跡	城館	中世
3	東光寺遺跡	城館・寺院 石窟仏・集落 横穴墓・板碑群	中世～近世
4	若宮前遺跡	城館・墳墓 包含地	縄文～近世
5	羽黒前遺跡	包含地	中世～近世
6	化粧坂遺跡	城館	中世
7	新田遺跡	集落・屋敷	縄文～中世
8	鴻ノ巣遺跡	集落・屋敷 水田	弥生～中世
9	今市遺跡	集落	平安～中世

表１　周辺の遺跡地名表

３．基本層序

基本層は盛土下に４層確認したが、遺構面は１・２次調査とほぼ対応すると判断できたためにこれらと共通の層名を使用することとした。このためこの６次調査区ではⅡ・Ⅲ層を欠いている。

Ⅰ層　10YR2/2　黒褐色粘土。木炭粒を多量に含む。盛土以前の畑の耕作土

Ⅳａ層　10YR3/1　黒褐色粘土。木炭粒を少量含む。上面は中世後半の遺構面。

Ⅳｂ層　10YR2/1　黒色粘土。10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトブロックを少量含む。木炭粒を少量含む。上面は中世前半の遺構面。

Ⅴ層　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルト、層中に灰白色火山灰ブロックを少量含む。古代の畑の耕作土である。

調査名・調査区		調査面積	調査期間	調査原因	主な遺構	備考
１次調査	試掘	－	平成４年６月29日～平成４年８月24日	土地区画整理事業		未報告
	１～３区・５区	約　2,100㎡	平成４年８月25日～平成５年１月14日		古代～近世の水田跡	
	４区・６～９区	約　4,500㎡	平成５年４月７日～平成５年12月20日		古代～近世の水田跡、中世の城館跡	
	10区	約　5,200㎡	平成６年４月５日～平成６年12月26日		古代の集落跡・畑跡、中世の城館跡	
	11区	約　3,500㎡	平成７年３月６日～平成７年10月９日		古墳時代以前の水田跡、古代の集落跡・畑跡、中世の城館跡	
２次調査		約　700㎡	平成11年９月６日～平成11年12月24日	道路建設	古代の集落跡・畑跡、中世の城館跡	未報告
３次調査	１年次	423㎡	平成11年10月４日～平成12年１月24日	土地区画整理事業	古代～近世の水田跡	本書
	２年次	1,880㎡	平成12年４月17日～平成12年11月17日			
４次調査		約　1,600㎡	平成12年４月18日～平成12年12月27日	道路建設	古代～近世の水田跡、古代の集落跡・畑跡、中世の城館跡	未報告
５次調査		－	平成13年度調査予定	道路建設	－	
６次調査		26㎡	平成12年８月24日～平成12年８月30日	個人住宅建設	古代の集落跡（？）、中世の城館跡	本書

表２　洞ノ口遺跡調査次数表

写真１　洞ノ口遺跡付近の空中写真（1961年、国土地理院撮影）

第２図　遺跡全体図　青色のアミ点は規模の大きな溝（堀）を示す。薄いアミ点は推定部分を示す。(1/1500)

４．調査の方法

調査区は建物の方向にあわせて東西方向に長く3.5×11.5mに設定したが、壁面の崩落防止のために勾配をつけ、湧水対策のために側溝を掘ったので、実際に精査できたのは2.5×10.5mの範囲（約26㎡）である。

盛土層及びⅠ層を重機で除去した後、Ⅳａ層・Ⅳｂ層上面で精査を行った。それぞれの面では土坑やピットらしい落ち込みを数カ所確認したが、プランが明瞭でなかったことと調査日程の制約のため細かな遺構確認作業は断念し、さらに重機による掘り下げを続けた。最終的に遺構を確認したのはⅤ層上面である。

なお、個人住宅のために調査期間の制約があったことからⅤ層以下の精査は行わなかった。

５．発見遺構と出土遺物

確認できた遺構は土坑20基、ピット36基である（第３図、表４・５）。なお、遺構№は確認後すぐに付け、掘り込んだ結果によって遺構とは認定しがたいものは外したため欠番が多くある。

先に述べたように遺構はすべてⅤ層上面で確認しているが、これらの中には本来Ⅳａ層やⅣｂ層上面から掘り込まれた遺構も混在していることが予想される。ピットの中には柱痕跡が認められるものもいくつか認められることから掘立柱建物の存在が予想されるが、本来の掘り込み面が不明確なことと調査区の制約により建物の詳細は不明である。土坑についても性格は不明である。

遺物はロクロ土師器・須恵器・土師質土器・中世陶器・磁器・石製品などが183点出土し(註2)、このうち29点が図化できた（第４・５図、表３）。遺物のうち土器類は171点あるがその大部分は古代・中世のもので、その割合は古代が1/3、中世が2/3である。なお、中世の土器のうち最も多いのが常滑・渥美を含む東海地方産の無釉の陶器で全体の1/2を占め、次に多いのが在地の陶器で全体の1/3を占める。残りが土師質土器・中国産の磁器・国産の施釉陶器である。

６．まとめ

現在のところ城館の外郭南辺については確定できていないが、南側を走る県道「泉・塩釜線」が中世の南宮・塩釜方面へ向かう道を踏襲しており、その両側に町家が存在していたとすれば、城館の外郭南辺は県道の北側をそれと並行して走る道路付近に求められる。今回の６次調査区はこの道路の南側に位置するので、城館外部の町家部分に該当する可能性が高いと考えられるが、遺構・遺物からそれを裏付けることはできなかった。

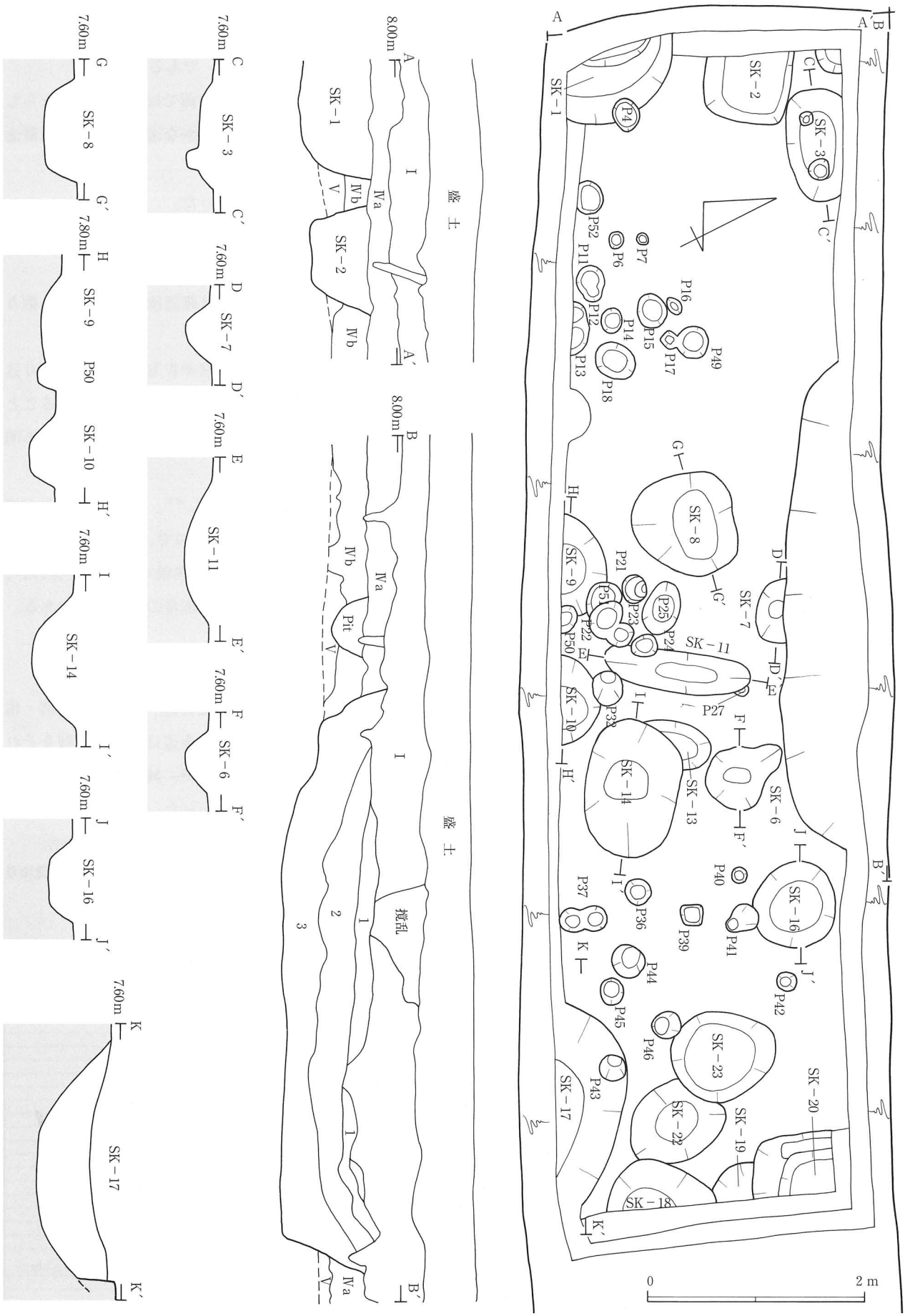
（註１）１次調査については文献２～４に記載があるが本報告書は未刊。２次調査は未報告、４次調査は今年度調査のため未報告。

（註２）今回は重機でⅣ層を除去したが、他の調査区ではⅣ層中にかなりの量の遺物が包含されていることからすると、本来の遺物量はさらに多かったと考えられる。

遺構・層位	ロクロ土師器		須恵器			土師質土器			中世陶器								磁器（中国）			石製品	その他
									常滑			渥美	東海	瀬戸	在地		青磁		白磁		
	坏	甕	坏	甕	壺	皿	小皿	鉢	鉢	壺	甕	壺・甕	鉢	卸皿	鉢	甕	碗	鉢	皿		
ＳＫ１		6	1	2							1					2				砥石１	
ＳＫ２	1	5	1	1							1		1			2				砥石１	
ＳＫ５				3							2	2				5			1	砥石１	
ＳＫ８						1			1						1						
ＳＫ９											1										
ＳＫ14	1	1									1							1			性格不明の銅製品１
ＳＫ17								1													
ＳＫ18											1										
ＳＫ20											1		1			1					
ＳＫ23								1							1						
Ｐ４	1															2					
Ｐ11											1										
Ｐ13											1										
Ｐ18				1							1										
Ｐ24						1															
Ｐ25							1				1										
Ｐ41				2																	
Ｐ50																					布目瓦１
Ⅳ層	2	10	3	7	1※	3			2	1	23	3	6	1	1	22	2			石鍋１ 板碑片？２	燻し瓦１、鉄滓１、粘土塊（壁土？）１ 近世・近代の陶器４（大堀相馬１、産地不明３）
Ⅳｂ層		1	2	1							2										
壁面		2									4									硯１	現代の磁器４
計	5	25	7	17	1	5	1	2	3	1	41	5	8	1	3	34	2	1	1	7	

※大戸窯産と推定

表３　遺物集計表



第３図　Ⅴ層上面遺構全体図・断面図

No.	平面形	大きさ	深さ	堆積土	混入物	備考
1	円形？	105以上	65	10YR2/1　黒色粘土	10YR2/2　黒褐色粘土ブロック少量・木炭粒多量	Ⅳｂ層上面からの掘り込み、Ｐ４に切られる、大部分が調査区外
2	方形	82×67以上	58	10YR2/1　黒色粘土	10YR3/2　黒褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量 10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルトブロック少量	Ⅳｂ層上面からの掘り込み 西部が調査区外
3	楕円形	53以上×105	(13)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	Ｐ47・48を切る、一部が調査区外
5	？	430以上×？	85	①10YR3/2　黒褐色粘土 10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト 10YR2/1　黒色粘土 } ブロックの混合		Ⅳａ層上面からの掘り込み SK７を切る 大部分が調査区外
				②10YR2/1　黒色粘土	10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルトブロック 10YR3/1　黒褐色　シルトブロック少量	
				③2.5Y3/1　黒褐色粘土 2.5Y2/1　黒色シルト } 互層		
6	歪んだ楕円	80×60	(20)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	
7	楕円形？	60×26以上	(20)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK５に切られる
8	歪んだ円形	95×95	(27)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	
9	円形？	95×？	(16)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	Ｐ50・51に切られる
10	円形？	80×？	(22)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	Ｐ32に切られる、南部が調査区外
11	楕円形	40×138	(26)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	Ｐ27を切る、Ｐ23・24に切られる
13	楕円形	42×65以上	(16)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK14に切られる
14	楕円形	85×130	(40)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK13を切る
16	円形	75×80	(20)	10YR4/2　灰黄褐色粘土	10YR3/1　黒褐色粘土ブロック微量 10YR5/2　灰黄褐色砂質シルトブロック少量	Ｐ41に切られる
17	？	190以上×？	(33)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	Ｐ43を切る、大部分が調査区外
18	円形？	100以上×？	？	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK19・22を切る
19	？	？	？	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK18・20に切られる
20	方形？	75以上×？	？	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK19を切る、大部分が調査区外
21	楕円形	85×95	？	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK22を切る
22	楕円形	74×90	？	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR5/2　灰黄褐色粘土ブロック少量・木炭粒少量	SK21に切られる
23	？	200以上×？	(68)	①10YR3/1　黒褐色粘土	木炭粒多量	SK17・18・21・22、Ｐ43・45・46に切られる 大部分が調査区外
				②10YR3/2　黒褐色シルト	10YR4/2　灰黄褐色砂質シルトブロック多量	
				③5Y3/1　オリーブ黒色粘土 2.5Y2/1　黒色粘土 } 互層		

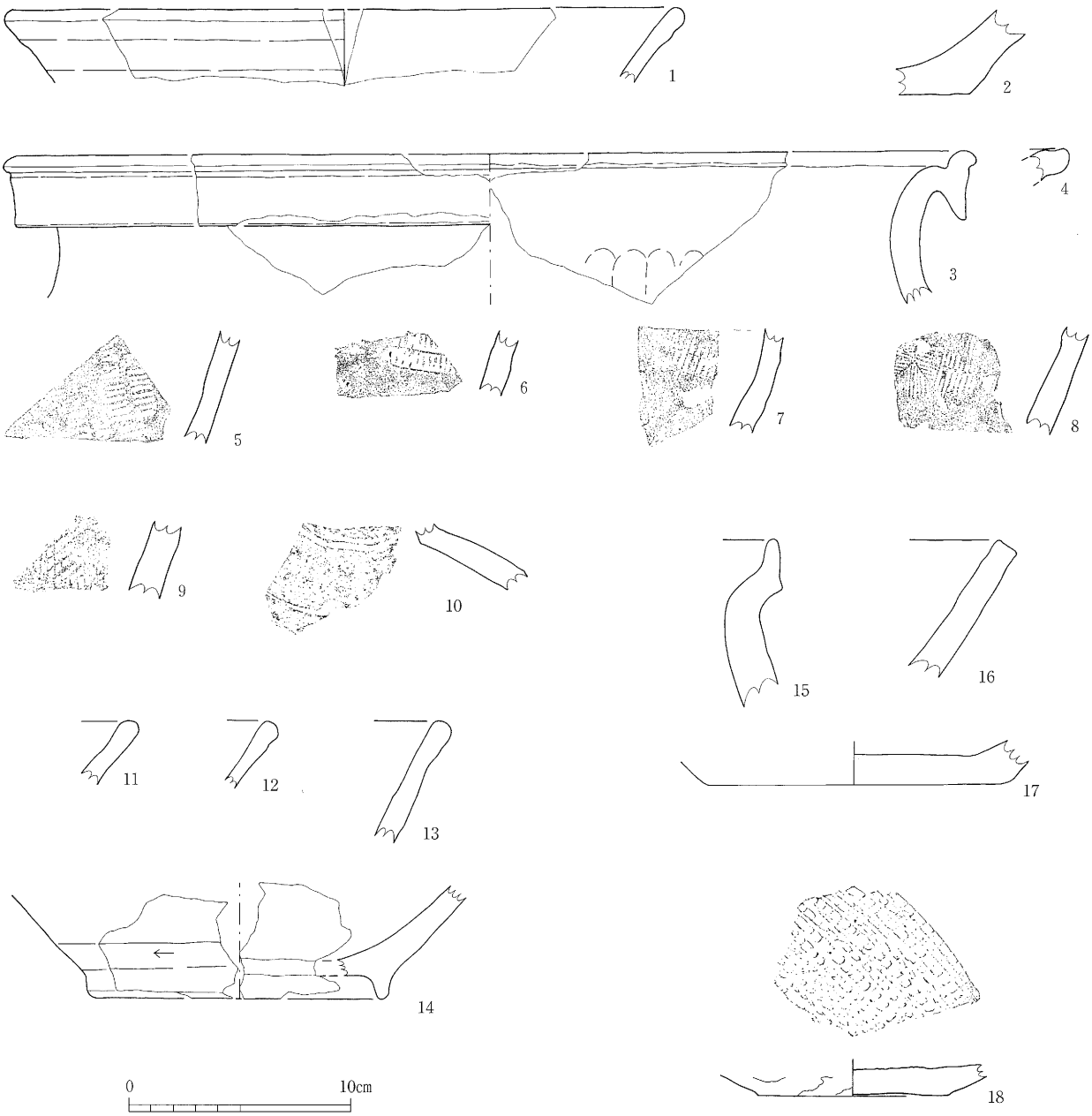
表４　土坑（SK）一覧表

※欠番　SK４・12・15、単位はcm、深さの（　）は確認面からの深さ

No.	平面形	大きさ	深さ	堆積土	混入物	備考
1	円形？	径22以上 柱痕径12以上	(30)	10YR3/1　黒褐色粘土 10YR3/1　黒褐色砂質シルト	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	一部が調査区外
4	楕円形	24×30	(28)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK１を切る
6	楕円形	13×16	(11)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
7	円形	径　12	(11)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
11	楕円形	28×34	(24)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
12	円形？	径　22	(18)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	Ｐ13と重複、新旧関係不明 一部が調査区外
13	円形？	径　30	(16)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	Ｐ12と重複、新旧関係不明 一部が調査区外
14	円形	径　12	(14)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
15	楕円形	28×33	(17)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
16	楕円形	12×16	(13)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
17	方形	15×18	(11)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
18	楕円形	34×40	(17)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
21	円形	径　25	(52)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
22	楕円形	25×40	(29)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	Ｐ51を切る Ｐ23と重複、新旧関係不明
23	楕円形	22×28	(26)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK11を切る Ｐ22と重複、新旧関係不明
24	楕円形	22×26	(23)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK11を切る
25	楕円形	32×50 柱痕径　12	(19)	10YR3/1　黒褐色粘土 10YR3/1　黒褐色砂質シルト	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
27	円形？	径　15	(18)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK11に切られる
32	楕円形	28×33 柱痕径　11	(41)	10YR3/1　黒褐色粘土 10YR3/1　黒褐色砂質シルト	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK10を切る
36	円形	径　22	(27)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK11に切られる
37	円形	径　24	(34)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	Ｐ35と重複、新旧関係不明
38	円形	径　25	(13)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	Ｐ37と重複、新旧関係不明
39	方形	20×20	(22)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
40	円形	径　15	(20)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
41	楕円形	28×34	(26)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK16を切る
42	円形	径　20	(21)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
43	円形	径　25	(34)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK17に切られる
44	円形	径　32 柱痕径　12	(34)	10YR3/1　黒褐色粘土 10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量 10YR4/2　灰黄褐色シルトブロック微量	
45	円形	径　26	(22)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK23を切る
46	円形	径　26	(19)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK23を切る
47	円形	径　12	(10)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK３に切られる
48	円形	径　20	(18)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK３に切られる
49	円形	径　31	(16)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	
50	円形？	径　25	(15)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK９を切る、一部が調査区外
51	楕円形	30×40	(34)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	SK９を切る、Ｐ22に切られる
52	楕円形	24×32	(17)	10YR3/1　黒褐色粘土	10YR4/2　灰黄褐色粘土ブロック少量、木炭粒微量	

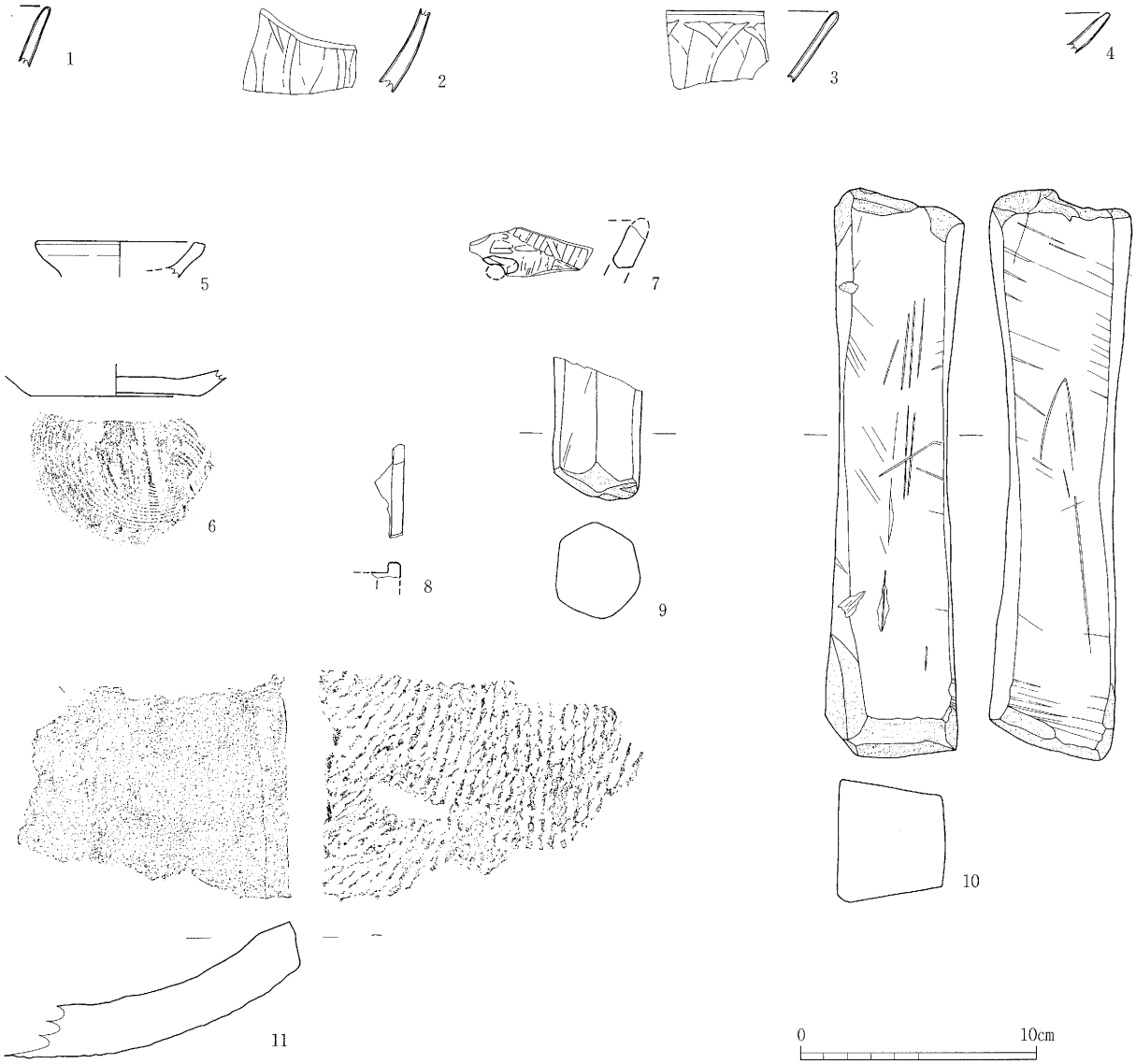
表５　ピット（Ｐ）一覧表

※欠番　Ｐ2・3・5・8～10・19・20・26・28～31・33～35、単位はcm、深さの（　）は確認面からの深さ



No.	写真図版	遺構層位	種別（産地）器種	法　量	遺存度	色　調	調整・特徴	年　代
1	16－1	Ⅳ層	陶器（常滑）鉢	復元口径30.6cm	口縁部1/9	内：にぶい黄橙色、外：にぶい赤褐色	内外：回転台？によるナデ	13世紀
2	16－2	ＳＫ８	陶器（常滑）鉢	?	底部片	内外：にぶい黄褐色	内：使用により磨滅、外：回転台？によるナデ	
3	16－3	Ⅳｂ層	陶器（常滑）甕	復元口径43.6cm	口縁部1/10	内外：灰褐色	内外：口縁部ヨコナデ・体部ナデ	13世紀後半
4	16－4	Ⅳ層	陶器（常滑）甕	?	口縁部片	内外：暗オリーブ色	内外：自然釉がかかる	12世紀後半
5	16－5	Ⅳ層	陶器（常滑）甕	?	体部片	内：にぶい褐色、外：褐灰色	内外：ナデ、外面に押印	
6	16－6	Ⅳ層	陶器（常滑）甕	?	体部片	内外：灰褐色	内外：ナデ、外面に押印	
7	16－7	Ⅳ層	陶器（常滑）甕	?	体部片	内：にぶい褐色、外：にぶい赤褐色	内外：ナデ、外面に押印	
8	16－8	Ⅳ層	陶器（常滑）甕	?	体部片	内外：灰褐色	内外：ナデ、外面に押印	
9	16－9	Ⅳ層	陶器（常滑）甕	?	体部片	内外：灰褐色	内外：ナデ、外面に押印	
10	16－10	Ⅳ層	陶器（常滑）壺	?	肩部片	内外：灰褐色	内外：ナデ、外面にヘラ描き沈線	
11	16－11	Ⅳ層	陶器（東海）鉢	?	口縁部片	内：黄灰色、外：褐灰色	内外：回転台？によるナデ、山茶碗窯系	
12	16－12	Ⅳ層	陶器（東海）鉢	?	口縁部片	内外：灰色	内外：回転台？によるナデ、山茶碗窯系	
13	16－13	Ⅳ層	陶器（東海）鉢	?	口縁部片	内外：灰色	内外：回転台？によるナデ、山茶碗窯系	
14	16－14	ＳＫ20	陶器（東海）鉢	復元底径13.8cm	底部1/8	内外：灰色	内外：回転台？によるナデ、外：体部下端回転ヘラケズリ、山茶碗窯系	13世紀後半
15	16－15	Ⅳ層	陶器（在地・白石占窯跡群）甕	?	口縁部片	内外：赤褐色、口縁部内面褐灰色	内外：口縁部ヨコナデ・体部ナデ、内面が二次的被熱によって色調変化し、器面が荒れている	13世紀後半
16	16－16	Ⅳ層	陶器（在地）鉢	?	口縁部片	内外：褐灰色	内外：回転台？によるナデ、胎土に白針を微量含む	
17	16－17	ＳＫ23	陶器（在地）鉢	復元底径13.2cm	底部3/5	内外：灰色	内：使用により磨滅、外：ナデ、還元焼成、白針を微量含む	
18	16－18	Ⅳ層	陶器（瀬戸）卸皿	復元底径8.6cm	底部2/5	内外：灰黄色、釉は灰オリーブ色	内：卸目、外：ロクロ・底部回転糸切り無調整	

第４図　出土遺物（１）



No.	写真図版	遺構層位	種別（産地）器種	法　量	遺存度	色　調	調整・特徴	年　代
1	16－19	Ⅳ層	青磁（龍泉窯系）碗	?	口縁部片	内外：オリーブ黄色		13世紀
2	16－20	Ⅳ層	青磁（龍泉窯系）碗	?	体部片	内外：灰色	鎬蓮弁文	13世紀
3	16－21	ＳＫ14	青磁（龍泉窯系）鉢？	?	口縁部片	内外：灰オリーブ色	蓮弁文	13世紀
4	16－22	ＳＫ５	白磁（中国）皿	?	口縁部片	内外：灰白色	口禿	13世紀
5	16－23	Ｐ25	土師質土器　小皿	復元口径7.2cm	口縁部1/4	内：にぶい橙色、外：橙色	内外：ロクロ	
6	16－24	ＳＫ８	土師質土器　皿	底径　7.2cm	底部2/3	内外：にぶい橙色	内外：ロクロ、外面底部に板状の圧痕、回転糸切無調整	
7	16－25	Ⅳ層	石製品　鍋	遺存長　5.2cm	体部片	－	滑石、穿孔１ヶ所、表面に整形時の工具痕	
8	16－26	壁	石製品　硯	遺存長　3.9cm	剥落小片	－	粘板岩	
9	16－27	ＳＫ５	石製品　砥石	遺存長　5.5cm	端部のみ	－	端部以外の側面を全面使用、132g	
10	16－28	ＳＫ２	石製品　砥石	全長　24.2cm	完形	－	端部以外の側面を全面使用、1250g	
11	16－29	Ｐ50	平瓦	?	小片	灰色	凹面：布目→一部ナデ・側面付近へラケズリ、凸面：縄叩き	

第５図　出土遺物（２）

参考文献

入間田宣夫・大石直正編1992『よみがえる中世７』平凡社

仙台市教育委員会1993・1994『洞ノ口遺跡　現地説明会資料』

仙台市教育委員会1994「洞ノ口遺跡」『平成６年度宮城県遺跡発表会要旨』

仙台市史編さん委員会1995『仙台市史　特別編２考古資料』仙台市

田中則和　1993「仙台市洞の口館跡の地表顕在遺構」『六軒丁中世史研究　第１号』東北学院大学中世史研究会

日本福祉大学知多半島総合研究所1994『中世常滑焼をおって　資料集』

野崎　準　1979「中世宮城郡内の若干の考古資料――留守氏関係の遺跡・遺物――」『東北文化研究所紀要10』東北文化研究所

写真２　調査前の状況（東より）

写真３　Ⅳa層上面の遺構確認状況（東より）

写真４
Ⅴ層上面の遺構確認状況（東より）

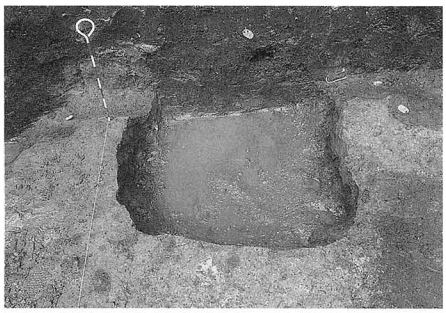


写真５
SK２完堀状況（東より）

写真６
SK３完堀状況（南より）

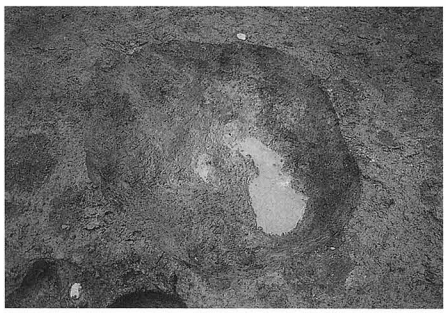


写真７
SK８完堀状況（東より）

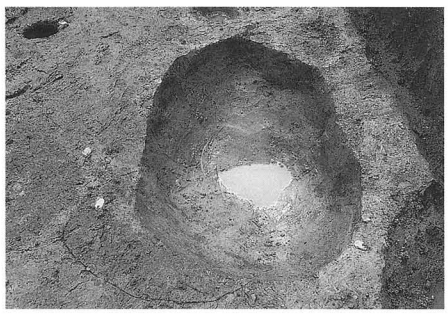


写真８
SK14完堀状況（西より）

写真９
SK16完堀状況（東より）

写真10
SK20完堀状況（北より）

写真11　Ⅴ層上面作業風景（西より）

写真12　西部Ⅴ層上面遺構完掘状況（南より）

写真13　中央部Ⅴ層上面遺構完掘状況（南より）

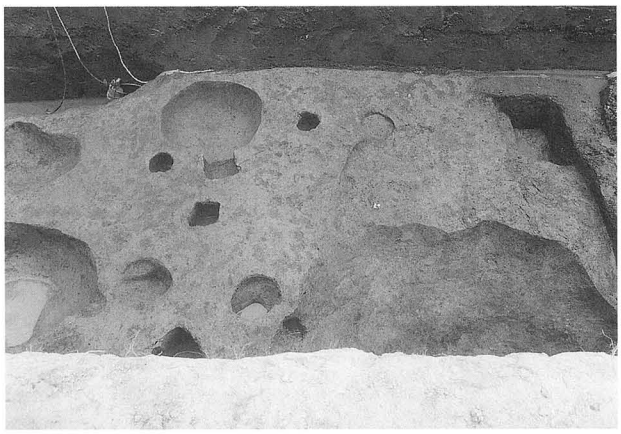


写真14　東部Ⅴ層上面遺構完掘状況（南より）

写真15　Ⅴ層上面遺構完掘状況（東より）

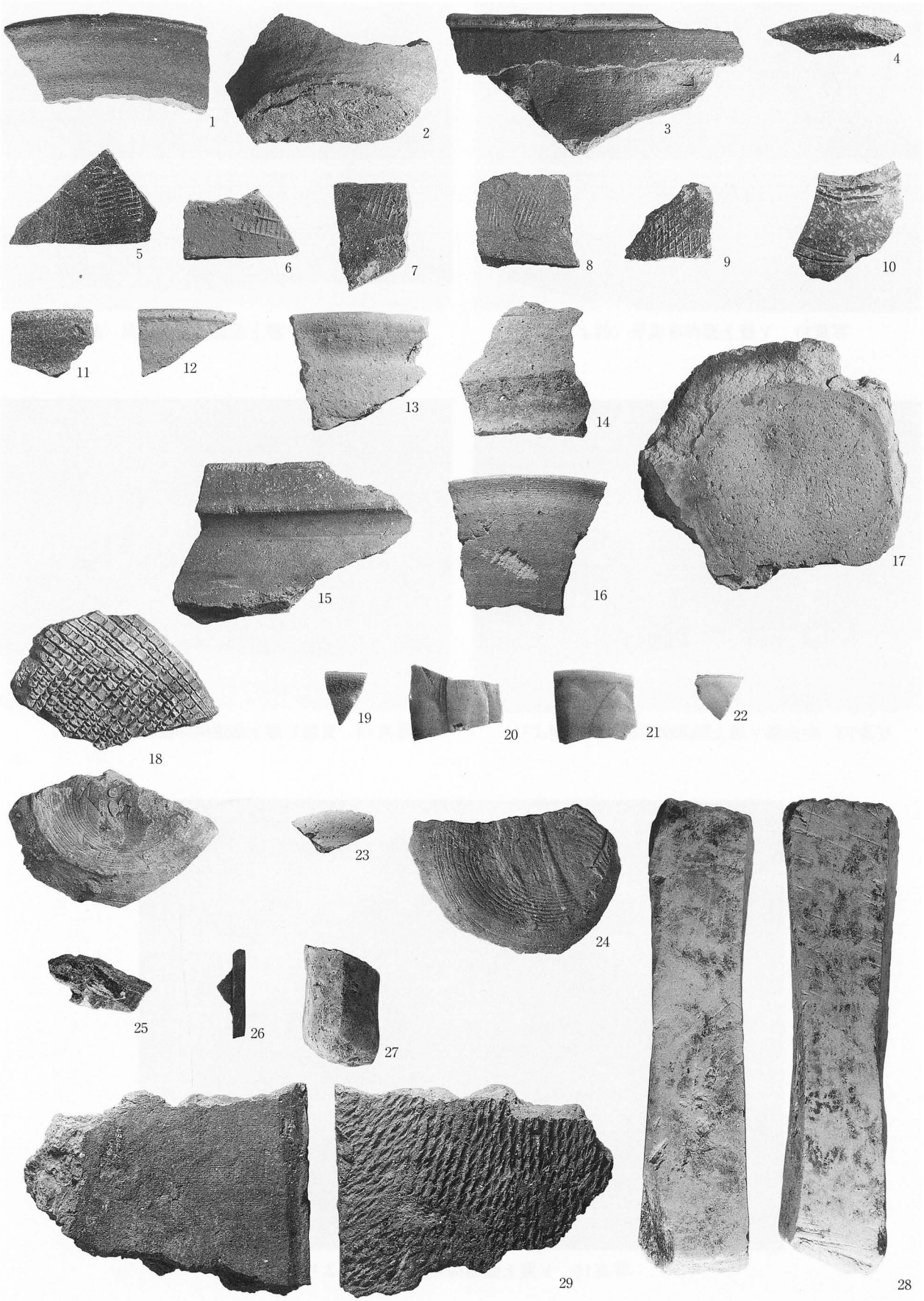


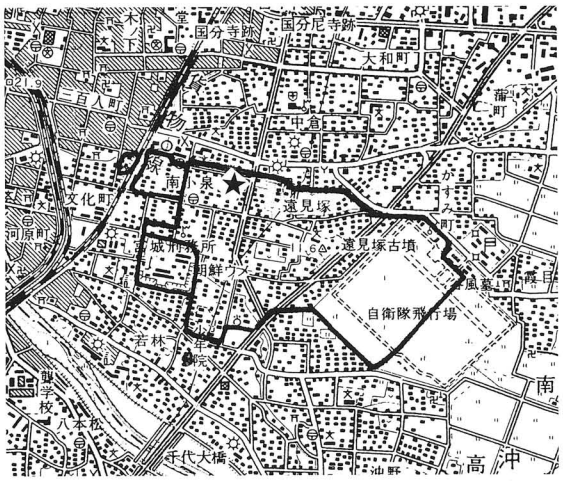
写真16　出土遺物

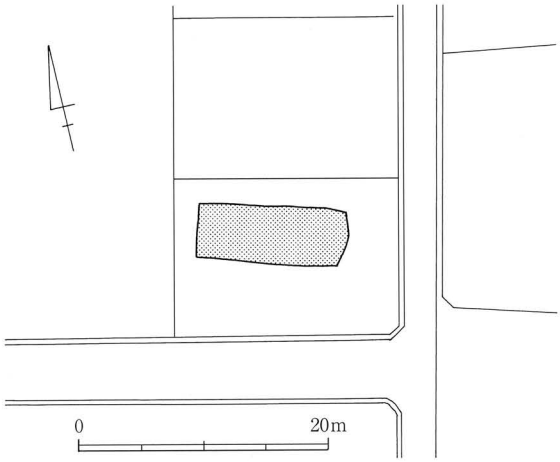
Ⅲ　南小泉遺跡

［1］第33次調査区

1．調査要項

遺　跡　名　南小泉遺跡（宮城県遺跡番号012021）
調査地点　仙台市若林区南小泉二丁目40-46・107
調査原因　個人住宅建設
調査対象面積　約110㎡
調査面積　約60㎡
調査期間　平成12年10月23日～10月27日
調査主体　仙台市教育委員会
調査担当　仙台市教育委員会文化財課
担当職員　吉岡　恭平　根本　光一　渡部　弘美
調査参加者　土屋みどり　伊藤はるよ　小野　栄子
佐藤すみ子　佐藤よし子　峯岸　安好
吉田アキヨ　渡辺　貞子　三浦　陽子
遠藤　清子　芦野ヒデ子　三浦　市子
葛西　郁子
申　請　者　林田　勝巳





第１図　調査地点及び調査区配置

2．遺跡の環境と位置

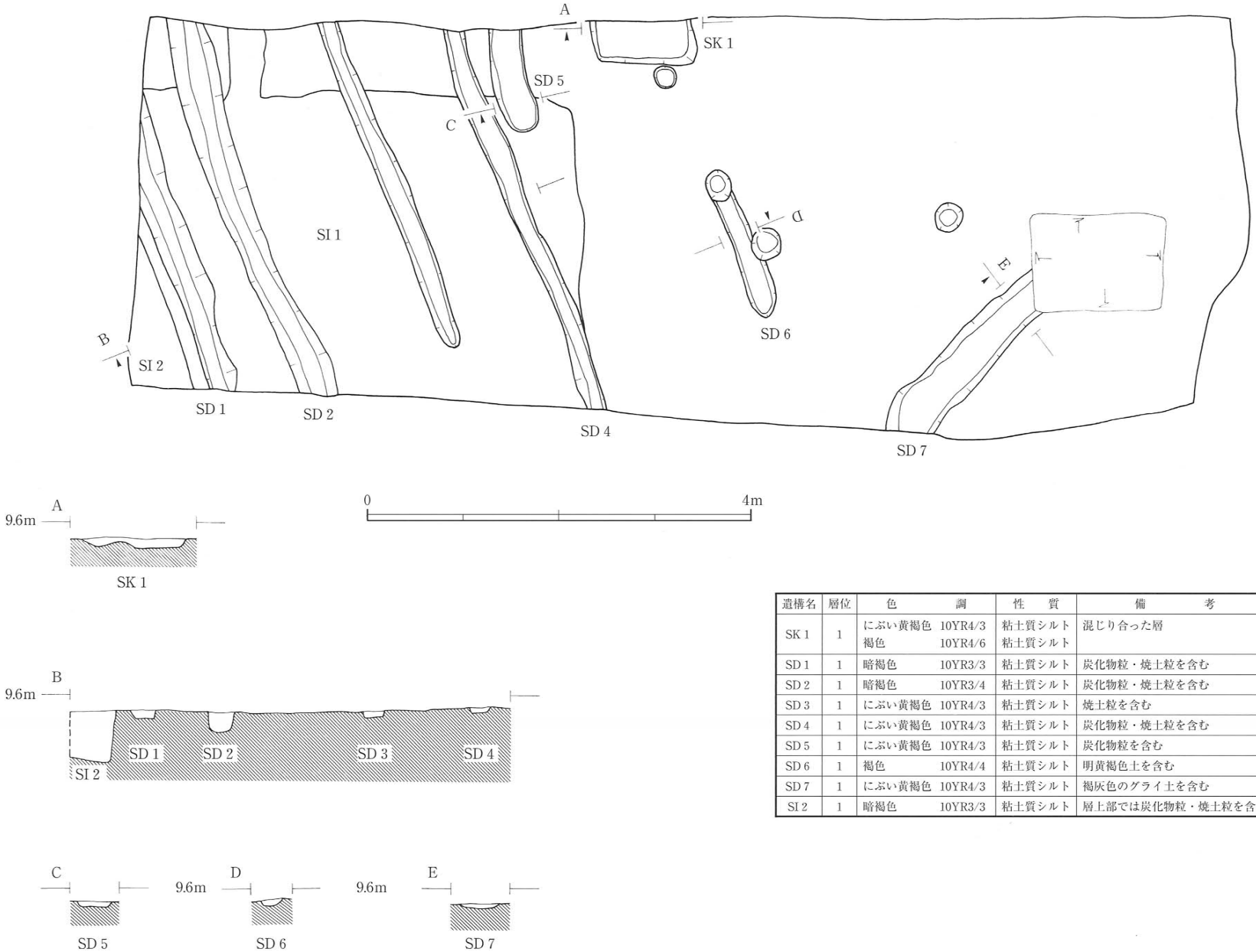
南小泉遺跡は市内東部の若林区南小泉・遠見塚地区に位置する。東流する広瀬川の北岸の自然堤防上に立地する遺跡である。昭和10年代にはその存在が周知されていたが、本格的な調査が開始されたのは昭和50年代に入ってからで今回で33回目を数える。各調査で縄文時代から近世にわたる遺構・遺物が確認されているが、発見された主たる遺構をみると大きく各地域で時代的な違いがみられる。これは中心となる地域が時間的な経緯とともに移動していることに起因しているものと考えられる。今回の調査区は遺跡北西部に位置し、奈良時代の住居跡群が数多く検出されている地域である。

3．調査の方法と経過

平成12年８月23日付で上記地内において一般住宅建設に伴う発掘届が提出された。基礎構築の段階で地盤改良を行う方法であったため、建物予定地に12×４ｍのトレンチを設定し確認調査を実施した。結果、住居跡及び溝跡等が確認され、トレンチ内の遺構に関して調査を実施することとなった。

4．基本層序

４層確認している。Ⅰ層は住宅構築時の盛土で最大層厚60㎝を計る。Ⅱ層は黒褐色土で旧耕作土と考えられる。層厚は最大で60㎝である。Ⅲ層は粘土質の暗褐色土で層厚は20～30㎝を計る。壁面確認であるがSD７が掘り込まれており、溝跡群の確認面となりうる。Ⅳ層は粘土質および砂質の褐色土である。今回調査の地山面となる。



遺構名	層位	色調	性質	備考
SK 1	1	にぶい黄褐色 10YR4/3 褐色 10YR4/6	粘土質シルト 粘土質シルト	混じり合った層
SD 1	1	暗褐色 10YR3/3	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む
SD 2	1	暗褐色 10YR3/4	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む
SD 3	1	にぶい黄褐色 10YR4/3	粘土質シルト	焼土粒を含む
SD 4	1	にぶい黄褐色 10YR4/3	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒を含む
SD 5	1	にぶい黄褐色 10YR4/3	粘土質シルト	炭化物粒を含む
SD 6	1	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	明黄褐色土を含む
SD 7	1	にぶい黄褐色 10YR4/3	粘土質シルト	褐灰色のグライ土を含む
SI 2	1	暗褐色 10YR3/3	粘土質シルト	層上部では炭化物粒・焼土粒を含む

第２図　検出遺構全体図

5．発見遺構と出土遺物

検出遺構には溝跡７条、竪穴住居跡１軒、竪穴遺構１軒、土坑１基、ピット４個がある。遺物は整理箱２箱程で殆どのものは住居跡出土のものである。

（１）３層面確認遺構

SD１溝跡　南北方向に直線的に延びる。確認長3.3m、上端幅50cm、下端幅10～15cm、深さ最大で10cmを測る。断面形はゆるい逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層で暗褐色の粘土シルトである。土師器片が出土している。

SD２溝跡　南北方向に直線的に延びるがやや蛇行気味である。確認長4.1m、上端幅30～50cm、下端幅15～20cm、深さ最大で21cmを測る。断面形はU字形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層で暗褐色の粘土質シルトである。土師器片・須恵器坏片が出土している。

SD３溝跡　南北方向に直線的に延びる。確認長3.7m、上端幅18～28cm、下端幅８～16cm、深さ最大で７cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でにぶい黄褐色の粘土質シルトである。土師器片・須恵器甕片が出土している。土師器片坏の中にロクロ使用のものがある。

SD４溝跡　南北方向に直線的に延びるがややゆるく屈曲をみる。確認長4.2m、上端幅17～27cm、下端幅８～20cm、深さ最大で６cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でにぶい黄褐色の粘土質シルトである。土師器片が出土している。

SD５溝跡　南北方向にやや屈曲気味に延びる。確認長1.1m、上端幅35～45cm、下端幅25～30cm、深さ最大で５cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でにぶい黄褐色の粘土質シルトである。土師器片が出土している。

SD６溝跡　南北方向に直線的に延びる。ピットに切られている。確認長1.3m、上端幅25～30cm、下端幅15～18cm、深さ最大で７cmを測る。断面形は浅い逆台形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層で褐色の粘土質シルトである。遺物はない。

SD７溝跡　東西方向に直線的に延びる。確認長2.3m、上端幅40～50cm、下端幅26～33cm、深さ最大で９cmを測る。断面形は皿形で底面はほぼ平坦である。堆積土は単層でにぶい黄褐色の粘土質シルトである。遺物はない。

（２）４層面確認遺構

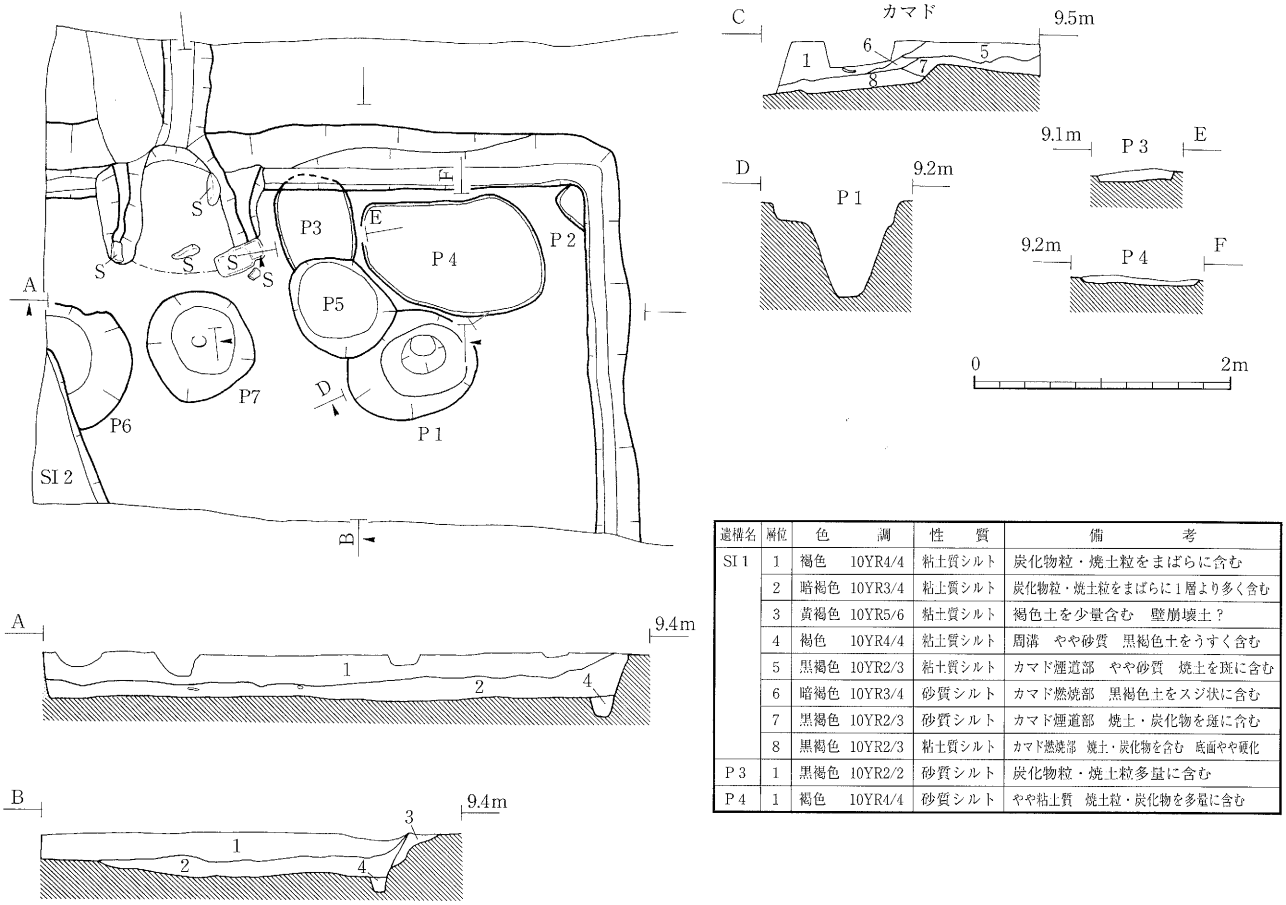
SI１住居跡　調査区西端に位置し、住居全体の４分の１程の確認である。溝跡・性格不明遺構と重複しておりすべてに切られている。平面形は方形を呈すると考えられ、北辺は4.5m、東辺は3.2mまで確認した。北壁にカマドが構築されており柱穴との位置関係から判断して、本来７m四方の規模をもつ住居跡と考えられる。東辺の方向はほぼ真北を向く。堆積土はカマド部・周溝を含めて５層確認した。褐色系の粘土質シルトで自然堆積である。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、残りのよい地点では35cm程を測る。床面はほぼ平坦であるが部分的に凹面もみられる。部分的な残存であったが白色系粘土の貼床も確認されている。周溝は二辺で確認されており全周しているものと判断される。幅は15～20cm程で床面からの深さは15cm程である。ピット類は７個確認したが、位置関係からP１が柱穴と判断される。柱痕跡等は確認されなかったが深さ最大56cmを測る。その他のピットには柱穴を切るもの、周溝に切られるものもあるが、すべてのピット堆積土に焼土・炭化物・土器片が含まれており、廃棄穴・ゴミ穴としての性格が考えられる。カマドは住居北壁に設置されている。煙道部は筒状で北側へ延び確認長82cmを測る。幅は35cm程で底面は緩く北側へ傾斜している。燃焼部は両袖のみの確認である。底面は緩く立ちあがり奥壁で段となり煙道へ続く。底面幅60cm程、奥行き90cmを測る。袖端部に凝灰岩の切石がみられ、組み石の焚口部が想定される。遺物は床面・周溝・各ピット・堆積土から出土している。種類として土師器（坏・甕）・須恵器（坏・甕）・礫がある。土師器類はすべてロクロ不使用である。

SI２竪穴遺構　調査区南西端に位置する。東壁一部分のみの確認である。壁はきつく立ちあがり、底面は平坦である。施設等が確認されないが炭化物面もみられることから竪穴住居跡の可能性もある。堆積土は暗褐色の粘土質

シルトである。自然堆積土と考えられる。遺物には土師器類があるが底面からロクロ不使用の坏が出土している。

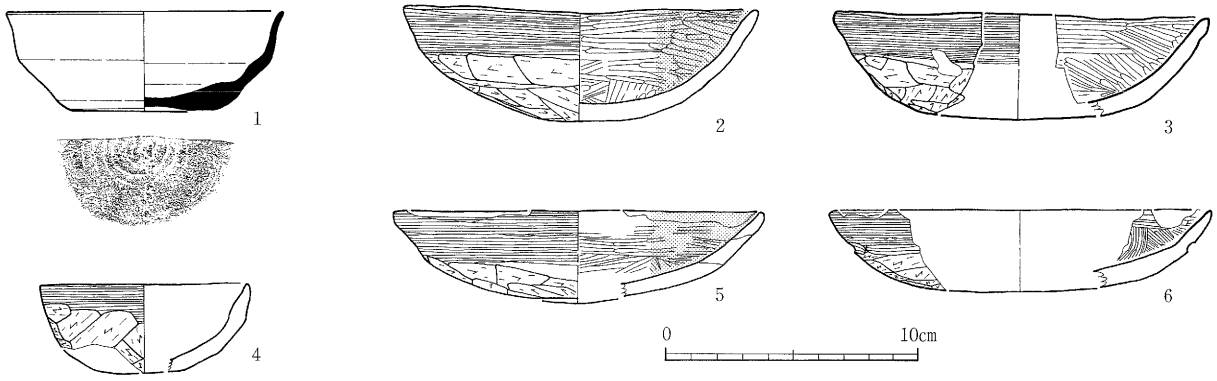
SK１土坑　北壁に掛っており全体形状は不明であるが方形を基調とする。東西軸105cm、南北軸確認長45cm、深さ最大で10cmを測る。断面形は不整な逆台形で底面は凹凸面となっている。堆積土はにぶい黄褐色と褐色の粘土質シルトの混じった層である。遺物はない。

ピット類　径30cm程のもので深さも30cm弱を測る。組み合わせも不能で性格は不明である。Ｐ１・Ｐ２から土師器片が出土している。



遺構名	層位	色調	性質	備考
SI 1	1	褐色　10YR4/4	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒をまばらに含む
	2	暗褐色　10YR3/4	粘土質シルト	炭化物粒・焼土粒をまばらに１層より多く含む
	3	黄褐色　10YR5/6	粘土質シルト	褐色土を少量含む　壁崩壊土？
	4	褐色　10YR4/4	粘土質シルト	周溝　やや砂質　黒褐色土をうすく含む
	5	黒褐色　10YR2/3	粘土質シルト	カマド煙道部　やや砂質　焼土を斑に含む
	6	暗褐色　10YR3/4	砂質シルト	カマド燃焼部　黒褐色土をスジ状に含む
	7	黒褐色　10YR2/3	砂質シルト	カマド煙道部　焼土・炭化物を斑に含む
	8	黒褐色　10YR2/3	粘土質シルト	カマド燃焼部　焼土・炭化物を含む　底面やや硬化
P３	1	黒褐色　10YR2/2	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒多量に含む
P４	1	褐色　10YR4/4	砂質シルト	やや粘土質　焼土粒・炭化物を多量に含む

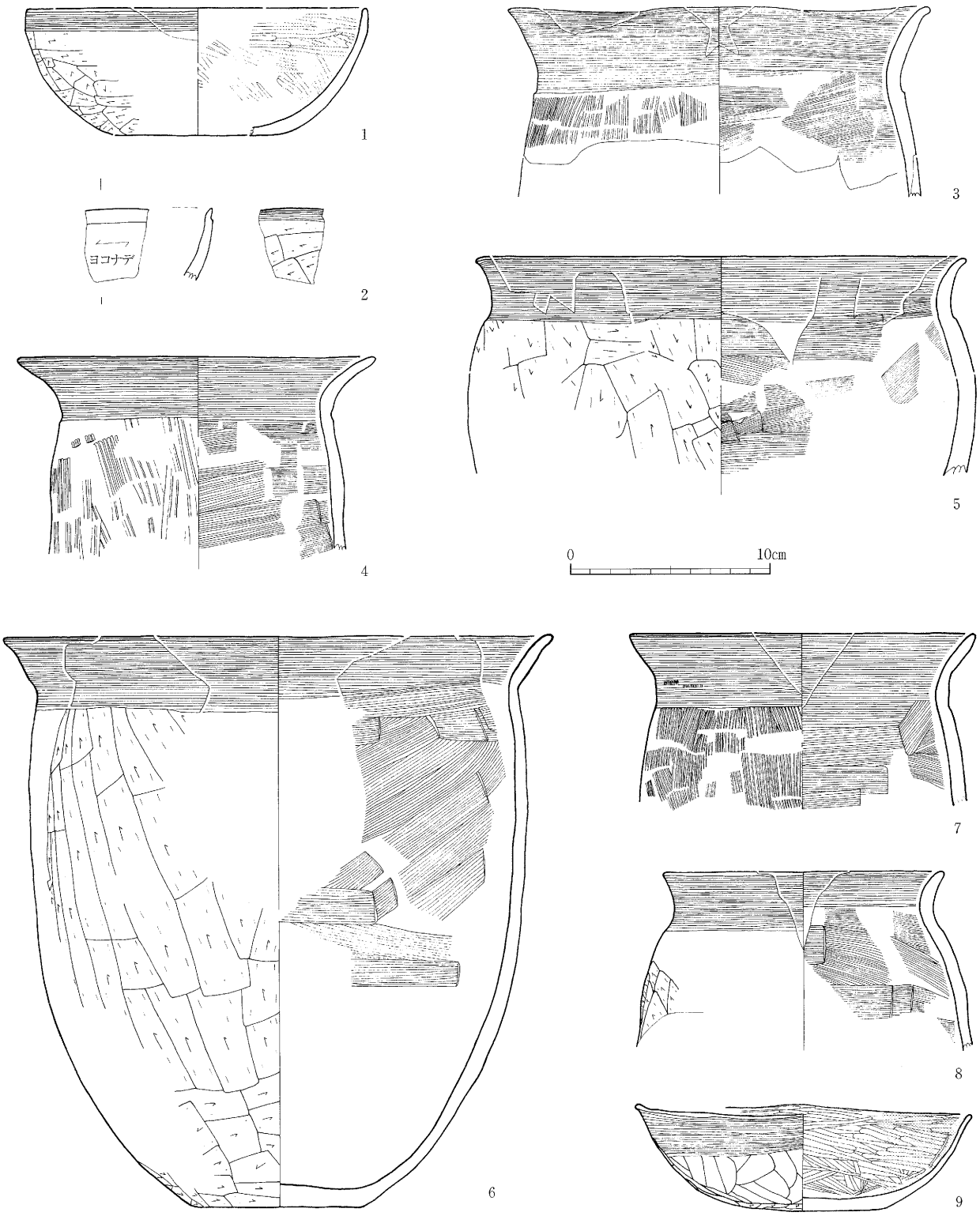
第３図　SI１住居跡全体図



図・番	出土遺跡	地点・層	種別	器種	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	残存	備考
4－1	SI１	床面	須恵器	坏	ロクロ調整	ロクロ調整	110	60	40	1/2	切り離し：回転ヘラ切り
4－2	SI１	床面	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	141	－	46	3/4	丸底　外面：口縁部と体部の境にかるい稜
4－3	SI１	P3・4・5	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	ヘラミガキ	(150)	－	－	1/3	丸底　外面：口縁部と体部の境にヘラ状工具での直線状の沈線
4－4	SI１	P４	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	不明	(83)	(30)	36	1/3	平底　再酸化
4－5	SI１	埋土	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	(144)	－	－	1/3	丸底　外面：口縁部と体部の境にかるい稜　再酸化
4－6	SI１	埋土	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	ヘラミガキ	(152)	－	－	1/4	丸底　外面：口縁部と体部の境に幅広の沈線

単位：mm（　）は推定

第４図　SI１住居跡出土遺物１



図・番	出土遺構	地点・層	種別	器種	外面調整	内面調整	口径	底径	器高	残存	備考
5－1	SI 1	埋土	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	(170)	(80)	64	1/3	平底　口縁部：やや内傾
5－2	SI 1	埋土	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	ヨコナデ	－	－	－		非在地系土器　破片　口縁部：短く外反
5－3	SI 1	床直	土師器	甕	口縁部：ヨコナデ　体部：ハケメ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	(210)	－	－		頸部に段　口縁部：外傾気味
5－4	SI 1	カマド	土師器	甕	口縁部：ヨコナデ　体部：ハケメ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	(178)	－	－		頸部に段　口縁部：外反気味
5－5	SI 1	カマド	土師器	甕	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	(244)	－	－		頸部に段　口縁部：直立気味に外反
5－6	SI 1	カマド	土師器	甕	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	(272)	(80)	286		頸部にかるい段　口縁部：外傾気味　底部に線刻の気葉文
5－7	SI 1	P 6	土師器	甕	口縁部：ヨコナデ　体部：ハケメ	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	(172)	－	－		頸部に段　口縁部：外傾気味
5－8	SI 1	埋土	土師器	甕	口縁部：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	口縁部：不明　体部：ヘラケズリ	(170)	－	－		口縁部：外反気味　再酸化
5－9	SI 2	底面	土師器	坏	口縁部：ヨコナデ　体部：ナデ	ヘラミガキ・黒色処理	167	79	53	2/3	平底　口唇部：ゆるく短く外反　底部：ヘラケズリ

第５図　SI１住居跡出土遺物２

6．まとめ

（1）出土遺物について

遺物は住居跡出土のものが大半を占めており、ここでは住居跡出土の土器類に着目し特徴を記す。

土師器坏＝すべてロクロ不使用で平底と丸底のものがある。平底のものは体部が内弯しながらややきつく立ちあがり、口縁部は直立気味・内傾気味・外反気味のものがある。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリないしナデ、内面はヘラミガキ・黒色処理である。小型品が含まれるが全体として大振りである。丸底のものは全体として緩やかな立ち上がりの円弧状の器形である。外面中位に所謂段となる変曲点がみられるが、太めの沈線及び稜となっている。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリで、内面はヘラミガキ・黒色処理のものとヘラミガキのみの二者がある。後者のものは少数であるが他と較べても胎土が木目細かく色調も赤褐色を呈し区別される。再酸化も認められず本来ヘラミガキのみの調整であったと判断される。なお、内面が全面ヨコナデ調整となる非在地系の破片資料がある。体部は内弯気味にきつく立ち上がり、口縁部は短くきつく外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラケズリである。

土師器甕＝大きさに大小の２種が認められ、頸部有段（段をもつもの・緩い稜となるもの）と無段のものがある。口縁部がくの字に屈曲するものと緩く立ち上がるものがある。調整は口縁部内外面ともヨコナデ、体部内面はヘラナデである。体部外面はハケメないしヘラケズリで破片資料も含めてみるとヘラケズリ調整が主体を占める。

須恵器坏＝破片資料を含めて２点の出土である。図示資料は平底で体部下半は外傾気味に立ち上がり中央部に稜をもち口縁部が外反気味となる稜椀形のものである。底部切り離しは回転ヘラ切りで無調整である。

須恵器甕＝体部破片資料が少量ある。内外面ともロクロ調整のもの、外面に平行叩き目がみられるものがある。

これらの土器群のなかで土師器類は特徴から土器編年の国分寺下層式に位置づけられるものである。坏・甕の段の形骸化、平底坏の組み合わせ等からみて８世紀中頃の年代が考えられる。

（2）溝跡について

７条確認した。これら溝跡のなかでSD１～６は南北方向に延び並行するもので、幅・深さ等を含めるとSD１・３・４・６は一群の溝跡と判断される。これらの溝群は小溝状遺構と称された畑跡に関係するものと考えられ、出土遺物から平安時代頃の時期が考えられる。他も同様の性格をもつものかと思われたが明らかに出来なかった。

（3）土坑について

１基のみの確認である。出土遺物もなく性格・時期等不明である。

（4）住居跡について

SI２も含めると２棟の確認となる。部分的な確認であり詳細は不明であるが、SI１・２とも奈良時代後半の時期が想定される。本調査区の北側での調査（南小泉28次）で同時期の住居跡が数多く確認されており一群のものと判断されるが、一辺７ｍを超す住居跡は数少なく注意される。

写真１　溝跡・土坑・ピット掘り上げ状況（西より）

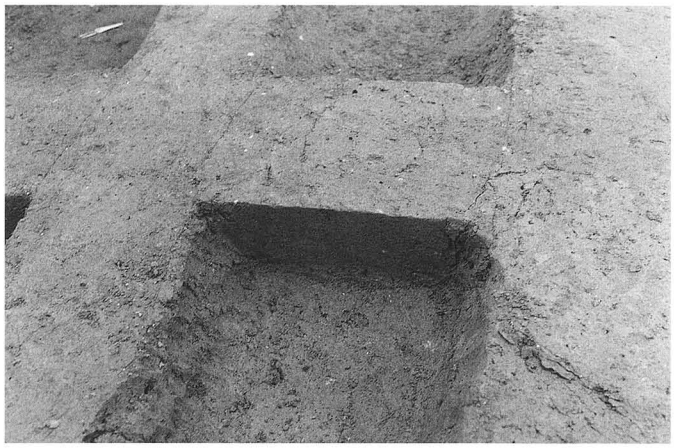


写真２　SD２溝跡断面（南より）

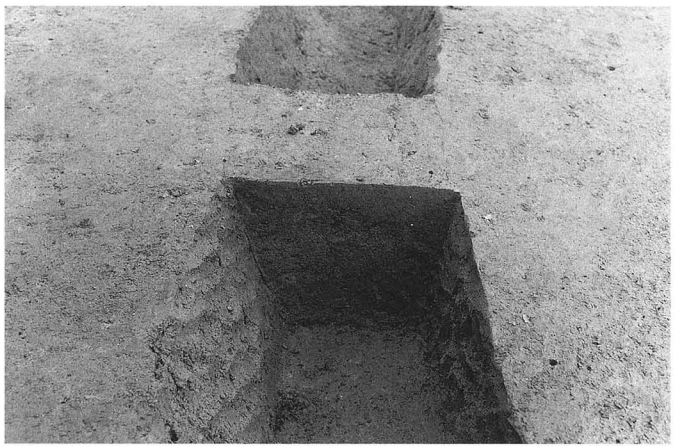


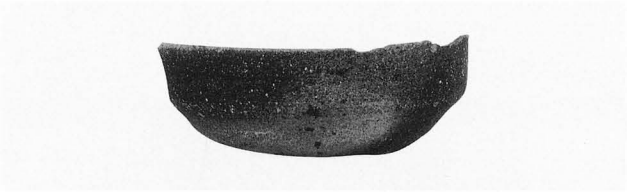
写真３　SD３溝跡断面（南より）

写真４　SI１住居跡検出状況（西より）

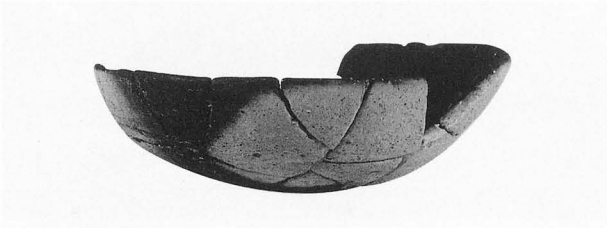
写真５　SI１住居跡ベルト断面状況（南より）

写真６　SI１住居跡カマド精査状況（南より）

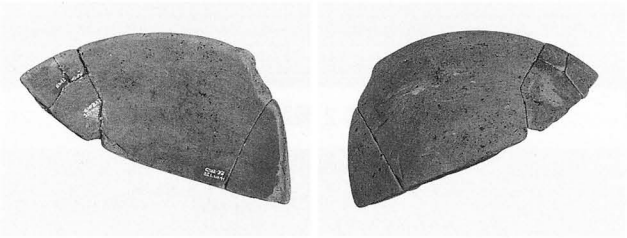
写真７　SI１住居跡床面検出状況（南より）



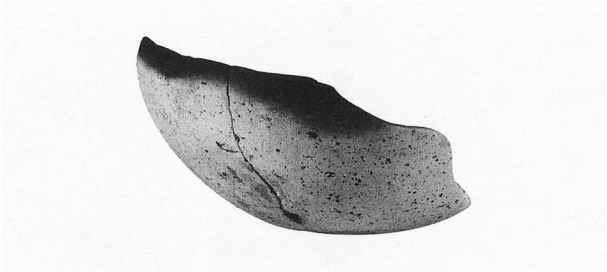
4－1



4－2

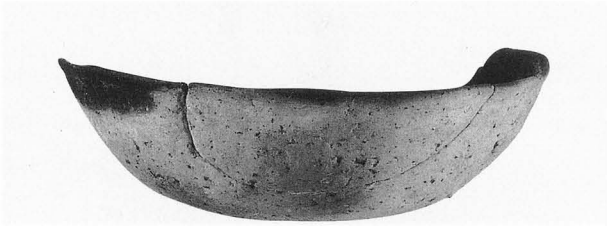


4－3

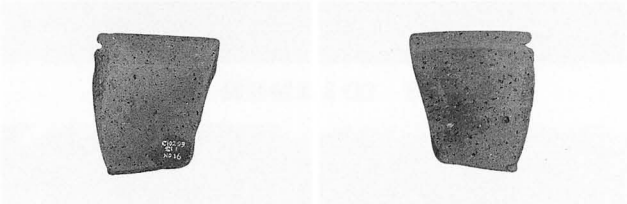


5－1

4－6

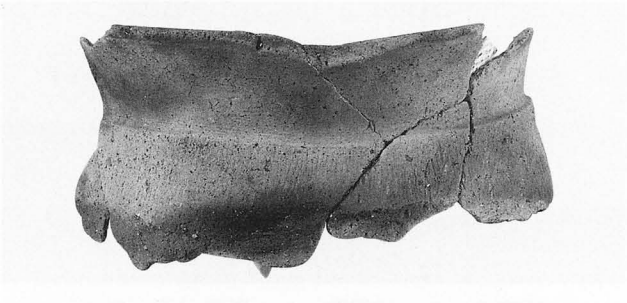


5－9

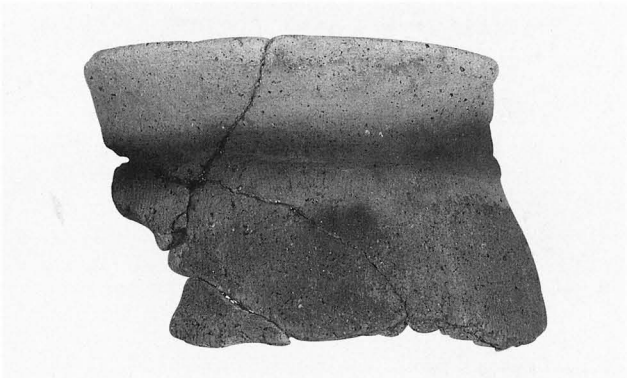


5－2

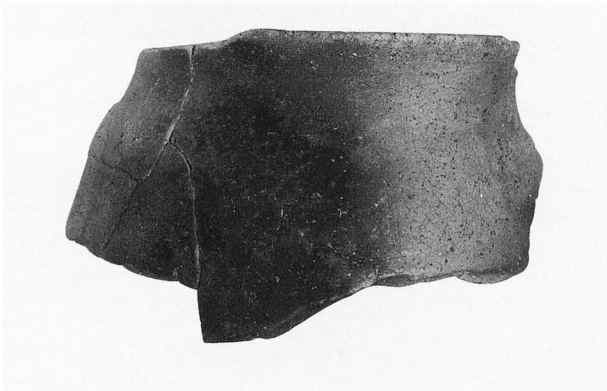
5－4



5－3



5－7



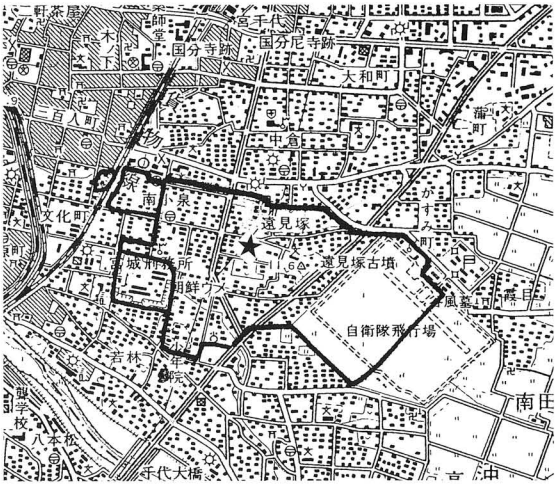
5－8

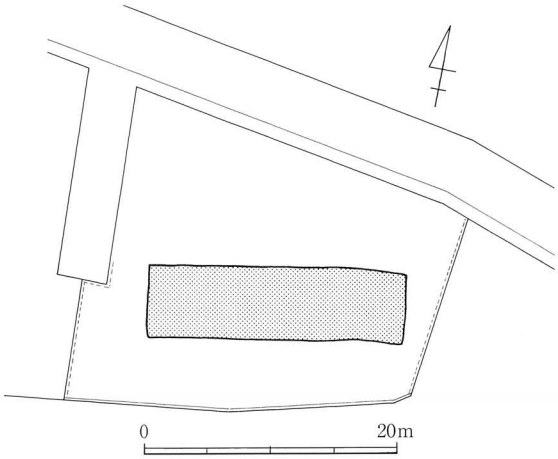
写真８　出土遺物

［２］第34次調査

１．調査要項

遺　跡　名	南小泉遺跡（宮城県遺跡番号012021）
調査地点	仙台市若林区遠見塚一丁目220、222地内
調査原因	ＲＣ共同住宅建設工事
調査対象面積	約177㎡
調査面積	約123㎡
調査期間	試　掘：平成12年10月５・６日
	本調査：平成12年11月６日～11月15日
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課
担当職員	試　掘：吉岡恭平　佐藤 淳
	本調査：渡部弘美　加藤徳明
調査参加者	土屋みどり　伊藤はるよ　小野　栄子
	佐藤すみ子　佐藤よし子　峯岸　安好
	吉田アキヨ　渡辺　貞子　三浦　陽子
	遠藤　清子　芦野ヒデ子　三浦　市子
	葛西　郁子
申　請　者	沼田千代志





第１図　調査地点及び調査区配置

２．遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は若林区南小泉・遠見塚地区に位置する。広瀬川北岸の自然堤防上に広がる縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。今までに三十余の調査が実施されているが、大きく各地域で主たる遺構にまとまりがみられ、遺跡内での時代的な移り変わりによる変遷がみられる。今回の調査区は遺跡中央部に位置し、中近世の屋敷跡が数多く確認されている地点にあたる。

３．調査の方法と経過

平成12年10月に上記地内の共同住宅建設に係る申請が提出された。当地点近接地において中近世の屋敷跡等が確認されており試掘を行い状況を確認することとした。結果、２条の溝跡が確認されたため申請者と協議を行い記録保存としての本調査を実施することとなり、同年10月31日付で発掘届が提出された。調査は建物予定地内に21×6.5mのトレンチを設定した。実質８日間の調査であった。

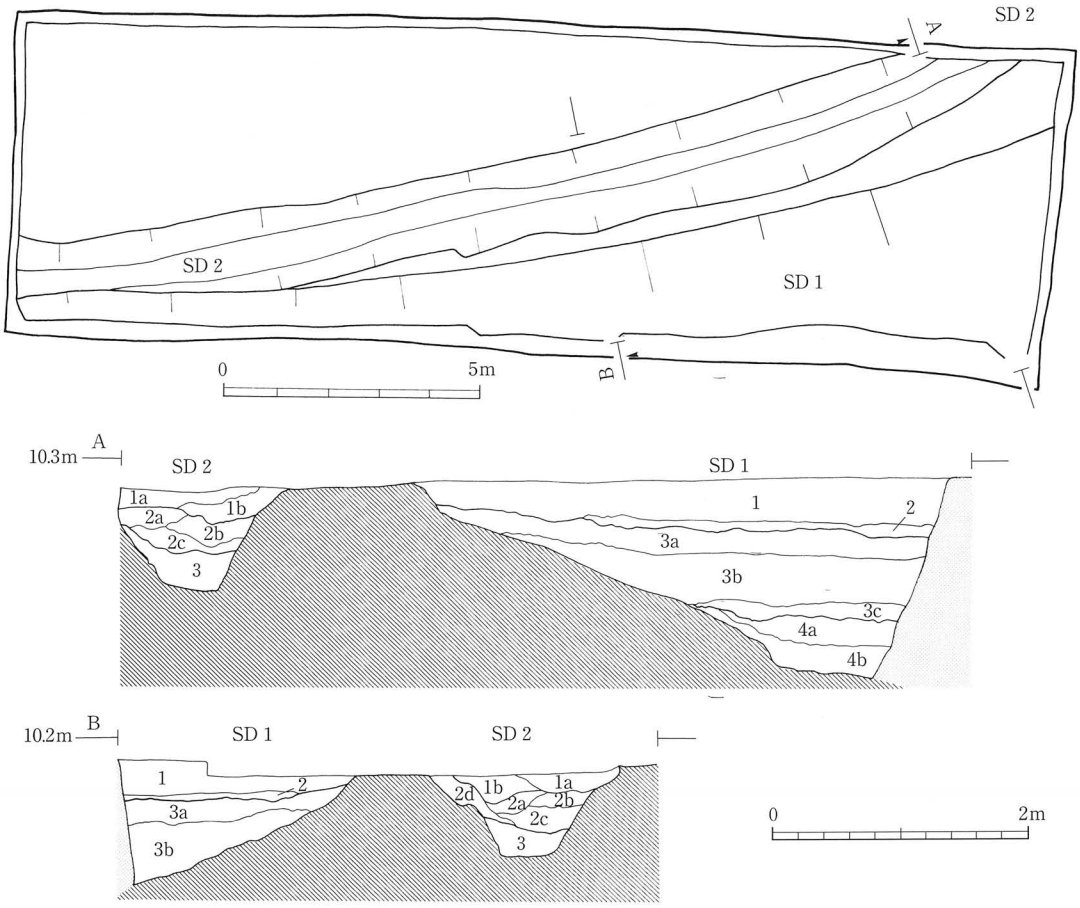
４．発見遺構と出土遺物

溝跡２条の検出である。遺物は整理箱で１箱程である。基本層は３層確認した。Ⅰ層は農園時の盛土で40～50cmの厚さ、Ⅱ層は水田及び畑の旧耕作土で25～30cmの厚さを計る。Ⅲ層は褐色および黄褐色の砂質シルトで今回調査の遺構確認面となる。

SD１溝跡　北側部のみの部分的な確認であるが東西方向に直線的に延びる。SD２を切っている。上端ラインが

北側へやや屈曲をみるが北辺の確認長は20.6mを測る。底面は南東部のみでの確認であるが、かるい凹凸面で南側へ緩く傾斜している。壁面は20～30度の傾斜面で緩い立ち上がりである。断面形は緩く口のひらく逆台形を呈すると考えられる。残存部から判断して上幅は10mを超えるものと思われる。堆積土は大別で３層確認した。自然堆積である。全体的に砂質で下部につれて砂層となる。下部はグライ化している。遺物は各層から各種（土師器・須恵器・陶器・磁器・土師質土器・瓦・トリベ・鉄滓・砥石・礫・石器・縄文土器・骨等）・各時代のものが混在して出土している。各層の中で時期的に下るものに着目すると、１層では肥前の仏飯具・皿、志野の菊皿、３層では常滑の甕、岸窯の擂鉢、４層では龍泉窯系の青磁碗がある。

SD２溝跡　調査区西側でSD１と重複するが、ほぼ並行し東西方向に延びている。確認長20m、上端幅1.6～1.9m、下端幅40～70cm、深さ最大で80cmを測る。底面はほぼ平坦で東西間の底面高に違いはない。断面形は逆台形を呈する。堆積土は大別で３層確認した。褐色系の砂質シルト層で最下層は砂層である。自然堆積である。遺物は土師器・須恵器のみの出土である。土師器は細片で器種不明であるが須恵器には坏・高台付坏・甕がある。



遺構名	層位	色調		性質	備考
SD１	１	暗灰黄色	2.5Y4/2	シルト	やや砂質　１層以下酸化鉄を霜降状に含む
	２	浅黄色	2.5Y7/4	シルト	黄灰色土を含む
	３a	暗灰黄色	2.5Y5/2	砂質シルト	やや粘土質
	３b	暗灰黄色	2.5Y5/2	砂質シルト	やや粘土質　にぶい黄色土を小ブロック・スジ状に含む
	３c	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂	黒褐色粘土を小ブロック・スジ状に含む
	４a	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂	黄灰色土を斑に含む　層下部にはオリーブ褐色土の互層がみられる
	４b	暗灰黄色	2.5Y4/2	砂	底面付近には黄灰色土との互層状態がみられる

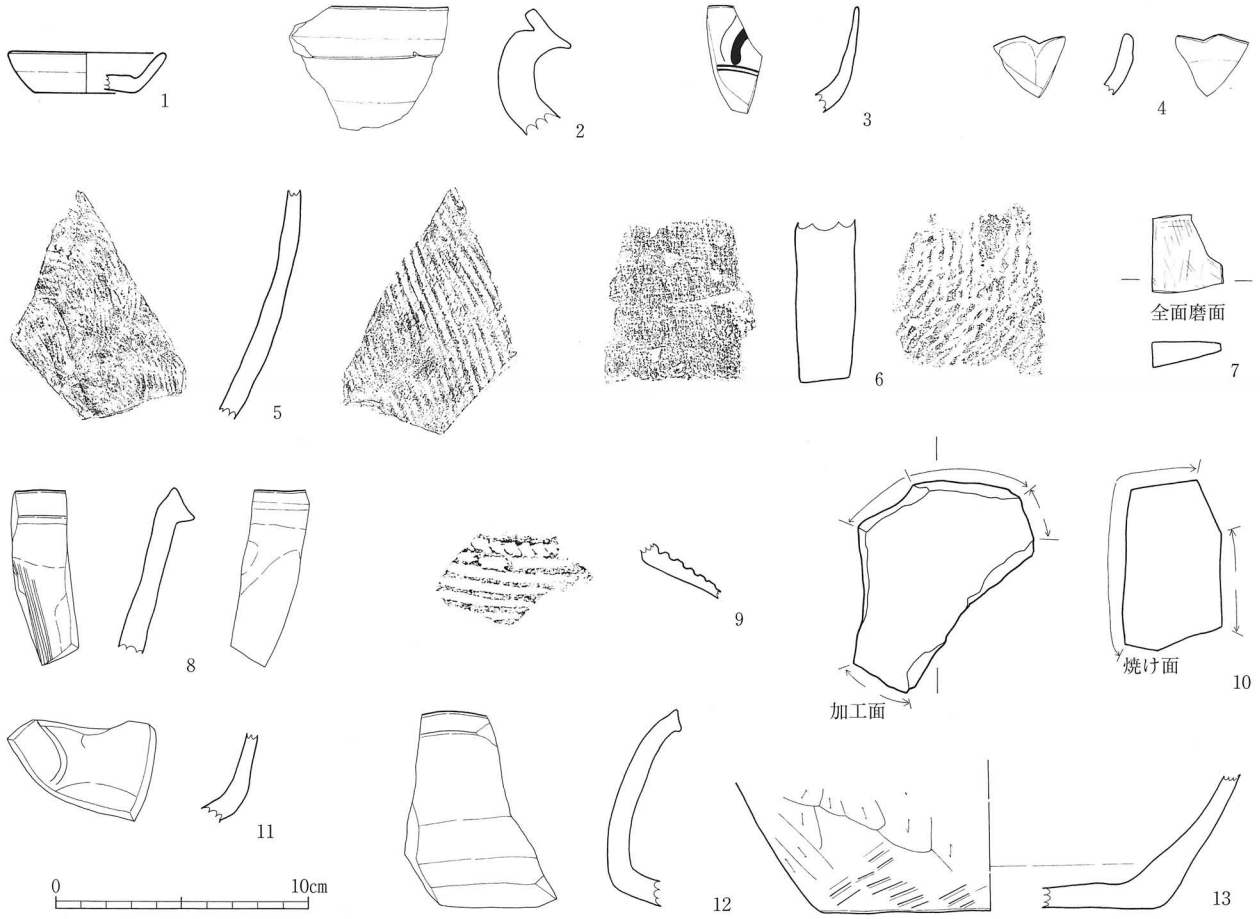
遺構名	層位	色調		性質	備考
SD２	１a	暗灰黄色	2.5Y4/2	シルト	明黄褐色土小ブロックを含む　１層以下酸化鉄を霜降状に含む
	１b	オリーブ褐色	2.5Y4/3	砂質シルト	明黄褐色土小ブロックを点的に含む
	２a	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質シルト	
	２b	オリーブ褐色	2.5Y4/4	砂質シルト	２a層に較べ明黄褐色土小ブロックを多く含む
	２c	オリーブ褐色	2.5Y4/6	砂質シルト	２a・２b層に比べ全体的に明るい
	２d	暗灰黄色	2.5Y4/2	シルト	やや砂質
	３	褐色	10YR4/6	砂	粗砂　暗灰黄色土をスジ状に含む

第２図　検出遺構全体図

５．まとめ

発見遺構は２条の溝跡にとどまる。SD１は上幅10mを超す、大形の堀跡と考えられた。部分的な確認で出土遺物も少なく詳細は明らかでないが、各層の出土遺物から判断して中世～近世初頭頃まで機能していたものと考えら

れる。当地域周辺では同時期頃の屋敷跡が点在しており一群の性格をもつものとも考えられるが、規模の点からみても大形であり、性格も含めて今後の解明が期待される。SD２の堆積土からは土師器・須恵器のみが出土しており大きく平安時代の遺構と判断される。性格については部分的な確認でもあり不明である。



図・番	出土遺構	地点・層	種　類	種別	備　　考
3－1	SD１	埋土	土師質土器	Ⅲ	ﾛｸﾛ成形　切り離し技法：回転糸切り　口径：63㎜　底径：40㎜　器高：17㎜
3－2	SD１	埋土	陶器	壺？	常滑　13ｃ後半
3－3	SD１	１層	磁器	Ⅲ	肥前　草文？　17ｃ
3－4	SD１	１層	陶器	菊Ⅲ	志野　口縁部片　長石釉　灰白色　16ｃ末～17ｃ初
3－5	SD１	１層	須恵器	甕	体部片　外面：平行叩き　内面：同心円文のオサエ
3－6	SD１	１層	古瓦	平瓦	端部片　最大厚：24㎜　凸面：縄叩き目　凹面：布目痕・ナデ　硬質
3－7	SD１	３層	石製品	砥石	長さ：30㎜　幅：28㎜　最大厚：10㎜　全面使用
3－8	SD１	３層	陶器	擂鉢	岸　鉄釉　櫛目４本以上　口唇部内側断面三角形に肥厚　17ｃ中頃
3－9	SD１	３層	縄文土器	壺	晩期　大洞Ａ？　広口の壺？
3－10	SD１	３層	石製品	不明	形状不明　加工面がみられ厚さ40㎜の板状　焼け面がみられる
3－11	SD１	４層	青磁	碗	龍泉窯系　片切彫・鎬弁文　12ｃ～13ｃ
3－12	SD２	埋土	須恵器	甕	口縁部片
3－13	SD２	４層	須恵器	甕	底部片　底径：134㎜　外面調整：平行叩き・ヘラケズリ

第３図　出土遺物

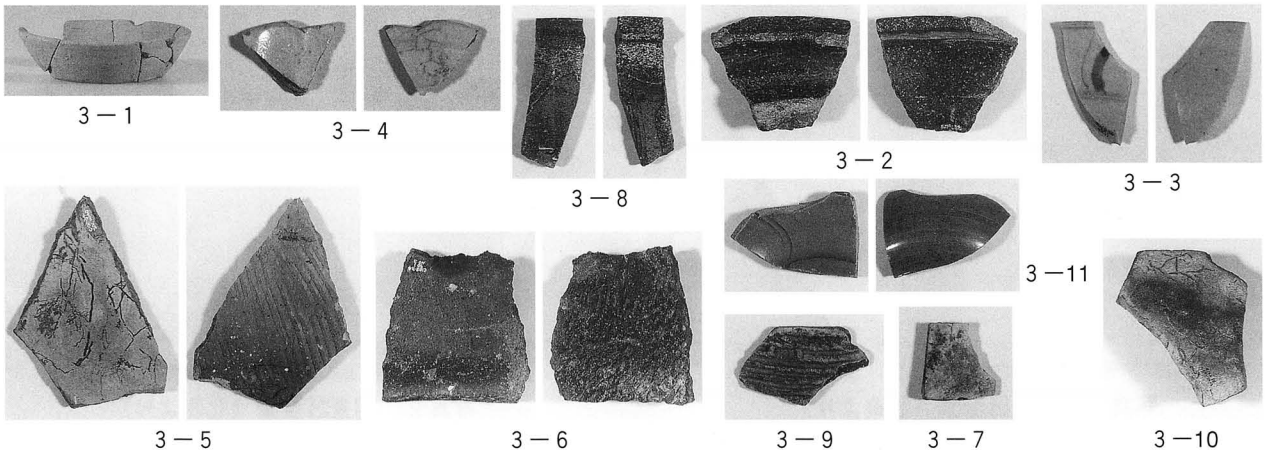


写真１　出土遺物

写真２　溝跡検出状況（北西より）

写真３　SD１溝跡掘り上げ状況（西より）

写真４　SD１溝跡断面（東より）

写真５　SD２溝跡断面（東より）

写真６　溝跡重複断面状況（東より）

写真７　溝跡断面状況（東より）

写真８　調査区全景（北東より）

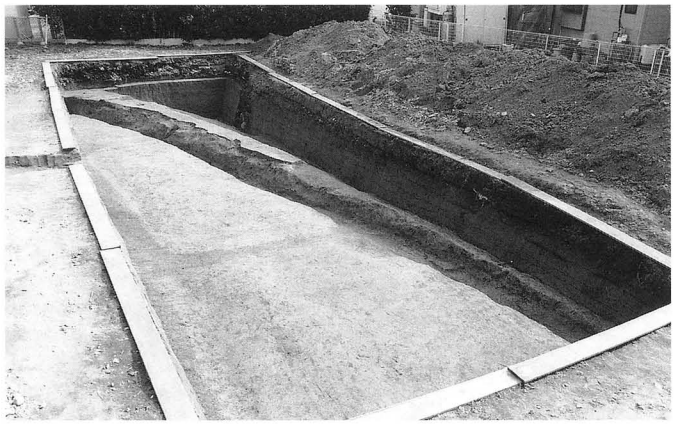


写真９　調査区全景（北西より）

Ⅳ　大原一里塚

1．調査要項

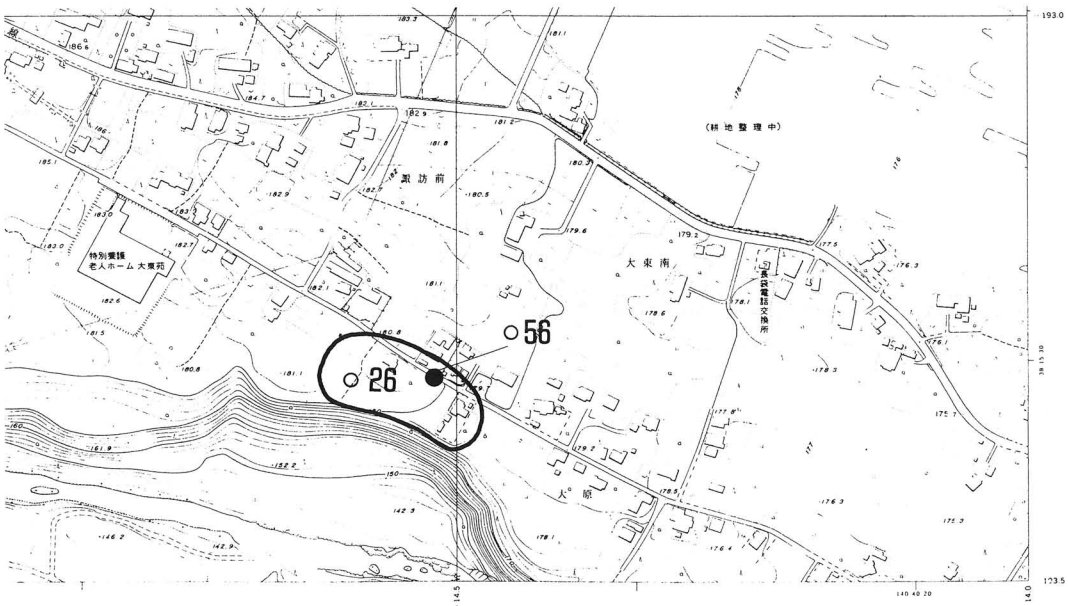
遺　跡　名　大原一里塚（宮城県遺跡番号16056）
調　査　地　仙台市太白区秋保町長袋字清水久保114地先外
調査原因　市道大原野中線改良工事
調査対象面積　150㎡
調査面積　44㎡
調査期間　平成12年７月３日～平成12年７月５日
調査主体　仙台市教育委員会
調査担当　仙台市教育委員会文化財課
担当職員　吉岡恭平　渡部　紀
調査参加者　浅見禮子　斉藤慶子　菅井清子　渡辺洋子
申　請　者　仙台市長
調査協力　太白区秋保総合支所建設課

2．遺跡の位置と環境

大原一里塚は、秋保町長袋地区の名取川北岸の河岸段丘上にある。県道仙台山寺線の南側を併行して走る細い道路沿いにあり、秋保総合支所から西へ約700mの地点に位置する。塚は道の両側に約４m離れて存在し、南の塚は高さ約70cm程のマウンド状になっているが、北の塚は民家の庭先の一部を占有するような状態になっている。北の塚は市有地となっており、一里塚の標柱が立っている。

3．調査の方法と経過

市道大原野中線改良工事による道路拡幅のため大原一里塚に影響が及ぶこととなり、迂回できないかの検討を重ねた。しかし、用地買収や既存住宅との位置関係などから南北両塚の迂回は困難となり、協議の結果北の塚を保存し、南の塚を調査することとなった。発掘通知は平成12年４月20日に提出されている。



第１図　調査地点（56：大原一里塚、26：青木遺跡）

また、周辺は青木遺跡にあたることから、確認調査も併せて実施した。なお、市道大原野中線改良工事は平成９年度から開始され、平成９年度は、大原遺跡において確認調査を実施し、遺構遺物は検出されていない。

塚はすでに頂部南側を幅約50cmで東西に横断するように溝状の削平を受けていた。調査区はその削平部分を利用し、塚を東西に横断する1.5×７ｍの第１トレンチと、塚の西側に1.5×６ｍの第２トレンチを設定した。塚部は東西断面を終了後、北側へ拡張している。

４．基本層序

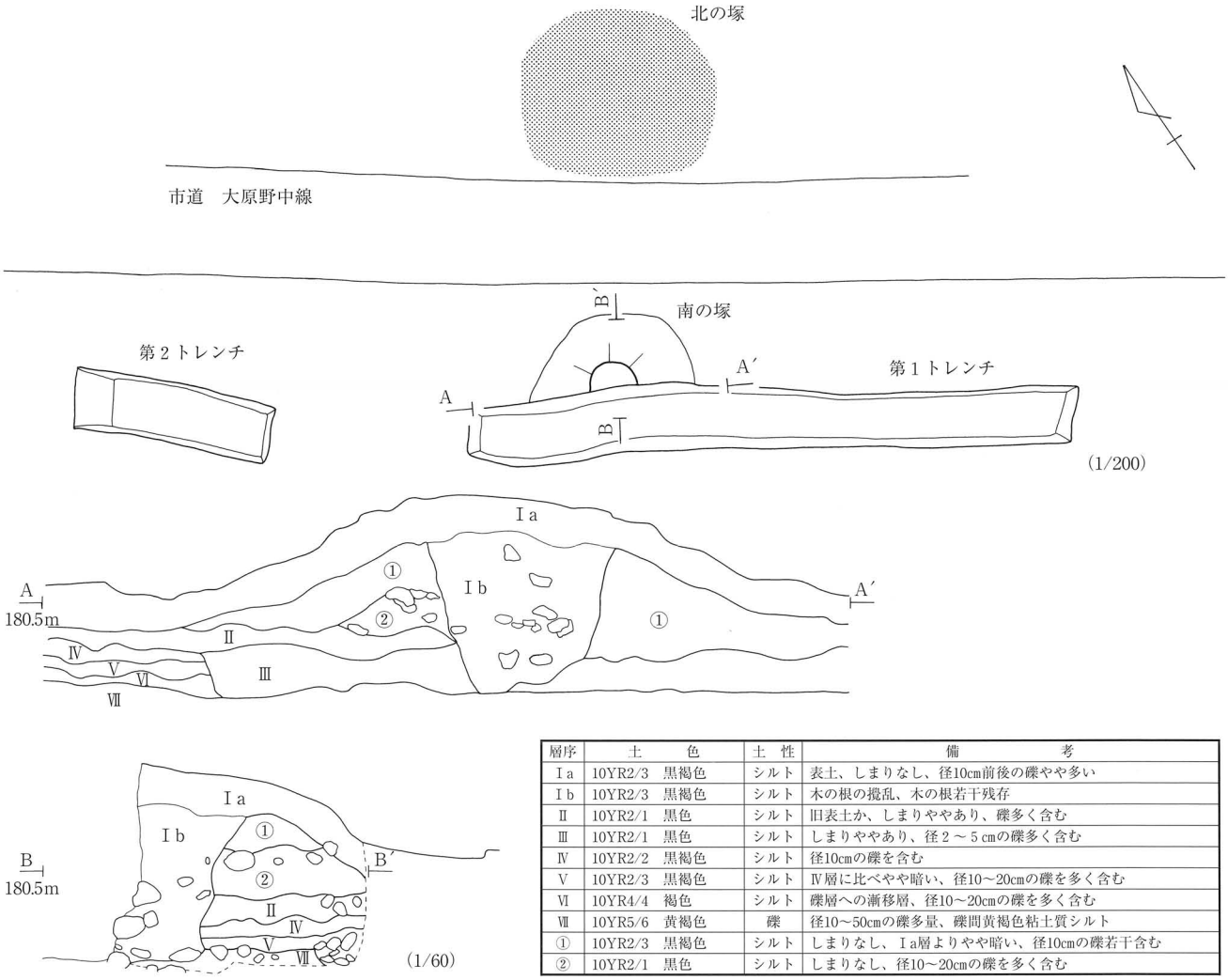
基本層は７層確認されている。礫層までおおむね黒色系の礫を含むシルト層である。

Ⅰ層は、Ⅰａ層とⅠｂ層に細分される。Ⅰａ層は、塚部および現地表面の表土である。黒褐色シルトでしまりなく、径10cm前後の礫がやや多い。層厚は30～40cmである。Ⅰｂ層は、塚頂部に生育していた木の根の攪乱部分で礫層まで達している。木の根が若干残存し、しまりなくボサボサしている。下部に礫が多い。

Ⅱ層は、塚積み土の下部にのびており、旧表土と考えられる。黒色シルトでややしまり、礫をやや含む。層厚15～20cmである。

Ⅲ層は、Ⅳ～Ⅵ層を切るように落ち込むが東側での立ち上がりがなく、耕作等の深度による影響と考えられる。黒褐色シルトでややしまり、径２～５cmの礫を多く含む。層厚は20～40cmである。

Ⅳ層は、暗褐色シルトである。径10cmの礫を含む。層厚は10～20cmである。



層序	土　色	土 性	備　考
Ⅰa	10YR2/3　黒褐色	シルト	表土、しまりなし、径10cm前後の礫やや多い
Ⅰb	10YR2/3　黒褐色	シルト	木の根の攪乱、木の根若干残存
Ⅱ	10YR2/1　黒色	シルト	旧表土か、しまりややあり、礫多く含む
Ⅲ	10YR2/1　黒色	シルト	しまりややあり、径２～５cmの礫多く含む
Ⅳ	10YR2/2　黒褐色	シルト	径10cmの礫を含む
Ⅴ	10YR2/3　黒褐色	シルト	Ⅳ層に比べやや暗い、径10～20cmの礫を多く含む
Ⅵ	10YR4/4　褐色	シルト	礫層への漸移層、径10～20cmの礫を多く含む
Ⅶ	10YR5/6　黄褐色	礫	径10～50cmの礫多量、礫間黄褐色粘土質シルト
①	10YR2/3　黒褐色	シルト	しまりなし、Ⅰa層よりやや暗い、径10cmの礫若干含む
②	10YR2/1　黒色	シルト	しまりなし、径10～20cmの礫を多く含む

第２図　平面図・断面図

Ⅴ層は、黒褐色シルトで、Ⅳ層に比べ、やや暗い。径10～20cmの礫を多く含む。層厚は5～15cmである。

Ⅵ層は、褐色シルトで、礫層への漸移層。径10～20cmの礫を多く含む。層厚は5～20cmである。

Ⅶ層は、礫層で径10～50cmの礫からなり、礫間には黄褐色粘土質シルトがある。

5．調査成果

南の塚は、南北約3.5m東西4.5mの円形で、高さは70～80cmである。頂部南側を東西方向に幅約50cmで溝状に削平を受けていた。表土のⅠa・Ⅰb層を含め塚を構成する層は4層である。①層は黒褐色シルトで径10cmの礫を若干含む。②層は黒色シルトで径10～20cmの礫を多く含む。ともに地山ブロックを含まず、しまりのない土層である。Ⅰb層下部と②には礫が多く見られ、塚の中央下部にやや集中している観がある。ほかに積み土の順序やつき固めたような痕跡、掘りこみなど構築法を示すものは認められなかった。また、出土遺物もない。

以上のような状況から構築法を推定してみると、礫層まで掘り込むことなく黒色土と層中に含まれる礫を集め、旧表土上にまず礫をいくらか積み上げ、その上に強固につき固めることもなく黒色土を盛ったということになる。しかし、塚の構成土にしまりがないのは、頂部中央の木の根による攪乱あるいはその抜根などの影響による可能性も考えられる。

第1トレンチ、第2トレンチの他の箇所でも遺構遺物は全く発見されなかった。

6．まとめ

今回の調査では出土遺物がなく、大原一里塚の築造年代を遺物等から推定することは困難である。

秋保町史（秋保町1976）によれば、この一里塚のある道路は、「もともとは秋保氏が諏訪神社へ参詣に来るための道路として設けられたもので、（中略）二口峠を越えて山形方面に行く荷は、殆んどこの道を用いて運ばれていたという。」ものである。秋保氏の居城であった長楯城の入口から西の馬場の集落までの約3kmのほぼ中間に塚は位置している。「高さ○・五米で直径約五米の円型をなし、かなり河原石を混入する。」とあり、礫がかなりあったことが想定されるが、今回の調査結果をみると、構築後の崩壊や修復、削平など後世手が加えられた可能性が考えられる。さらに町史によれば、「嘗ては、この上に一本杉（南側）と桜（北側）が生えていた」という。塚中央で確認された木の根による攪乱はその一本杉によるものかもしれない。北の塚には現在も桜が生えている。

参考文献

秋保町1976　「秋保町史　本編」

写真1　南の塚（北より）

写真2　南の塚（西より）

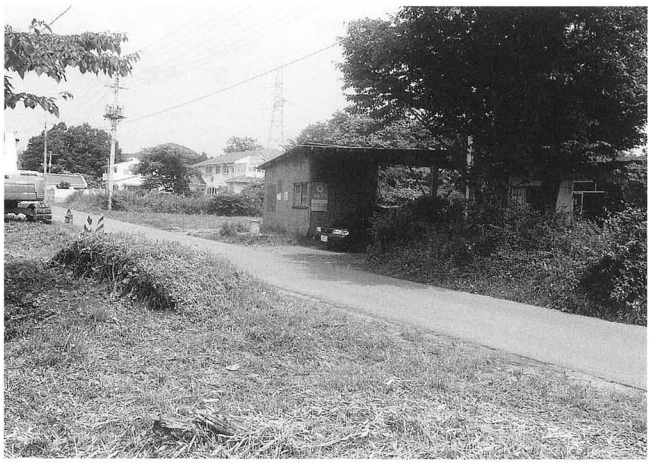


写真３　南北の塚（南の塚が削られている。東より）

写真４　北の塚（南より）

写真５　東西断面

写真６　南北断面

写真７　調査区北へ拡張（東より）

写真８　第１トレンチ全景（東より）

写真９　第２トレンチ全景（東より）

写真10　調査風景（西より）

Ⅴ　山田条里遺跡（第６次調査）

１．調査要項

遺　跡　名　山田条里遺跡（宮城県遺跡番号01367）
調　査　名　山田条里遺跡第６次調査
調　査　地　仙台市太白区山田字田中前53－１
調査理由　ガソリンスタンド建設
原　因　者　伊藤惣十郎
調査主体　仙台市教育委員会
調査担当　仙台市教育局生涯学習部文化財課調査第二係
担当職員　佐藤　淳
調査面積　100㎡（敷地面積：2433㎡・調査対象面積：340㎡）
調査期間　平成12年９月13日～10月２日
調査参加者　井筒　孝子　伊藤　幸子　植野美登子　小田嶋祥子　菊地あき子　清水　直子
関谷　栄子　日野きみ子
整理参加者　関谷　栄子　米沢　俊子
調査協力　株式会社東北エンジニアリング

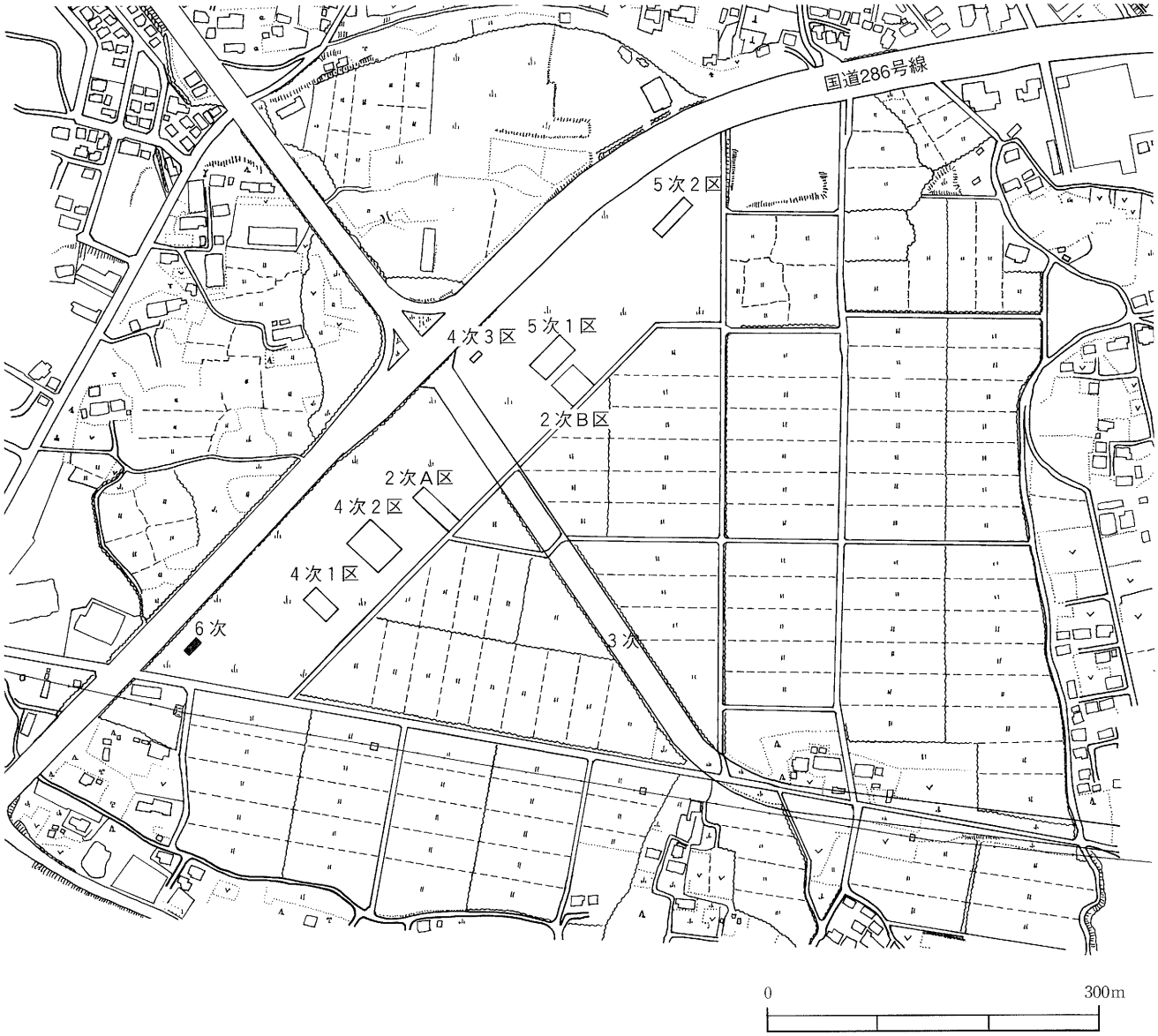
２．遺跡の位置と環境

山田条里遺跡は仙台市街地の南西部、ＪＲ長町駅の西方約４㎞の地点にあり、太白区山田及び鈎取地区に所在している。遺跡の範囲は東西・南北共に約900ｍに及び、仙台市内でも有数の広さを誇る遺跡となっている。

遺跡の北側には標高約200ｍの青葉山丘陵が東西に延び、南側には奥羽山脈より東流する名取川を挟んで高館丘陵が位置している。遺跡はこれら丘陵間を流れる名取川により形成された平坦な河岸段丘上に位置し、さらにこの地区は青葉山丘陵より名取川に注ぐ小河川による堆積作用で扇状地形となっていることから、遺跡の西側と東側では堆積土層に違いが認められる。遺跡内での標高差は約８ｍである。現在、遺跡の現況はそのほとんどが平成元年から行われた農業基盤整備事業により新しく区画された水田となっているが、かつてこの地区は仙台市内で唯一、東西・南北方向の畦畔や水路により整然と区画された古代から続くとみられる条里型土地割が残る地区であった。

周辺の遺跡を概観してみると、北西側の丘陵上には縄文時代中期の大規模な集落跡である山田上ノ台遺跡や早期の竪穴住居跡が発見された北前遺跡などがあり、これらの遺跡ではさらに下層から前期及び後期旧石器時代の石器が多数出土している。東側の小高い段丘上には上野遺跡があり、ここでもまた縄文時代中期の土器が多量出土している。また本遺跡と名取川に挟まれた低位段丘上には船渡前遺跡があり、ここではかつて弥生時代中期の土器が出土した他、近年の調査では近世の建物跡や水路跡などが発見されている。

本遺跡の調査は平成元年より行われている。第１次調査では基盤整備により改変され、消滅する条里型土地割を測量により記録保存した他、調査では近世～近代と平安時代の二時期の水田跡を複数か所で確認し、また遺跡のほぼ中央部において周囲に堀を巡らした近世から近代にかけての屋敷跡が多量の陶磁器と共に発見している。それ以降の調査においても、同時期の水田跡の水田跡が数地点で検出されており、これらは本遺跡の条里型土地割がいつの時代まで遡り、その形態などを検討する上での貴重な発見となった。またこの他にも縄文時代の落とし穴が発見されるなど、遺跡は狩猟、生産、そして生活と、各時代を通し、人間の営みの場であったことがわかった。



第１図　調査区位置図

３．調査に至る経緯と調査方法

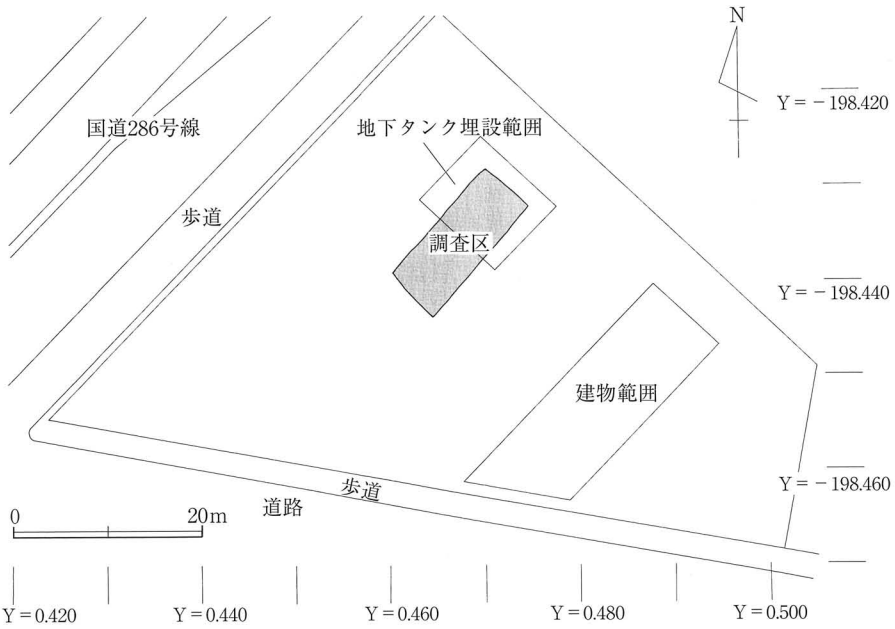
本報告書は仙台市太白区山田字竹の内前17　伊藤惣十郎氏より平成12年６月30日付けで提出された、仙台市太白区山田字田中前53－１におけるガソリンスタンド建設工事に関わる発掘届に基づいた調査をまとめたものである。

申請者との協議の結果、調査は敷地内に建設される地下タンク埋設部分と建物部分を合わせた約340㎡を対象とし、キャノピー部分については設計上、地下遺構を傷めないことからこれを除外した。しかしながら、建物部分は遺跡内で実施されている土地区画整理事業の工事用車輌の道路となっており、この部分については実際調査は難しいとの判断から、最終的な調査区の設定は地下タンク部分を中心に、南側のキャノピー部分に一部拡張する形で実施している。

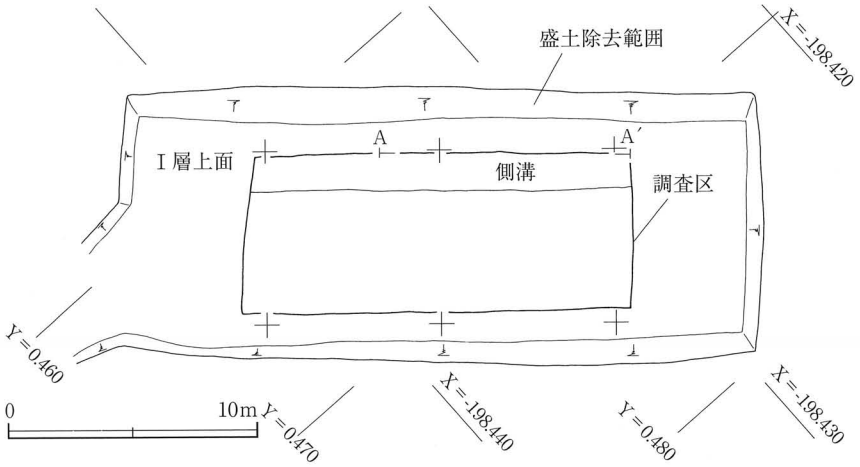
調査地には盛土が厚さ1.5～２ｍもあることから、まず重機により25×10ｍの範囲の盛土と現代の水田耕作土を除去した後に、15×6.5ｍの調査区を設定し、これ以後は手掘りにより進めた。また遺跡の性格上、断面観察を先行するために、調査区北西壁に側溝を設けた。調査ではⅣ層上面での溝跡、Ⅴ層の畦畔とみられるものを検出しているが、これらの図化にあたっては、調査区周囲に設定した任意の座標により行い、後日、土地区画整理地内の２

級基準点から標高及び国土座標数値を設定している。

また調査の最終日には調査区北西壁の土層断面図を作成すると共に、同壁面の２地点よりプラントオパールのための分析試料を採取し、調査を終了した。



第２図　調査区設定図（１）

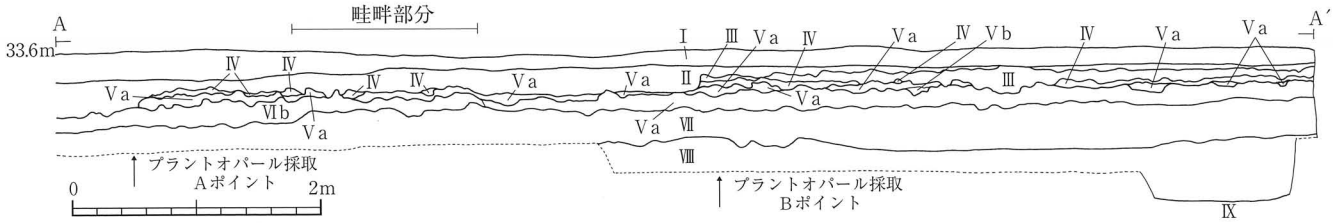


第３図　調査区設定図（２）

４．基本層序

断面観察の結果、調査区内において大別９層、細別12層を確認した。

Ⅰ層は盛土直下層であり、土地区画整理前の現代の水田耕作土である。Ⅱ層は２か所で下面に段差が見られ、北側では層厚が２～10cmであるのに対し、西側では30cm程もあるなど、北側の区画が標高の高い水田の耕作土とみられる。Ⅲ層はⅡ層による耕作を免れた北東側のみに残存し、厚い箇所では上半部において攪拌の程度が高いとみられる水田作土の可能性のある層である。Ⅳ層は北東側でわりと層状に残存するが、中央部では断続的となり、Ⅱ層の深度の深い西側では見られない。灰白色火山灰をブロック状に含み、水田作土の可能性が高いとみられる。Ⅴa層は西側を除き、３～10cmの層厚で、やはり層中には灰白色火山灰をブロック状に含んでいる。水田作土と考えられる。Ⅴb層は北東部のみに断続的にみられる自然堆積層で、Ⅴa層の母材層と考えられる。Ⅵ層は全体に10～20cmの厚さでみられ、西側は黄灰色砂質シルトのⅥb層、北東側は



層位	土　色	土 性	備　考	層位	土　色	土 性	備　考
Ⅰ	2.5GY3/1　暗オリーブ灰色	シルト	層下面に厚さ３cm程の酸化鉄集積層あり	Ⅵa	2.5Y4/1　黄灰色	砂質シルト	下面に多少の乱れあり
Ⅱ	5Y3/1　オリーブ黒色	粘土質シルト	層上半に酸化鉄斑、下半にマンガン斑を多量含む	Ⅵb	5Y3/1　オリーブ黒色	粘質土	下面に乱れあり
Ⅲ	10YR2/3　黒褐色	粘質土	下面の乱れ顕著	Ⅵb′	5Y3/1　オリーブ黒色	粘質土	層厚が厚く下面に大きな凹凸あり
Ⅳ	10YR5/2　灰黄褐色	シルト	下面の乱れ顕著　灰白色火山灰をブロック状に含む	Ⅶ	5Y4/1灰色・5Y2/1黒色	粘土質シルト	灰色層３枚と黒色層３枚程度の互層
Ⅴa	10YR3/2　黒褐色	粘土質シルト	下面に乱れあり　灰白色火山灰を小ブロック状に含む	Ⅷ	10Y4/1　灰色	砂質シルト	層下半は粗砂となりグライ化
Ⅴb	2.5Y3/1　黒褐色	粘質土	残存僅か	Ⅸ	10Y4/1　灰色	砂礫	φ10cm内の小礫多数含む

第４図　基本層序

オリーブ黒色粘質土のⅥa層と違いが見られる。層自体は北から南に僅かに傾斜している。Ⅵb′層は西端部において断面で確認され、Ⅵb層を切り、層厚があり、下面には大きな起伏がみられる。Ⅶ層以下については明瞭な自然堆積層となり、Ⅶ層が粘土質シルトの互層であるのが、徐々に砂質層となり、Ⅸ層では径が10cm程度の円礫層となっている。

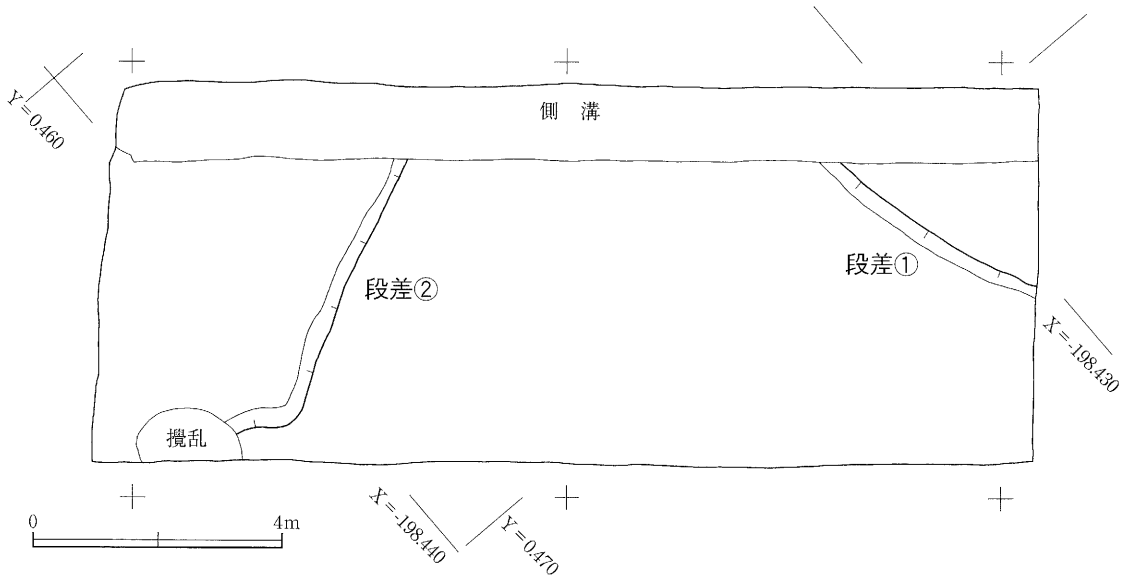
以上のように、調査区内においては現代の水田作土より下30～40cm程度までが水田耕作などにより人為的に攪拌された可能性のある層で、それより下層は段丘形成後に本流、あるいは小河川により堆積した砂や小礫を主体とした自然堆積物であることがわかった。

５．発見遺構と出土遺物

（１）Ⅱ層水田跡

Ⅱ層上面において畦畔などは検出されなかったが、Ⅱ層を除去したところ、下層上面において２つの段差により３つの平坦面が形成されているのが確認された。これは本来Ⅱ層上面にあった畦畔直下に形成された段差と考えられる。段差①は東偏70°で、多少弧状ではあるが、ほぼ東西方向の段で、標高の高い北側と中央を区画している。段差はやや急な立ち上がりで、高さは12cm程度ある。段差②は西偏25°とやや偏る南北方向の段差ではあるが、段差①とは直角関係をもつものとみられ、これにより中央と標高の低い西側を区画している。立ち上がりは緩やかで、段差①に比べやや高い。北側と西側の面との比高差は約35cmである。

各々の面の状況は断面からもわかるようにⅡ層下面の起伏が著しいことから凹凸があり、また２つの段差下側には幅をもってⅡ層が落込む傾向が見られる。さらに段差②の上側際の一部に基本層Ⅳ層が他に比べやや多く残存する部分が認められたが、これについてはかつての畦畔直下に位置することから、擬似畦畔状に残存したものの可能性がある。現在の水田区画との関係をみると、段差②は南側に隣接する南北方向の現在の畦畔のほぼ延長方向に位置しており、Ⅱ層による段差と現在の畦畔との関係が問われるところである。Ⅱ層中からの遺物の出土は無かった。



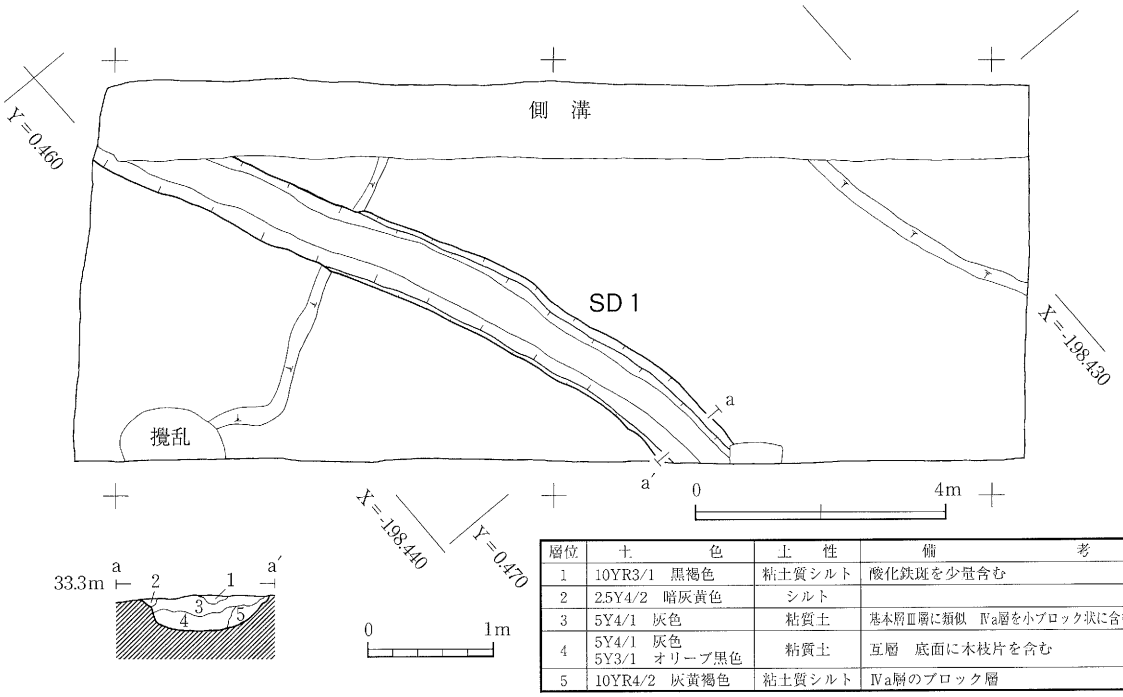
第５図　Ⅱ層水田跡（段差）

（２）Ⅳ層上面

SD１　溝跡

調査区を縦断する形で検出された。確認長は11mである。溝方向は真北より東へ65°偏っており、東端部ではやや南に曲がっている。幅は１m前後で一定しており、深さは30cm程度である。底面は緩やかな舟底状で、壁面下半

はやや急であるのが、途中稜線を境に上端部分は緩やかに立ち上がっている。堆積土は５層確認されたが、大部分を占めるのは３・４層である。３層は灰色粘質土で、基本層Ⅲ層に類似することから、溝跡はⅢ層堆積後に掘り込まれ、堆積土３層は水田作土の可能性のあるⅢ層が崩れ、溝内に流入したものと考えられる。Ⅲ層の遺存状況が良ければ、Ⅲ層上面で確認される溝跡であったと考えられる。またⅣ層は粘質土の互層で、底面近くには幾つかの木枝が見られた。これらの状況からみて、溝跡は水利のためのものと考えられ、畦畔などの検出は無かったが、Ⅲ層による水田に伴った水路跡であったと考えられる。溝跡内からの遺物の出土は無かった。



層位	土　色	土　性	備　考
1	10YR3/1　黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄斑を少量含む
2	2.5Y4/2　暗灰黄色	シルト	
3	5Y4/1　灰色	粘質土	基本層Ⅲ層に類似　Ⅳa層を小ブロック状に含む
4	5Y4/1　灰色 5Y3/1　オリーブ黒色	粘質土	互層　底面に木枝片を含む
5	10YR4/2　灰黄褐色	粘土質シルト	Ⅳa層のブロック層

第６図　SD1　溝跡

（３）Ⅴa層水田跡

Ⅴa層上面での精査では不明瞭であったが、Ⅴa層を多少掘り下げたところ、下層のⅥb層が帯状に延びるのが確認された。後述のプラントオパール分析の結果を参考にすると、Ⅵb層は水田作土として可能性が低いことから、この畦畔状遺構はⅤa層水田によるⅥ層での擬似畦畔であるものと考えられる。

［耕作土の状況］

耕作土はⅤa層で、黒褐色の粘土質シルトである。一部に灰白色火山灰をブロック状に含み、下面には起伏が見られる。層厚は西側ではⅡ層により失われているが、北側、中央では厚いところでも８cm程度で、やはりⅣ層による攪拌で失われている箇所がある。層上にはⅡ・Ⅲ・Ⅳ層が堆積し、水田耕作土とみられるこれらの層により、上面は下面同様起伏が著しい。

［畦畔の状況］

上層のⅡ層が耕作土のため、Ⅴa層上面に僅かにみられた高低差についてはⅡ層による擬似畦畔Bである可能性があることから、水田跡との認定はⅥb層上面が畦畔状に高まる擬似畦畔として確認した。またⅥ層は畦畔を含め、それより西側のⅥb層と東側のⅥa層に分層したが、これについてはⅥa層以上の層が何かしら下層へ影響したものと考えられる。さらにⅦ層においても上面が僅かに高まることが確認されたが、一部のみで、この層は自然堆積層であり、Ⅵb層のプラントオパール分析結果から見ると、自然の起伏であったものと見られる。

畦畔状プランは真北より西に23°偏り、Ⅱ層による段差とほぼ平行関係にあり、おおむね南北方向のものと見られる。高まりは上端幅35～50cm、下端幅55～70cm、高さは５cm程度のものであるが、本来の畦畔はより幅と高さを

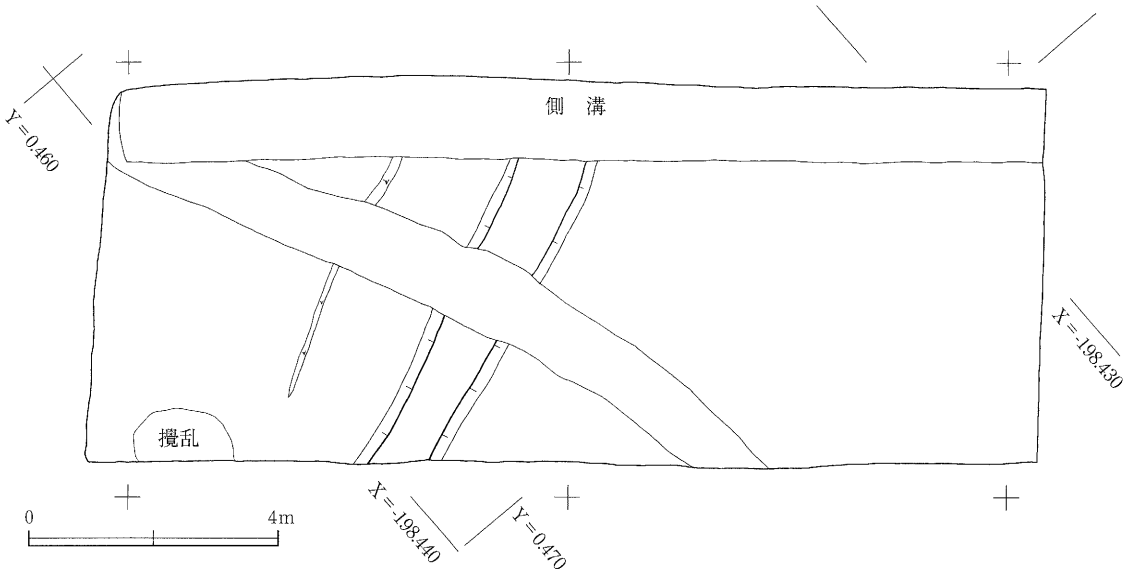
もっていたと考えられる。高まりは東側については断面からみてもわりと明瞭であるのに対し、西側は不明瞭である。プランの方向性からみて、Ⅱ層水田に伴う畦畔についてはこのⅤa層水田跡の畦畔を意識した上で配置されたものと考えられる。

［面の状況］

耕作土下面にあたるⅥ層上面の状況をみると、畦畔より東側は全体に平坦面であるが、畦畔近くがやや低くなる傾向があり、これは畦畔土の積み上げに関係するものとみられる。西側については多くがⅡ層により失われることから不明である。

［出土遺物］

Ⅴa層中からの遺物の出土は無かった。

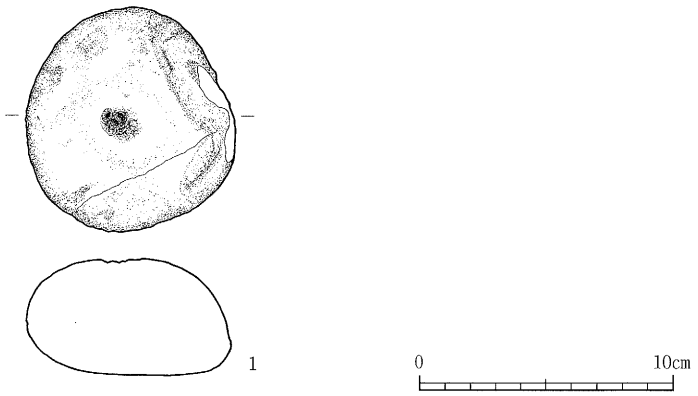


第７図　Ⅴa層水田跡（擬似畦畔）

（４）その他

Ⅲ層とⅣ層は層の状況やプラントオパール分析の結果からみて、水田耕作土の可能性が考えられる層である。今回の調査ではこれらの層がⅡ層により攪拌される度合いが大きかったことから、SD１以外に水田跡と認定し得る遺構の検出は無かったが、Ⅱ層による段差②とⅤa層水田跡による擬似畦畔の位置関係から見て、その間に挟まれるⅢ・Ⅳ層段階においてもほぼ同様の位置に畦畔が存在していた可能性がある。

出土遺物としてはⅣ層中より須恵器片が１点、Ⅵ層中より熱を受けた凹石が１点出土したのみである。



図版番号	登録番号	出土地区	出土層位	種　別	器種	長さ×幅×厚さ（mm）	重量（g）	備　　考	写真図版番号
8－1	kc 1		Ⅵ	礫石器	凹石	91×83×47	432	凹み：１面に１か所	2－7

第８図　出土遺物

６．まとめ

（１）　今回の調査区は遺跡の最西端に位置し、第４次調査１区の南西側にあたる。現在の水田面の標高は約33.3ｍである。

（２）　検出した遺構としては、Ⅱ層水田跡に伴う段差跡２列、Ⅳ層上面検出の溝跡１条、Ⅴ層水田跡の擬似畦畔１条がある。この他Ⅲ層及びⅣ層についても水田作土の可能性が高く、SD１はⅢ層水田跡に伴った水路跡と考えられる。

・Ⅱ層水田跡では区画整理前の現水田作土であるⅠ層により層上面が削平されていることから、かつて存在した区画は段差により知るのみである。かつての地形図において調査区南側には段差②のラインにおおよそ一致する区画整理前の畦畔が確認できるが、これらが関連するものかは不明である。Ⅱ層は層厚があることからこの周辺に広く残存しているものと推定され、遺物が無いことから時期は不明である。第４次調査では灰白色火山灰を全く含まず、層順からみてⅡa層とⅡc層が本調査のⅡ及びⅢ層に対応する可能性もあるが、４次調査での両層の間には細砂層が介在するのに対し、そのような層は確認されなかったのに加え、色調にも違いがみられることから、これらが同一のものかは特定しかねる。

・水田作土とみられるⅣ及びⅤ層中には一部に灰白色火山灰がブロック状に混入している。第４次調査１区ではⅣ層水田跡の上部に火山灰が乗り、後にこの畦畔を踏襲した形でⅢa層畦畔やⅢb層水田が作られている。これらの畦畔はほぼ東西及び南北方向に合ったものであるのに対し、本調査のⅤa層のものはやや西偏し、またいずれとも色調が異なっている。

本調査のⅣ・Ⅴ層の時期については火山灰の降下した平安時代かそれ以降のものであることは４次調査Ⅲa・Ⅲb層と同様である。しかしながら、遺物による検証がほとんどできないのに加え、本調査区においては基本的に土砂の堆積が少ない地区であることから、下層への攪拌や削平が著しく、火山灰の混入の程度のみでさらに時期を限定することは難しいものと考える。

（３）　本遺跡の条里型土地割は遺跡の東部でわりと認識できるのに対し、西部では不明瞭となり、そこには北西方向から流れ込む小河川による土砂の堆積が関係するとの指摘がある。そんな中でも６次調査区は砂礫など河川堆積物の供給の少ない地区にあり、同一層を繰り返し耕作したとみられるにもかかわらず、数枚の水田耕作土が確認されている。各水田跡の区画上には区画整理前の畦畔は位置していなかったが、古代の可能性も考えられるⅤ層水田跡との関係からみて、かつての条里型土地割はⅡ層水田段階まではその形態の一部を残していた可能性もあったといえる。

参考文献

渡部弘美　1993：「山田条里遺構」『仙台平野の遺跡群ⅩⅡ　平成４年度発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第170集　仙台市教育委員会

主浜光朗　1999：「山田条里遺跡―第２次・第３次調査」『陸奥国分尼寺跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第238集　仙台市教育委員会

平間亮輔　2000：「山田条里遺跡―第４次・第５次調査」『五本松窯跡ほか発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第247集　仙台市教育委員会

写真１　山田条里遺跡空中写真（1956年撮影　約1/10,000）白丸は調査地点

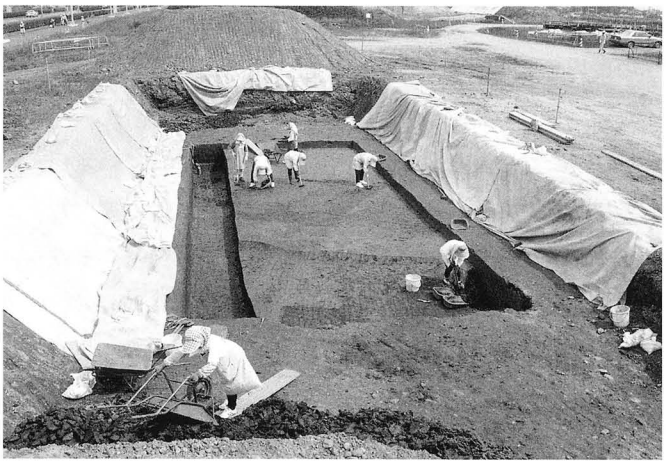


写真２　SDI検出状況

写真３　SDI完掘状況（南西より）

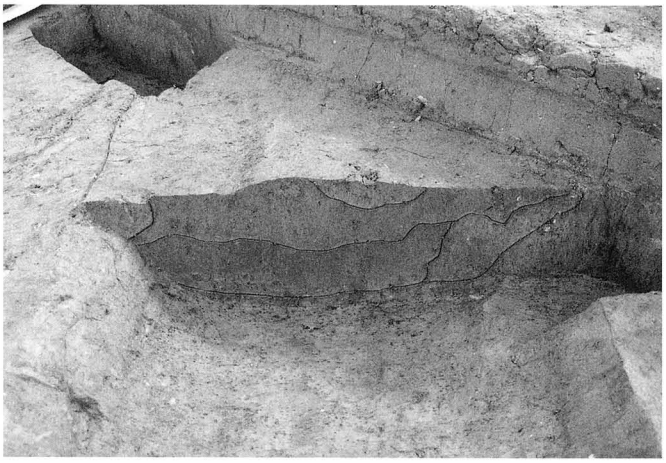


写真４　SDI断面状況（西より）

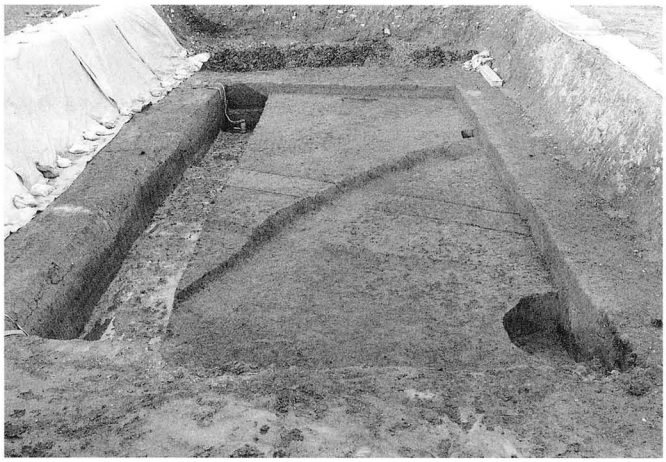


写真５　Ｖa層水田跡確認状況（南西より）

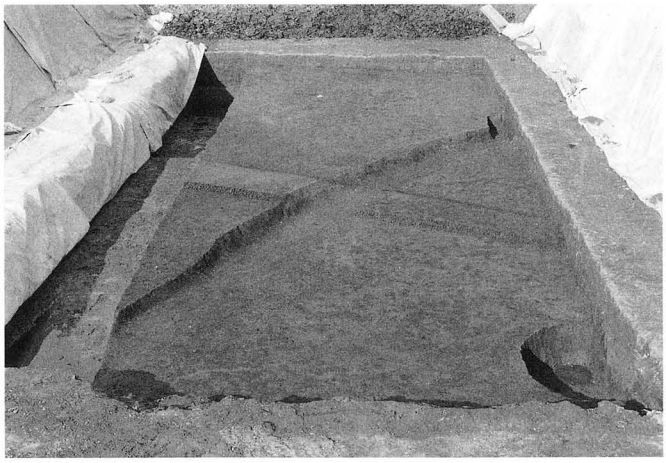


写真６　Ⅴa層水田跡検出状況（南西より）

写真７　Ⅴa層水田跡検出状況（南より）

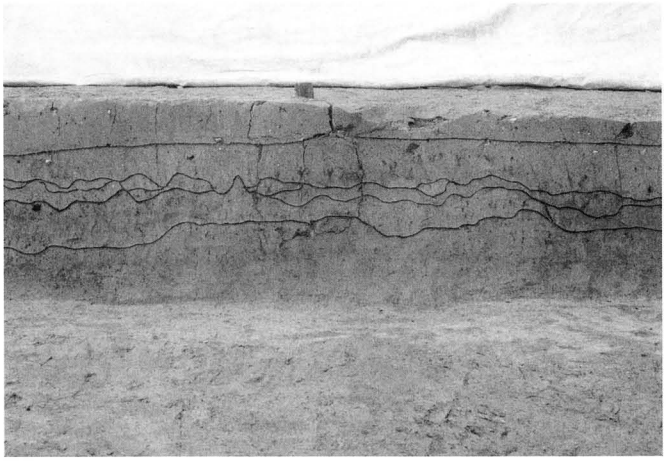


写真８　北西壁断面状況（南東より）

写真９　北西壁断面状況（南より）

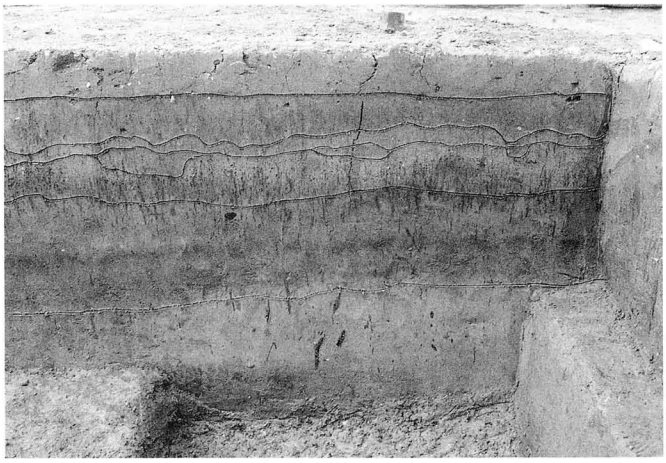


写真10　北西壁断面状況（南東より）

写真11　凹石（Ⅵ層）

７．プラント・オパール分析

仙台市、山田条里遺跡第６次調査におけるプラント・オパール分析

株式会社　古環境研究所

（１）はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

さて、山田条里遺跡第６次調査の発掘調査では、複数の層で畦畔状あるいは擬似畦畔とみられる高まりが認められた。そこで、プラント・オパール分析を行いこれらの層における稲作の可能性について検討を行うことになった。

（２）試料

試料採取地点は、ＡポイントとＢポイントの２地点である。分析試料は、Ａポイントでは上位よりⅡ層（オリーブ黒色粘性シルト）、Ⅵb層（オリーブ黒色粘質土）の２点、Ｂポイントでは上位よりⅢ層（黒褐色粘質土）、Ⅳ層（灰黄褐色シルト）、Ⅴa層（黒褐色粘性シルト）、Ⅵa層（褐色砂質シルト）、Ⅶ層（灰色粘性シルト）の５点の計７点である。なお、Ⅳ層上面では溝跡、Ⅵa層では畦畔状の高まりが認められている。

（３）分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
２）試料約１ｇに直径約40μｍのガラスビーズを約0.02ｇ添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
５）沈底法による20μｍ以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中のプラント・オパール個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10^{-5}g）を乗じて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

（４）分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、タケ亜科（ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類等である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第１表および第９図に示した。

（５）考察

①稲作およびその他の農耕の可能性

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行うにあたっては、通常、イネのプラント・オパールが試料１ｇあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合にそこで稲作の行われていた可能性が高いと判断している。ただし、仙台平野ではこれまでの調査において密度が3,000個/g程度でも水田遺構が複数検出されていることから、ここでは基準値を3,000個/gとした。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくいことから、密度が基準値に達していない場合であっても稲作跡である可能性が考えられる。これらのことを基準として稲作の可能性について検討を行う。

イネが検出されたのは、上位よりⅡ層、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴａ層の各層である。これらはいずれも溝跡や段差、畦畔状の高まりが検出されていた層である。したがって、これらの層において稲作の行われていた可能性が高いと考えられる。また、このことからⅣ層上面で検出された溝跡は水田に伴う水路であった可能性が高い。なお、プラント・オパール密度は、それぞれ2,900個/g、1,300個/g、2,000個/g、2,200個/gとやや低い値である。プラント・オパール密度の低いことの要因については、１）稲作の行われていた期間が短かった、２）稲藁の多くが水田の外に持ち出されていた、３）土層の堆積速度が速かった、４）稲の生産性が低かった、などがあげられるがここでの要因がどれに該当するのかは不明である。

イネ以外では、Ⅲ層、Ⅳ層およびⅥb層でヒエ属型が検出されている。ヒエ属には栽培種と野生種が含まれるが、現時点では両者を識別できるまでには至っていない（杉山ほか，1988）。Ⅲ層とⅣ層については、プラント・オパール密度が1,000個/g未満と低いこと、両層が水田耕作層であったとみられることなどから、水田雑草のイヌビエである可能性が高い。Ⅵｂ層では密度が2,100個/gとやや高い値である。本層ではイネのプラント・オパールは検出されていないが、層の下面に乱れがあることから、あるいはヒエの栽培が行われていた可能性も考えられる。

②プラント・オパール分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の出現状況ならびにおもな分類群の推定生産量（第１表の下部）をみてみると、Ⅵa層、Ⅵb層およびⅦ層でヨシ属が優勢であり、とくにⅥb層とⅦ層では卓越する。このことから、これらの層の堆積時は調査区一帯は湿地あるいはそれに近い環境であったと推定される。その他では各層でネザサ節型とクマザサ属型が検出されている。また、Ⅵa層を除く各層でススキ属型が検出されている。したがって、各層とも調査地周辺にはネザサ節やクマザサ属が生育しており、Ⅵa層以外の層ではススキ属も生育していたと推定される。

（６）まとめ

山田条里遺跡第６次調査においてプラント・オパール分析を行った。その結果、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴa層が過去の水田耕作層であった可能性が認められた。そしてⅣ層上面で検出された溝跡は水路であった可能性が高いと判断された。また、Ⅵb層においてはヒエの栽培が行われていた可能性が考えられた。なお、Ⅵa層、Ⅵb層およびⅦ層堆積時は調査区は湿地あるいは湿地的環境であったと推定された。

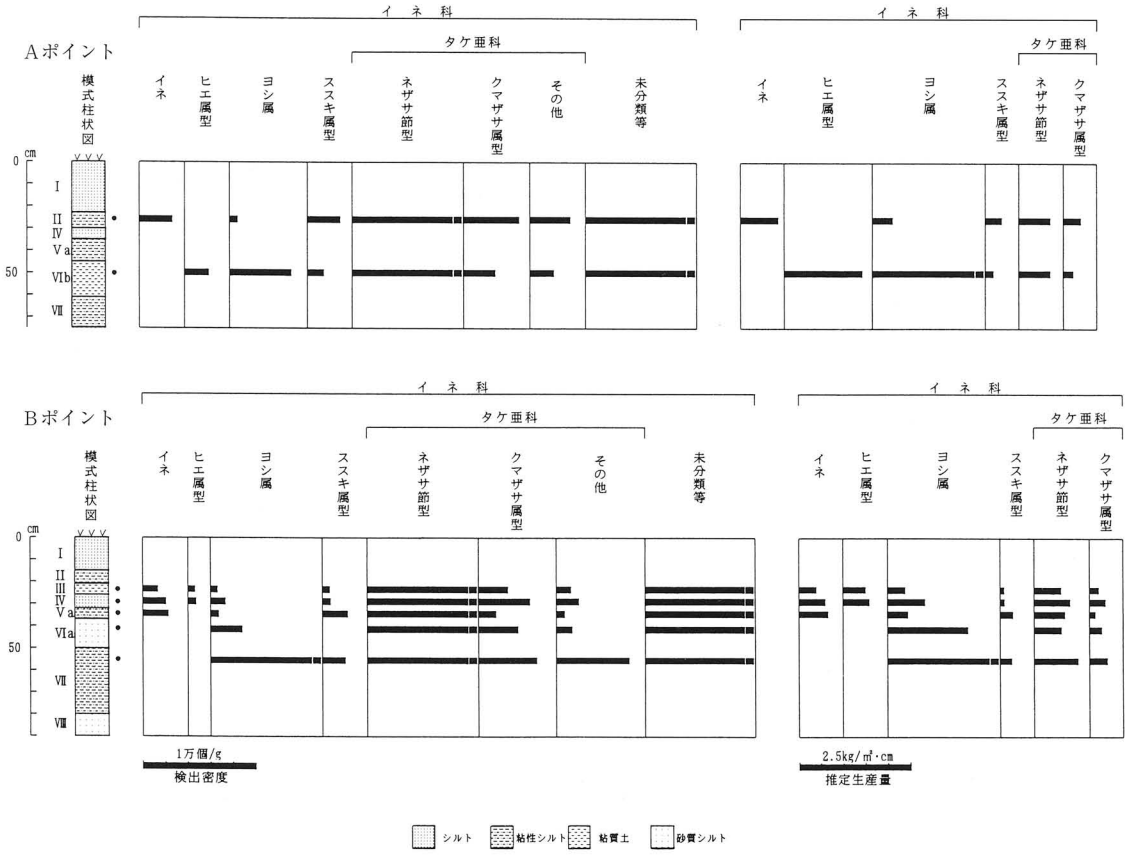
検出密度（単位：×100個／ｇ）

分類群（和名・学名）＼試料		Aポイント		Bポイント				
		Ⅱ	Ⅵb	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴa	Ⅵa	Ⅶ
イネ科	Gramineae（Grasses）							
イ　ネ	Oryza sativa（domestic rice）	29		13	20	22		
ヒエ属型	Echinochloa type		21	6	7			
ヨシ属	Phragmites（reed）	7	55	6	13	7	28	111
ススキ属型	Miscanthus type	29	14	6	7	22		20
タケ亜科	Bambusoideae（Bamboo）							
ネザサ節型	Pleioblastus sect Nezasa type	144	145	123	166	141	125	202
クマザサ属型	Sasa（except Miyakozasa）type	50	28	26	46	15	35	52
その他	Others	36	21	13	20	7	14	65
未分類等	Unknown	815	538	422	531	556	500	784
プラント・オパール総数		1111	821	616	810	770	702	1234

おもな分類群の推定生産量（単位：kg／㎡・cm）

イ　ネ	Oryza sativa（domestic rice）	0.85		0.38	0.59	0.65		
ヒエ属型	Echinochloa type		1.74	0.55	0.56			
ヨシ属	Phragmites（reed）	0.46	3.48	0.41	0.84	0.47	1.75	7.01
ススキ属型	Miscanthus type	0.36	0.17	0.08	0.08	0.28		0.24
ネザサ節型	Pleioblastus sect Nezasa type	0.69	0.70	0.59	0.80	0.68	0.60	0.97
クマザサ属型	Sasa（except Miyakozasa）type	0.38	0.21	0.19	0.35	0.11	0.26	0.39

第１表　プラント・オパール分析結果



第９図　プラント・オパール分析結果

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－．考古学と自然科学，20，p.81-92.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（１）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析　法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（５）－プラント・オパール分析による水　田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

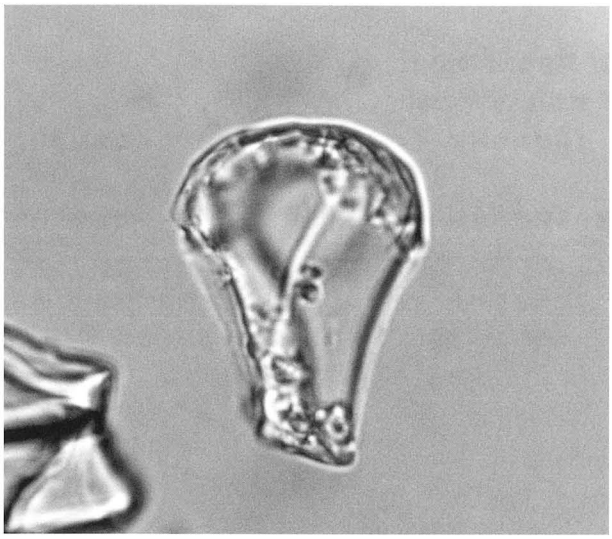


写真12　イネ　Ｂポイント　Ⅴa層

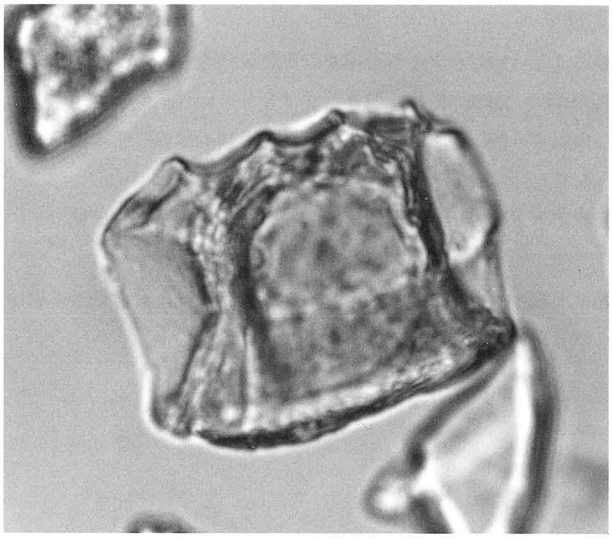


写真13　ヒエ属型　Ａポイント　Ⅵb層

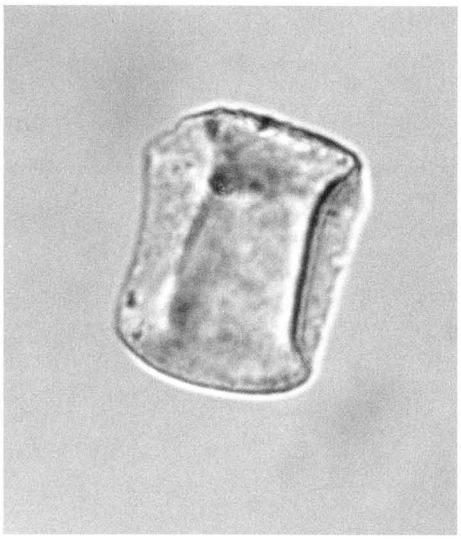


写真14　ススキ属型　Ｂポイント　Ⅴa層

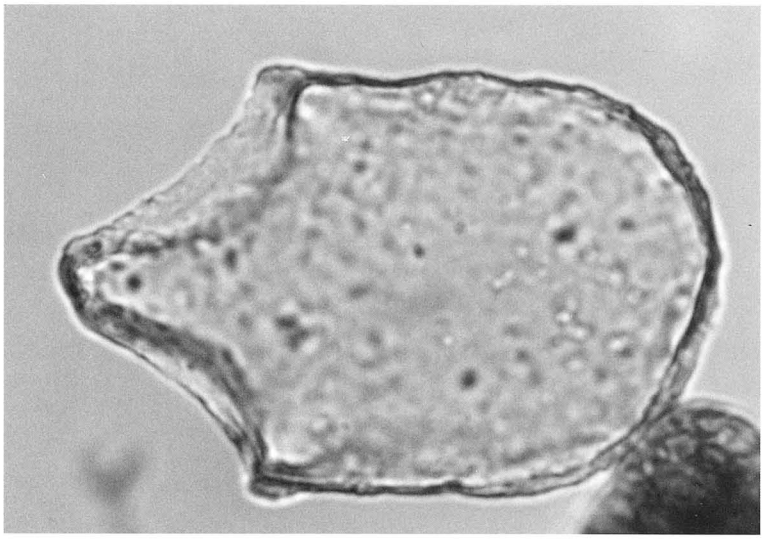


写真15　ヨシ属　Ａポイント　Ⅶ層

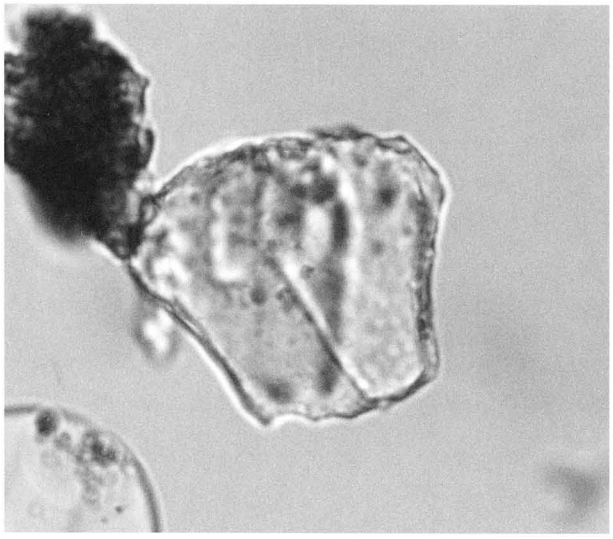


写真16　タケ亜科（ネザサ節属）　Ａポイント　Ⅱ層

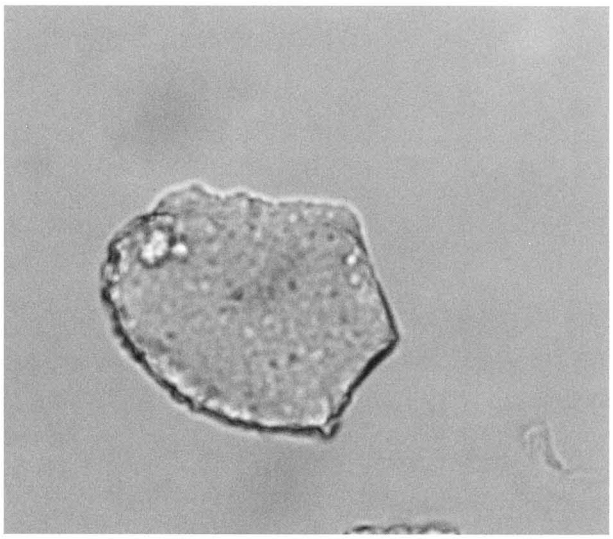


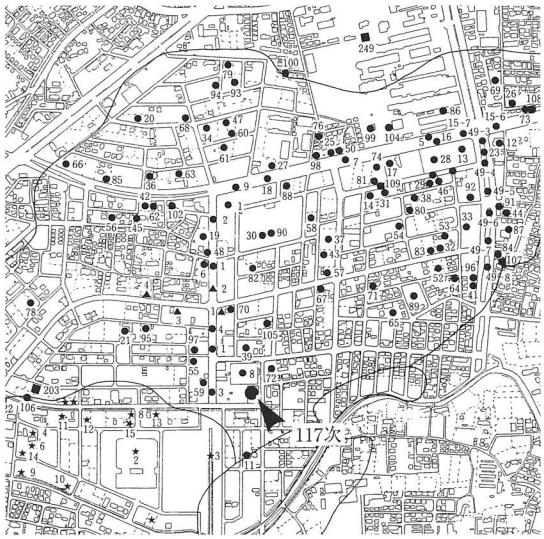
写真17　タケ亜科（クマザサ属型）　Ａポイント　Ⅱ層

プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真

Ⅵ　富沢遺跡（第117次調査）

1．調査要項

遺　跡　名　富沢遺跡（宮城県遺跡番号01369）
調　査　地　仙台市太白区長町南４丁目20番２号
調査原因　東北療護センター増築工事
調査対象面積　720㎡
調査面積　99㎡
調査期間　平成12年９月４日～平成12年９月13日
調査主体　仙台市教育委員会
調査担当　仙台市教育委員会文化財課
担当職員　吉岡恭平
調査参加者　青山諒子　小田島祥子　玉上なみ子　橋本房子
申　請　者　自動車事故対策センター理事長　岩田貞男



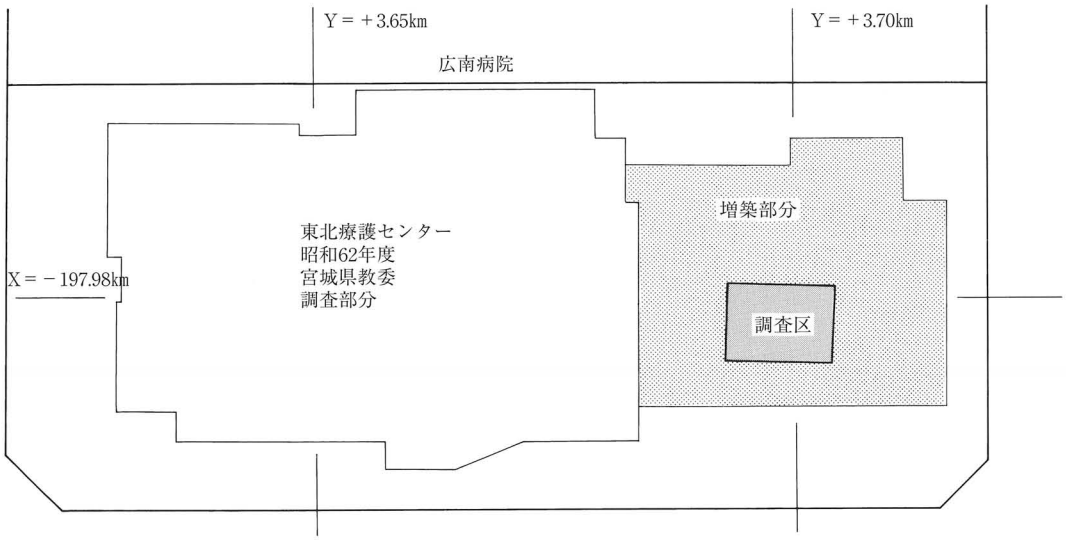
第１図　調査地点

2．遺跡の位置と環境

富沢遺跡は仙台市の南東部に位置し、名取川と広瀬川に挟まれた沖積地（郡山低地）の西側にあり、北西を丘陵（青葉山丘陵）、他を自然堤防で囲まれた後背湿地を中心に立地している。弥生時代から近世までの各時代の水田跡が重層して検出されている他、後期旧石器時代の焚き火跡等の生活跡とそれをとりまく樹木群などが発見されている。今回の調査区は広南病院と東北療護センターの敷地内にあるが、広南病院は昭和59年度に仙台市教育委員会が富沢遺跡第8次調査として、後者は今回の約15m西隣で宮城県教育委員会が昭和62年度に調査を実施している。

3．調査の方法と経過

東北療護センターの増築が計画され、自動車事故対策センターと仙台市で協議が開始された。予定地内には以前パイル打ちの農協施設があったため、そこを除外した場所を対象として発掘調査を実施することで協議が成立した。届出は平成12年7月4日に提出されている。調査区は上面で９×11mに設定したが、２m近く盛土があることから、旧表土上面で４×６mと縮小せざるを得ず、断面観察中心の調査となった。なお、北壁、西壁で土壌を採取し、プラント・オパール分析を行っている。



第２図　調査区位置図（1/800）

4．基本層序

区画整理及び病院等建築の際の盛土が約２ｍあり、その下に旧表土の水田耕作土（１層）がある。１層以下確認された層は13層で、１～３層が明るい黒褐色～黄灰色の砂質シルト、４・５層が灰色～黒色の粘土、６～11層が黒褐色系の泥炭質粘土、12層が灰色のグライ化、砂質化したシルトとなる。各層ともほぼ水平堆積で、厚さは４層が20～40cmと厚くなるほかは10～20cm程度である。

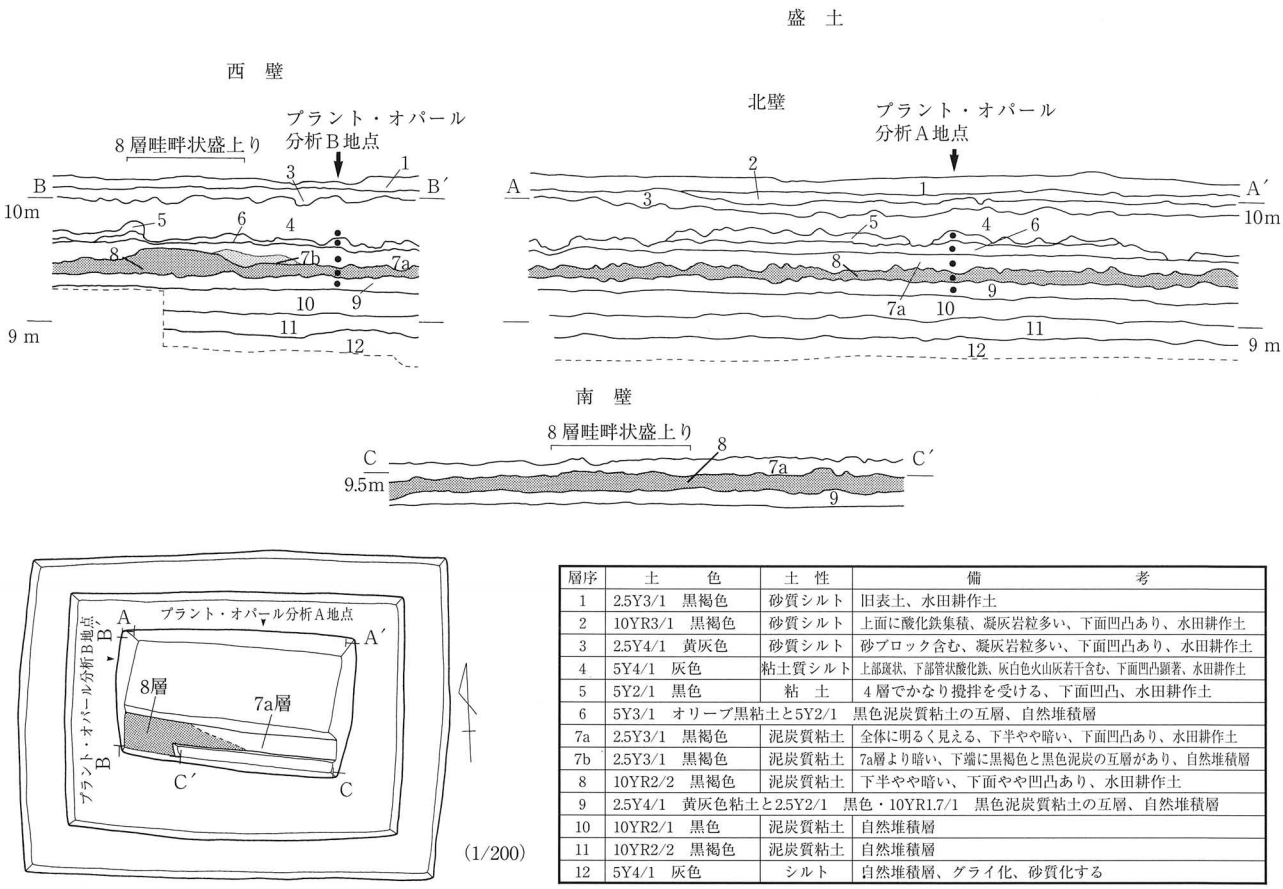
5．調査成果

２、３、４、５、7a、８層は、層の下面に凹凸があり、層の下部には直下の層を起源とするブロックが分布する、という水田耕作土に一般的な特徴が認められることから、水田耕作土と考えられた。６、7b、９～12層は自然堆積層である。ここでは古代以前が想定される４層以下について述べる。

４層：灰色の粘土質シルトで、層厚が最大40cmと厚い。また下面の凹凸が著しく、５・６・７層にまで耕作の攪拌が及んでいる。畦畔状盛上り等は確認されていないがイネのプラント・オパールは検出されている。層中に灰白色火山灰（10世紀前葉降下）ブロックを若干含むことから、平安時代灰白火山灰以降の水田跡と考えられる。

５層：黒色粘土である。４層でかなり攪拌を受け残存状況が悪いが層相から水田耕作土と考えられた。しかし畦畔状盛上り等、及びイネのプラント・オパールは検出されていない。

7a層：黒褐色（2.5Y3/1）の泥炭質粘土層であるが上下の土色の関係で、下半部はやや暗いものの全体はかなり明るく見える。層厚は15cm前後で一定しており、かつ下面の凹凸がやや顕著で直下層の８層を巻き上げたブロックが多くみられる。断面で畦畔状盛上り等は確認されていないが、後述する８層の畦畔状盛上りの北側に自然堆積層



層序	土　色	土　性	備　考
1	2.5Y3/1　黒褐色	砂質シルト	旧表土、水田耕作土
2	10YR3/1　黒褐色	砂質シルト	上面に酸化鉄集積、凝灰岩粒多い、下面凹凸あり、水田耕作土
3	2.5Y4/1　黄灰色	砂質シルト	砂ブロック含む、凝灰岩粒多い、下面凹凸あり、水田耕作土
4	5Y4/1　灰色	粘土質シルト	上部斑状、下部管状酸化鉄、灰白色火山灰若干含む、下面凹凸顕著、水田耕作土
5	5Y2/1　黒色	粘　土	４層でかなり攪拌を受ける、下面凹凸、水田耕作土
6	5Y3/1　オリーブ黒粘土と5Y2/1　黒色泥炭質粘土の互層、自然堆積層		
7a	2.5Y3/1　黒褐色	泥炭質粘土	全体に明るく見える、下半やや暗い、下面凹凸あり、水田耕作土
7b	2.5Y3/1　黒褐色	泥炭質粘土	7a層より暗い、下端に黒褐色と黒色泥炭の互層があり、自然堆積層
8	10YR2/2　黒褐色	泥炭質粘土	下半やや暗い、下面やや凹凸あり、水田耕作土
9	2.5Y4/1　黄灰色粘土と2.5Y2/1　黒色・10YR1.7/1　黒色泥炭質粘土の互層、自然堆積層		
10	10YR2/1　黒色	泥炭質粘土	自然堆積層
11	10YR2/2　黒褐色	泥炭質粘土	自然堆積層
12	5Y4/1　灰色	シルト	自然堆積層、グライ化、砂質化する

第３図　平面図・断面図

の7b層が残存することから、7b層と８層の盛上りをあわせた部分は、7a層の耕作が及ばず残存した擬似畦畔Ｂの可能性が考えられる。イネのプラント・オパールがＡＢ両地点で検出されている。

８層：黒褐色の泥炭質粘土で下半部がやや黒くなる。西壁断面と南壁断面で畦畔状盛上りを確認した。西壁の畦畔状盛上りは明瞭で上幅60cm、下幅90cm、高さ10cmである。南壁は高さが低く、上幅60cm、下幅100cm、高さ４cmである。西壁の盛上りの北側肩部分に7b層が確認された。7b層は下端部に黒褐色と黒色の泥炭質粘土の互層を含む自然堆積層である。その7b層が盛上りの北側傾斜を覆うことから、西壁の盛上りは８層本来の所産と理解され、上層の耕作等により形成されたもの（擬似畦畔Ｂ）ではないと判断された。南壁際では部分的であるが、西壁と南壁の盛上りを結ぶ線上に7a層と８層の土色の違いを検出している。また、イネのプラント・オパールがＡＢ両地点で検出されている（Ｂ地点では高密度）。これらのことより、８層は水田跡の可能性が高く、西壁と南壁の８層の畦畔状盛上りは同一のもので、土色の違いは盛上りの北側のラインと理解され、この盛上りは８層水田跡に伴う畦畔の可能性が高いと考えられる。その方向は西北西―東南東である。

６．まとめ

層の特徴から、２、３、４、５、7a、８層が水田耕作土と考えられた。また、壁面で7b層と８層が形成する畦畔状の盛上りを検出し、一つは7a層の水田跡に伴う擬似畦畔Ｂ、他方は８層水田に伴う畦畔の可能性が考えられた。西に隣接する県教委の昭和62年度調査区（真山他1988）と主な層を対比させると下表のようになる。

上下の互層である自然堆積層や相対的な層の色調などから、今回の7a層が62年度の10層（以下62年度の層名には下線）、８層が12層と対応することはほぼ妥当と考えられる。7b層が11層に対応するかどうかは、7a層下半が11層に対応する可能性もあること（暗いという色調の共通性）から確定はできない。

62年度では10層と12層で畦畔状遺構が検出されている。８次調査（工藤哲1984）との対応から、10層が８次の８Ｂ層に対応し弥生時代中期、12層が８次の９層に対応しやや遡る中期と捉えられている。一方８次の９層水田跡についてはその可能性が低いことが指摘されている（斎野1987、佐藤甲1990）。

今回の7a層、８層と８次の８Ｂ層、９層との対応は、上下の層序関係や層相から7a層と８次の８Ｂ層は対応するが、８次の９層は黒味が強いため速断できず十分な検討が必要である。しかし、今回８層において擬似畦畔Ｂではないと考えられる畦畔状盛上りが確認され、かつイネのプラント・オパールが一定量検出されたことは、10層や８次の８Ｂ層の下位にあたる層準に、より古い水田跡の存在する可能性を示すデータが追加されたことになる。

参考文献

工藤哲司1984「富沢水田遺跡－病院建設に伴う泉崎前地区の調査報告書」仙台市文化財調査報告書第67集
斎野裕彦他1985「富沢―富沢遺跡第15次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第65集
佐藤甲二1991「富沢・泉崎浦・山口遺跡（３）」仙台市文化財調査報告書第152集
真山悟他1988「富沢遺跡　泉崎前地区」宮城県文化財調査報告書第129集

今回調査			昭和62年度調査		
層序	土色・土性	備考	層序	土色・土性	備考
4	灰色粘土質シルト	水田耕作土　火山灰含む	5	暗灰黄色シルト	水田跡　平安時代火山灰降下以後
5	黒色粘土	水田耕作土　残存悪い	6	黒褐色シルト	水田跡　平安時代火山灰降下以前
			7	黒褐色シルト	
6	オリーブ黒色 黒色粘土	自然堆積層、互層	8	暗灰黄色シルト	
			9	黒褐色シルト	
7a	黒褐色泥炭	水田耕作土　下半部暗い	10	オリーブ黒色シルト	水田跡　弥生時代中期
			11	オリーブ黒色シルト	10層より暗い
7b	黒褐色泥炭	下半に互層　7a層より暗い			
8	黒褐色泥炭	水田耕作土　断面で畦畔状盛上り	12	黒色シルト	水田跡　弥生時代中期
9	黄灰色粘土 黒色泥炭	自然堆積層、互層	13	黒色シルト	
			14	灰色・黒色シルト	互層
			15	黒褐色シルト	
			16	黒色シルト	

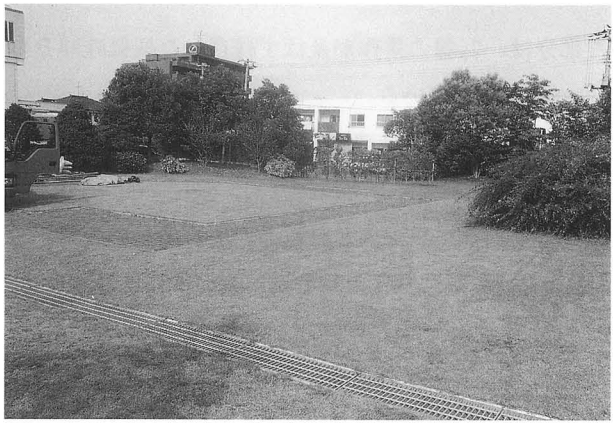


写真１　調査前風景（南西より）

写真２　調査区全景（南西より）

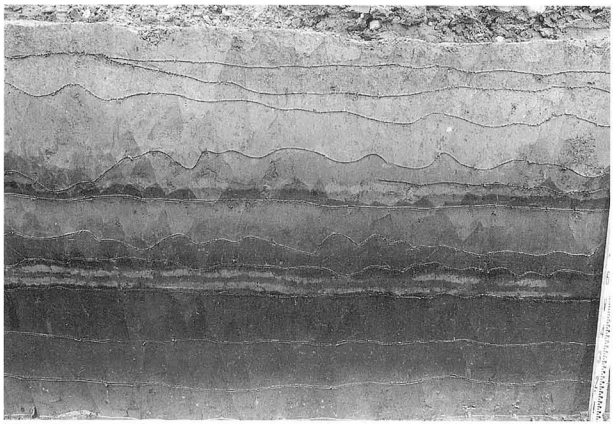


写真３　北壁断面（西半）

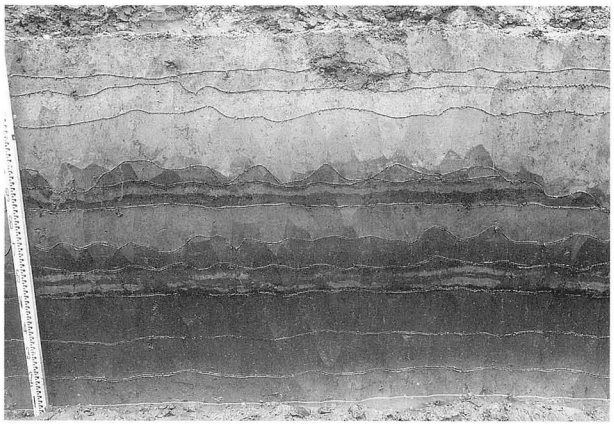


写真４　北壁断面（東半）

写真５　西壁断面（畦畔状盛上り部分）

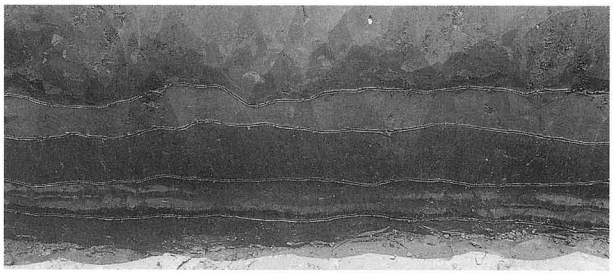


写真６　南壁断面（畦畔状盛上り部分）

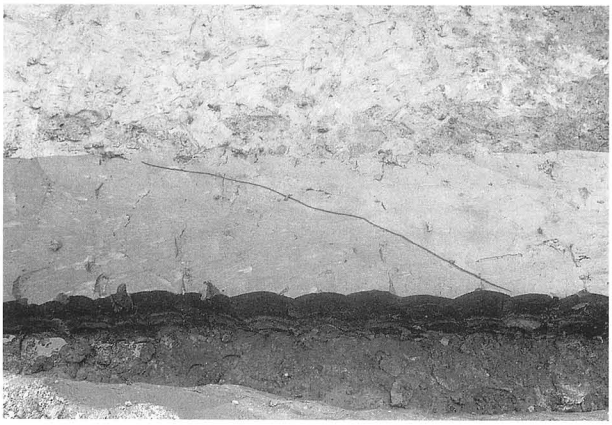


写真７　7a層と８層の土色の違い(7a層：白、８層：黒)

写真８　7a層と８層の土色の違い
（7a層：白、８層：黒）

７．プラント・オパール分析

仙台市、富沢遺跡第117次調査におけるプラント・オパール分析

株式会社　古環境研究所

（１）はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

富沢遺跡第117次調査の発掘調査では、複数の層で水田跡が検出された。そこで、プラント・オパール分析を行い、これらにおける稲作の検証とその他の層における稲作の可能性について検討を行うことになった。

（２）試料

調査地点は、Ａ地点とＢ地点の２地点である。分析試料は、Ａ地点では上位より５層（黒色粘土）、６層（オリーブ黒色粘土と泥炭質粘土の互層）、7a層（黒褐色泥炭質粘土）、８層（黒褐色泥炭質粘土）、９層（黄灰色粘土）の５点、Ｂ地点では上位より４層（灰色粘土質シルト）、６層（オリーブ黒色粘土と泥炭質粘土の互層）、7a層（黒褐色泥炭質粘土）、８層（黒褐色泥炭質粘土）、９層（黄灰色粘土）の５点の計10点である。このうち、発掘調査において水田跡が検出されていたのは４層、５層、7a層(編著註)である。

（３）分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

２）試料約１gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

５）沈底法による20μm以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中のプラント・オパール個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10－５g）を乗じて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。ヒエ属（ヒエ）の換算係数は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

（４）分析結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、シバ属、タケ亜科（ネザサ節型、クマザサ属型、その他）および未分類等である。これらの分類群について定量を行い、その結果を第１表および第４・５図に示した。

（5）考察

①稲作およびその他の農耕の可能性

水田跡の検証や探査を行う場合、通常、イネのプラント・オパールが試料１ｇあたりおよそ5,000個以上の密度で検出されれば、そこで稲作の行われていた可能性が高いと判断している。ただし、仙台平野ではこれまでの調査において密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは基準値を3,000個/gとした。また、当該層においてプラント・オパール密度にピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくいことから、密度が基準値に達していない場合であっても稲作跡である可能性が考えられる。これらのことを基準として稲作の可能性について検討を行う。

分析の結果、４層、7a層および８層よりイネのプラント・オパールが検出された。このうち、４層と7a層では水田跡が検出されていることから、両層において稲作が行われていたことが分析の上でも確認できる。また、８層でもイネのプラント・オパールが2,400～5,100個/gの高密度で検出されている。したがって、当該層においても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。一方、発掘調査では５層も水田跡とされているが、プラント・オパール分析ではイネは検出されていない。本層は上部に攪乱をうけたあとがあることから、耕作土が動いてしまった可能性が考えられる。

なお、４層と7a層では検出されたプラント・オパールの密度がやや低い傾向がある。これについては、１）稲作の行われていた期間が短かった、２）稲藁の多くが水田の外に持ち出されていた、３）土層の堆積速度が速かった、４）稲の生産性が低かった、などの要因があげられる。

②プラント・オパール分析から推定される植生と環境

イネ以外では、全体にタケ亜科（ネザサ節やクマザサ属）が優勢であるが、Ｂ地点の６層ではヨシ属が高い密度で検出されている。このことから、調査区は各時期とも比較的乾いた環境であったが、６層の堆積時期にはＢ地点周辺はやや湿った状況であったか、あるいは部分的にヨシが堆積した可能性が考えられる。なお、調査区周辺にはススキも生育していたようである。

（6）まとめ

富沢遺跡第117次調査においてプラント・オパール分析を行った。その結果、水田跡が検出されていた４層、7a層については、イネのプラント・オパールが検出されたことから、これらで稲作が行われていたことが分析的にも確認された。また、水田層の可能性が考えられていた８層では、イネのプラント・オパールが高い密度で検出され、水田耕作層であった可能性が高いと判断された。なお、水田跡の検出されていた５層からはイネのプラント・オパールが検出されなかった。これについては、後代に削平されるなりして耕作土が動かされてしまった可能性が示唆された。

（編者註）分析を依頼した段階では８層について水田跡かどうか検討中であったので、分析執文はそのまま掲載している。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社、p.189-213.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－．考古学と自然科学，20，p.81-92.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

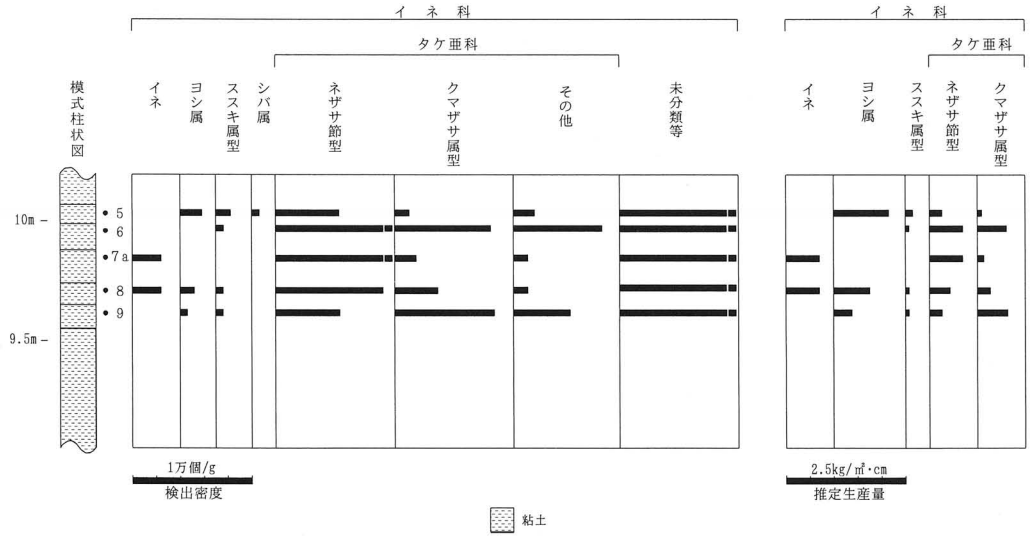
検出密度（単位：×100個/g）

分類群（和名・学名）＼試料		A地点 5	A地点 6	A地点 7a	A地点 8	A地点 9	B地点 4	B地点 6	B地点 7a	B地点 8	B地点 9
イネ科	Gramineae (Grasses)										
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)			24	24		25		12	51	
キビ族型	Paniceae type										8
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	18			12	6	15	48	6		15
ススキ属型	*Miscanthus* type	12	6		6	6	15	12	18	13	8
シバ属	*Zoisia*	6									
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	53	144	145	90	54	95	48	116	76	45
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	12	81	18	36	84	115	24	31	19	114
その他	Others	18	75	12	12	48	75	24	6	19	30
未分類等	Unknown	285	537	265	284	299	595	364	251	290	318
プラント・オパール総数		404	842	464	464	496	935	519	441	467	538

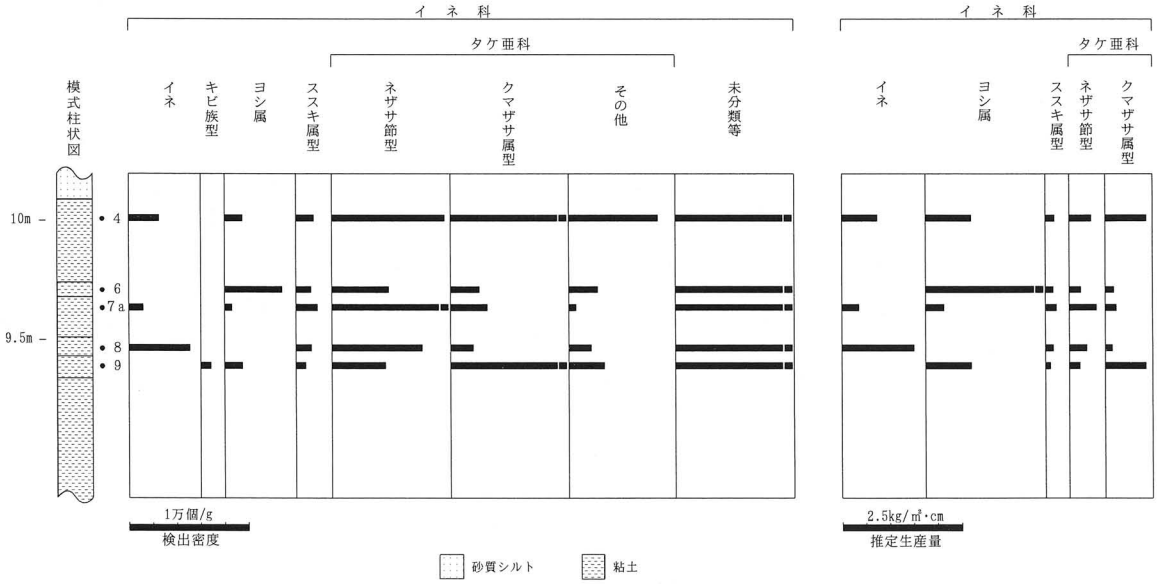
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)			0.71	0.71		0.74		0.36	1.49	
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	1.12			0.76	0.38	0.95	3.01	0.39		0.96
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.15	0.07		0.07	0.07	0.19	0.15	0.23	0.16	0.09
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	0.26	0.69	0.69	0.43	0.26	0.46	0.23	0.56	0.36	0.22
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	0.09	0.61	0.14	0.27	0.63	0.86	0.18	0.23	0.14	0.85

第１表　仙台市、富沢遺跡第117次調査のプラント・オパール分析結果



第４図　Ａ地点におけるプラント・オパールの分析結果



第５図　Ｂ地点におけるプラント・オパール分析結果

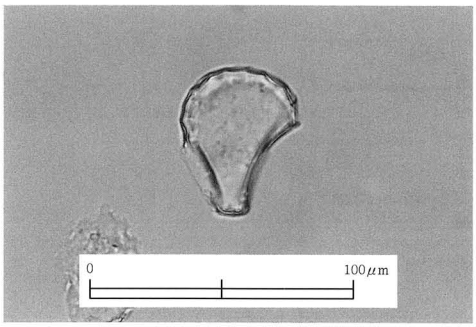


写真９　イネ　Ａ地点7a層

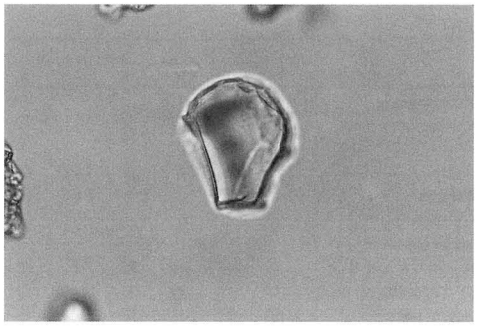


写真10　イネ　Ｂ地点7a層

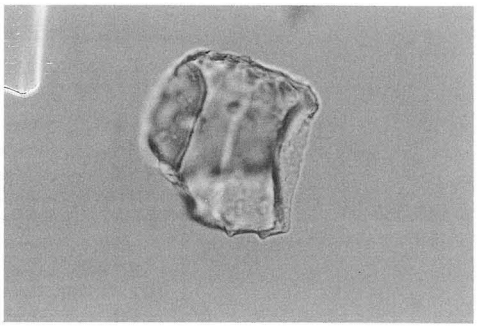


写真11　イネ　Ｂ地点８層

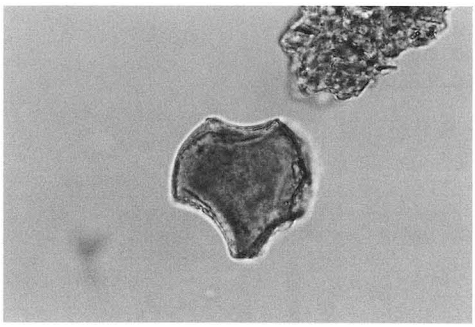


写真12　シバ属　Ａ地点　５層

写真13　ウシクサ族（ススキ属）
Ｂ地点7a層

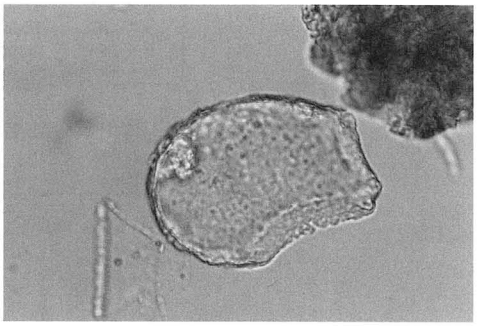


写真14　ヨシ属　Ａ地点５層

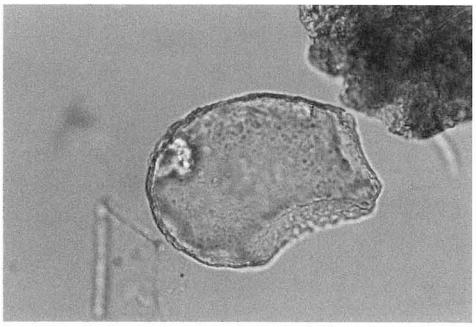


写真15　ヨシ属　Ｂ地点６層

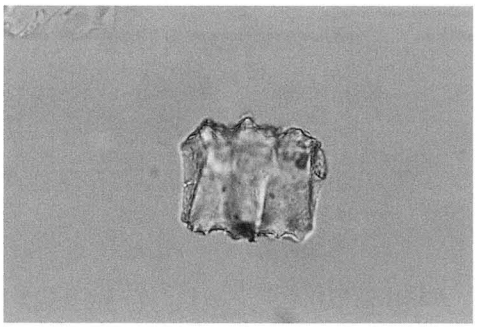


写真16　タケ亜科（ネザサ節型）
Ａ地点7a層

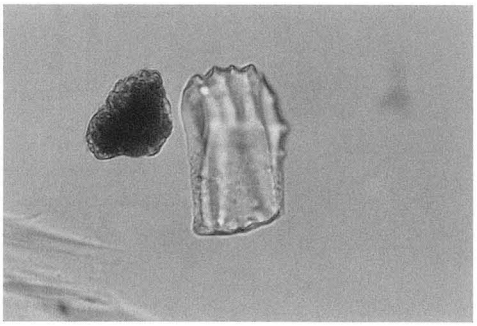


写真17　タケ亜科（ネザサ節型）
Ｂ地点４層

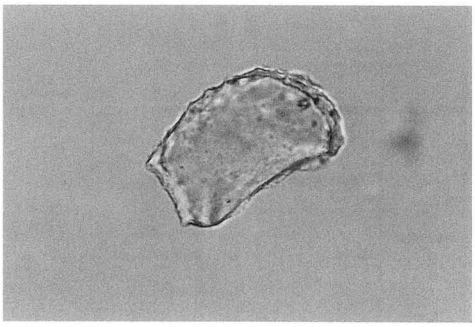


写真18　タケ亜科（クマザサ属型）
Ｂ地点４層

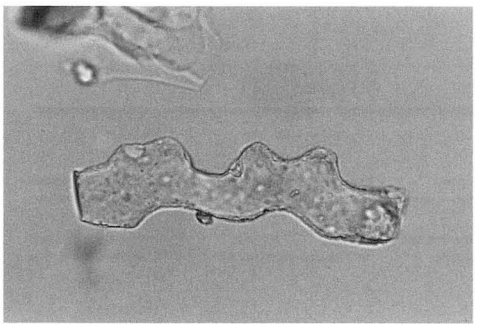


写真19　不明　Ａ地点６層

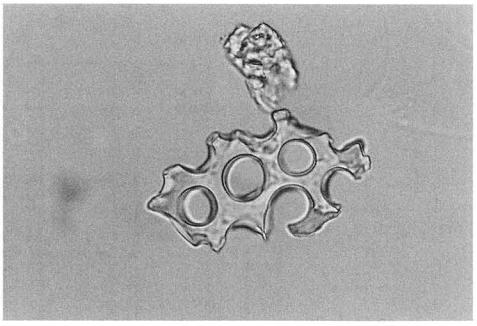


写真20　不明　Ａ地点９層

プラント・オパール（植物珪酸体）の顕微鏡写真

報告書抄録

ふりがな	やぎやまみどりちょういせきほかはっくつちょうさほうこくしょ
書名	八木山緑町遺跡ほか発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第253集
編著者名	吉岡恭平・渡部弘美・主浜光朗・工藤信一郎・平間亮輔・佐藤　淳・村上秀樹
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980－8671　仙台市青葉区国分町三丁目7-1　TEL022-214-8893・8894
発行年月日	2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名		ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
やぎやまみどりちょう 八木山緑町遺跡	第1次	せんだいしたいはくくやぎやま 仙台市太白区八木山 みどりちょう 緑町21－3	04100	01317	38°14′13″	140°52′09″	1995.08.28 ～1995.10.31	700㎡	宅地造成
	第2次	〃	〃	〃	〃	〃	1999.11.02 ～1999.11.09	150㎡	共同住宅建設
洞ノ口遺跡	第3次	せんだいしみやぎのくいわきり 仙台市宮城野区岩切 あざあおつめ 字青津目・分台外他	04100	01372	38°18′10″	140°57′39″	1999.10.04 ～2000.01.24 2000.04.17 ～2000.11.17	2,435㎡	土地区画整理事業
	第6次	せんだいしみやぎのくどうのくち 仙台市宮城野区洞ノ口 103	〃	〃	38°18′00″	140°57′30″	2000.08.24 ～2000.08.30	26㎡	個人住宅建設
みなみこいずみいせき 南小泉遺跡	第33次	せんだいしわかばやしくみなみこいずみ 仙台市若林区南小泉 二丁目	04100	01021	38°14′21″	140°54′35″	2000.10.23 ～2000.10.27	60㎡	個人住宅建設
	第34次	せんだいしわかばやしくとおみづか 仙台市若林区遠見塚 一丁目	〃	〃	38°14′11″	140°54′52″	2000.11.06 ～2000.11.15	123㎡	共同住宅建設
おおはらいちりづか 大原一里塚		せんだいしたいはくくあきうまち 仙台市太白区秋保町 ながふくろあざしみずくぼ 長袋字清水久保	04100	16056	38°15′30″	140°40′05″	2000.07.03 ～2000.07.05	44㎡	道路改良工事
やまだじょうりいせき 山田条里遺跡 第6次調査		せんだいしたいはくくやまだあざ 仙台市太白区山田字 たなかまえ 田中前53-1	04100	01367	38°12′44″	140°50′20″	2000.09.13 ～2000.10.02	100㎡	ガソリンスタンド建設
とみざわいせき 富沢遺跡 第117次調査		せんだいしたいはくくながまちみなみ 仙台市太白区長町南 四丁目	04100	01369	38°12′58″	140°52′30″	2000.09.04 ～2000.09.13	99㎡	医療施設増築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八木山緑町遺跡 第1次・第2次調査	集落跡 包含地	縄文・弥生	竪穴住居跡・土坑	縄文土器・弥生土器 石器・管玉	
洞ノ口遺跡 第3次・第6次調査	城館 集落跡 水田跡	奈良～近世	土坑・柱穴・水田跡 溝跡	土師器・須恵器 土師質土器・陶器・磁器 石製品・木製品	
南小泉遺跡 第33次・第34次遺跡	集落跡 屋敷跡?	奈良～近世	竪穴住居跡・溝跡	土師器・須恵器・陶器 磁器	
大原一里塚	一里塚	近世	一里塚		
山田条里遺跡 第6次調査	水田跡	縄文・古代 中世・近世	水田跡	礫石器	
富沢遺跡 第117次調査	水田跡	弥生～近世	水田跡		

仙台市文化財調査報告書第253集

八木山緑町遺跡ほか

発掘調査報告書

2001年3月

発　行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町三丁目7－1
文化財課　022(214)8893

印　刷　株式会社　東北プリント
仙台市青葉区立町24－24
TEL 022(263)1166